

ゲゲゲBOOK 80's

ゲゲゲの鬼太郎



扉の向こうでなにかが起こる…

ひゃー、
こんなに高いのを買えるのは
係長以上でしょう。
ヒラは買えませんよ。
でも、今は世の中が不幸せだから、
みんな鬼太郎を見たいんだなァ。
これが子供の心に戻る
「心の薬」になると、
幸せになれるのかもわからんネ。

水木しげる



第3シリーズ『ゲゲゲの鬼太郎』前史

～聞こえてくるゲタの音～

岩佐陽一

面白いことに『ゲゲゲの鬼太郎』は1960、70、80、90年代と10年スパンでテレビアニメ化を繰り返している。最初のアニメ化は68年でこのときはまだ白黒作品だった。その際、テレビ向きではないとの理由から『ゲゲゲの鬼太郎』に改題。今日まで耳に馴染み易いタイトルとなった。確かに原題の『墓場の鬼太郎』ではエンターテインメント性に欠ける印象は大なのでその英断は大正解だったといえよう。

さて、冒頭に“10年スパンで”と書きはしたものの、70年代の第2シリーズと、80年代の第3シリーズでは実に13年もの時間の空白がある。第1、2作がわずか3年。第3、4作が約8年の間隙と考えると現状最も長いシリーズの空白の時間といえる。なぜ第2、3シリーズのみこれだけのブランクが生まれたのか？ それにはごく簡単にテレビアニメ史自体を振り返る必要がある。

第2シリーズの制作終了後、東映動画（現・東映アニメーション）の制作スタッフはそのまま『デビルマン』（72年）に移行した。そう、漫画家・永井豪原作のあの『デビルマン』である。これが実に大きな意味を持っている。『デビルマン』の流れが本邦テレビアニメ史に新たなジャンルを生むことになるからだ。『デビルマン』は大ヒットとまではいかぬもののスマッシュヒットを記録。その背景には、制作スタッフが第2シリーズの『鬼太郎』で培った社会派及び従来より少し大人向けの世界観が確実に生きている。その結果、“永井豪原作のテレビアニメ”はブランド名として成立し、その後数年にわたって東映本社における“石（ノ）森章太郎原作の実写変身ヒーローもの”と並び称され児童向けテレビ番組の世界でしのぎを削っていくことに。

そのきっかけを作ったのが『マジンガーZ』（72年）だった。『マジンガーZ』の大ヒットは“巨大ロボットもの”という新たなジャンルをテレビアニメの世界に確立。以降児童向けテレビ番組界をあげての巨大ロボットアニメ旋風が巻き起こることに。その一方で、『宇宙戦艦ヤマト』（74年）や『科学忍者隊ガッチャマン』（73年）、『ルパン三世』（71年）といった従来より対象年齢を上に向けて制作されたアニメーションが、子供時代にそれを見て年齢を経た視聴者の間で再評価が高まりいわゆる“アニメブーム”が巻き起こった。同時にアメリカ製ＳＦ映画『スター・ウォーズ』（76年）の公開が起爆剤となって一大ＳＦブームが巻き起こり、『ゴジラ』や『ウルトラマン』などの和製実写ＳＦ作品に対しても再評価の気運が高まった。その結果、それまでのすべての流れが“ＳＦ”という名のもとに集約されていった。

そんな中、かつて大学生が『週刊少年マガジン』（講談社）や『ガロ』（青林堂）などの漫画雑誌を読み出して話題になったように、大学生以上の年齢層がアニメ文化の中心を担うようになった。もっと端的にいえば“アニメファンが大人になった”わけだ。

それに付随して新作アニメもドンドン高度でマニアックなものになっていく。一方で、彼らアニメファンが子供のころに見た作品を最新の技術でもう一度見たい――すなわちリメイクの要望が高まり、結果、『サイボーグ００９』『ドラえもん』『科学忍者隊ガッチャマン』『鉄腕アトム』『鉄人28号』等々が次々にリメイクあるいは新作が放送されていくことになる。ここで特筆すべきは『タイガー・マスク』や『あしたのジョー』、『ど根性ガエル』といったＳＦ以外の作品も新作が放送されていることだ。ならば我らが『鬼太郎』にも白羽の矢が立ってもよさそうなものだがそうはならなかった。なぜならこの時点では『ゲゲゲの鬼太郎』はまだ世間的に“子供が見るもの”という認識をなされていたからだ（まぁ、世間的な認識自体は現在でもそう変わっていないのだろうが……）。

つまりブームを牽引していた大人のアニメファンたちがテレビアニメ『ゲゲゲの鬼太郎』を正当に評価しようとしなかったのだ。それは徳間書店が刊行した一大アニメエンサイクロペディアシリーズ「ロマン・アルバム」の1タイトルに加えられなかった事実からも見て取れる。その一方で、アニメブーム真っ盛りの80年夏の「東映まんがまつり」にて第2シリーズ第37話「地相眼」の劇場用ブローアップ版が公開されている。これは何を意味するのか……？ つまりこの時点で『鬼太郎』はブームでもなく、かといってすたれてもいない“現役”だったという事実である。

67年生まれの筆者はある意味テレビアニメ『鬼太郎』と同世代といえる。さすがにリアルタイムでの第1シリーズの記憶はないものの、第2シリーズ以降はそれこそ『鬼太郎』と一緒に歩んできたといっても過言ではない。その筆者が『鬼太郎』を振り返るとき、不思議とレトロ感は薄い。これは『ウルトラマン』や『仮面ライダー』にもいえることなのだが、常に身近に存在し続けていたような気がする。つまり『鬼太郎』は細く長く現役であり続けているのだ。これが“10年スパンで”アニメ化が繰り返される最大の理由であろう。旧世代には馴染みの深い、そして常に新しい世代には新鮮な作品、それが『ゲゲゲの鬼太郎』なのだ。

だがこの当時は、筆者より少し上の世代のＳＦファンたちが『ウルトラマン』や『仮面ライダー』等をＳＦ作品として高く評価したような波の中にも『鬼太郎』は入らなかった。

そんな次第でアニメ・ＳＦブームの波には乗れなかった『鬼太郎』だが、相変わらず再放送は繰り返され水面下での人気は高かった。ならば仮に大人のアニメファンから評価されずとも新作が作られてもしかるべきなわけだが……ここにも二つ明白な理由が存在する。

ひとつはいち早くカラー化を果たしてしまったこと。もうひとつはメインとなる出版社の問題である。

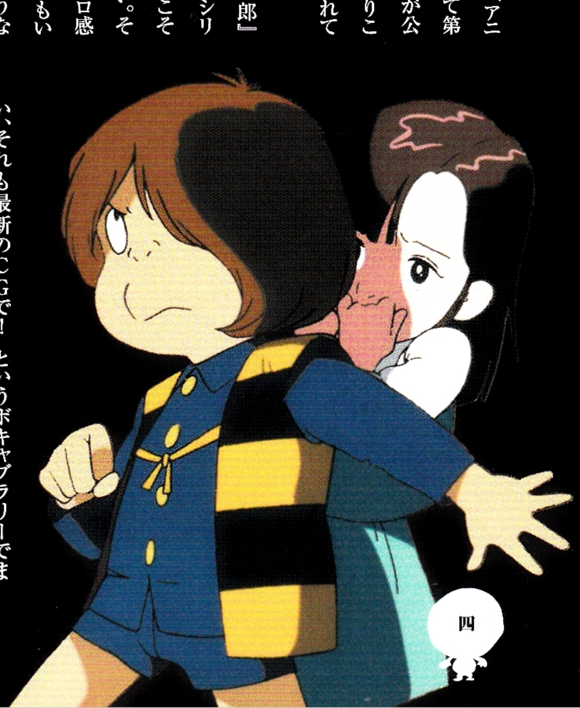
今でこそカラー作品というのは単なる必須事項であるが、70年代後半～80年代初頭当時は“カラー化”というのが、新作を作る際のひとつの売りになっていた。『００９』も『アトム』も『鉄人28号』も昔は白黒だった。“だからカラーで見たい、それも格段に進歩した最新の技術で！”という思いが新作制作の立派な理由になっていた。その流れは21世紀初頭現在、“実写で見たい、それも最新のＣＧで！”というボキャブラリーでまま受け継がれている。

けれど『鬼太郎』は71年にいち早くカラー新作を発表してしまった。それも原作を使い果たして、水木しげる原作の他の短編に材を求めてという状況下で――。つまり新作を作ろうにもカラー化の大義名分もなければ、映像化用の素材も枯渇していたのである。

後者の理由は――『鬼太郎』のメイン出版社は言わずと知れた講談社である。では、アニメブームの渦中の講談社（の児童向け媒体）は……そう、『機動戦士ガンダム』（79年）に明け暮れていた。アニメブームを加熱させたこの傑作を、全社を上げて盛り上げていたと同時に、自社が育てあげたともいうべきコンテンツ『ウルトラマン』『仮面ライダー』、そして正真正銘の自社コンテンツ『タイガー・マスク』『あしたのジョー』等々のリバイバル人気に腐心していたのだ。つまりもうこれだけで充分手いっぱいで『鬼太郎』にまで手が回らなかった――というのが実情だろう。

確かにこの大いなる時代の流れの中では『鬼太郎』が二の次にされても致し方のない感はあった（『鬼太郎』ファンとしては実に心外だが）。

ライバルともいうべき小学館は、この時期『ウルトラマン』のリバイバル人気等で盛り返してはいたものの、講談社に比べて自社の児童向けコンテンツがパンチに欠けるこ



とを痛感。その強化を模索する流れの中で『ドラえもん』をメインにした『月刊コロコロコミック』を77年に創刊したところ、これが予想を遥かに超える大ヒット。人気自体はあったものの、今ひとつ突き抜けなかった『ドラえもん』もこれが突破口となって新作の放送が実現した。『鬼太郎』同様児童向け作品であり大人のアニメファンの評価がなかった『ドラえもん』はしかし、ビジネス的戦略から復活を果たしたのである。

講談社において『鬼太郎』にはそんな動きはなかった。いや、あったかもしれないが、おそらくこの時期は、先に挙げたコンテンツ群が社内的にも最優先事項とされていたことだろう。

だから『鬼太郎』が復活するにはこれら一連の流れすべてがひと段落する必要があった。そして、それまでに約12年もの歳月を要したというわけだ。

『ウルトラマン』が『仮面ライダー』が、『ガンダム』が、そしてアニメ・SFブームがそのものがひと段落した80年代初頭——乱立する大人（アニメファン）向けアニメ群の中にあって、テレビアニメ界は純然たる子供向けの作品を切望した。そんな見えざる声に応えるかのように我らが鬼太郎は帰ってきたのだ。

そして驚くべきことに“リメイクものは当たらない”というジンクスを見事はねのけ、全シリーズ中でも最高の視聴率とロングランを誇る作品となったのだった。

それにしても“歴史は繰り返す”というが、この『鬼太郎』ひとつとってもそれを痛感する。

『鉄腕アトム』（63年）『鉄人28号』（63年）で幕を開けたテレビアニメ、『ウルトラQ』（66年）『ウルトラマン』（66年）で幕を開けた怪獣ブームの流れがひと段落したところで『鬼太郎』は初のテレビアニメ化及びカラーアニメ化を果たした。第3シリーズもこれらのリバイバル人気及び新たな流れが落ち着いたところで満を持して登場した。第4シリーズにも同様のことがいえる。

何か社会的に大きな変動が起きた後に必ずといっていいほど鬼太郎の、カランコロンというゲタの音が聞こえてくる……。ということは21世紀も5年を過ぎたそろそろ、あの懐かしい音が聞こえてもいいころだろう……「カランコロン」——ほうらすぐそこまで……。

第3シリーズ『ゲゲゲの鬼太郎』作品解説

ブラウン管に三度現れた妖怪たち

本作『ゲゲゲの鬼太郎』第3シリーズが放送されたのは1985年10月のことである。アニメーションや特撮作品のリメイクブームも落ち着き、『風の谷のナウシカ』（84年）『機動戦士Zガンダム』（85年）などのヒットでアニメーションは一般的にも“大人の鑑賞に耐え得るもの”として認識されてきた時代だった。

ただ、それらの流れとは別に第3シリーズ放送のきっかけを作った作品がある。フジテレビ系の人気スペシャルドラマ枠『月曜ドラマランド』（19：30～20：54）にて85年8月5日に放送された実写版『ゲゲゲの鬼太郎』（脚本／山崎晴哉　監督／小林義明　主演／六浦誠）である。ねずみ男を竹中直人、砂かけ婆を由利徹、子なき翁（本ドラマ版における表記）を赤星昇一郎ら個性派が演じ、目玉おやじの声は田の中勇、そして御大・水木しげるもカメオ出演——という話題性も相まって高視聴率を記録。すわテレビシリーズ化の話も出たものの実現に至らず。この時の“くすぶり”がわずか2か月を経て新作テレビアニメーションの放送に結びついたことは想像に難くない。

実力派のスタッフ&キャスト

今までになかった新しい『鬼太郎』を作りたい——東映アニメーション（当時は東映動画）の誇る名プロデューサー＝横山賢二が掲げた旗の下に集まったメインスタッフは誰もが『鬼太郎』という作品に何かしらの思い入れを持つ者ばかり。昔のシリーズを観ていた若い世代はもちろん“もう一度やりたかった”という旧2シリーズにも参加したベテランスタッフが、横山の呼びかけに集まったのである。その情熱が鬼太郎たちにまさしく新しい生命を吹き込んでいった。

特にビジュアル＝作画面もアニメーション専門誌等で大きく採り挙げられていた時代であり、ご他聞に漏れず『鬼太郎』も兼森義則、稲野義信らをはじめ入好さとるや下田正美ら新進気鋭たちが注目を集め、“アクション派鬼太郎”という新しい作品イメージを定着させた。ドラマもしかり。星山博之、武上純希らノリにノッていた脚本家陣が第3シリーズ独特の世界観を構築していった。

また演出には葛西治、白土武、生頼昭憲、明比正行、芹川有吾らベテランに、芝田浩樹、西沢信孝、今沢哲男ら若手の混合ローテーションが組まれメリハリのあるドラマ作りが為された。

キャスティングも目玉おやじ役の田の中勇以外は一新され、鬼太郎役・戸田恵子、ねずみ男役・富山敬をはじめ時の人気声優が勢揃い。ゲスト妖怪も青野武、大竹宏、はせさん治、槐柳二ら個性的かつ実力派が続々と登場。ドラマにより一層の深みを与えた。

あまりの豪華さに“今回の妖怪は誰が演じるのか？”をファンのみならずスタッフまでもが楽しみにしていたという。

現代社会に描いた、スタッフそれぞれの妖怪像

“現代社会に生きる妖怪たちの姿”というのが本作のテーマである。

人間のごく身近な場所で暮らしている妖怪たちは自然とも共存していた。その自然（もしくは自然素材）が失われつつある現代の日本で彼らはどう過ごしているのか？　ある者（？）は生活圏を脅かされて怒り、ある者は哀しみ、また人間と絆を結ぶ者も現れる……そうした妖怪の姿はスタッフたちが思い描いていた“自分なら鬼太郎（妖怪）をこう描く”という思い入れを具現化したものだった。そんなスタッフたちの“想い”は本シリーズ最大の特徴でもある天童ユメコというキャラクターの存在に集約されている。

だからこそドラマやメッセージ性のみならず“子供にも見易いものを”と、カッコいい鬼太郎像や妖怪ならではの特徴を活かしたアクションが重視され洋画を意識したカット割りも生まれて戦闘シーンもダイナミックなものとなったのである。

ロングラン放送、そして地獄編

『鬼太郎』を観て育った世代がスタッフに加わったことにより大きな変化が生まれた第3シリーズ。“こんな『鬼太郎』を描きたい”というスタッフの試みは、視聴者の“こんな『鬼太郎』（あるいはテレビアニメ）が観たい”というニーズに見事にフィットし、大ヒットを記録。当初の1年間という放送期間は大幅に延長され、2年と5か月にわたる長期人気シリーズとなった。

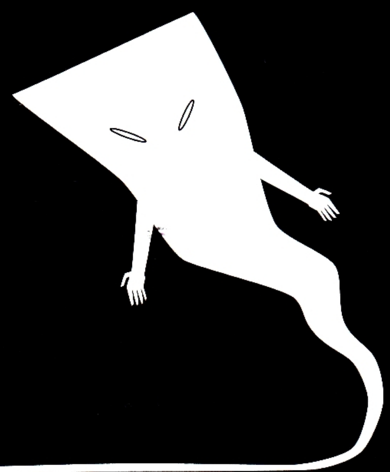
ただし、長期化すれば必ずといっていいほど抱える問題が“マンネリ化の回避”である。視聴率が低下する前に本作でも新しい試みとして、もしくは有終の美を飾るため本編を一旦終了。『地獄編』という新章を用意した。形式も1話完結から連続ものになり時間帯も変更となった。

これまでブラウン管には登場しなかった鬼太郎誕生の秘密、そして母親の姿が描かれたこと、短期間ではあったが地獄童子というライバルキャラクターも登場するなど、これまたそれまでのシリーズにはなかった新機軸が盛り込まれた。

かねてより女性のアニメファンが多かったことも本シリーズの特徴だが、少年らしい弱さを見せた鬼太郎や地獄童子の登場などでさらに盛り上がったのが女性ファンたちだった。そんなある種マニアックな評価を受けながら放送時間帯をそれまでの夕食時から月曜19：00～19：30に移動。わずか1クールで幕を閉じたが、小シリーズの魅力を味わえる逸品となった。

それだけ高いクオリティと人気を誇った第3シリーズを本DVDでたっぷりとご堪能しつつ、再評価のスタートとして頂きたい。

目次







其之壱

ゲゲゲのキャラクター

～メインキャラクター紹介～



鬼太郎
（声・戸田恵子）

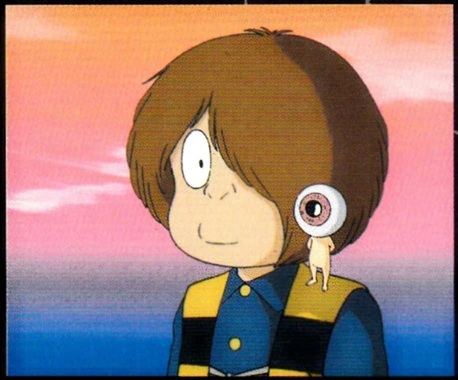


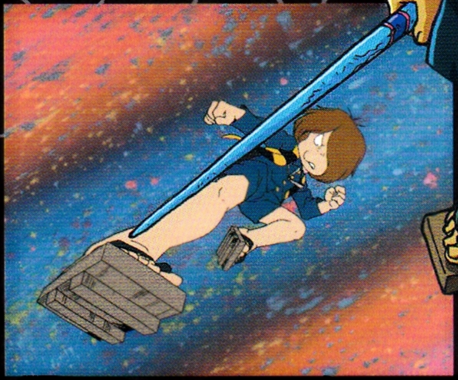
"ゲゲゲの鬼太郎"と呼ばれる少年で、幽霊族最後の末裔である。

妖怪と人間の共存を考え、妖怪に関わる数々の事件を解決していく。依頼者は人間に限らず、妖怪であることも多い。日本の各所に設置されているという妖怪ポストに投函すると、彼の元に手紙が届くシステムになっている。そのため活動範囲も日本全国はもちろん世界、ときには地獄にまで向かう。

普段は穏やかな性格だが、いざ戦いとなれば勇ましく、霊能力、超能力を駆使して悪い妖怪を相手果敢に挑む。ただし、むやみに妖怪や人間を退治するわけではなく、懲らしめて許すことが多い。そのため彼に助けられ慕う者も多いが、逆恨みや気に入らないという理由から復讐の機会をうかがっている者も少なくない。

両親が死に、亡くなった母の骸から生まれたためその姿を知らず、普段は口に出さないが母親への慕情が強い。また、生まれ出た際に左目を失っており、そこに目玉おやじが入ることも。





鬼太郎の超能力



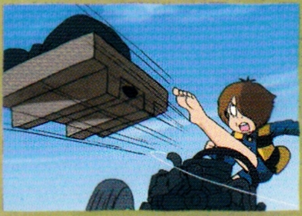
ちゃんちゃんこ

幽霊族の先祖の霊毛を編んで作ったといわれるもので、鬼太郎の思い通りにコントロールが可能。祖先の霊が宿っているので、非常に頑丈にできており、敵妖怪の攻撃を防ぐほか飛ばして巻き付けたり、紐やバズーカに変化するなど万能な力を発揮する。



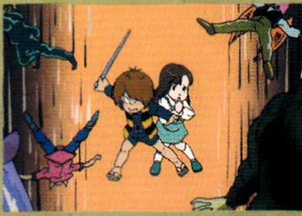
リモコンゲタ

鬼太郎の思い通りに動くゲタで、キックする要領で放って攻撃したり、目玉おやじを救出したこともあった。また、両手に持ってパンチ力を上げたり、打ちつけることで破壊音波（?）を出すこともできる。



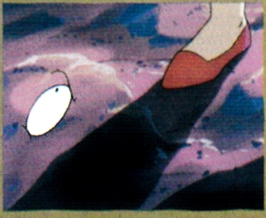
オカリナ

吹き鳴らせば砂かけばばあや一反もめんたち、妖怪仲間に危機を報せて応援を要請したり、剣やムチにも変化する便利なアイテムだ。第3シリーズオリジナルの新設定である。



保護色

カメレオンのように体を保護色にして姿を消すことができる。



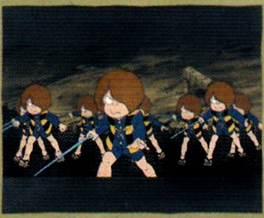
コダマ殺法

体を丸め、山に反射するこだまのように反動を利用して敵に体当たりする。地獄の特訓で編み出した。



分身

呼子、にせ呼子の山彦の術を浴びて8体に分身。やまたのおろちを殲滅した。



毛針

髪の毛を針のように硬く鋭く変化させて打ち出す。目潰しや敵の攻撃を怯ませる際などに使われることが多い。



妖怪アンテナ

妖怪の気配＝妖気を感知すると髪の毛の一部（頭頂部）が逆立って位置を知らせる。



発電

体内で蓄電した電気エネルギーを放射することができ、オカリナのムチを通すなど変形技も多く見られた。また、仲間の妖怪と手をつなぎ、妖怪エネルギーを送り込むことで出力を増大させることも可能。



目玉おやじ

（声・田の中勇）

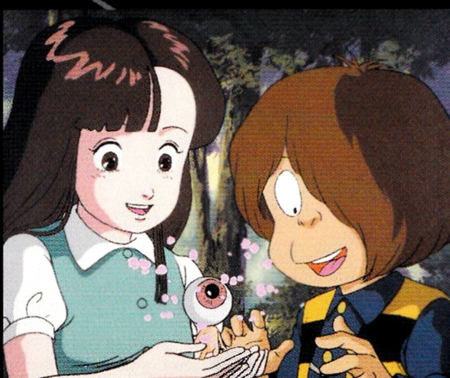
鬼太郎の実の父で、元は包帯に包まれた大男だった。死してなお生まれたばかりの鬼太郎の安否を気遣い、自らの目玉に魂を宿して甦ったのが今の姿である。特に強力な超能力は持たないが、幽霊族や妖怪、伝説などに詳しく、博識で鬼太郎の戦いを助ける。常に彼と行動を共にし、彼の左目の部分に収まって移動することもある。

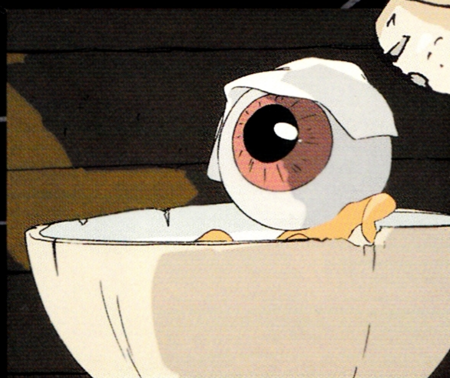
戦いの最中も鬼太郎の傍にいることが多いため、妖怪の標的にされて窮地に陥ったことも少なくない。

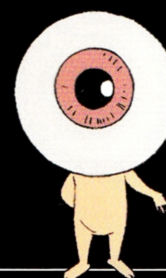
お風呂が好きで、茶碗を風呂桶によく入浴している。

なお、姿のよく似た毛目玉という妖怪の親戚もいる。





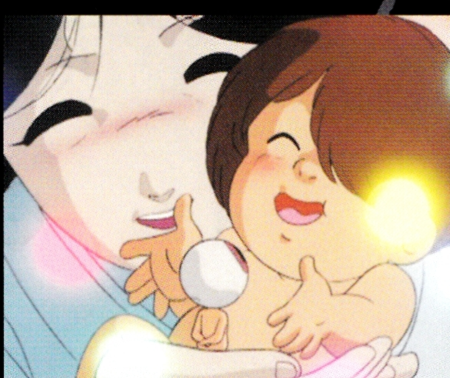


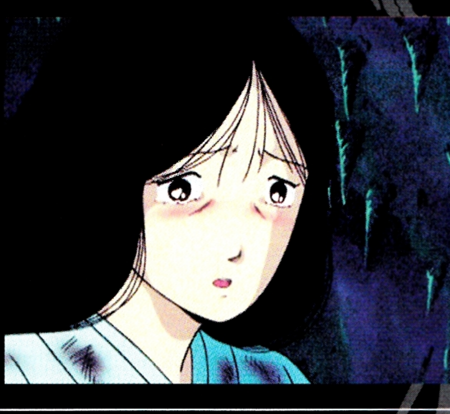


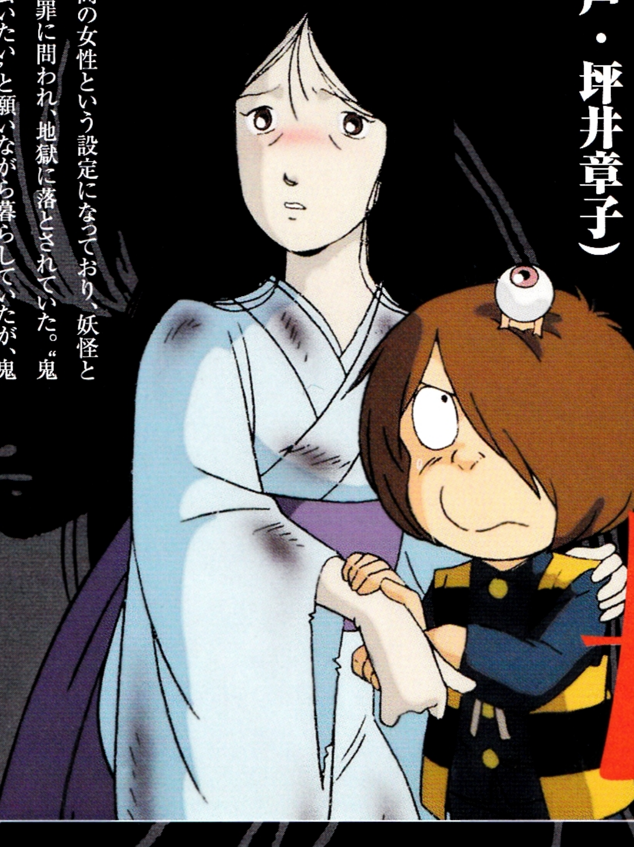
鬼太郎の母

（声・坪井章子）

本作では人間の女性という設定になっており、妖怪と結ばれたことを罪に問われ、地獄に落とされていた。“鬼太郎にひと目会いたい”と願いながら暮らしていたが、鬼太郎はそのことを知り、生き返らせるチャンスを掴むため地獄へと向かうことになった。







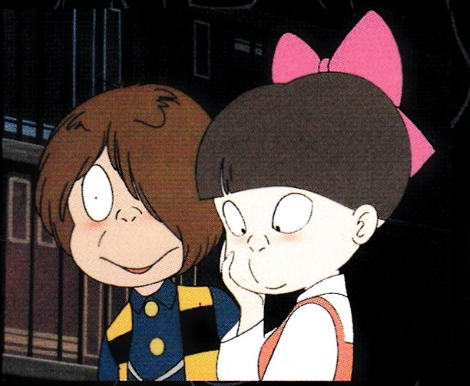
ネコ娘
（声・三田ゆう子）

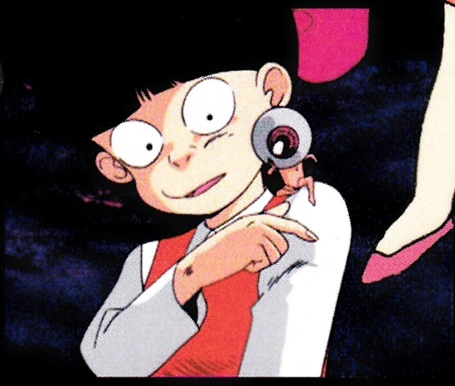


いわゆる"化け猫"の少女で、自称"鬼太郎のガールフレンド"である。

一見すると普通の人間の女の子と変わらないが、怒ったり、好物の魚やねずみを前にすると猫の本性が現れてしまう。俊敏な動きと鋭い爪や牙を武器とし、大好きな鬼太郎を助けるため敵妖怪と戦う。さらに囮になって妖怪を誘い出したり、傷の手当てをしたり、活躍の場面は少なくなかった。

よくいえば活発、悪くいえば気性の荒いところがある。特にねずみ男に対しては厳しく、本来のねずみと猫という関係からかお互い気に入らないようでケンカが絶えない。ユメコをライバル視する一方、やはり女の子同士、普段は仲がいい。





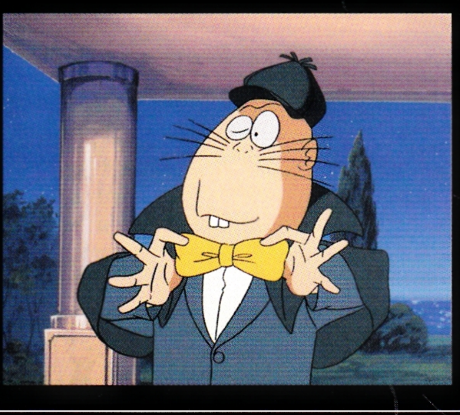
ねずみ男
（声・富山 敬）

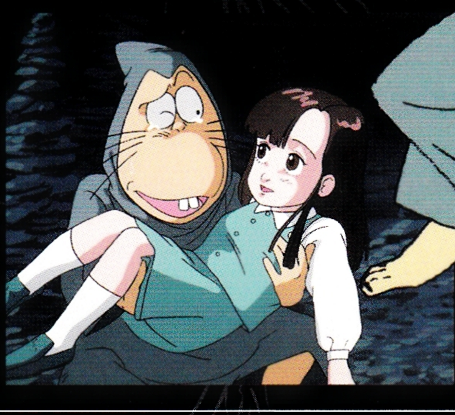


妖怪と人間の間に生まれた半妖怪の男だ。邪心が強く欲深いため、お金や美女が絡むと自分の欲得を真っ先に考えて行動する。その一方で脅しには弱く、強力な妖怪に脅されはたまた大金を得るため手を組み、鬼太郎を騙すこともしばしば。どうしようもない男だが、何故かみんな憎めず、仲間と認識している。

不潔を好んでいるため体はとにかく臭い。それが唯一の武器でもある。300年生きているが、一度も風呂に入ったことがない——という設定だが、この第3シリーズでは温泉に浸かる姿も幾度か見られた。

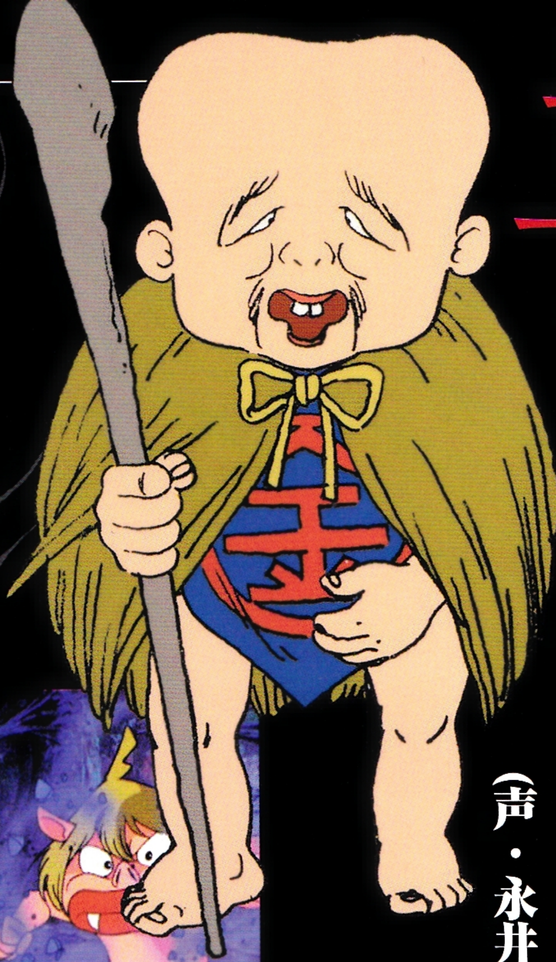
また、タキシードやドレス姿の女装など様々なコスプレを披露していることも、本シリーズのねずみ男の特徴となっている。





子泣きじじい

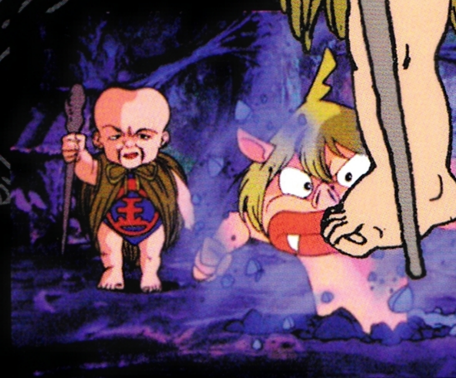
（声・永井一郎）



鬼太郎に協力する妖怪“鬼太郎ファミリー”のひとりである。

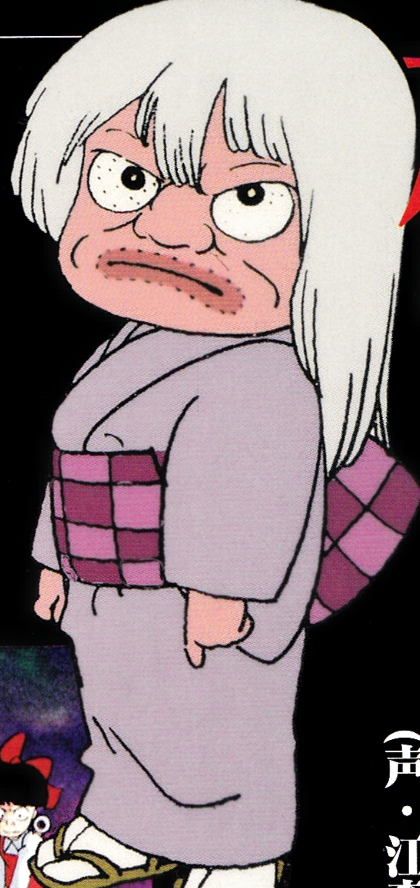
赤子のように泣き、体を石に変化させてどんどん重くなるという能力を持つ。戦いにおいては敵妖怪に飛びついて押し潰したり、動きを止めたりした。さらに押し潰すことで相手を地面等に封印する力も有する。普段は鬼太郎同様“朝は寝床でグーグーグー”と、自分の家でのんびり暮らしているようだ。大の酒好きで、酒に釣られて敵の罠にはまることも度々。物語終盤では、砂かけばばあと恋仲となった。





砂かけばばあ

（声・江森浩子）



鬼太郎ファミリーのひとりというだけでなく、母性から鬼太郎の世話を焼いており、彼を実の息子のように可愛がっている。

着物の袖や掌から砂を撒く、目潰し攻撃を得意とする。戦闘力は強くないが、妖怪の術を解いたり、回復させる祈祷や呪術などに精通しており、鬼太郎絶体絶命のピンチを幾度となく救った実績の持ち主。

また、妖怪の中では節度のある人物で、度が過ぎた振る舞いには子泣きじじいさえ怒鳴りつける。普段はアパートを経営しており、現代社会に対応して生きている少ない妖怪のひとり。





一反もめん

（声・八奈見乗児）



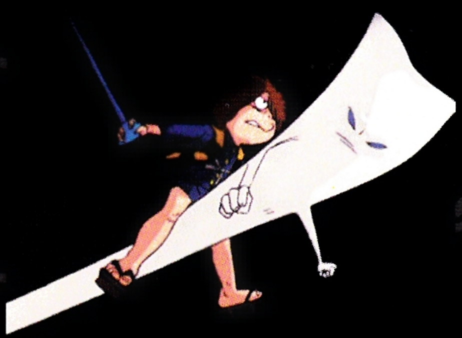
白い反物の姿をした妖怪で、飛行能力を生かして鬼太郎らを乗せ、彼らの移動や戦いをサポートした。

体は布なだけに弱く、火にも弱いが、縫い合わせるなどして治療するとすぐ回復するタフネスぶりを発揮。しかも力は強く、相手に巻き付いて締め上げることで動きを封じたりと、戦いにおいては鬼太郎のよきパートナーとして活躍した。

性格は控えめだが、言動は非常にひょうきんである。映画『妖怪大戦争』（05年）に登場した一反もめんはこの第3シリーズのものと同一と思われる。

九州弁が印象的。

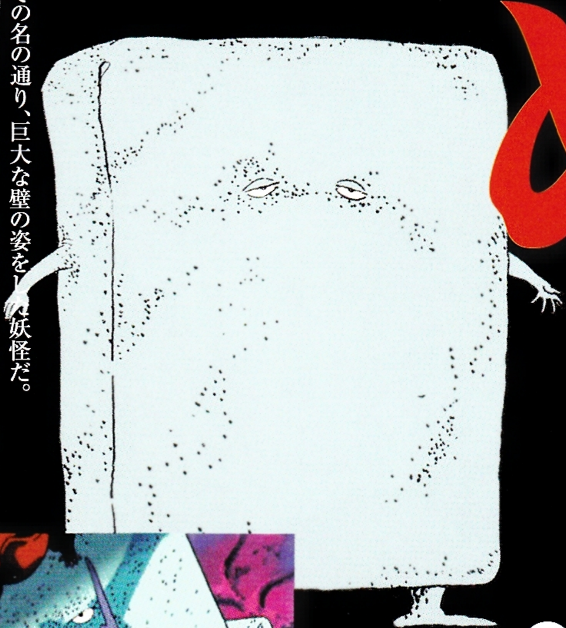




ぬりかべ

（ヌリカベ）

（声・屋良有作）

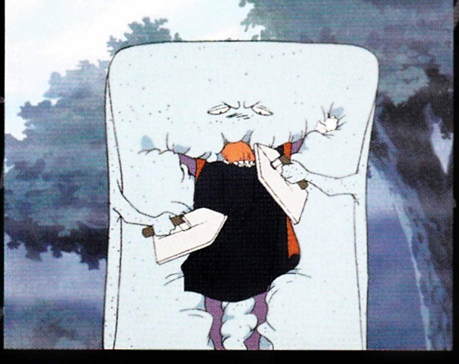


その名の通り、巨大な壁の姿をした妖怪だ。

巨体を利用して敵に倒れ込んで潰したり、攻撃を受け止めて鬼太郎たちを守ったりと様々な活躍を見せた。また、相手を体内に塗り込めて封印してしまう能力も持つ。

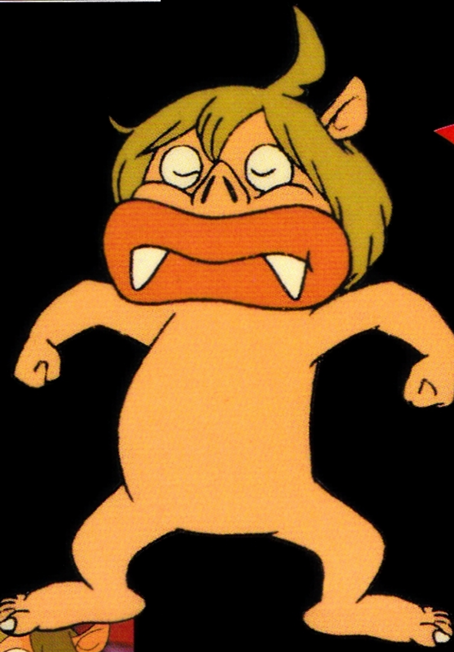
口数が少なく大人しい性格で、純情そのもの。人間の女の子に恋をして、彼女を助けるために鬼太郎に立ち向かったこともあった。

普段はどこでどうしているのかよく分からず。突然戦場に現れる神出鬼没さもある。



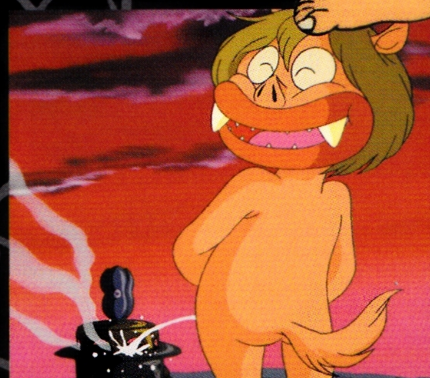


シーサー
（声・山本圭子）



鬼太郎に助けられたことで彼を尊敬し、手伝いがしたい一心で上京して鬼太郎の元を訪れた。故郷は沖縄。妖怪としてはまだ幼く、なかなか思ったように活躍できないことを気にしている。

戦いにおいてはすばしこい動きと、地中を進む能力や牙など、意外にレパートリーの広い攻撃で鬼太郎をサポートした。

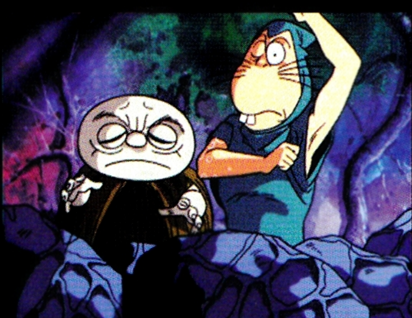
油すまし
（声・塩屋浩三）

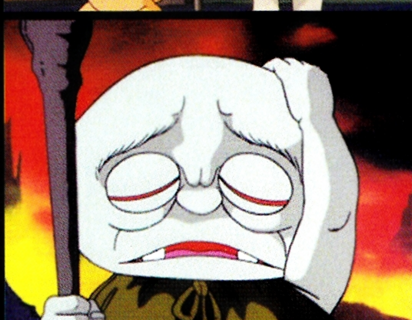
鬼太郎に協力する妖怪のひとりで、『地獄編』からレギュラー入りを果たした。

戦闘力もそこそこあるが、目玉おやじとは違った方面で知識を蓄えており、それも彼の武器のひとつとなっている。

性格はやはり穏やかで口数少ない印象がある。

『地獄編』においては地獄に関する知識を発揮。地獄を進む鬼太郎ら一行を道案内し、サポートして活躍した。





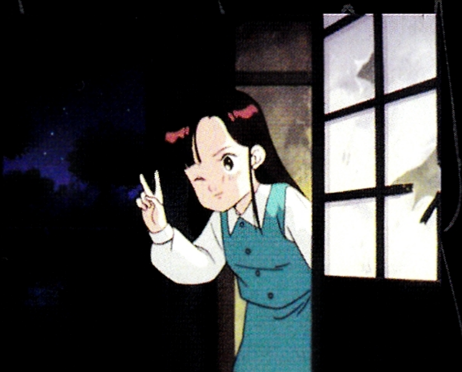
天童ユメコ

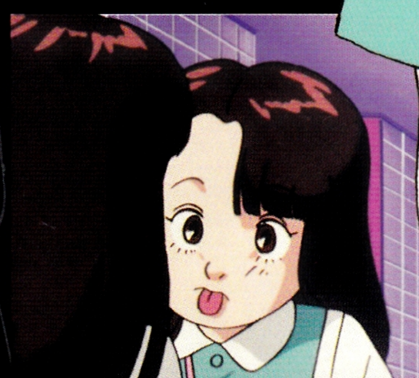
（声・色川京子）



鏡じじいに狙われたことがきっかけで鬼太郎たちと知り合い、以後、彼ら正しい妖怪たちの友達になった人間の女の子である。砂かけばばあたちも快く迎え入れており、“鬼太郎のもうひとりのガールフレンド”という認識さえ持たれている。本人も鬼太郎に心を寄せており、彼のために囮になったり、事件解決のために献身している。その一心から大胆な行動力も見せた。

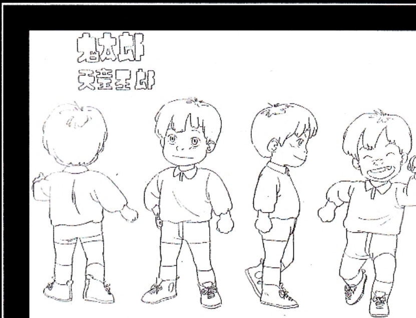
ごくごく普通の少女で、誰にでも優しく接するタイプ。ねずみ男もゾッコンなのだが……。





天童星郎

（声・高坂真琴）



ユメコの弟でやんちゃな少年。少年少女を狙った妖怪の事件に巻き込まれることも少なくなく、その都度鬼太郎らに情報をもたらした。

また、人間の世界が嫌になり、同じく河童の世界が嫌になった河童の少年と出会い、彼と入れ替わっていたこともあった。

天童正夫

（声・佐藤正治）

天童優子

（声・川浪葉子）

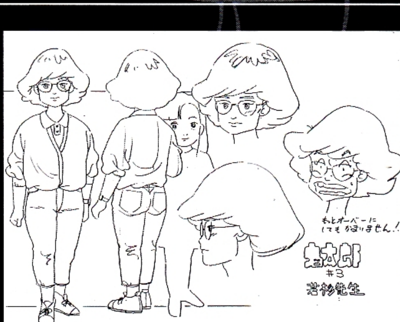


ユメコ、星郎の両親である。正夫が妖精に狙われた以外、直接妖怪と関わることは殆どなかった。



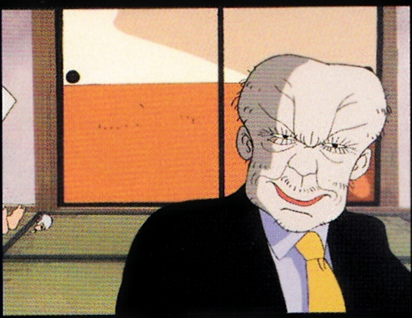
若杉先生

（声・雨宮一美、柴田由美子）



ユメコの担任教師。ユメコを筆頭になぜか妖怪に接触する教え子が多かったため、苦労は絶えなかったことだろう。ネコ仙人の襲撃に遭い、自身が危険に陥ったことも。

ぬらりひょん（声・青野　武／千葉耕市［第四話のみ］）







妖怪世界のボスと恐れられる大物妖怪で、人間や妖怪を騙して得を得ようとする。

鬼太郎を邪魔者として狙い、一度太古の世界に飛ばされてしまったがいつの間にやら舞い戻り、懲りずに悪事を働いていた。誰かしら妖怪を味方に付けて戦い、負けて退散するパターンを続けたが、自身の能力も非常に高くついには妖怪軍団を率いて鬼太郎抹殺に乗り出してきた。

なお、初期設定ではよれよれスーツ姿の胡散臭いデザインだった。

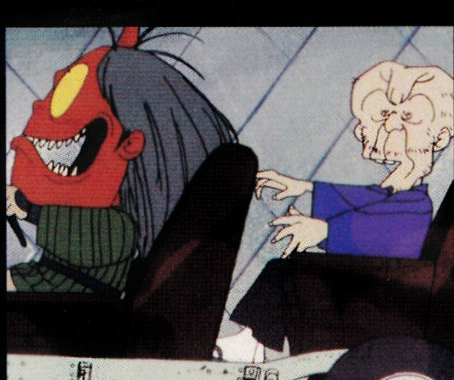


朱の盤（声・小林通孝）

ぬらりひょん一の子分で、彼の片腕となって働く。

少々間抜けなところもあるが、ぬらりひょんに忠信を誓い、危機に際して彼を担いで退散するなど尽くして働いた。

その信頼関係がどのように築かれたのか詳細は不明。ユメコの説得から改心したが、やはりぬらりひょんを裏切ることができず、最後には……。





エンマ大王（声・郷里大輔）

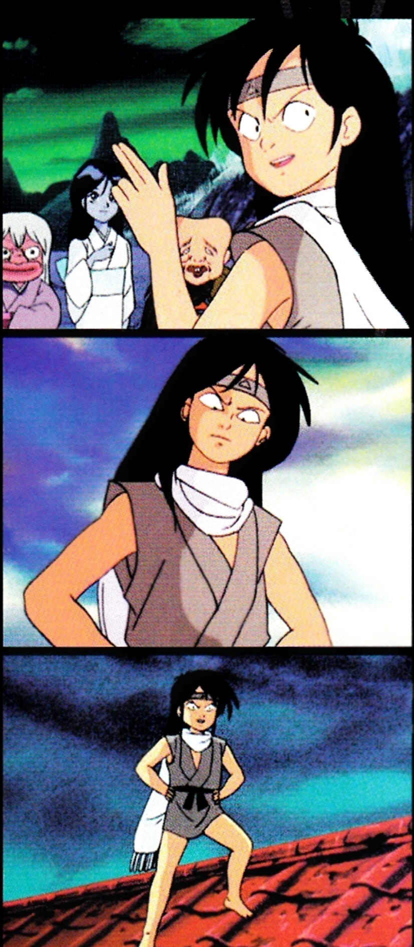


地獄の世界を統括する王で、地獄に絡んだ事件で鬼太郎と関わることに。

鬼太郎の力を認めており、妖怪エネルギーを分け与えるなど、彼に協力することも少なくない。地位に相応しい威厳を持ち、いかめしい顔をしているが物事の道理をわきまえた、実に話せる人物。

だが、後にぬらりひょんに操られて母を求めて地獄を進む鬼太郎一行の邪魔をすることになってしまう。

地獄童子（声・堀川亮）



『地獄編』で鬼太郎の邪魔をしに現れた半妖怪の少年。非常に高い能力を持っており鬼太郎と互角に渡り合うライバル的存在。トレードマークの白いマフラー（？）は武器にもなり、剣や紐に変えて攻撃した。

実は恋仲にある幽霊の女の子を人質に取られ、エンマ大王が何者かに操られていると知りながら鬼太郎に刃を向けるしかなかった。

性格は天邪鬼で、言動もツッパっているイメージだが、心根は優しい少年である。



其之弐

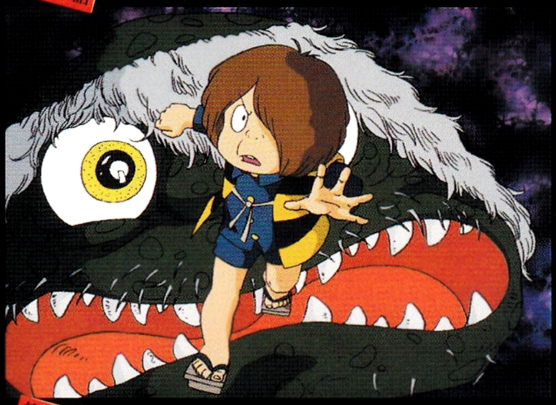
ゲゲゲのおはなし

～エピソードガイド～



第一話 謎の妖怪城出現!!

脚本／星山博之
演出／葛西 治
作画監督／清山滋崇
美術／阿部泰三郎



"何か"を封印したような石塚——工事現場にあったそれは、作業員によって崩されてしまう。その直後、人間業とは思えない子供たちの誘拐事件が発生。続いて都会のど真ん中に巨大な"妖怪城"が出現した。それは誘拐した子供を妖怪に変え、この世を自分たちの思うとおりに支配しようと考えた妖怪一味——たんたん坊、かまいたち、二口女の仕業だった。もっと子供たちを誘拐するようねずみ男に命令する妖怪たち。そこに聞こえてくるゲタの音。妖怪たちの起こした事件を解決するため鬼太郎がやって来た。砂かけばばあ、子泣きじじい、一反もめん、ぬりかべら正しい心を持った妖怪の面々も助勢する。悪事を働いたたんたん坊らを退治し、子供も無事に救出した鬼太郎ファミリーは、すべての事件を解決したのは自分だと人間たちに自慢するねずみ男を残してゲゲゲの森へと帰って行った。

第二話 鏡じじい

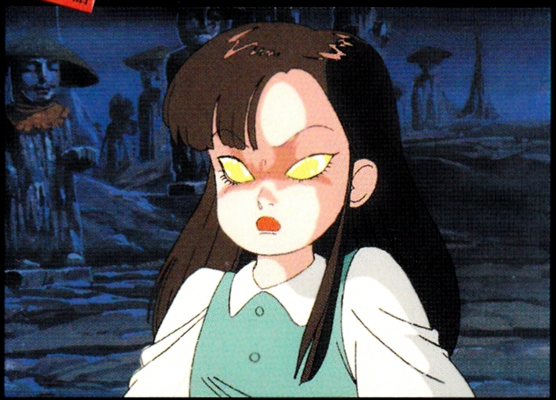
脚本／武上純希
演出／芝田浩樹
作画監督／音無竜之介
美術／阿部泰三郎



遊園地でユメコという少女が消えた。妖怪の仕業と考えた弟の星郎は妖怪ポストを使って鬼太郎に助けを求める。早速ミラーハウスを調査した鬼太郎は、そこで姿を奪われたユメコを見つけた。鏡妖怪の仕業だと考えた目玉おやじはネコ娘を囮に妖怪・鏡じじいの誘き出しに成功する。しかし、鏡だらけのミラーハウスで鏡じじい相手に勝ち目はなく"合わせ鏡の術"によって鬼太郎は鏡に閉じ込められ、バラバラにされてしまった。砂かけばばあの治療によって復活した鬼太郎は鏡じじいが潜む、人間に捨てられた村へと向かった。闇夜では力を発揮できない鏡じじいは白旗を挙げ、自分のマドンナだったお花に生き写しのユメコの姿を奪ったこと、人間がものを大事にしないことに怒りを感じた心情を語る。だが、突如起きた落雷により燃えた家の光が、鏡じじいの妖力を復活させてしまった……！

第三話 ネコ仙人

脚本／武上純希
演出／棚沢 隆
作画監督／石黒 育
美術／阿部泰三郎



猫塚村に遠足に来たユメコたちの前にねずみ男が現れた。その目的は猫塚村にある宝の玉だ。偶然壊した石塚から宝の玉を見つけて喜ぶねずみ男。しかし、それが災いの始まりだった。ほどなく鬼太郎の元に傷だらけのねずみ男が助けを求めに来た。猫塚村が大量の猫に襲われ、宝の玉を奪ったと思われたユメコたちが、たくさんの猫に包囲されているという。駆けつけた鬼太郎はねずみ男を囮にユメコのクラスメートを助けるが、そこに現れた化け猫にユメコとネコ娘を連れ去られてしまった。二人の足取りを追った鬼太郎は石塚の奥の洞窟で猫を操っていたネコ仙人に出会い、今回の事件を起こした動機を聞かされた。宝の玉はネコ仙人の魂を封じ込めたもので、あれがなければネコ仙人は滅んでしまうのだ。しかし宝の玉に心当たりがないという鬼太郎の言葉に絶望したネコ仙人は暴れた挙げ句、絶命してしまう。だが、その魂はユメコに乗り移っていた。

壱之盤

現代社会に甦った妖怪たち!!

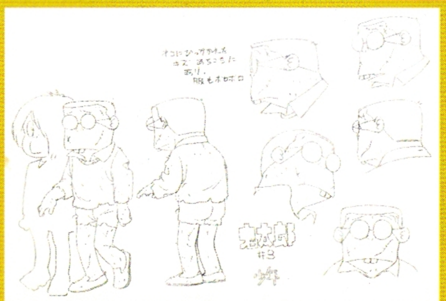
少女（声・荘真由美）

第1話に登場。たんたん坊をはじめ復活した妖怪一味によって映画の撮影中に連れ去られた美少女タレント。同じくさらわれて来た少年二人と協力し、妖怪城から脱走を図った勇気ある心の持ち主。



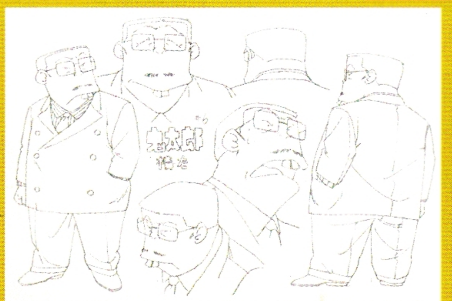
少年（声・中野聖子）

第3話に登場。ボロボロの姿で鬼太郎に発見され介抱された。ボロボロだったのはネコ仙人の操る猫の集団に襲われたためで、彼の証言から鬼太郎は村に取り残されたユメコたちを助けに向かうことに。



横田社長（声・野田圭一）

第5話に登場。ダイヤの売買で大きくなった横田商事の社長。実は部下に命じて輪入道の住み家である柿の木の下にある洞窟からダイヤを採掘していた。ダイヤが人間の屍だと知っても採掘を続けたごうつくばり。



第四話　妖怪ぬらりひょん

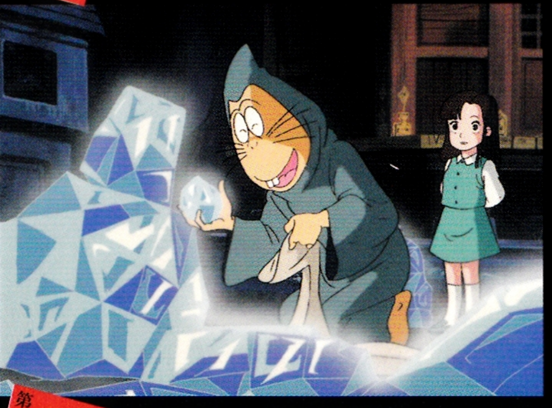
脚本／大橋志吉
演出／今沢哲男
作画監督／山本福雄
美術／阿部泰三郎



町で次々に起こるビル崩壊事件——それは自分の経営する建築会社に利益を与えるため、ぬらりひょんが仕組んだものだった。手下の朱の盤だけでなく、大金をチラつかせてねずみ男も利用するぬらりひょん。しかし、一番の障害である鬼太郎に気づかれたため、ねずみ男を使って鬼太郎を誘い出し、もろともコンクリート詰めにした。邪魔者がいなくなりいよいよ本腰を入れようと思いきや、ぬらりひょんの右手が勝手に動き始めた。蛇骨ばばあの診断によると〝鬼太郎憑き〟だという。鬼太郎は生きていたのだ。ぬらりひょんは今度こそはと鬼太郎を魔法の壷にいれて亡き者にせんとした。子泣きじじいに救出された鬼太郎の前に現れたぬらりひょんは、妖怪の好物・甘酒を取り出して仲直りをしようと持ち掛ける。だが、彼の真意を見抜いていた鬼太郎は、ぬらりひょんら一行を奇妙な小屋へと招待した。そこには……。

第五話　ダイヤ妖怪　輪入道

脚本／並木 敏
演出／葛西 治
作画監督／山口泰弘
美術／阿部泰三郎



ねずみ男は、ダイヤモンドの売買で儲ける横田商事に金の臭いを嗅ぎつけ、密かに社長である横田の後を追った。途中、偶然出会ったユメコと共に洞窟へ入ったねずみ男はダイヤが大量にある採掘現場へと辿り着いた。ねずみ男を見つけながら、なぜか協力を申し出る横田。追って現れた鬼太郎は、ここが妖怪・輪入道の住み家であり危険な場所だと訴えるが、欲にかられたねずみ男は聞く耳を持とうとしない。そこに輪入道が出現。炭素光線を発してねずみ男やユメコ、目玉おやじをダイヤに変えてしまった。それを見ながらも採掘を続ける横田たち。彼らは特殊な防護服で身を守っていた。だが、妖魔の鏡で強化された光線はそれすら貫いて横田たちをもダイヤに変えた。鬼太郎は鏡を利用して光線を反射。輪入道自身をダイヤに変えて勝利を収めた。妖力が消え、みんなは元の姿に戻るが、あろうことか横田は鬼太郎に拳銃を向けた……！

第六話　地獄行！幽霊電車！！

脚本／星山博之
演出／石田昌久
作画監督／柳瀬譲二
美術／伊藤信治、金島邦夫



のどかな昼休み。恐怖体験について話すサラリーマンたち——。その中のひとり、黒川は同僚たちに昨晩自ら体験した恐怖を語り始める……。後輩の吉永とハシゴ酒を繰り返し、泥酔した黒川はとあるラーメン屋に入った。そこには鬼太郎とねずみ男の姿があった。しかし、彼らが何者か知らない黒川は「妖怪はいない」と大声で騒ぎ、妖怪はいると反論した鬼太郎を殴る始末。呑んだくれた挙げ句、終電ギリギリに駅に入った黒川と吉永は臨時最終電車に滑り込んだ。しばらくして酔いが醒めてくると周囲の雰囲気が奇妙なことに気がついた。途中駅で降りようとするも、乗り込んで来る客たちに阻まれる。見渡せば車掌は鬼太郎、乗客は亡者に骸骨、驚く二人の前に妖怪たちも現れた。慌てて窓から飛び降りた二人は翌朝、ホームのベンチで目を覚ました。そして二人のおでこには、鬼太郎につけたのと同じ大きさのコブができていた。

我らが鬼太郎登場！

手下A（声・佐藤正治）　手下B（声・田中亮一）

第5話に登場。横田商事の社員で横田社長の命を受け、ダイヤ採掘に励んでいた。輪入道に襲われた経験から光を反射する特殊素材の服まで用意していたが、それさえも貫かれて自らダイヤとなった。



黒川（声・屋良有作）　吉永（声・古谷徹）

第6話に登場。黒川は昔ボクシングをやっていて腕っ節に自信があり、吉永はそんな彼の後輩。二人共妖怪の存在を信じていなかったが、鬼太郎とねずみ男に暴力を振るったことから妖怪の存在を身をもって知る羽目に。



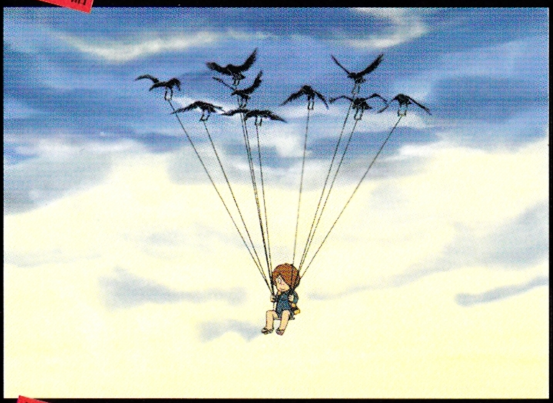
駅長（声・戸谷公次）

第6話に登場。奥多摩霊園駅の駅長。朝、駅のベンチでたんこぶを作って寝込んでいた黒川と吉永が幽霊電車に乗ったと話すと、彼は二人に幽霊電車が現れるようになった由来を語った。



第七話 子連れ妖怪磯女

脚本／武上純希
演出／芝田浩樹
作画監督／兼森義則
美術／阿部泰三郎



とある浜辺の村で磯女が子供をさらう事件が発生。その情報が虫からトカゲ、コウモリへと伝えられ、鬼太郎の耳に届いた。事件があった村へやって来た鬼太郎は、訪ねた村役場で村長の腰巾着となっているねずみ男と出会い、さらわれた子供＝ステオの祖父と出会う。そして、村長が悪徳レジャー会社のワルタ観光と組んでこの浜辺を埋め立て、レジャーランドを作ろうとしていることを知る。磯女は棲み処を奪われると思い、事件を起こしたのだ。鬼太郎は磯女と話し合うため浜辺に出たが、怒りに我を忘れた彼女と戦うことに。だが、鬼太郎が彼女の赤ん坊を助けたことで磯女との和解に成功した。ステオを返して反省する磯女のためにも浜を守ることを決意した鬼太郎は、海に棲む仲間の妖怪たちと手を組んで、ねずみ男と村長、そしてワルタを懲らしめるべく一計を案じた。

第八話 だるま妖怪相談所

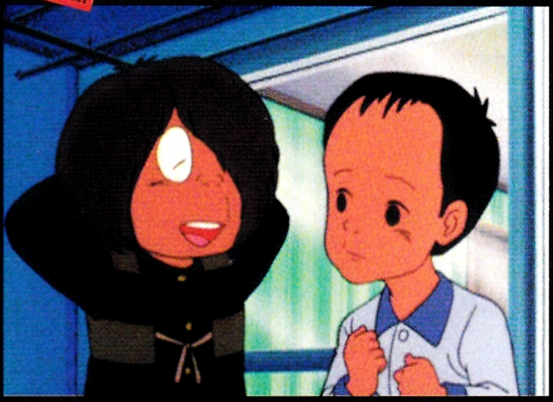
脚本／星山博之
演出／西沢信孝
作画監督／入好さとる
美術／鷲崎 博



アパートの管理人の前に妖怪・だるまが現れた。このアパートでは4は不吉な数字という理由で欠番にして、3階の上を便宜上5階と呼んでいたのだが、そのないはずの4階を貸してくれというのだ。最初は嫌がる管理人だったが、差し出された札束に誘惑されてだるまに4階を貸すことを承諾してしまう。しかしその日からアパートには、だるまに悩みを聞いてもらおうと妖怪たちが現れるようになった。そのため気味悪がって次々と引っ越していく入居者たち。これに目をつけたねずみ男は儲からない妖怪相談をやめ、管理人を追い出してアパートを乗っ取るようだるまをそそのかした。その口車に乗って、嫌がらせを始めただるまの前に鬼太郎が立ちふさがる。だが、だるまは本来ないはずの4階にいるため外からは手が出せない。そこで目玉おやじは妖怪の嫌がる臭いを用いてのだるまのいぶり出し作戦を提案する。

第九話 不死身の妖怪水虎

脚本／並木 敏
演出／石田昌久
作画監督／清山滋崇
美術／藤田 勉

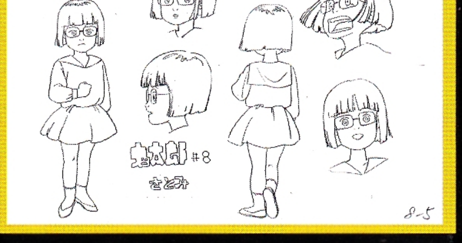


ある日、子供たちは古びた壷を見つけた。偶然そこを通りかかったいじめられっ子の新一は、その底に残っている妙な液体を飲まされてしまう。その晩から夜中になると新一は家を抜け出すように……。心配した両親はねずみ男を信用してお祓いをしてもらうが、すぐにインチキがバレて騙した代償に新一の後を追わせる。そこでねずみ男が見たのは、何かを捜して穴を掘っていた新一を止める鬼太郎だった。新一は妖怪・水虎に取り憑かれ、メスが封印された壷を探していたのだ。事情を説明して新一から水虎を追い出す鬼太郎だったが、居合わせた新一の母親からは息子をいじめているように見えたため、邪魔されて水虎本体を逃がしてしまう。再び新一の前に現れた水虎に対して、雪の降る寒い日に決闘を行う約束をする鬼太郎。しかし、約束の日まで新一が襲われないかと心配な鬼太郎は、ユメコに頼んで新一にひとつのプレゼントを渡した。それは……。

住みやすい世界なのか？

さとみ（声・鶴ひろみ）

第8話に登場。ユメコのクラスメートの女の子。父がアパートを経営していたが、だるまに部屋を貸してしまったため妖怪が現れるようになり、困ってユメコを通じて鬼太郎に相談した。



管理人（声・はせさん治）
管理人の妻（声・飯塚はる美）

第8話に登場。さとみの両親。ないはずの4階を貸して儲かるならと、だるまに部屋を貸してしまったのが不運の始まり。アパートも外見はクラシックな造りに見えるが、内装は現代的で小綺麗なものだった。



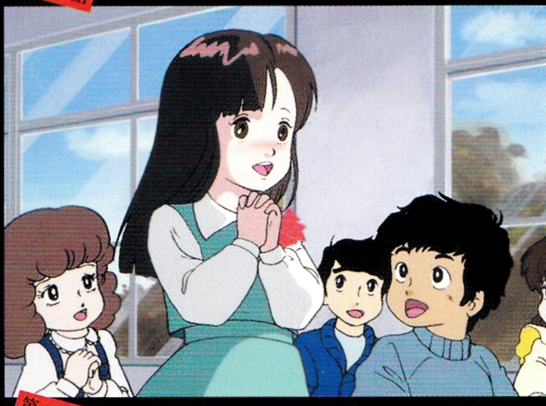
新一（声・川島千代子）
ママ（声・川浪葉子）
パパ（声・田中秀幸）

第9話に登場。いじめられっこの新一と、ひとりっ子のため新一に過剰な愛情を注ぐ母と、その気迫に押され気味の父。新一に水虎が取り憑いて騒動になったが、結果それが新一の自立を促すきっかけになった。



第十話 悪魔のメロディ・夜叉

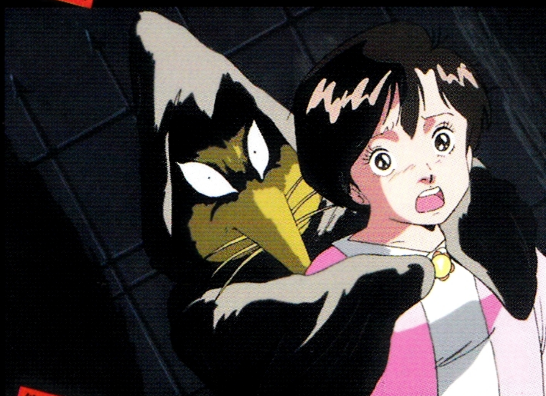
脚本／武上純希
演出／葛西 治、棚沢 隆
作画監督／石黒 育
美術／伊藤信治、金島邦夫



ユメコのクラスに特別講師として呼ばれた響ワタル。彼の奏でるギターには聞くものを虜にする不思議な力があった。だが、コンクールで発表するその曲は未完成だという。学校帰りのユメコの前に待ち伏せするように現れた響は、完成した曲を君にだけ聞かせると演奏を始めた。そこへ鬼太郎が登場。響を妖怪だと言って攻撃しようとするが、妖怪アンテナは反応しなかった。新たな手掛かりを求めて、魂を抜かれたユメコのクラスメイト・マキの家を訪ねた鬼太郎らは、響が妖怪音楽を使って魂を抜き取っていた事実をつきとめる。そして、鬼太郎たちは再び彼を見張り、若杉先生の前で夜叉がその正体を現す現場を押さえる。鬼太郎は耳栓を使って夜叉の妖怪音楽を防ごうとするが、耳栓を吹き飛ばされ魂を奪われてしまった。目玉おやじはこの窮地に、音痴のため妖怪音楽が効かないねずみ男を切り札に使った。

第十一話 妖怪キツネ白山坊

脚本／大橋志吉
演出／芝田浩樹
作画監督／下田正美
美術／鷲崎 博



16歳の誕生日を祝ってもらう春子。しかし、最近父親が神社で誰かに会っているようで、様子がおかしいとユメコに漏らす。二人の相談を受けて鬼太郎は砂かけばあにその訳を占ってもらうことに。15年前——借金取りに追われて絶望した春子の両親は幼い春子を連れて親子心中を計ったのだが、その命を古ギツネの妖怪・白山坊に救われたのだった。さらに事業の資金まで世話されたのだが、見返りとして春子が16歳になったとき自分の嫁にするよう約束させられてしまったのだった。理由を知って悲しむ春子を救うと約束する鬼太郎。春子の代わりにネコ娘に花嫁の格好をさせ神社に向かった鬼太郎だったが、そこにいたのはねずみ男だった。聞けば、白山坊に頼まれて嫁を迎えに来たのだと言う。ねずみ男に白山坊の棲み処を白状させ直行する鬼太郎たち。しかし、それこそが白山坊の罠だったのだ。

第十二話 ざしきわらしと笠地蔵

脚本／星山博之
演出／今沢哲男
作画監督／山本福雄
美術／藤田 勉

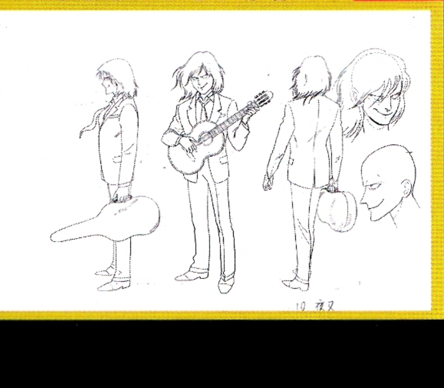


東北のとある山村——。とても貧しい生活をしているが、誠実に生きているひと組の老夫婦がいた。そこを棲み処に決めた妖怪ざしきわらし。やがておじいさんは、一所懸命作った笠を売って、そのお金で正月の餅でも買おうとおばあさんに話して出掛けて行った。一方、ざしきわらしは老夫婦を苦しめている元凶・貧乏神を見つける。貧乏神は食べ物がなくなるまで、この家に居座ると宣言し、後から来たざしきわらしに出て行くよう命令する。しばらくすると、おじいさんが人里から帰って来た。笠が売れなかったから、雪を被ってかわいそうなお地蔵様にあげてきたというのだ。この心優しい老夫婦をなんとか助けたいと思うざしきわらしは、近くに住む妖怪・呼子に相談しに行った。と、そこに偶然にも鬼太郎たちがいた。鬼太郎たちはざしきわらしの話を聞き、貧乏神を追い出して老夫婦を助けようと起ち上がった。

果たして現代は妖怪たちにとって

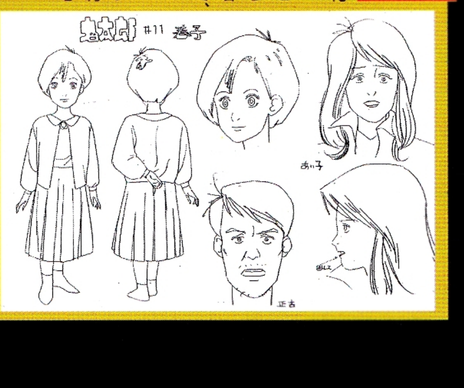
響ワタル（声・古川登志夫）

第10話に登場。ユメコの学校の先輩にあたる、才能ある音楽家。しかし心の隙間を夜叉につけ込まれ、人間の魂を抜き取る妖怪音楽をギターで奏する。ナルシストな行動や剃りあげた頭は夜叉のためだったのか？ 極めて謎の多い人物。



春子（声・藩恵子）
正吉（声・佐藤正治）
愛子（声・山口奈々）

第11話に登場。15年前に借金苦から一家心中を図ったところを白山坊に助けられ、16歳になった春子を嫁に渡す約束で、弁当屋「きつねちゃん弁当」が大繁盛。豪邸暮らしをしていたが、白山坊との約束を後悔する日々を送っていた。

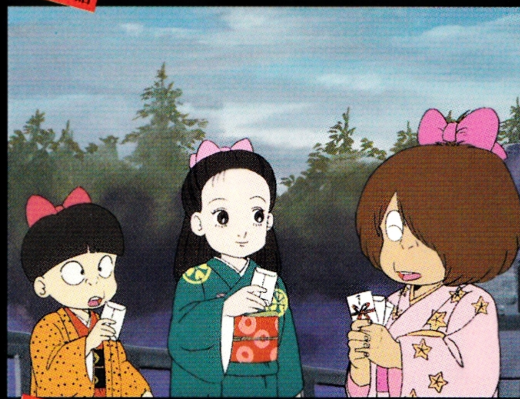


おじいさん（声・山内雅人）
おばあさん（声・中西妙子）

第12話に登場。人里離れた山奥にある一軒家で暮らしている老夫婦。貧しい暮らしをしていても、人への思い遣りを忘れずに生きている誠実な心の持ち主。居座っていた貧乏神が祓われざしきわらしに代わったことで安楽な生活になったのかは不明。



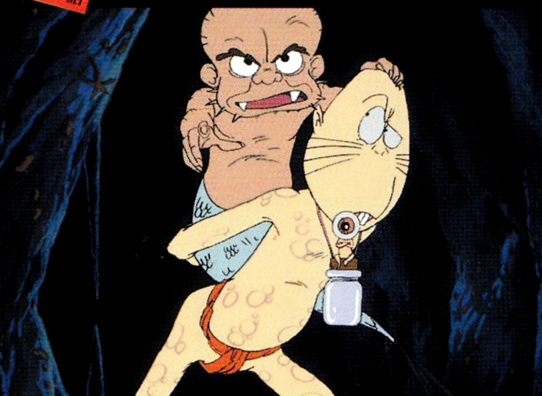
第十三話 おりたたみ入道



脚本／武上純希
演出／芹川有吾
作画監督／入好さとる
美術／伊藤信治、金島邦夫

お正月で賑わう町。鬼太郎たちも集まってのんびりとかるたで遊んでいたが、そこへねずみ男が子供のお年玉を奪って逮捕されたとの連絡が届く。慌てて交番に向かう鬼太郎たちだったが、ねずみ男の傍若無人ぶりに警官も手を焼いていて、あっさりと釈放する。そして、真犯人は別にいるというねずみ男の言葉を信じて囮になる鬼太郎たち。しばらくするとねずみ男にそっくりな男が罠にかかり、妖怪おりたたみ入道を使って鬼太郎を攻撃した。しかし、絶妙な連携でおりたたみ入道を退治する鬼太郎たち。勘念した男は、自分がねずみ男の生き別れの弟だと言う。この言葉を信用したねずみ男は自らの棲み処に案内、歓迎の支度に走り回る。だが、ねずみ男のいない間に鬼太郎にその正体が妖怪・ムジナであることを見破られた。鬼太郎はムジナを懲らしめると、ひとつだけやってほしいことがあるという。その頼みとは……？

第十四話 不老不死!? 妖怪さざえ鬼



脚本／武上純希
演出／西沢信孝
作画監督／兼森義則
美術／鷲崎 博

工場から出るスモッグと廃液で汚れていく町で、ねずみ男は人魚の子供を売り歩く鬼太郎を目撃した。その行動を嘆きながらも釣りを始めたねずみ男に、さらわれた人魚の父が襲い掛かってきた。そこに駆けつけた鬼太郎はねずみ男の危機を救うが、その原因が鬼太郎にあるという。ねずみ男は自分が見たままを鬼太郎に話した。身に憶えのない鬼太郎はにせ者がいると考え、捕まえるためねずみ男に協力させる。やがてにせ者を追いつめる鬼太郎だったが、にせ者は充分な準備をしていて、逆に鬼太郎が捕らえられてしまう。そしてその正体を現す妖怪さざえ鬼。その目的は公害によってボロボロになった体を元通りにするため若い妖怪細胞を持った鬼太郎を食べることにあった。抵抗虚しく食べられてしまう鬼太郎。だが、驚異的な再生能力で復活を遂げた。勘念したさざえ鬼を哀れむ鬼太郎は元凶である工場をなんとかしようと考える。

第十五話 冷凍妖怪・雪ん子



脚本／大橋志吉
演出／小山 崑、福留政彦
作画監督／古川達也
美術／藤田 勉

体のかゆみを獣医に診てもらい、寒いところで治療しろと言われたねずみ男は、妖怪ポストに来た手紙を北海道から来た一通だけを残して捨ててしまう。そうとは知らない鬼太郎はねずみ男とネコ娘を連れて、手紙の差出人・よし夫が待っている北海道の大雪山へと向かう。現地では人間が凍りつくという事件が続き、よし夫も家族を凍らされて困っているというのだ。早速、調査を始める鬼太郎をよそに、ねずみ男はスキーを堪能する。そのねずみ男の前にひとりの少女が現れた。彼女こそ、この事件を起こした妖怪・雪ん子だった。その場に駆けつけた鬼太郎だが、既にねずみ男は凍らされていた。鬼太郎は単身雪ん子の棲み処へと乗り込むが、そこには雪男と雪女の姿もあり多勢に無勢、凍りつかされてしまう。鬼太郎の敗北を知った目玉おやじは、石塚に眠る化け火の力を借りて反撃を開始した。

男泣きのその胸中は……？

にせねずみ男（声・安原義人）

第13話に登場。ムジナがねずみ男に罪を着せようと、そっくりに化けた姿。おりたたみ入道を使って子供たちのお年玉を根こそぎ脅し取っていた。悪事がバレた後もねずみ男の弟に成りすまして罪を重ねようとしていた。



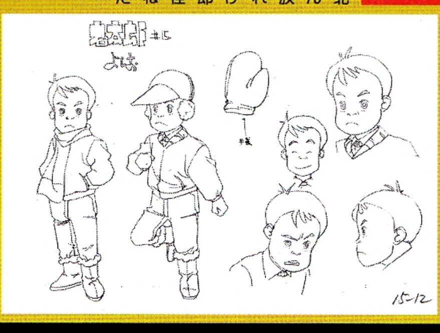
金竹工場長（声・戸谷公次）

第14話に登場。汚水やスモッグなど公害を撒き散らしていた工場の責任者。さざえ鬼が体調を壊したのもこの工場から出た科学物質のせいだった。鬼太郎に工場から出た公害をお返しされて、自分たちの愚かさを知り自粛するよう約束する。



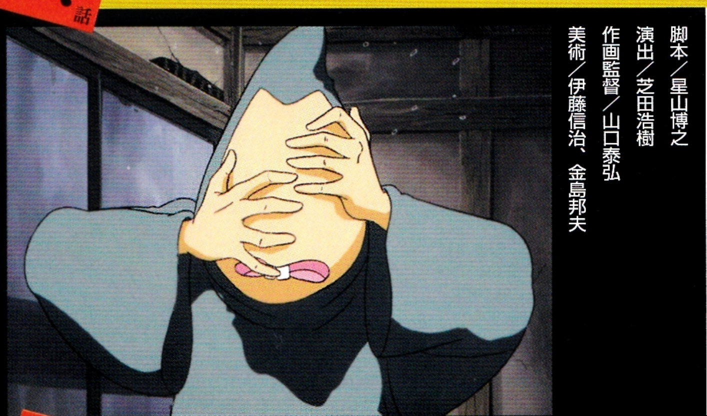
大山よし夫（声・白川澄子）

第15話に登場。北海道の大雪山に住んでいる少年で、家族を雪ん子に凍らされたためなんとか助けてもらおうと鬼太郎に手紙を書き、妖怪ポストに入れた。ねずみ男を知っていたりと意外と物知り。家族は父母と祖母、兄に犬がいる。



第十六話 妖怪のっぺらぼう

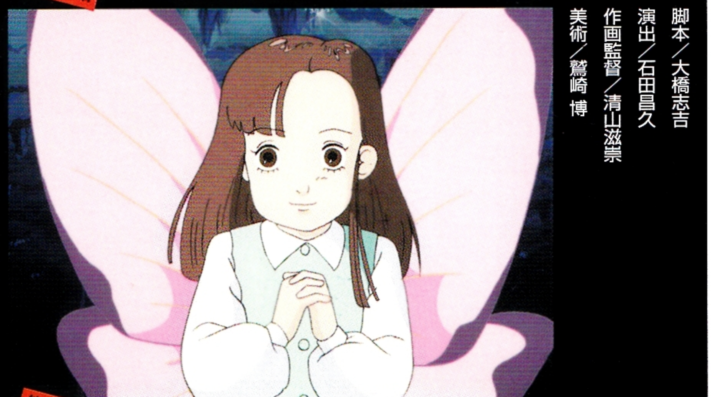
脚本／星山博之
演出／芝田浩樹
作画監督／山口泰弘
美術／伊藤信治、金島邦夫



人間の顔が消えてしまうという奇怪な事件が続く村では、ほとほと困って鬼太郎に手紙を出した。しかし、鬼太郎の手に届いたその手紙はカラッポ、中身は礼金ほしさに盗み見たねずみ男が持ち去っていたのだった。鬼太郎の代わりに村へと入ったねずみ男は、犯人の見当がついているらしく、現場である墓地で張り込み、妖怪のっぺらぼうを見つける。おとなしいのっぺらぼうなら簡単に騙せると考えたねずみ男。しかし実はその背後にはぬらりひょんがいて返り討ちにあってしまった。翌日、手紙に書いてあった住所を訪ね、村長から事情を聞いた鬼太郎は墓地へ向かった。そこで顔を盗まれたねずみ男と遭遇、一部始終を聞いた。一方、ぬらりひょんはのっぺらぼうに盗ませた顔を高額で指名手配犯の顔と取り替えていた。そこに駆けつけた鬼太郎は、ぬらりひょんに騙されているのっぺらぼうと対峙する。

第十七話 古代妖怪毛羽毛現

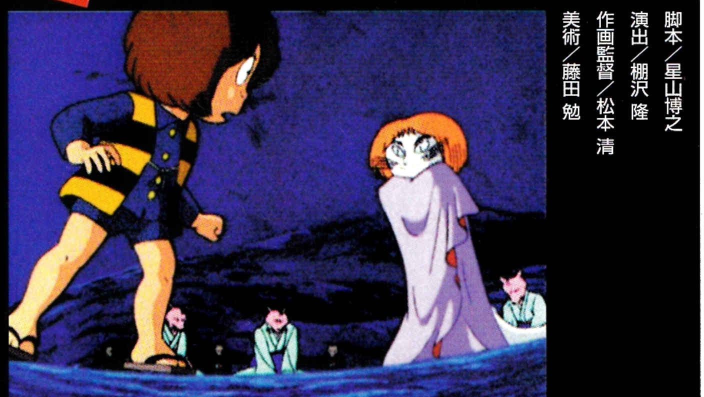
脚本／大橋志吉
演出／石田昌久
作画監督／清山滋崇
美術／鷲崎 博



化石採集に入った森で道に迷った鬼太郎とユメコは、太古に棲息していた恐竜の姿を目撃する。なんとか森を抜け出した二人は村を見つけるが、そこではキクという幼い少女がひとり泣いていた。事情を聞くと、友達が何人も行方不明になったという。そこへ、巨大なニワトリに乗ったねずみ男が現れた。空からの眺めが楽しめると、ユメコとキクを乗せて飛び立つねずみ男に事件との拘わりを感じた鬼太郎は、こっそりニワトリの足に飛びつく。それに気づいたねずみ男は振り落とそうとしたが、結果はニワトリごと墜落。太古の景色を思わせる奇妙な場所へ落ちた鬼太郎は、魂を抜かれて化石になっている子供たちを見つけた。すべては古代妖怪・毛羽毛現の仕業だったのだ。目を離した隙にユメコも魂を抜かれ、毛羽毛現を逃してしまう鬼太郎。隠れ家へと到着した毛羽毛現は、魂となったユメコに自分の目的を話し始めた。

第十八話 妖怪天狐 地底王国の逆襲

脚本／星山博之
演出／棚沢 隆
作画監督／松本 清
美術／藤田 勉



地下鉄の工事現場に突然現れた謎の美女——。工事をしていた作業員たちは誘われるようにその後に着いて行き、いずこへともなくその姿を消した。その中にはねずみ男の姿も。報せを聞いた鬼太郎はこの事件が妖怪の仕業と見抜き、作業員の命を救うべく工事現場へと向かった。その頃さらわれた作業員たちが気がつくと牢に入れられていた。そこは、この都市の地下に存在していた狐たちの聖地である巨大な地底王国だった。人間たちの工事を侵略と考えた狐一族の統率者・天狐は捕らえた人間たちを人質に工事の中止を要求した。そして、狐の存在を信じない人間たちに代わって鬼太郎が交渉人に指名され地底王国へと向かう。だが、鬼太郎を人間の手先だと考えた空狐五人衆は執拗な攻撃を仕掛けてきた。なんとか潜入に成功した鬼太郎の前に現れた天狐は、この問題を一対一の戦いで決着をつけることを提案してきた。

ねずみ男に弟がいた!?

井名野義則（声・戸谷公次）尾伊川一男（声・千葉 繁）

第16話に登場。のっぺらぼうが奪った他人の顔を買った男たち。実は逃亡中の指名手配犯である。なお、彼らのネーミングはアニメーター・稲野義信、及川博史両氏のお名前をもじったスタッフの"お遊び"である。



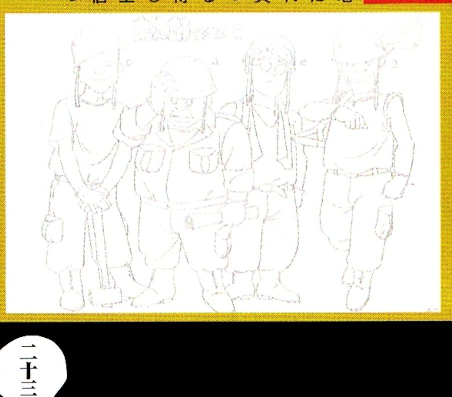
キク（声・三輪勝恵）

第17話に登場。友達がみんな行方不明になってしまい、淋しくて泣いていた少女。古代蝶の化石を持っていて、それをあげるからみんなを捜してほしいと鬼太郎に頼んだ。恐竜になっていた子供たちを正気に戻すきっかけを作った。



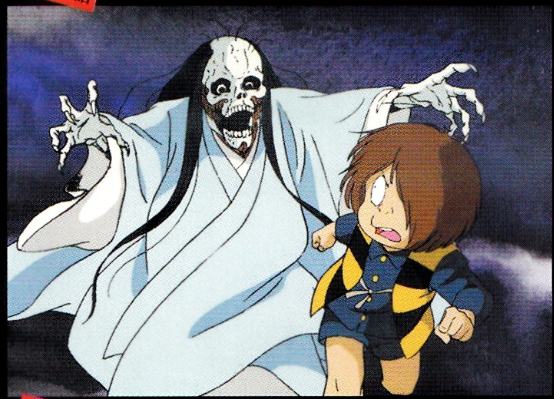
工事現場主任（声・佐藤正治）作業員（声・小林通孝、難波圭一 他）

第18話に登場。地下鉄工事を狐たちに侵略行為と間違われ捕らえられた作業員たち。助かりたかったら工事を中止するよう人間たちを説得しろと言われる。しかし、地上にいた工事責任者たちには信用してもらえなかった。



第十九話 ゆめ妖怪まくらがえし

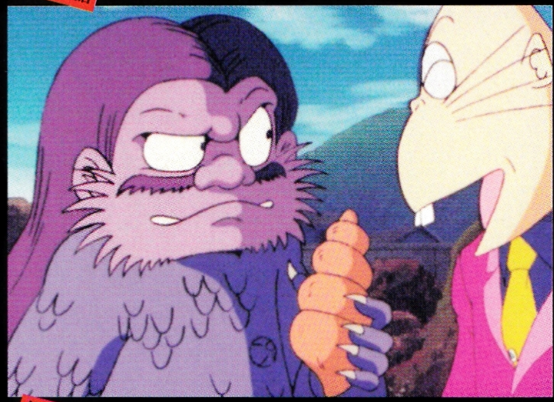
脚本／武上純希
演出／今沢哲男
作画監督／山本福雄
美術／山本善之



真夜中に響くユメコの叫び声に、星郎が慌てて駆けつけた。だが、ユメコの姿は既になかった。報せを聞いてやって来た鬼太郎は、この事件が夢の番人・まくらがえしの仕業だとつきとめる。ユメコがさらわれた夢の世界へ虹の掛け橋を渡って向かう鬼太郎とねずみ男。その頃まくらがえしは、最近の子供が見ることのない綺麗な夢を見るユメコを使って夢の世界の修復を行っていた。そこへ現れた鬼太郎たちに対し、まくらがえしは巨大化して攻撃した。だが、ねずみ男に持ち込ませた桶一杯の塩でまくらがえしを撃退。鬼太郎はユメコを救出するとまくらがえしの香炉を使って夢の世界を脱出。そして、鬼太郎たちは香炉を取り返しに来るであろうまくらがえしに、妖怪証文に手形を押させユメコのことを諦めさせるべく待ち構えた。だが、まくらがえしは眠り砂を使って鬼太郎たちを眠らせると、またしてもユメコを誘拐した。

第二十話 半魚人の恋

脚本／武上純希
演出／芹川有吾
作画監督／入好さとる
美術／鷲崎 博



ねずみ男のところへ半魚人が恋の相談にやって来た。半魚人より人間の女性が好きな半魚人は300年もの間、結婚相手を探していたが相手が見つからなかったという。しかし、海女のあかねをどうしても嫁に迎えたい半魚人は、真珠を始めとする海の宝を提供してねずみ男に懇願する。報酬に目が眩んだねずみ男は会社社長と偽って半魚人とあかねをお見合いさせた。しかし、妙な雰囲気から相手を妖怪と感じたあかねは鬼太郎に相談するのだった。相手が半魚人と知った鬼太郎は海に出るが、化けイカの強襲で海に引きずり込まれた。そして鬼太郎は貝に放り込まれ、巨大な真珠にされてしまう。あかねは鬼太郎を救おうと海底深くの宝＝鬼太郎を交換条件に半魚人との結婚を承諾した。巨大真珠になった鬼太郎を手に入れたのも束の間、あかねはねずみ男に連れ去られる。しかも、ねずみ男の手には見た相手を一生好きになる妖怪惚れ薬があった。

第二十一話 コマ妖怪あまめはぎ

脚本／並木 敏
演出／白土 武、山寺昭夫
作画監督／清水 明
美術／藤田 勉

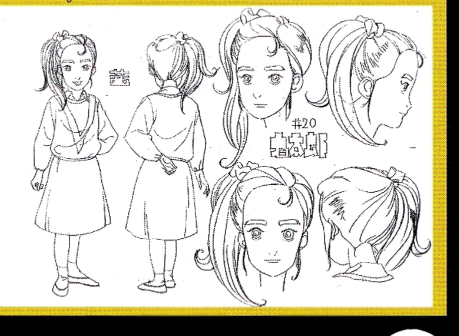


テレビ局に頼まれて妖怪を捜すねずみ男は、わざと違う場所へ案内する。だがそこで100年近く冬眠していた妖怪あまめはぎを見つけてしまう。眠りから覚めたあまめはぎから身を守るため鬼太郎のことを話すねずみ男だったが、あまめはぎは逆に闘志を燃え上がらせた。そして現れた鬼太郎との勝負に、あまめはぎは〝負けた者は相手の言うことを聞く〟という妖怪の掟を賭けたコマ合戦を挑む。目玉おやじをコマにして勝負に勝った鬼太郎は、おとなしく山に帰るようあまめはぎに命じた。渋々と引き上げるあまめはぎは、しかし納得がいかず、ねずみ男を見つけるといいなり茸を食べさせ鬼太郎を誘き出させた。今度は力による勝負を挑まれる鬼太郎だったが妖力が使えない。誘き出された場所のキノコ谷では一切の妖術が使えないのだ。巨大コマを使って鬼太郎を生き埋めにしたあまめはぎは人間に妖怪の恐さを思い出させようと再び町へ向かった。

――妖怪と人間の絆？

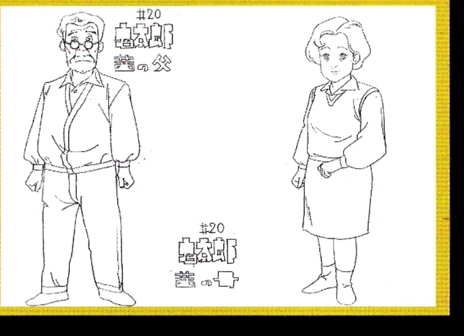
あかね
（声・山本百合子）

第20話に登場。あわびを取る海女として働くあかねは、一方的な半魚人の愛情に困惑して妖怪ポストに手紙を入れ、鬼太郎に助けてもらおうとする。だが、鬼太郎を救うため必死に海へ潜ったりするなど芯はとても強い。



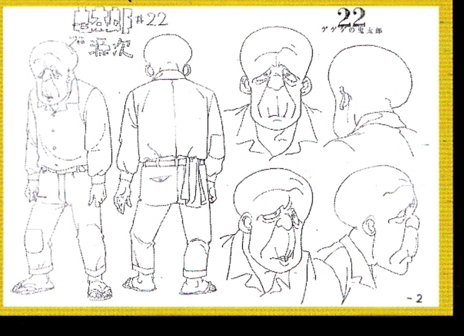
あかねの父（声・田中康郎）
あかねの母（声・山本圭子）

第20話に登場。ねずみ男の持ち込んだ縁談に乗り、あかねの見合いを承諾するが、相手の正体が半魚人と知って驚き、怯えることに。心底娘の心配をしていた優しい両親である。



源次
（声・石森達幸）

第22話に登場。最近の若者たちの行動を嘆くあまり、そこにつけいられて天邪鬼に取り憑かれ、その封印を解いてしまった老人。最初は悪戯程度の天邪鬼の行動を容認していたが、エスカレートする行動に徐々に疑問を抱くようになる。



第二十二話 いじわる妖怪天邪鬼

脚本／大橋志吉
演出／芝田浩樹
作画監督／松本朋之
美術／山本善之



最近の若者の行動に憤りを感じていた老人・源次は奇妙な夢を見る。その夢に従って行動した源次は妖怪・天邪鬼の封印を解いてしまう。天邪鬼は源次をそそのかして、二人で町中を我がもの顔に暴れ始めた。途中、天邪鬼の行動を支持するねずみ男も引き連れて、その悪戯はますますエスカレートしていく。ついに警察も動き出すが、天邪鬼の仕掛けた罠にはまって壊滅状態に。駆けつけた鬼太郎も相手の心を読むことができる天邪鬼の前に手も足も出ず敗れてしまう。竈に入れられ燻製にされんとする鬼太郎を救うべく、目玉おやじは仲間たちに救援を求めた。天邪鬼に眠り草の入ったお茶を飲ませて鬼太郎の救出に成功した子泣きじじいたちは、チャンスとばかり眠ったままの天邪鬼を封印しようとした。だが、その寸前目覚めた天邪鬼の逆襲に会う。この危機に目玉おやじは、鬼太郎に全速力で逃げ出せと指示するのだった。

第二十三話 電気妖怪かみなり

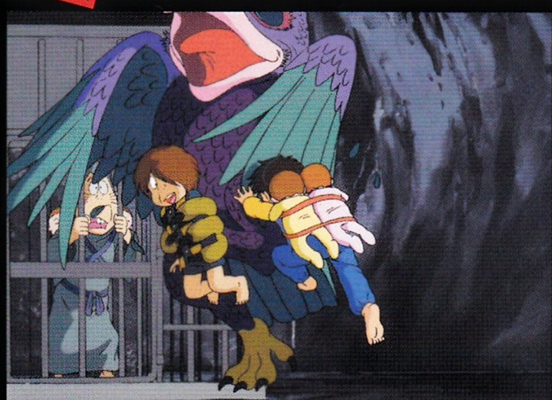
脚本／武上純希
演出／石田昌久
作画監督／山口泰弘
美術／鷲崎 博



雷から電気エネルギーを吸収する機械・エレキテルⅡの実験を行う雨山博士は偶然にも電気妖怪かみなりから電気エネルギーを吸収してしまう。その実験を拾った新聞で知ったねずみ男は、かみなりの起こす電気を売れば金儲けができると思いつく。エネルギー切れで弱ったかみなりに送電線から電気を吸収させるねずみ男。体力を回復したかみなりは、用のなくなったねずみ男を追い払うと研究所を襲い、雨山博士を拉致した。その現場に間に合わなかった鬼太郎は息子のコウに詫びると、急いでかみなりのもとへと向かった。しかし、話し合いは決裂し戦いとなってしまう。戦いの最中に偶然触れたエレキテルⅡと融合して巨大化したかみなりは強大な力を得て、次々に人間たちから電気エネルギーを奪い始めた。ひとりでは勝ち目のない鬼太郎だったが、雨山博士の科学力という頼もしい武器を得て再びかみなりに立ち向かった。

第二十四話 子供が消える!? 妖怪うぶめ

脚本／山崎晴哉
演出／西沢信孝
作画監督／清山滋崇
美術／藤田 勉

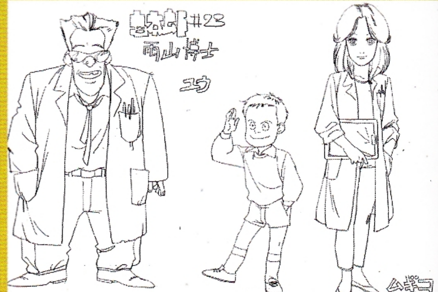


ねずみ男は捜していたうぶめ石とうぶめの羽を山奥で見つけた。しかし空腹からつい立ち寄った屋敷で捕まってしまう。そこで主人の村山に食べもので釣られ、ねずみ男は持っていたうぶめ石とうぶめの羽で妖怪ウブメを呼び出してしまう。ウブメには逃げられたが、これは商売になると思った村山に、"経営者にしてやる"と言われ、ねずみ男はウブメを捜すことになる。その頃、逃げ出したウブメは病院を襲い、生まれたての赤ん坊を次々と誘拐していた。そして、なぜかねずみ男さえも連れ去るウブメ。その現場に、赤ん坊の誘拐事件を知って鬼太郎が駆けつけた。ねずみ男が連れ去られたことに疑問を感じた鬼太郎は、直感からウブメによっておねしょをしてしまった少年・秀夫の家を見張る。予想通りそこへウブメが現れた。ウブメの目的は人間の赤ん坊を自分の子供にし、またその世話をする人間の誘拐にあった。

人間に恋した半魚人、天邪鬼と老人の友情

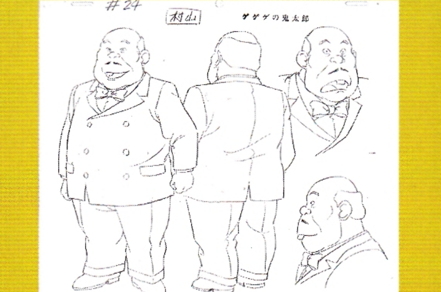
雨山博士（声・屋良有作）
雨山コウ（声・山田栄子）
ムギコ（声・鶴ひろみ）

第23話に登場。雷の発する自然の電気エネルギーを吸収する機械・エレキテルⅡを開発した博士。研究に没頭するあまり他のことには興味を持てない。その博士をサポートする助手のムギコと、息子のコウが博士の研究のよき理解者。



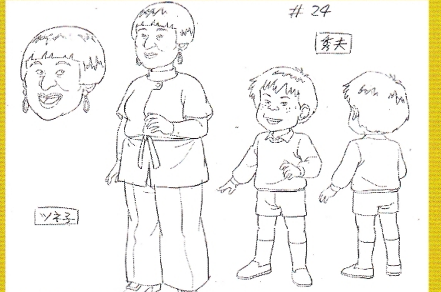
村山（声・田中康郎）

第24話に登場。偶然捕まえたねずみ男からウブメを見せられ、これを利用して金儲けを企んだ会社社長。ウブメが封印された後も未練がましく復活を願っていた。



村山ツネ子（声・中野聖子）
村山秀夫（声・つかせのりこ）

第24話に登場。村山の妻と息子。欲深な村山とは違い、息子の秀夫はウブメの事件をきっかけに人間的にひとつ成長を遂げた。



第二十五話 妖怪ぶるぶる

脚本／武上純希
演出／棚沢 隆
作画監督／金子康良
美術／山本善之



ユメコにいいところを見せようと、ねずみ男は鬼太郎の名前を使って天童家を温泉に招待した。そして宿泊予定の旅館を綺麗にしようと、古いものをどんどん燃やしてしまう——そこに妖怪ぶるぶるを封印した封じ絵があるとも知らずに。解放されたぶるぶるはユメコの父を始め、車に乗った人に取り憑いて次々に交通事故を引き起こす。この事件を妖怪の仕業と感じた星郎に呼ばれた鬼太郎は、妖怪メガネを使って見つけ出したぶるぶるを木に貼り付けてみんなを呼びに行った。だが、それを見つけたねずみ男が干しキノコと勘違いして持ち帰り、ユメコに食べさせてしまった。ぶるぶるが体内に入ったユメコはこのままでは凍りついてしまう。温泉に入れ、ぶるぶるを外に出そうとする鬼太郎。作戦は成功したものの、体の外へ出たぶるぶるには逃げられてしまう。しかも、もうすぐここには団体客を乗せたバスがやって来るのだ。

第二十六話 おばけナイター

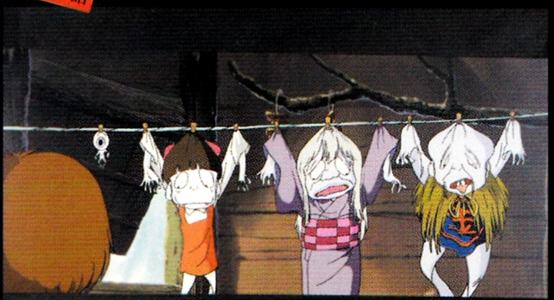
脚本／星山博之
演出／今沢哲男
作画監督／山本福雄
美術／鷲崎 博



少年野球で日本一になったラッキーズ。その四番打者・万年は打率10割という驚異的な数字を残した。その万年の元に鬼太郎が現れた。実は万年の持つバットは妖怪チームのために福の神が送ったものだったのだ。それをたまたま万年が墓地で拾ったという。バットは返さないと一点張りの万年に、鬼太郎はバットを賭けた試合を申し込む。かくして人間の少年野球チームと妖怪の野球チームのナイター試合が始まった。最初は人間と妖怪のルールの違いから小さなトラブルが続いたが、試合も少しずつ順調に進んでいった。しかし力が均衡しているのか延長戦に入っても0対0のまま試合は続き、ついに朝を向かえたため引き分けとして、日を改めての再試合となった。それまでバットは万年が持つことになったが、鬼太郎はこのままでは楽をして怠けてしまい、万年のためによくないと福の神に頼みごとをする。それは……。

第二十七話 妖怪ふくろさげ

脚本／大橋志吉
演出／芝田浩樹
作画監督／入好さとる
美術／藤田 勉



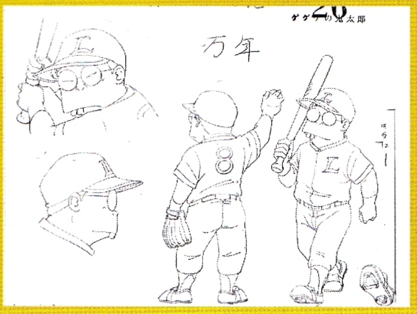
オサムとアキラというコソ泥から、ねずみ男は妖怪文字で書かれた地図の解読を頼まれた。お宝が眠っていると喜ぶねずみ男だったが、そこに埋まっていたのは妖怪エネルギーを吸収する妖怪ふくろさげだった。半妖怪だったため半分吸収されただけで助かったねずみ男からことのあらましを聞いた鬼太郎はすぐさま駆けつけた。だが、ふくろさげはオサムとアキラを連れて東京に向かった後だった。鬼太郎は仲間たちに知らせるが、時既に遅く子泣きじじい、砂かけばばあ、ネコ娘が犠牲になってしまった。一方、より強力な妖怪エネルギーの持ち主を欲するふくろさげは銀行から奪った札束でねずみ男を仲間につけ、鬼太郎を誘き出した。間一髪、鬼太郎は逃れることができたが、今度は目玉おやじが犠牲となった。強力になっていくふくろさげを倒すため、彼が吸収できないほどの妖怪エネルギーを手に入れようと、鬼太郎はエンマ大王の元へ向かった。

伍之盤

人間VS妖怪バトルの勝敗は!?

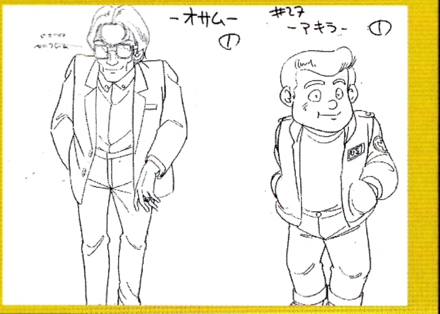
万年ツヨシ（声・山本圭子）

第26話に登場。少年野球チーム＝ラッキーズを日本一にした、打率10割を誇る四番打者。だが、それは墓地で拾った妖怪チームのバットのお陰だった。不思議な力が消えた後も、地道な努力を始めるなど根は真面目な少年だ。



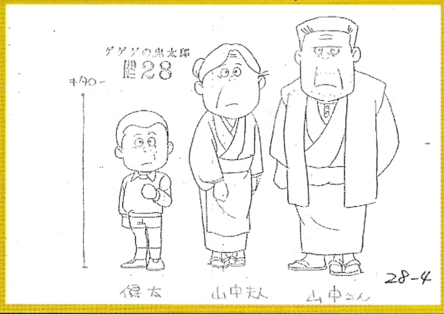
オサム（声・森 功至）
アキラ（声・古谷 徹）

第27話に登場。神社からふくろさげを封印した壷のありかを記す地図を盗み出したコソ泥コンビだ。復活したふくろさげに従って東京の銀行を次々に襲う。最後はふくろさげが鬼太郎に退治されてしまったため平謝りすることに。



山中（声・千葉順二）
健太（声・坂本千夏）

第28話に登場。山中は新幹線の開通で周囲が土地を売る中、最後まで田畑を守っていたが、ねずみ男の口車に乗って先祖伝来の田畑を売ってしまい、泥田坊の夢を見るようになる。それを気遣う息子の健太は鬼太郎を呼んだ。



第二十八話 田を返せ!!妖怪泥田坊

脚本／山崎晴哉
演出／白土武、山寺昭夫
作画監督／清水明
美術／鷲崎博



雨の日になると、新幹線がトンネルを出たとたん怪物に襲われるようになった。その近くには、最近ねずみ男にそそのかされて田畑を売って以来、妙な夢を見るようになった山中も住んでいた。その息子・健太は心配のあまり鬼太郎を呼び、事件を調べてもらうことにする。そして、鬼太郎たちが雨の日に現場を張り込んでいると巨大な妖怪・泥田坊が出現。本来は田んぼでおとなしくしている泥田坊だったが、この一帯の田んぼがすべてなくなってしまったため、怒りで暴れ出したのだ。説得を聞かない泥田坊をやむなく退治する鬼太郎。これで事件は解決、健太も無事新幹線に乗って修学旅行に行けることになった。だが、雨が降れば再生する能力を持っている泥田坊は、今度は何10体もの等身大の姿で現れ、再び新幹線を狙った。駆けつけた鬼太郎だったが、倒しても破片から再生して数を増やしていく泥田坊相手に勝機は見えず……。

第二十九話 妖怪ひでり神

脚本／武上純希
演出／芹川有吾
作画監督／松本朋之
美術／伊藤雅人



ユメコの誕生日にダイヤを贈ろうと、採掘場跡を探していたねずみ男は地下へ転落した。そこで壁画と、それを描いた妖怪ひでり神に出会うのだった。これは面白いと思ったねずみ男は、週刊漫画誌の編集部に売り込みに行く。ライバル誌に差をつけられている編集長は妖怪の描く漫画とは話題性充分と、担当として森田を送り込む。だが、森田の見たひでり神の原稿はとても使いものにはならなかった。そこでねずみ男は方針変更、森田を人質に身代金を要求する。妖怪に連れ去られた父を心配するヨシミツから森田のことを頼まれた鬼太郎は、身代金の受け渡し現場で待ち伏せてひでり神と対決した。しかし、熱を吸収して巨大化するひでり神に鬼太郎は苦戦する。そこでひでり神を野づち塚へ誘い込んで、復活した野づちに吸い込んでもらう鬼太郎。しかし、目を覚ましたばかりの野づちは暴走を始めなんでもかんでも吸い込み始めてしまう。

第三十話 妖怪見上げ入道

脚本／星山博之
演出／石田昌久
作画監督／山口泰弘
美術／藤田勉

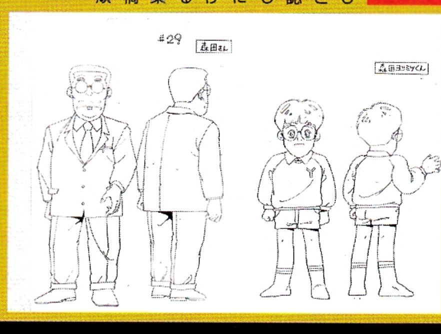


悪戯好きな少年・俊夫は今日も廊下に立たされていた。学校をつまらないと思っていると、そこに見上げ入道が現れた。その悪ガキぶりを気に入った見上げ入道は俊夫をさらっていく。そして着いたところは見上げ入道の作った妖怪学校。動物などを集めて妖怪に育てる学校だ。ねずみ男の案内を受けて妖怪学校の生徒にされる俊夫。一方、ユメコから話を聞いた鬼太郎は、これが見上げ入道の仕業と知って俊夫の救出に向かった。だが、鬼太郎を知らない見上げ入道は生徒が来たと勘違いして授業を受けさせる。授業中、鬼太郎の挑発で小さくなった見上げ入道の隙をついて逃げ出す生徒たち。だが、瞬時に大きくなった見上げ入道は、秘法霊界流しによって鬼太郎を異次元空間に閉じ込め、何事もなかったかのように授業を再開する。鬼太郎は異次元空間から脱出しようとするが、ここでは一切の妖力が通用しなかった。果たして鬼太郎は……?

おばけの野球はもちろんナイター!

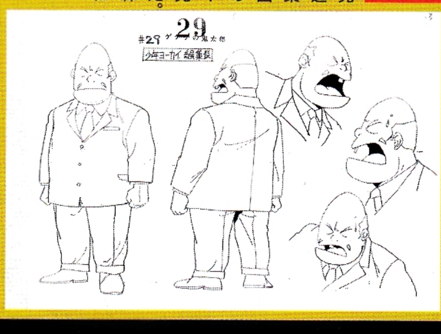
森田（声・田中亮一） ヨシミツ（声・頓宮恭子）

第29話に登場。ひでり神の元へ行くことになった漫画雑誌の編集。父を心配したヨシミツが星郎に頼んで鬼太郎に助けてもらうことになるが、当の森田は編集の意地を賭けて原稿を上げさせようと頑張っていた。



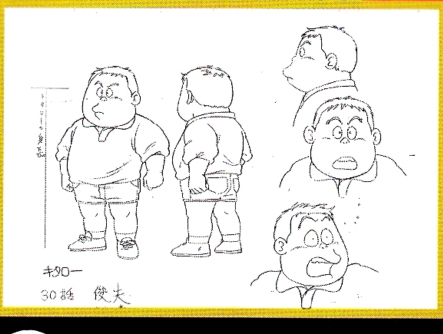
編集長（声・沢木郁也）

第29話に登場。売上げが落ちている『週刊少年妖怪』の編集長。ひでり神の漫画を"世界初の妖怪の描く漫画"というキャッチで連載し、売上げアップを狙った。そして彼の命令で森田がひでり神の元に出向することに。



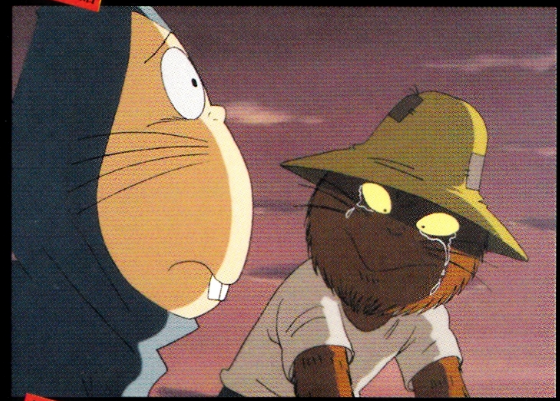
俊夫（声・つかせのりこ）

第30話に登場。悪戯好きなユメコの同級生で、林間学校での悪戯を見上げ入道に見込まれて、妖怪学校の生徒にされてしまう。今回の事件で見上げ入道を恐れるようになったものの、イタズラ好きは治らなかったようだ。



第三十一話 オベベ沼の妖怪

脚本／大橋志吉
演出／芝田浩樹
作画監督／松本勝次
美術／鷲崎 博



鬼太郎はユメコの誘いで若杉先生の故郷へ呼ばれた。みんな都会を離れ、手作業で田植えをするなどノンビリした気分を味わう。そこへ仲間に入れてもらおうとねずみ男が現れた。しかし、ちょっとした失敗から仲間はずれにされ、怒りながらねずみ男は去って行く。その途中、ねずみ男は沼で釣りをしている少年を見つけた。聞けば苦労続きの少年で、同情心で色々と手伝ってやるねずみ男だったが、その好意を逆手に取るように甘える態度にヘトヘトに……。だが、その少年こそ最近このオベベ沼で悪戯を繰り返しているという噂の妖怪かわうそだった。自分と似たものを感じたねずみ男は、かわうその境遇を聞いて友達として協力することを約束。そして、二人で水路を破壊して田んぼをメチャメチャにした。怒った鬼太郎はかわうそを退治しようとするが、ねずみ男はかわうそを許すよう懇願する。

第三十二話 鬼太郎危うし！妖怪大裁判

脚本／武上純希
演出／明比正行
作画監督／清山滋崇
美術／藤田 勉



人間には絶対に見られてはいけない妖怪パーティーの現場を、こともあろうに映画に撮られてしまった。それを手引きした罪で鬼太郎が妖怪警察に捕らえられてしまう。無実だから大丈夫と強気の鬼太郎だったが、これこそは妖怪・百々爺の罠だった。弁護人を足止めされ、始まった妖怪裁判は百々爺の根回しで圧倒的に鬼太郎不利のまま終始進んでいた。しかも、弁護に立ったはずのねずみ男の偽証により鬼太郎の罪は決定的なものとなってしまう。ドロドロに溶かされ壷の中で500年間封印の刑の裁定が鬼太郎に下った。だが刑罰執行の瞬間、隙を見て逃走する鬼太郎。代わりに目玉おやじが捕まってしまうが、処罰の時間までに真犯人を捕まえろと鬼太郎に檄を飛ばす。そして仲間と合流した鬼太郎は今回の黒幕が妖怪世界の頂点に立とうと考えた百々爺の企みだと知る。百々爺の下に集まった妖怪軍団と鬼太郎ファミリーの全面対決が始まった。

第三十三話 妖怪あかなめ悲しみの逆襲

脚本／星山博之
演出／永丘昭典、今沢哲男
作画監督／平田かほる
美術／鷲崎 博



埋立地にあるゴミ捨て場で、ねずみ男は人間の言葉を話すハエ・ブン太から逃げるよう忠告された。するとゴミの山から巨大な姿となった妖怪あかなめが出現、町を壊しながら都心に向かった。応戦する自衛隊だったが、あかなめにはまったく歯が立たない。そこへニュースを見て駆けつけた鬼太郎があかなめを説得する。しかし、あかなめは聞く耳を持たないばかりか鬼太郎を飲み込んでしまった。一方、あかなめを倒して英雄になろうと考えたねずみ男は、ブン太から人間の捨てたゴミによって生まれた毒であかなめが変貌したことを聞く。その頃鬼太郎は、あかなめの腹の中で無事だった人間たちを励ましながらエンマ大王に連絡を取り、あかなめを元に戻すには豊の木の種を体内に入れ、毒を浄化するしかないとの教えをもらう。それを聞き豊の木の種を探す目玉おやじだったが、盗み聞きしていたねずみ男に先回りされ種を奪われてしまった。

陸之盤

妖怪裁判の判決やいかに？

若杉先生の父（声・佐藤正治） 母（声・中野聖子）

第31話に登場。ユメコの担任・若杉先生の両親で、都会から離れた田舎の村で農作業を生業にしている。手作業にこだわり機械による農作業を行っていない。水路崩壊の被害を受けたが、田んぼはかわうそが元通りに修復した。



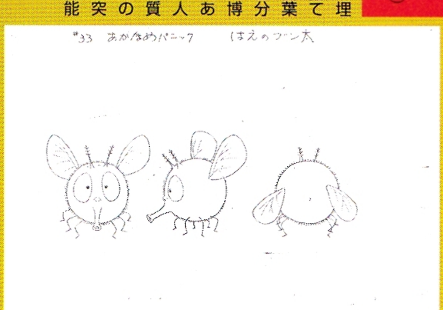
村人たち（声・平野正人他）

第31話に登場。若杉先生の両親が住む村の人々。農業を生業とする人が多いようだ。オベベ沼に住むかわうそを悪行妖怪と誤解し、恐れて沼に近づかないでいた。誤解と知り、その後はかわうそと仲よくなったようである。



ブン太（声・龍田直樹）

第33話に登場。埋立地にあるゴミ捨て場にいた人間の言葉を話すハエで、自分のことを「ブン太博士」と呼ぶ。巨大あかなめと同じく、人間が捨てた化学物質から生まれた未知の物質に汚染され、突然変異で現在の知能を手に入れた。



第三十四話 ばけ猫国道0号線

脚本／星山博之
演出／芝田浩樹
作画監督／入好さとる
美術／藤田 勉



鬼太郎は、父が猫うち症という奇病にかかったという少年・健二の元へやって来た。その行動はまるで猫そのもので、夜の国道0号線で事故に遭ってから、父はこうなったのだという。おそらくは、ばけ猫の仕業と推理する目玉おやじ。そこで鬼太郎はラーメン二杯でねずみ男に運転を頼み、夜の国道0号線を走る。そして、事故を引き起こしたと思われる車が現れた。その車に飛び移ろうとした鬼太郎だったが、車は煙のように消えてしまう。それがばけ猫の得意技である幻覚だと知った鬼太郎は、目印となる蛍光塗料を用意して再び国道0号線に挑んだ。そして鬼太郎が車に目印を付けることに成功すると、ついにばけ猫がその姿を現した。その後を追いかけ、妖しげな空間にたどり着く鬼太郎。そこは交通事故の犠牲となった猫たちの怨念がこもった場所だった。その怨みから人間を憎むようになったばけ猫に同情した鬼太郎は抵抗を止めてしまう。

第三十五話 妖怪赤舌の千年王国

脚本／大橋志吉
演出／葛西 治
作画監督／松本朋之
美術／鷲崎 博



妖怪・赤舌が千年ぶりに復活した。その手下である骨女はねずみ男を仲間にして、赤舌による理想郷"千年王国"建設のため行動を開始した。町でユートピア建設を語り、理想郷を求めている心の疲れた人間たちを集めるねずみ男。集められた人間たちは赤舌に喰われ体の水分をすべて吸収された挙げ句、千年王国の柱にされていた。計画は順調に進んでいたが、次は邪魔になる妖怪たちを始末せんと赤舌はねずみ男に命じて鬼太郎を誘き出させた。巨大な体で鬼太郎を追いつめると、赤舌は仲間の妖怪たちが集まった家ごと飲み込み、一網打尽にしてしまう。しかし、水分を吸収され身動きの取れない妖怪たちの中で、ただひとり子泣きじじいだけが、石に変身していたために難を逃れていた。お湯をかけられ水分を取り戻して復活する妖怪たち。鬼太郎は水を自在に操る赤舌に対抗すべく、炎の妖怪五人衆を呼んで決戦を挑んだ。

第三十六話 異次元妖怪かまなり

脚本／武上純希
演出／山寺昭夫
作画監督／清水 明
美術／藤田 勉



鬼太郎は孤独な老人からの手紙で呼び出されるが、それは何者かの罠で妖力の源である髪の毛を奇妙な釜に奪われてしまう。そこで鬼太郎はねずみ男に協力を求め、釜の誘き出しを手伝ってもらう。しかし、妖力を奪われた鬼太郎では歯が立たず、ねずみ男も釜に吸い込まれてしまった。砂かけ婆の妖怪玉で調べると、その釜は妖怪かまなりであることがわかる。明日、仲間の妖怪を連れてかまなりを倒そうと言われる鬼太郎だったが、仲間をこれ以上犠牲にできないと、たったひとりでかまなりに挑んだ。しかし敵うはずもなく、釜の中へと吸い込まれる。だが、これこそが鬼太郎の目的だった。ちゃんちゃんこを解いて、脱出のためのロープにする鬼太郎。しかし、自分だけが助かりたいねずみ男が騒いだため、かまなりに気づかれてしまう。絶体絶命のこの危機に、仲間の妖怪たちが救援に駆けつけてきた。

被告人は我らが鬼太郎!?

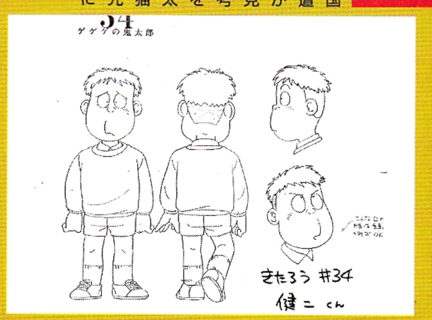
自衛隊幕僚長（声・佐藤正治）
司令官（声・龍田直樹）
隊長（声・塩屋浩三）
部下（声・広中雅志）

第33話に登場。巨大あかなめから人間と町を守るため、電磁ネットや殺獣光線車を投入して都心部への侵攻を喰い止めた自衛隊の面々。鬼太郎からの連絡であかなめの体内に生存者がいることを知り人命を優先させる作戦に終始した。



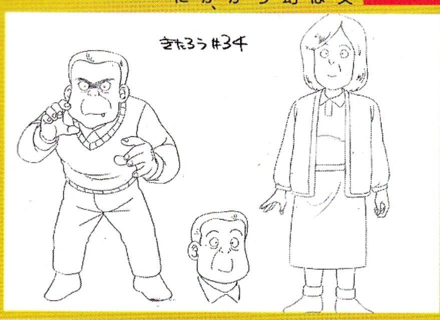
健二（声・つかせのりこ）

第34話に登場。国道0号線で事故に遭い、猫うち症にかかってしまった父を見て、妖怪の仕業と考え、鬼太郎に手紙を出した。最後は鬼太郎の善意で作った猫の慰霊碑を前に、元気になった父と共に手を合わせていた。



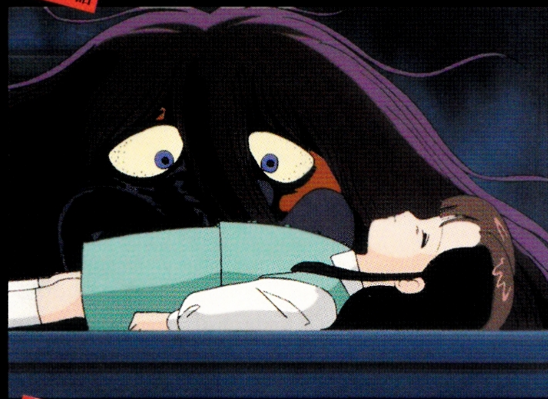
健二の父（声・矢田耕司）
健二の母（声・安部道子）

第34話に登場。父は、国道0号線でばけ猫の作り出した幻の車に襲われて猫うち症という奇病にかかってしまう。だが、鬼太郎たちの活躍により無事完治（？）した。



第三十七話　妖怪おどろおどろ

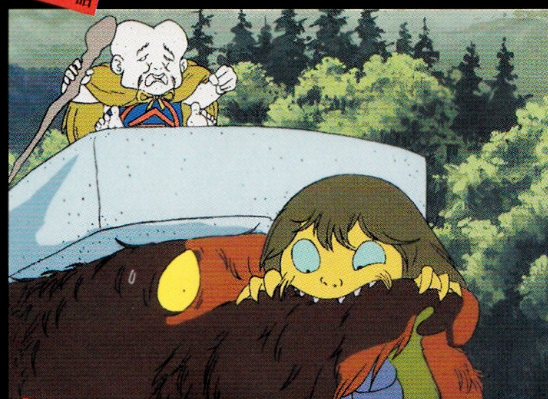
脚本／星山博之
演出／石田昌久
作画監督／松本勝次
美術／丸森俊昭



子供を狙った誘拐事件が続くが、犯人の要求もないことから捜査は混迷していた。そのニュースをテレビで見ていた鬼太郎に一通の手紙が届く。内容は鬼太郎に対して〝今回の事件に手を出すな〟という脅迫状だった。妖怪が関係していないと思っていた鬼太郎だったが、これを罠だと知りつつも放ってはおけず、ユメコに囮を頼んで事件現場に向かった。付近にかすかな妖気を感じる鬼太郎。しかし、それは事件を解決して礼金をせしめようと考えたねずみ男のものだった。やがてユメコの前に誘拐犯が現れるが、妖怪でないため鬼太郎は気づかない。そこに偶然居合わせたねずみ男の頑張りで、誘拐犯の車を追跡することに成功。やがて古ぼけた洋館に到着するが、そこには普通ではない妖気が立ち込めていた。慎重に屋敷に乗り込む鬼太郎の前に現れたのは、妖気に取り憑かれて妖怪おどろおどろと化した誘拐犯・隆の父親の変わり果てた姿だった。

第三十八話　タタリだ～!?妖怪土ころび

脚本／大橋志吉
演出／生頼昭憲
作画監督／稲野義信
美術／鷲崎 博



山奥の村が停電に陥った。しかも電気線から供給されているのに、電気は届かない。君子の祖母は〝たたり〟だと大騒ぎ。そこで君子は鬼太郎に手紙を出した。最近完成したダムのたたりだという君子の祖母の話を手がかりに調査を始める鬼太郎だったが、この付近の霊はすべて安らかに眠っていた。そんなとき、電気が止まって困っている村人に電気を売りに来たねずみ男を見つける鬼太郎。真面目に人力発電で作った電気だとねずみ男は言い張るが、とても信じられない鬼太郎はその後を追った。すると村の電気を止めればダムはなくなると、ねずみ男が土ころびを騙している現場を目撃した。鬼太郎はねずみ男の言葉が嘘だと教え、村の電気を止めないよう土ころびを説得する。しかし、土ころびはその言葉を聞かず、水中へと逃げ出した。追い掛ける鬼太郎。だが、土ころびはダムの電気を吸収して巨大化しようと企んでいた。

第三十九話　三途の河のだつえばばあ

脚本／武上純希
演出／明比正行
作画監督／入好さとる
美術／藤田 勉



夜の繁華街に現れる和服の美女に誘われ、姿を消した3人の男。妖怪の仕業だというその噂のため、人が遠のいて困るという手紙が鬼太郎の元に届く。それを聞いたねずみ男は、色気のある仕事は自分に任せろと、意気揚揚と事件現場に向かった。だが、現れた手毬をする和服の美女にねずみ男は為す術もなく連れ去られてしまう。妖怪玉で連れ去られた人たちが地獄にいると知った鬼太郎たちは、地獄列車に乗って地獄へと向かった。地獄へ着き三途の河を渡って、ようやく連れ去られた人たちを見つける鬼太郎。地獄の鬼をも従えた美女の正体は、亡者の罪を測る役目を持っただつえばばあだった。来る日も来る日も地獄で亡者の衣服を剥ぎ取る自分の仕事に嫌気が差し、4人の魂のスープを飲んで若さを取り戻そうと考えたのだ。鬼太郎たちの説得も聞かず、追いつめられただつえばばあは万有自在玉を使って地獄の番犬を呼び出した。

悲劇とは――?

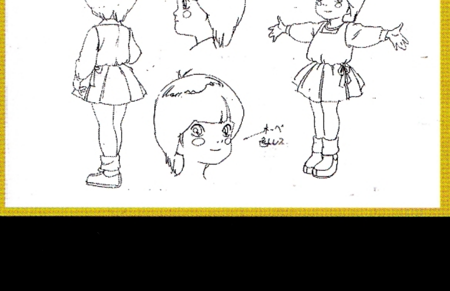
君子の父（声・屋良有作）
君子の母（声・山口奈々）
君子の祖母（声・山本圭子）

第38話に登場。君子の家族。祖母がことあるごとに〝たたり〟を口にし、ダムを作ったからだと言うため、君子が心配して鬼太郎に手紙を書くことになった。



君子（声・荘真由美）

第38話に登場。山奥の村で暮らしていた少女で、ダムからの電気が止まってしまい、困り果てて鬼太郎に手紙を書いた。最後には心優しい彼女の言葉によって土ころびも救われることに。



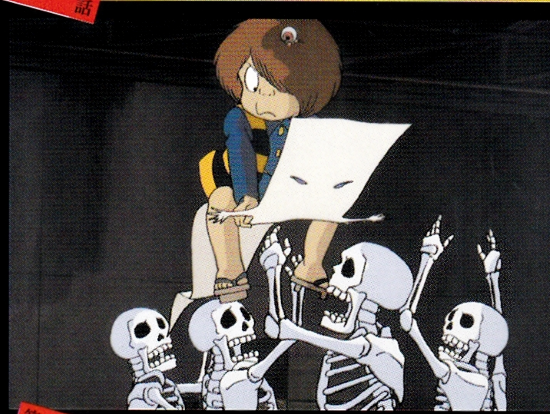
隆（声・塩沢兼人）

第37話に登場。妖怪おどろおどろと化した父親のため子供たちを誘拐していた。しかしその行為に苦しみ、鬼太郎に挑発するような手紙を出して自分と父の悪行を止めてもらおうとした。最後に警察に自首することで罪を償う。



第四十話 富士山大噴火!?妖怪大首

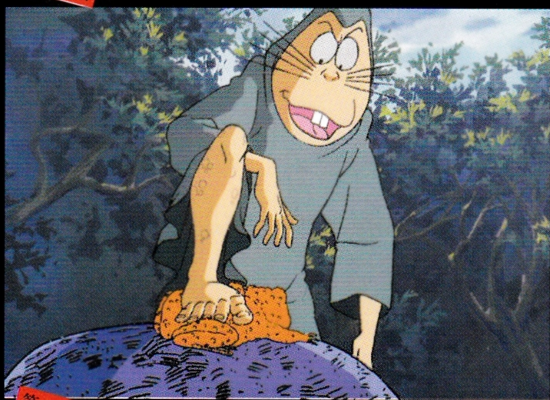
脚本／大橋志吉
演出／今沢哲男
作画監督／平田かほる
美術／鷲崎 博



儲け話を探すねずみ男の前に骨女が現れた。嫌がっているねずみ男を骨女は強引に、大首のエネルギー源である霊魂を缶詰にする工場に連れて来た。大首は富士山を噴火させて東京を死の町にし、日本を支配しようと考えていた。しかも、その噴火で死んだ者の霊魂も吸収するという一石二鳥の作戦だ。だが、最近何者かが霊魂を取っていると鬼太郎たちが警戒を強めていた。そこで、ねずみ男のオナラを巨大な缶詰にし、それを使って鬼太郎を抹殺しようと骨女は考えた。しかし計画は失敗。悪事は鬼太郎に露見する。鬼太郎はねずみ男の後をつけて缶詰工場に乗り込むが、目玉おやじを缶詰にされた上、骨女を逃がしてしまう。鬼太郎は仲間と共に大首のいる富士山の体内洞窟へ向かった。仲間の協力で目玉おやじを救出し、ガイコツを蹴散らしたものの真空を作り出す大首には近づけない。そこで目玉おやじは、霊食キノコを使うことを思いつく。

第四十一話 激戦！妖怪関ヶ原

脚本／武上純希
演出／葛西 治
作画監督／清山滋崇
美術／藤田 勉



ねずみ男がガマが淵で泳いでいると、言葉を喋るカエルに頼みごとをされた。醜い姿に変えられた自分を元の姿に戻すため、石を動かしてほしいのだと言う。報酬ほしさに石を動かしたねずみ男の目の前で、元の姿に戻る妖怪・邪魅。すると今度はねずみ男がカエルになってしまう。この石は、動かしたものをカエルに変える封印石だったのだ。元に戻るため鬼太郎を騙すねずみ男。さらに鬼太郎を救うため目玉おやじがカエルに。そこへ、今回の騒動の元である邪魅が現れた。戦いを挑んだ鬼太郎だったが、邪魅の吐く息を浴びて操られてしまう。邪魅は鬼太郎に命じて店を襲わせたりとやりたい放題。それを見たユメコはショックを受けるが、目玉おやじに事情を聞き、鬼太郎を元に戻すべく不入山にいるというガマ仙人の元へ向かった。一方、それを知った邪魅がユメコを襲うが、間一髪ガマ仙人がそれを救った。

第四十二話 妖怪牛鬼

脚本／星山博之
演出／石田昌久
作画監督／松本朋之
美術／鷲崎 博

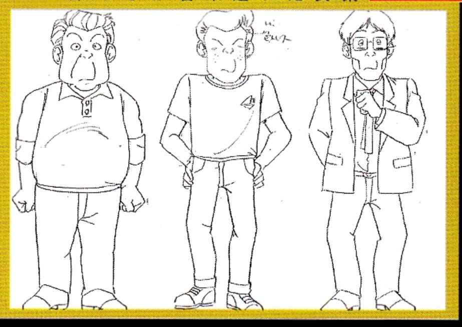


忠吉とサブは立入禁止の場所で釣りをしていた。そこにあった封印の石を忠吉は安易に動かしてしまう。すると、そこから漏れた気体に取り憑かれ、妖怪牛鬼になってしまう忠吉。数日後、同じ立入禁止の場所へと入ったねずみ男は、現れた牛鬼に飲まれてしまう。その報せを聞いてやって来た鬼太郎は、暴れ回る牛鬼を退治してねずみ男を救った。退治した牛鬼は忠吉の姿へと戻っていき、そこから漏れた気体は鬼太郎に取り憑く。今度は鬼太郎が牛鬼へと姿を変え、理性を失い本能のまま暴れ始めてしまった。実は牛鬼の本体は気体であり倒した者へと乗り移って永久に滅びることはないのだ。しかし、子泣きじじいは唯ひとり牛鬼を退治したという迦楼羅様なら、この事態を収拾できるのではないかと提案。村に奉った迦楼羅様に祈る村人たちと目玉おやじたち。そして、その願いを聞き入れて、牛鬼を退治すべく迦楼羅様が降臨した。

妖怪の長寿を望んだある科学者の

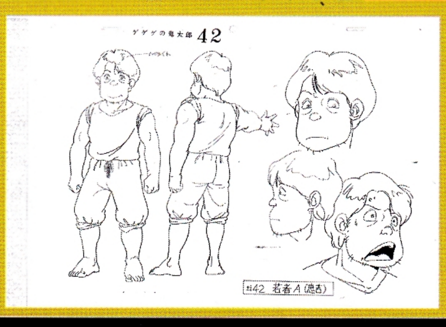
早坂（声・田中亮二）井上（声・平野正人）原（声・広中雅志）

第39話に登場。繁華街で、和服の美女に化粧（？）しただつえばあに騙されて地獄に引きずり込まれてしまう。本来ならば地獄に来た者は妖怪以外二度とは出ることを許されないが、エンマ大王の特別の計らいから帰ることができた。



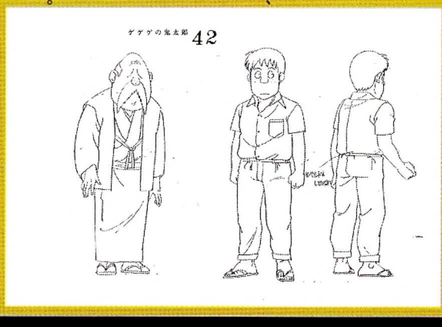
忠吉（声・広中雅志）

第42話に登場。立入禁止の場所に入り、封印石を動かして牛鬼を復活させた張本人。そのため牛鬼に取り憑かれその挙げ句死んでしまった。自業自得とはいえ哀れな男である。



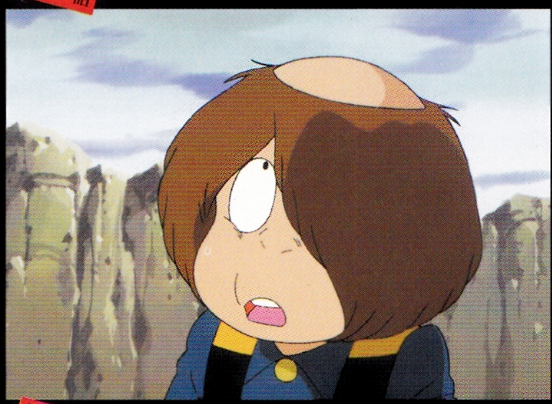
サブ（声・難波圭一）長老（声・宮内幸平）

第42話に登場。サブは立入禁止の区域に入った忠吉の友人で、彼が牛鬼になり、そして死ぬ現場を目撃し恐くなって3日間家に引きこもってしまった。一方、長老は村で唯一神社に奉っていた迦楼羅様のことを憶えていた信心深い老人である。



第四十三話 さら小僧妖怪歌謡大賞

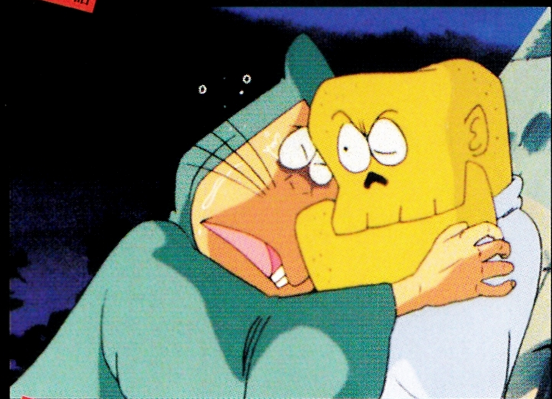
脚本／武上純希
演出／白土 武
作画監督／清水 明
美術／藤田 勉



歌手を辞めようと悩んでいたタケシは、沼で妖怪さら小僧が歌っている姿をたまたま目撃し、この曲はイケるのではないかと直感する。そして、タケシの所属するグループ＝ビンボーブラザーズはさら小僧の曲を「闇夜に気をつけろ」のタイトルで発表してヒット街道を爆進、歌謡大賞の最有力候補に選ばれるほどの好評を得た。しかし、カッパ一族の歌を人間に勝手に歌われたと怒るさら小僧はメンバーのキヨシとヒロシを拉致。歌うことを中止しなければ尻子玉を抜くと脅迫された。だが、タケシには足が不自由な娘・ウタコに言った「人間頑張ればなんでもできる」という言葉を証明するため、是が非でも歌謡大賞を取らなければならない事情があった。それを知った鬼太郎は、なんとかさら小僧に歌うことを許してもらおうとタケシに味方した。そして、さら小僧に捕らわれたメンバーの救出に向かうのだった。

第四十四話 あの世からの使者 死神

脚本／大橋志吉
演出／生頼昭憲
作画監督／松本勝次
美術／鷲崎 博



母の誕生日プレゼントを買うユメコにつき合った帰り、鬼太郎とねずみ男は母のいない自分たちに淋しさを憶えていた。その夜、ひとり淋しく食事を取るねずみ男の前に死神が現れる。自分の仕事に嫌気が差した死神は、鬼太郎を亡き者にしてこの世を自分の自由にするためねずみ男に協力を求めた。嫌がるねずみ男に対して、お前は私の息子だと言って死神は家系図を見せる。それを見てすっかり死神を信用するねずみ男。まず最初に目玉おやじに近づき、これを宇宙へ打ち上げたねずみ男と死神は、今度は鬼太郎を亡き者にすべく彼の母親のにせものを用意した。すっかり自分の母親だと思い込んだ鬼太郎は、毒入りの食事にそうとは知らず手を伸ばす。しかし、にせものの母親も鬼太郎に自分の息子の面影を重ねており鬼太郎を助けるため毒を吸収して白骨化してしまう。にせものとはいえ母を殺され、死神に対する鬼太郎の怒りは頂点に達した。

第四十五話 妖怪花を救え!!

脚本／星山博之
演出／明比正行
作画監督／稲野義信
美術／藤田 勉

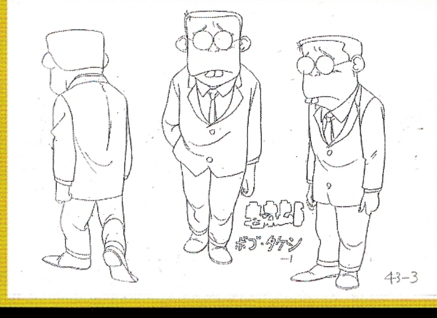


近くに妖怪花が咲いている寂れたホテル。その社長の元にねずみ男が現れ、ホテルの改装を勧めた。改装されクラシックなムードの妖怪ホテルとして生まれ変わり、客の目を引くようになったホテルは急に繁盛し始める。だが、その盛況ぶりに目をつけたぬらりひょんは、ホテルを我がものにせんと社長とねずみ男を拘束。社長に化けてホテルを乗っ取った。さらにぬらりひょんは、妖怪花の咲いている土地も遊技場にすべく工事を開始しようとする。妖怪花は約束を破った社長をなんとかしてもらおうと、鬼太郎に助けを求めた。現場に駆けつけた鬼太郎の前に現れるぬらりひょんの用心棒。一方、鬼太郎に頼まれて社長を捜していた砂かけばあたちは、社長を人質に取られぬらりひょんに捕まってしまう。鬼太郎も、強力な妖力を持った用心棒に苦戦。用心棒が発生させた竜巻の中に閉じ込められ危機に陥っていた。

ねずみ男の厄難は続く……

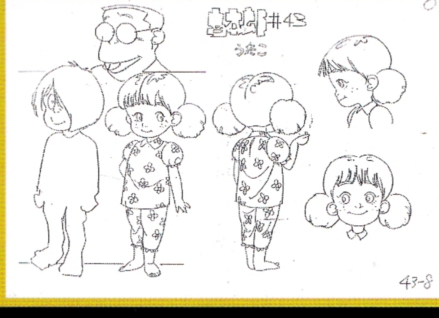
タケシ（声・大竹宏）

第43話に登場。ビンボーブラザーズのリーダー格となって活動するミュージシャン。ヒット曲が出ずに辞めることを考えていたが、さら小僧の歌によって歌謡大賞にノミネートされるまでの人気者になった。



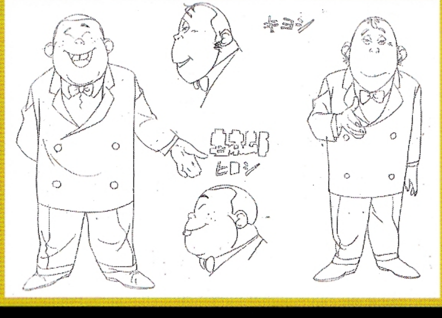
ウタコ（声・鈴木富子）

第43話に登場。タケシの娘。やっとヒット曲を飛ばし「人間頑張ればなんでもできる」というタケシを自慢の父親と思っていた。



キヨシ（声・難波圭一） ヒロシ（声・佐藤正治）

第43話に登場。タケシと共にビンボーブラザーズとして活動していた。タケシの持ち込んだ曲が大ヒットとなり喜んだのも束の間、曲を盗作されて怒ったさら小僧に拉致されてしまった。



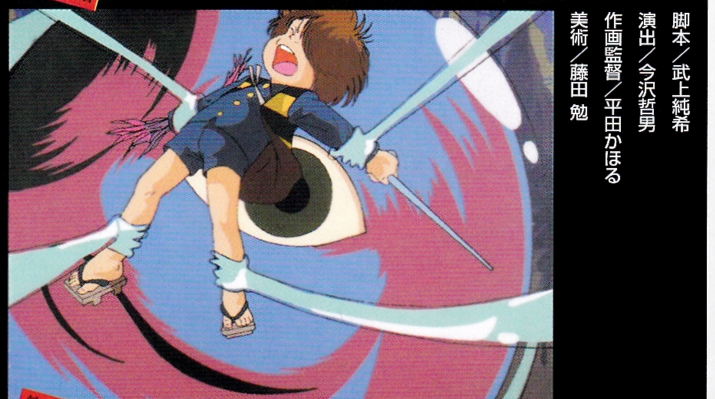
第四十六話 妖怪大統領こうもり猫



脚本／大橋志吉
演出／葛西 治
作画監督／入好さとる
美術／鷲崎 博

アメリカの妖怪大統領選挙で1票しか取れなかったこうもり猫は、掟によって国外追放された。なんとか報復したいこうもり猫は葬頭河婆の知恵を借り、人間の老博士が作り出した玉手箱を手に入れようとした。老博士に玉手箱の処理を頼まれた鬼太郎だったが、不意に現れたこうもり猫に催眠術をかけられ玉手箱を奪われてしまう。鬼太郎は玉手箱を取り返そうと仲間に協力を頼むが、それよりも早く見つけたねずみ男はこうもり猫に取り入りまんまと仲間に。そこへ駆けつけた鬼太郎たちとの争奪戦の中、こうもり猫は玉手箱を使って自分以外を老人に変えてしまう。老化して力が衰えた鬼太郎たちはしかし、老体にムチ打ってあの世までこうもり猫を追いかけた。しかし、いつもの力が出ないため葬頭河婆によって鬼太郎は石化、三途の川へと落とされた。このままでは鬼太郎は砂になってしまう。そこで目玉おやじはエンマ大王に助けを求めた。

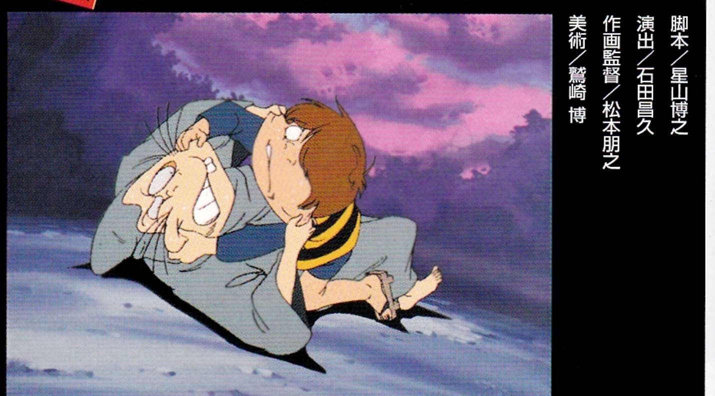
第四十七話 妖怪のびあがりと吸血木



脚本／武上純希
演出／今沢哲男
作画監督／平田かほる
美術／藤田 勉

地震が増えてから人間が赤い木に変わるという事件が起こるようになった山奥の村——。調査を頼まれて現地に到着した鬼太郎たちを妖怪のびあがりが襲った。今回の事件は、自然を破壊する人間を木に変えようと考える妖怪のびあがりの仕業だった。村で恋人の松代を木にされ、自分も木になりたいと考える青年・杉作と会う鬼太郎。この木こそ人間に取り憑き、木に変えてしまう吸血木だった。吸血木を切って金にしようと考えていたねずみ男に、のびあがりは邪魔な鬼太郎を始末させる手助けをさせんと声をかけた。ねずみ男は痺れ薬を入れたお茶を飲ませ、鬼太郎に吸血木の種を植えつけた。体が木に変わってしまう前にのびあがりを倒そうと、棲み処である洞窟に向かう鬼太郎。苦戦しながらものびあがりを退治したと思った瞬間、鬼太郎は木に変わってしまった。そして、木になった鬼太郎をねずみ男のチェーンソーが襲った。

第四十八話 妖怪いやみ



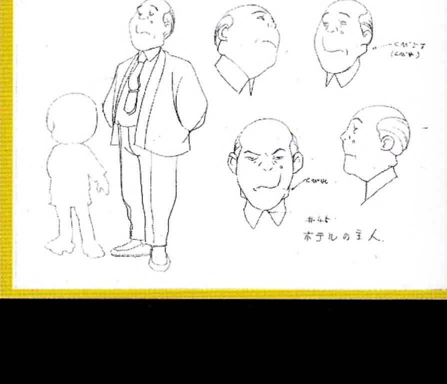
脚本／星山博之
演出／石田昌久
作画監督／松本朋之
美術／鷲崎 博

山道で迷った青年たちは、偶然100年近い眠りについていた妖怪いやみを目覚めさせてしまった。活動を始めたいやみによって町は楽しい気持ちを吸われ、人々もやる気を失っていった。鬼太郎にも少し影響が出てきて、目玉おやじに言われ、慌てていやみを捜すことになる。一方、ねずみ男はいやみからいい気持ちになるイロ気を吸わせてもらって有頂天になり、結婚しようとユメコを誘拐してしまう。それを知って駆けつけた鬼太郎だったが、いやみのイロ気を吸ってしまい、ねずみ男と一緒にユメコに結婚を迫る始末。ユメコの悲鳴を聞いてやって来た目玉おやじたちが止めるのも聞かず、ユメコを奪い合う鬼太郎とねずみ男。強烈なおならでユメコを奪い取るねずみ男はいやみの元へ、一方の鬼太郎はイロ気を洗い流され正気に戻った。再びいやみに戦いを挑む鬼太郎に同じ手は二度も通用せず、いやみはついにその正体を現した。

今度は父親が出現!?

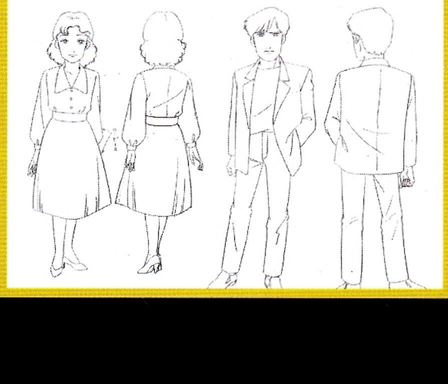
ホテル社長（声・西尾 徳）

第45話に登場。ホテルの経営にあまり熱心でなく、ねずみ男の発案で妖怪ホテルにした途端、繁盛するようになった。妖怪花たちの花園を守る約束をしたり、ねずみ男に経営を任せてもいいと言うなど心優しい人物。



松代（声・潘 恵子）
杉作（声・塩沢兼人）

第47話に登場。一族の都合で結婚を反対された若いカップル。松代が失望して村を出ようとしたときに木になってしまい、杉作はそんな松代を見て自分も木になりたいと考えた。

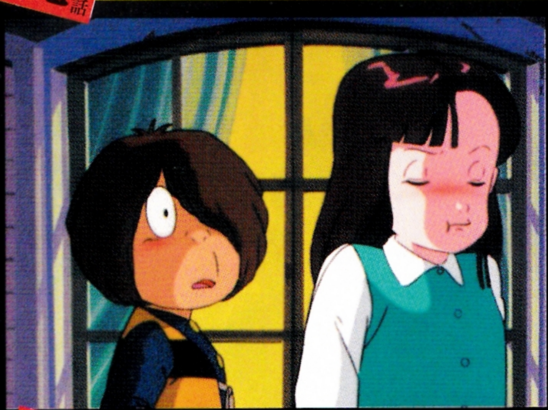


伊集院（声・増岡 弘）

第47話に登場。松代の父。杉作と松代の結婚に反対していたが、松代が無事元の姿に戻ったことで自らの過ちを悟り、二人の結婚を認めることにした。



第四十九話 妖怪殺人事件おんもらき



脚本／武上純希
演出／明比正行
作画監督／山口泰弘
美術／藤田 勉

ねずみ男が引いた電話線のため、うるさくて家にいられなくなった鬼太郎と目玉おやじは、ユメコの叔父がいる伊豆の別荘に遊びに行くことに。ところが破格の値段でとある事件の調査依頼を受けたねずみ男も伊豆に向かっていた。伊豆ではユメコの叔父・伊集院が最近婚約したルリ子を紹介し、夜中に動き出す小さな妖怪に困っているとの相談をしていた。それくらいならと、ねずみ男と事件に挑む目玉おやじ。そして、確かに小さな妖怪らしきものが現れて魔除けのお札を狙ってくるが、不覚にも逃げられてしまう。そんな二人を尻目に鬼太郎とユメコはいいムード。その翌日、密室で死んでいるルリ子が発見され刑事の無茶苦茶な推理で鬼太郎が逮捕されてしまう。しかし鬼太郎には思うところがあり牢屋から抜け出して単身調査に向かった。その頃、死んだはずのルリ子が生き返った。そこへ探偵に変装した鬼太郎が現れ74の質問をルリ子にぶつけた。

第五十話 妖怪海座頭の怒り



脚本／大橋志吉
演出／生頼昭憲
作画監督／清山滋崇
美術／鷲崎 博

瀬戸内海で船が次々に沈むという事故が起きていた。とある島の漁村で、漁師をしている父の乗った船が消息を断ったため息子のアキオは鬼太郎に手紙を書いた。早速調査を始める鬼太郎だったが、瀬戸内海に沈んだ財宝を探していたねずみ男に出会い、協力させられる羽目に。そして、しばらくすると辺りは妖しげな空気に包まれ舟幽霊と巨大ザメが襲って来た。急な攻撃に対処できず、やむなく撤退する鬼太郎たち。しかし、哀れねずみ男は逃げ損なって舟幽霊に沈められてしまう。相手が舟幽霊だと分かった鬼太郎は仲間を呼び、準備を整えて再び瀬戸内海へと船を出した。その頃、課外授業で船に乗っていたアキオたちの前に舟幽霊らが現れた。だが、駆けつけた鬼太郎たちの活躍で巨大ザメは退治され舟幽霊も残らず捕まえることができた。そして、舟幽霊の正体が海座頭によって魂を奪われた人間だったことが判明する。

第五十一話 世界妖怪ラリー



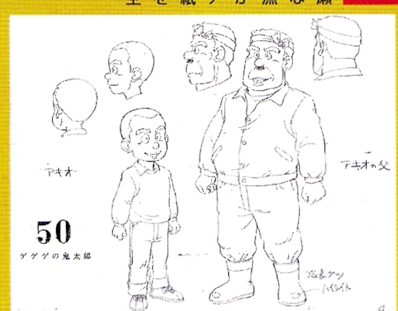
脚本／星山博之
演出／白土 武
作画監督／清水 明
美術／藤田 勉

優勝した妖怪が負けた国の妖怪を支配できるというルールの世界妖怪ラリーが開催。これを利用して、妖怪たちの頂点に立とうと考えたぬらりひょんだったが、手違いで各国の強豪妖怪ばかり招待してしまう。日本に到着して大暴れする外国妖怪たち。そこへ駆けつけた鬼太郎は妖怪ラリーがここ日本で開催されること、ぬらりひょんが逃げ出して自分が日本代表にされたことを知った。この場を収めて日本妖怪を助けるためにも代表として力を尽くすことを誓う鬼太郎。一方、妖怪ラリーの開催を知ったねずみ男は一部始終をビデオカメラに収めて商売しようと一反もめんを中継車にして実況中継を開始した。妖怪たちの支配権がかかっているため、スタート早々荒れ模様で始まる妖怪ラリー。各々妖力を使って相手を蹴散らす展開にリタイヤが続出する。そして最終的にレースは、鬼太郎とバックベアードの一騎討ちとなった。

鬼太郎か、それとも!?

アキオ（声・つかせのりこ）
アキオの父（声・佐藤正治）

第50話に登場。瀬戸内海にある小さな島の漁村で暮らす漁師とその息子。父が行方不明となったアキオは鬼太郎に手紙を書く。課外授業を受けていても上の空だった。



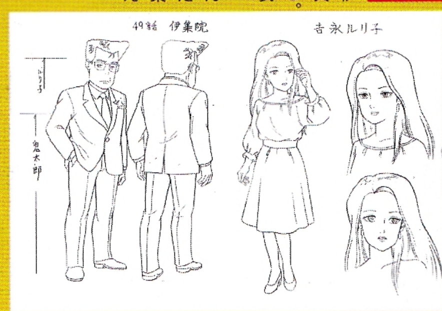
加藤刑事（声・銀河万丈）

第49話に登場。捜査の途中にカミさんの話をするなど、スタイルも『刑事コロンボ』シリーズの主人公コロンボそっくりである。だが、彼自身の推理力はイマイチで、鬼太郎を誤認逮捕してしまった。



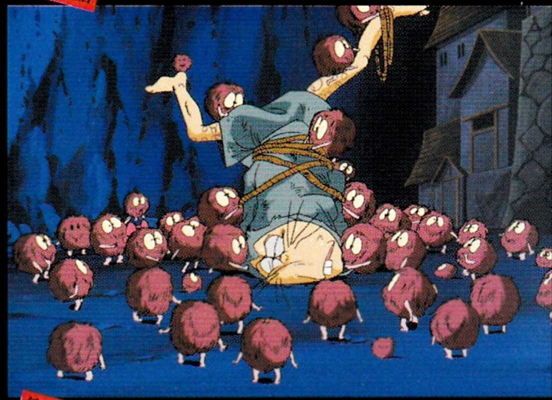
伊集院（声・塩沢兼人）
吉永ルリ子（声・土井美加）

第49話に登場。伊集院はユメコの叔父で伊豆に別荘を持つ。吉永ルリ子という女性と恋仲になるが、実は彼女は妖怪おんもらきが乗り移った姿であり、哀れ伊集院の願いは夢と消えた。



第五十二話 燃えるネズミ男 げた合戦

脚本／武上純希
演出／葛西 治
作画監督／入好さとる
美術／鷲崎 博



ある日、妙な男から招き猫形の貯金箱をもらったねずみ男は訪問販売を始めるが、それをほしがる人間はひとりもいない。すると花子が天然のはちみつと招き猫を交換してくれと言ってきた。これに応じたねずみ男は妖怪たちに招き猫を売りつけようと考える。一方、花子は招き猫にお金の代わりに花びらを入れて貯めようとするが、突然招き猫は怒り出して去って行った。花子はこの話を鬼太郎に相談すると、鬼太郎の家で妖怪たちに締め上げられているねずみ男に引き合わされる。いずれもねずみ男から買った招き猫がお金を入れた途端、姿を消したのだという。身に憶えのないねずみ男だったが、日頃の行いから信用されない。唯一信じる花子の意見を尊重し、自分で身の潔白を証明するよう仲間から申し渡されたねずみ男は、偶然鬼太郎のゲタを盗む招き猫を見つけてその後を追った。一方、すりかえられたゲタを履いた鬼太郎は大変な目に遭っていた。

第五十三話 皿屋敷の妖怪モウリョウ

脚本／大橋志吉
演出／芝田浩樹
作画監督／松本勝次
美術／藤田 勉



夜になると屋敷に出現する幽霊。それを退治するため雇われたねずみ男だったが、あまりの迫力に逃げ出してしまう。今度は鬼太郎に手伝わせようとするが、主人である太一の傲慢ぶりに腹を立てた鬼太郎は怒って帰ろうとする。しかし息子の正太から幽霊の正体は、太一の大事にしていた皿を割ってクビにされ直後に事故で死んだ秘書の町子だと聞かされる。救われない霊となった町子を助けるため、鬼太郎は事件解決を手伝うことに。その夜、鬼太郎は現れた町子の霊を説得するが、霊体のはずの町子には何故か実体があった。翌日、墓を調べてみると町子の死体は何者かによって盗まれていた。その犯人は、この世に未練を残した者の体に乗り移る妖怪モウリョウだった。鬼太郎は化け火の協力で町子の肉体からモウリョウを追い出すことに成功するものの墓場にある亡者の世界に逃げ込まれ苦戦する。

第五十四話 悪魔ベリアル

脚本／武上純希
演出／石田昌久
作画監督／稲野義信
美術／鷲崎 博

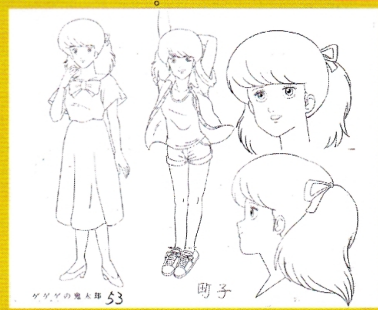


時代は安政元年。ポルトガルから日本を征服しようとやって来た西洋悪魔ベリアル。しかし、日本を守ろうと起ち上がったカラス天狗一族との戦いで、カラス天狗の長老にその魔力を八尺瓊の赤玉に封印されてしまった。それから132年――失った魔力を探していたベリアルは、偶然にもねずみ男がそれを持っていることを知った。八尺瓊の赤玉を破壊して魔力を取り返し、復讐を誓ったベリアルはまずカラス天狗の長老を地下深くへと封印する。一方、砂かけばばあの建てた妖怪アパートの完成式に集まった日本妖怪はベリアルの復活を知った。そしてベリアルの次の目標が妖怪図書館だと知り足止めをする者と、妖怪図書館でベリアルの弱点を調べる者の二手に分かれた。しかし、ベリアルの魔力の前に次々に敗れていく日本妖怪たち。そしてベリアルはついに妖怪図書館までやって来た。弱点が分からぬまま鬼太郎はベリアルに戦いを挑む。

世界妖怪ラリー開催！ 優勝は我らが

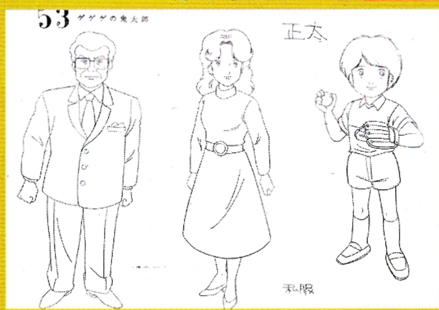
町子（声・土井美加）

第53話に登場。太一の秘書を勤めていた女性。彼が大切にしていた皿を割ったため、クビに。そのショックで外に出たとき交通事故で死亡。夜な夜な幽霊となって現れる。



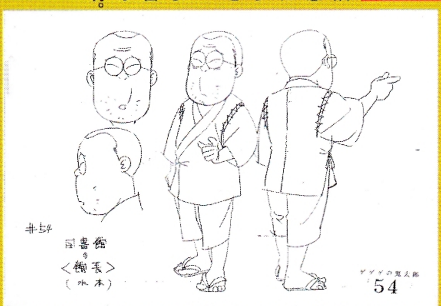
太一（声・佐藤正治） 正子（声・川島千代子） 正太（声・鶴宮恭子）

第53話に登場。太一は皿の収集家で、秘書の町子をクビにした。正子、正太ら兄弟にとっては町子の元気な姿を知っているだけに、その死はショックだった。



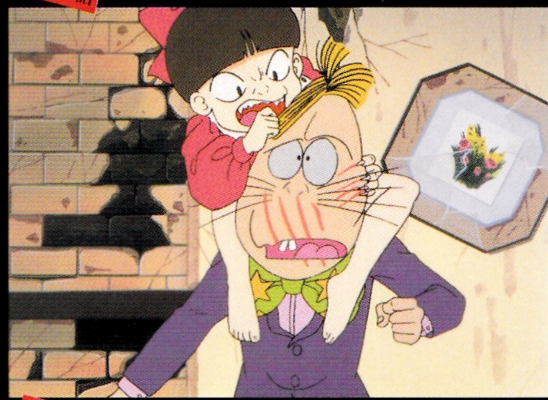
水本（声・屋良有作）

第54話に登場。妖怪図書館の受付。悪魔による日本侵略に備えて、古今東西すべての悪魔のことを記した『悪魔の書』を先祖代々解読しようとしていた。彼自身の正体が人間なのか妖怪なのかは不明。



第五十五話 ㊙指令!!ねずみ男は死刑だ

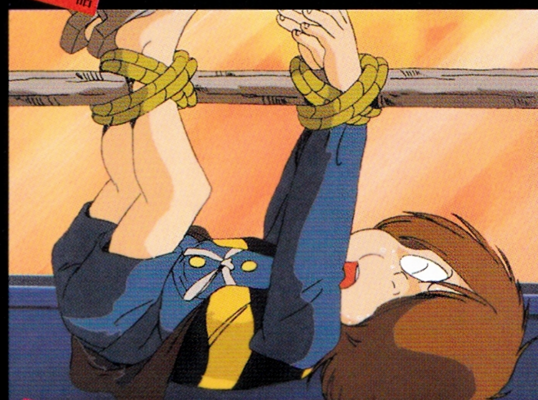
脚本／星山博之
演出／今沢哲男
作画監督／平田かほる
美術／藤田 勉



ねずみ男が罪もないお年寄りたちを騙して、立派な一軒家を手に入れるほどの大金を奪った。だが、その行動はねずみ男の体内にいる三虫によって、エンマ大王の知るところとなっていた。ある日、ついにエンマ大王から鬼太郎へ罪を重ねるねずみ男に死刑執行の役目が命じられる。エンマ大王の命令は絶対だが、鬼太郎はねずみ男がただの悪党ではなく、いい所もあることを知っているため悩む。その姿を見たネコ娘は鬼太郎の気持ちを考えて、ユメコの手を借りてねずみ男をなんとかしようと作戦を立てた。ユメコの手引きでねずみ男の家にお手伝いとして潜り込んだネコ娘は嫌がらせを開始。仲間の妖怪たちを家の中で暴れさせねずみ男に罪を自覚させてお年寄りにお金を返すよう約束させた。しかしこれで一件落着とはいかなかった。エンマ大王の命令を聞かなかった鬼太郎には、相応の罰が与えられることになっていたのだ。

第五十六話 タヌキ軍団日本征服!!＜前編＞

脚本／星山博之
演出／芹川有吾
作画監督／松本朋之
美術／鷲崎 博



かつて日本征服を企み、天海上人に封印された八百八狸一族——。だが人間たちの観光開発によって封印は破れ、自由を取り戻してしまう。そして都心に月のような巨大な物体が現れた。その不意をつかれ、八百八狸に捕らわれた鬼太郎は、同じく捕らわれの身となった首相と共に八百八狸のボスである刑部狸の前に連行された。二人に対して、降伏し日本を八百八狸に渡すよう迫る刑部狸。二体の妖怪獣を持つ八百八狸の戦力を見て、一度従った振りをして窮地を脱しようと考える鬼太郎。刑部狸は30時間の猶予を与えて二人を解放した。鬼太郎は洞窟を封印するが、刑部狸がかけた呪いによって苦しみ始めた。仕方なく封印を外して、仲間にこの場を任せた鬼太郎は現れた妖怪獣・蛟竜と戦い、一時的にこれを退けることに成功する。しかしその間に仲間は捕らわれて人質にされ鬼太郎も再び八百八狸の捕虜となってしまった。

第五十七話 タヌキ軍団日本征服!!＜後編＞

脚本／星山博之
演出／芹川有吾
作画監督／山口泰弘
美術／鷲崎 博



ついに日本政府が八百八狸の前に降伏した。早速、狸城建設のために人間たちが駆り出されすべての公務員は狸の尻尾をつけられて刑部狸の支配下に置かれてしまう。一方、この事態を打開しようとする鬼太郎は、なんとか仲間たちを連れて脱出に成功する。まずは大ナマズを封印しようと富士山の地下にある要石の元に急ぐ鬼太郎。だが、そこにまたしても妖怪獣・蛟竜が現れた。鬼太郎は蛟竜を倒すため、胃液となって蛟竜ごと溶けるという捨て身の技を使う。一反もめんの持つ再生粉末によりかろうじて命を繋いだ鬼太郎は八百八狸の封印を仲間に任せ、国連軍と戦っている大ナマズの元へ急いだ。鬼太郎が大ナマズの脳に侵入し、コントロールしている間に八百八狸を洞窟へと追い込み、封印に成功する鬼太郎ファミリー。再び妖力を失って刑部狸も負けを認める。しかし、大ナマズと共に消えた鬼太郎の消息はいまだ不明のままだった……。

鬼太郎絶体絶命!

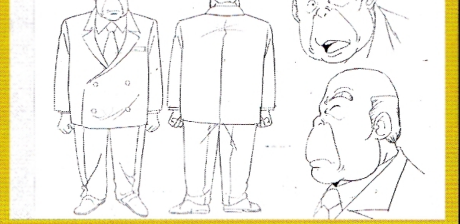
老人たち
（声・田中康郎 他）

第55話に登場。ねずみ男に騙された被害者たち。自分たちの過去の過ちや健康面の不安をねずみ男に巧みに利用され、老後の貯蓄でインチキ薬を買ってしまった。しかし鬼太郎の活躍により騙し取られたお金は返金された。



首相
（声・飯塚昭三）

第56、57話に登場。日本国の首相。当初は狸の侵略をバカにしていたが、その力を認めない訳にはいかず、日本の主権を狸たちに渡し無益な争いを避けた。密かに外国へ救援の連絡を取るなど優秀な政治家ぶりを見せる。



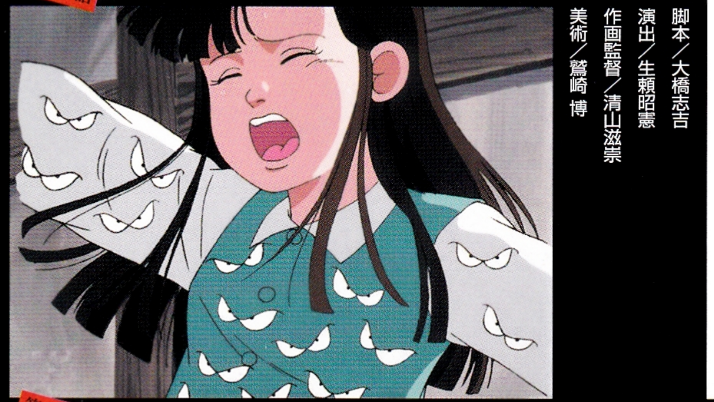
閣僚
（声・塩屋浩三、島田敏）

第56、57話に登場。総理に付き従う腹心の政治家。八百八狸の侵攻に対しての意見を進言したが、総理からバカにされる。日本を征服された後はコントロール用の尻尾を付けられ自由を制限された。トラブルに弱い無能な政治家。



第五十八話 妖怪城の目目連

脚本／大橋志吉
演出／生頼昭憲
作画監督／清山滋崇
美術／鷲崎 博



ぬらりひょんは鬼太郎を抹殺しようと次の罠を仕掛けた。下校途中のユメコの前に朱の盤が現れユメコを怪しげな家へと誘う。そこには目目連がいてユメコを妖怪城に連れ去ってしまった。星郎からユメコが妖怪にさらわれたことを聞いた鬼太郎は、呼び出された場所へと向かう。そこには妖怪城があり、ぬらりひょんが現れ鬼太郎を挑発する。鬼太郎はユメコを救出すべく妖怪城へ乗り込むが、妖怪城に取り憑いていた目目連が攻撃してきた。鬼太郎は苦戦の連続、ついに体を石に変えられてしまう。鬼太郎は目玉おやじの力で霊体だけ脱出。態勢を整えるため一時後退する。一方、ユメコの優しさに惹かれた朱の盤は二人で妖怪城からの脱出を図っていたが目目連に見つかってしまう。二人のピンチに駆けつけたのは鬼太郎だった。そして、鬼太郎の手には目目連の弱点である光を集めるための手鏡が握られていた。

第五十九話 宵待ち草の後神

脚本／大橋志吉
演出／白土 武
作画監督／清水 明
美術／鷲崎 博



ねずみ男は縁日で花を売る女性に心惹かれる。だが彼女は、緑色の三角屋根の花屋にしか花を売らないと言う。嘘をついてまで彼女の持つサボテンを買ったものの、その日からねずみ男の姿は忽然と消えてしまった。後日、縁日ではやはり花を売る女性の姿が。そして今度はユメコの友達のカオリが彼女の花をほしがる。カオリの家は花屋で緑色の三角屋根だと話すと、女性はねずみ男が買ったものと同じサボテンを渡した。そして翌日からカオリが学校に来なくなった。おかしいと思ったユメコがカオリの家を訪ねると不気味な空気が漂っていた。ユメコは鬼太郎を連れて再びカオリの家に行くと、今度は縁日にいた女性が店番をしている。そこで裏から忍び込むが、鬼太郎とユメコは妖怪サボテンに飲み込まれてしまった。そして女性の正体が妖怪・後神だと気付いた目玉おやじは脱出して仲間を呼ぶ。一方、飲み込まれた妖怪サボテンの中で鬼太郎は野上一家とねずみ男に出会った。

第六十話 巨人妖怪ダイダラボッチ

脚本／星山博之
演出／石田昌久
作画監督／松本勝次
美術／藤田 勉



金鉱を探すねずみ男は深夜に怪しい集団を見かけた。こっそり後をつけてみると一団が巨大な鍵を地面に刺し込み、巨大な目玉を復活させたのを目撃する。翌日のニュースでは、他に巨大な鼻のようなものも現れたことを報じていた。これを聞いた目玉おやじは、ダイダラボッチの復活を危惧していた。そこで、鬼太郎が一反もめんと共に調査に向かうことに。妖気を感じて洞窟を探索する鬼太郎の前にねずみ男が現れた。日本の地形に詳しいダイダラボッチに聞けば、金鉱の在処も分かると思ったねずみ男は、ダイダラボッチ復活を願うダイダラボッチ教に入信したのだ。そこでねずみ男は復活を邪魔する鬼太郎をまんまと始末した。一方、ダイダラボッチは頭脳以外が復活を果たして合体し、その巨体で町を破壊していた。当初の予定と異なった行動に驚く教徒たちを前にして、ダイダラボッチで文明を破壊しようと考えていたぬらりひょんの野望が露見した。

日本征服に乗り出したのはタヌキ!?

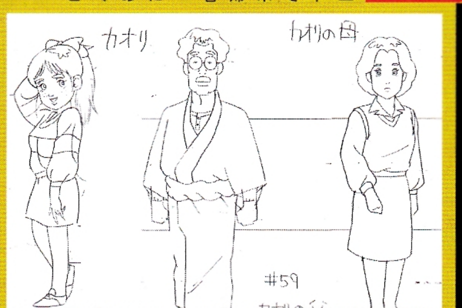
警官
（声・平野正人他）

第56、57話に登場。自衛隊に代わって妖怪獣・蛟竜に立ち向かうなど活躍を見せるが、日本を征服され他の公務員同様コントロール用の尻尾を付けられてしまう。しかし刑部狸の支配から解き放たれた後は果敢に狸たちに戦いを挑んでいた。



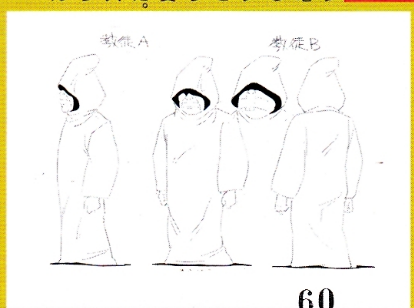
野上カオリ（声・荘真由美）
父（声・屋良有作）
母（声・川島千代子）

第59話に登場。ユメコのクラスメイトのカオリは、縁日で見た後神の妖怪サボテンを家に持って帰ったことで事件に巻き込まれることに。だが、後神の境遇に同情するところがあったため、しばらくその身を引き取ることに。

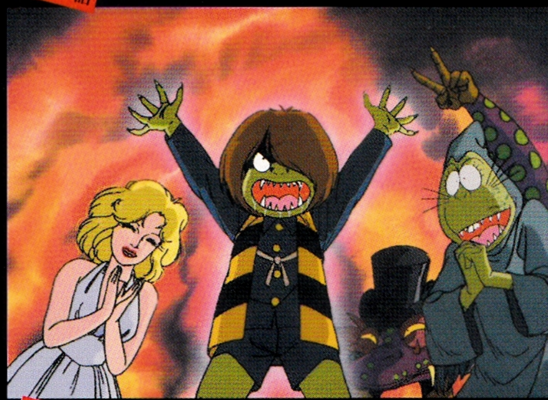


ダイダラボッチ教信者
（声・矢田耕司、佐藤正治他）

第60話に登場。ダイダラボッチを大地の神様として信仰している人々。ダイダラボッチを復活させて、大地を昔のように緑溢れる世界に変えようと考えていた。だがその行動を、人間社会を破壊しようとしたぬらりひょんに利用される。



第六十一話 まぼろしの汽車



脚本／大橋志吉
演出／葛西 治
作画監督／松本朋之
美術／鷲崎 博

古ぼけた洋館で金目のものを探すねずみ男の前に現れた美女モンローは、大切なものが入っていると告げ地下室にある棺桶の蓋を開けさせる。そこで眠っていた吸血鬼ピーに血を吸われ、吸血鬼となるねずみ男。そして山奥の村でねずみ男が子供の血を吸い、血を吸われた子供が今度は老人の血を――この繰り返しで村は吸血鬼だらけとなってしまう。唯ひとり難を逃れた淳一は鬼太郎に助けを求めた。村へ到着した鬼太郎は村人たちの動きを止めようと妖怪鐘を鳴らし続ける。しかしピーには効かなかったため、油断したところ鐘を落とされた鬼太郎は蒸し焼きにされてしまった。目玉おやじは鬼太郎を救おうとエンマ大王の元へ向かった。一方、モンローは医者に化けて仮死状態の鬼太郎を連れて行くと、ピーの力で吸血鬼にしてしまった。吸血鬼となって仲間の妖怪を襲う鬼太郎。この危機に目玉おやじがまぼろしの汽車に乗って駆けつけた。

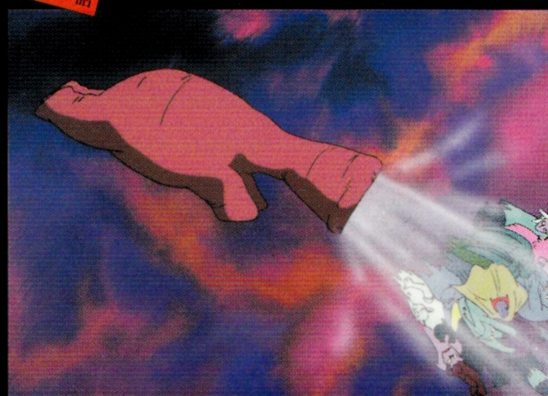
第六十二話 妖怪火車逆モチ殺し!!



脚本／武上純希
演出／明比正行
作画監督／松本朋之
美術／藤田 勉

母の遺体を運ぶ途中、妖怪・火車に遺体を奪われてしまった幸吉は、母の遺体を取り返すため鬼太郎に助けを求めた。引き受けようとする鬼太郎を、目玉おやじは火車の妖力に不明なところが多いと止める。だが、母と子の情を大切に思う鬼太郎は言うことを聞かず、単身火車に挑んでいった。しばらくすると火車から遺体を取り返して幸吉の元へ現れた鬼太郎は何故か報酬を求め、お墓を作るためのお金を持っていってしまう。そして鬼太郎は金をチラつかせてねずみ男に夜の盛り場を案内させ暴力団とトラブルを起こし、力でねじ伏せて鬼太郎組を結成する。その噂を聞いて駆けつけた目玉おやじと一反もめんらは、容赦ない鬼太郎の攻撃に倒されてしまう。異変を知った砂かけばばあが妖怪玉で鬼太郎を探ってみると、その魂は火車のものだった。慌てて火車の体を捜すと、そこには鬼太郎の魂が入っていた。

第六十三話 悪魔ブエルとヤカンズル



脚本／星山博之
演出／今沢哲男
作画監督／平田かほる
美術／鷲崎 博

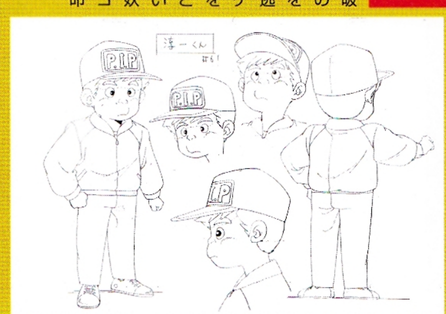
腕の治療をしたが自分の意思と関係なく動き、職を失うなどの被害に遭った人たちが続出した。それは医者に化けた悪魔ブエルの企みだった。希望を失くした人間を悪魔に変えて、自分のための悪魔軍団を作ろうというのだ。ブエルに腕を治療してもらって以来、失敗を続けてきた銀太は自分の腕を切り落とさんとしたところを鬼太郎に止められる。事情を聞いた鬼太郎がブエルの元へ向かうと、そこにはブエルにこき使われるねずみ男の姿もあった。ブエルは今まで悪魔にした人間たちを呼び出し、鬼太郎を襲わせた。圧倒的な数で攻められて危機の鬼太郎は、砂かけばばあにヤカンズルを連れて来てもらうようねずみ男に伝言を頼む。現れたヤカンズルによって悪魔は残らず吸い込まれてしまった。鬼太郎がホッとしたのも束の間、ものが溢れている現代社会では判断がつかずに目の前のものをすべて吸い込もうとヤカンズルが暴走を始めた。

拾壱之盤

未知の敵に立ち向かう鬼太郎

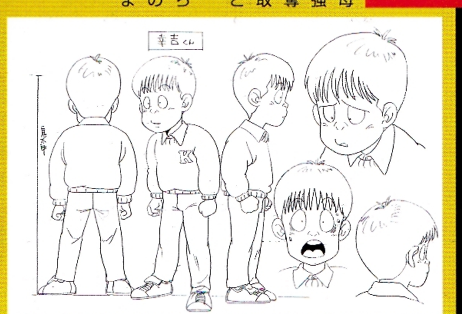
淳一（声・中野聖子）

第61話に登場。吸血鬼に襲われた村の少年。たまたま村を離れていたため難を逃れ、鬼太郎のいるゲゲゲの森へと助けを求めた。コウモリと同じく超音波に弱い吸血鬼に対抗して妖怪鐘を鬼太郎、ネコ娘と交代で夜通し叩いていた。



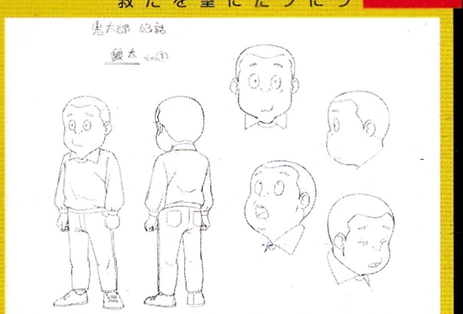
幸吉（声・上村典子）

第62話に登場。母への愛情が人一倍強い少年で、火車に奪われた母の遺体を取り返してもらおうと鬼太郎に相談した。火車に体を乗っ取られた鬼太郎にお墓の資金を奪われてしまう。



銀太（声・堀川亮）

第63話に登場。ラーメン屋で真面目に働いていた青年。ブエルの治療を受けたため腕が思うように動かなくなって希望を失い、自分の腕を切り落とそうとしたところを鬼太郎に救われた。



第六十四話　妖怪穴ぐら入道

脚本／大橋志吉
演出／芹川有吾
作画監督／柳瀬譲二
美術／藤田 勉



妖怪を捕まえて見世物にしようと考えている会社社長の野上は、社員たちを妖怪が現れたという洞窟に派遣した。だが、現れた妖怪・穴ぐら入道を見て逃げ出す社員たち。ただひとり逃げ遅れたミナコは穴ぐら入道の優しい面を見た。どうしても穴ぐら入道を連れて帰ろうとする社員たちは、ねずみ男の悪知恵で暗くて冷たいところが好きな穴ぐら入道を冷蔵庫に押し込めることに成功。そしてテレビ局へと連れて来られた穴ぐら入道だったが、ライトの明るさに驚いて地下鉄へと逃げ込んだ。鬼太郎もミナコに案内され地下鉄へと急いだが、治安のために警官隊も出動していた。密かに忍び込んだ野上も社員に麻酔銃を持たせて穴ぐら入道を捕まえようとしたものの、それをきっかけに穴ぐら入道の怒りは頂点に達し、大グモを呼んで暴れ始めてしまう。罪の意識を感じたミナコは、穴ぐら入道を狙う銃弾の中に飛び込んで行った。

第六十五話　妖怪・百目・地獄流し

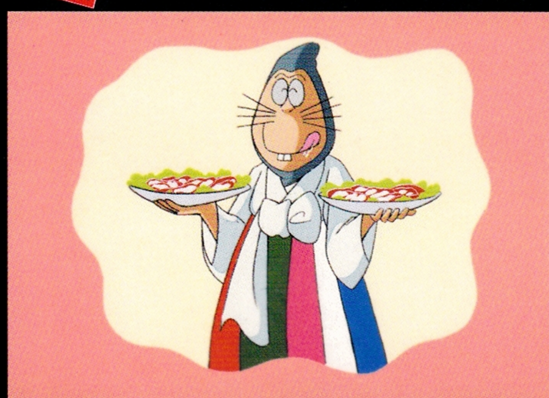
脚本／武上純希
演出／生頼昭憲
作画監督／山口泰弘
美術／鷲崎 博



凶悪犯が脱獄し、その後足取りがプッツリと途絶えるという事件が続発。警察から妖怪の仕業ではないかということで、鬼太郎に事件解決の依頼がきた。鬼太郎は老人に変装して凶悪犯の多勢いる刑務所へ潜入。そこで熊虎という男と知り合う。熊虎は何者かと連絡を取って脱獄を計画しているらしい。ある日、移動中に何者かに襲われる囚人たち。この機会に脱獄を謀る熊虎だったが、手錠で繋がれていたため鬼太郎も連れて行くことに。一方、この事件の黒幕である妖怪を待ち伏せしていた子泣きじじいたちは、現れた妖怪・百目を捕まえようとするが返り討ちに遭ってしまった。逃亡中、自分を助けてくれた鬼太郎を信用した熊虎は、警察の手が届かないところがあると言って百目神社に向かった。そこに現れた百目は二人を地獄へと連れて行く。百目の真の目的は50人もの犯罪者の目と体を使って、自分のコピーを誕生させることにあった。

第六十六話　韓国妖怪ぬっぺらぼう

脚本／大橋志吉
演出／山寺昭夫
作画監督／清水 明
美術／藤田 勉

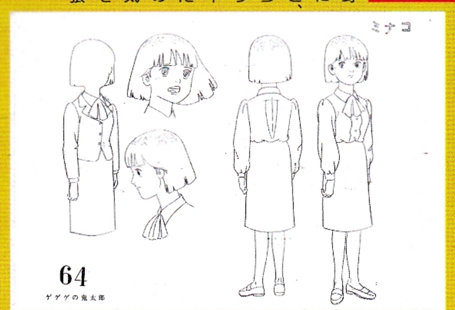


ある夜、鬼太郎の元に韓国からひとりの子供が助けを求めてきた。その子供・トラジの話では村の人々の半数が若さを吸い取られて困っているという。そう語るトラジの顔も老人のものだった。妖怪に国境はないと、韓国にあるトラジの村へ向かう鬼太郎たち。村では妖怪をアリラン様と呼んで敬い、逆らえば魔法を使われるため若さを吸い取られても諦めないといけない風習があった。だが、今回は嫁入り直前のトラジの姉がいるためそうはいかない。早速調査を始めた鬼太郎の前に、魔除けの巨大像が襲ってきた。鬼太郎は態勢を整えようと撤退するが、いつの間にか巨大像の姿はなく代わりに姿の見えない巨大な何かが村に向かっていた。そして村は見えない巨人によって滅茶苦茶に破壊されてしまう。再び現れた巨大像を前に、今度こそはと立ち向かう鬼太郎だったが、アリランの魔力により若さを吸い取られてしまった。

悪魔、韓国妖怪、火車——

ミナコ（声・鶴ひろみ）

第64話に登場。野上は妖怪を見世物にして大儲けしようと、社員に命じて穴ぐら入道を捕獲させようとしていた。その中に加わったミナコだったが、自分たちの間違いにいち早く気づき、穴ぐら入道を救おうと懸命に頑張っていた。



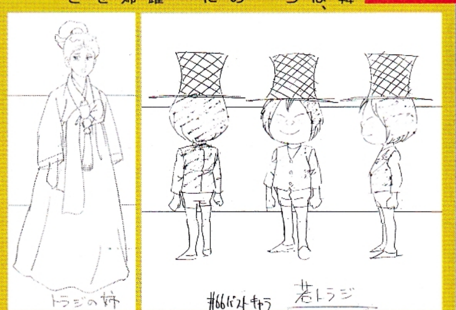
熊虎（声・飯塚昭三）

第65話に登場。刑務所にいた凶悪犯。百目の計画に乗って脱獄を謀るが、逃亡中に鬼太郎とのふれあいで人間らしい部分を少し取り戻したようだ。根っからの悪人ではないようで、老人に変装した鬼太郎には優しく接していた。



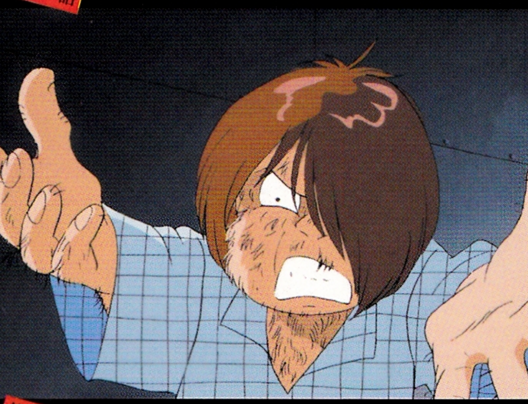
トラジ（声・杉山佳寿子）
姉（声・三浦英子）

第66話に登場。韓国の少年・トラジは、嫁入りを控えながら若さを吸い取られ、泣き崩れる姉のため日本にいる鬼太郎に救いを求めてきた。最後は鬼太郎の活躍により、トラジも姉も村の人々も若さを取り戻すことができた。



第六十七話 密林の大海獣

脚本／星山博之
演出／葛西 治
作画監督／稲野義信
美術／鷲崎 博

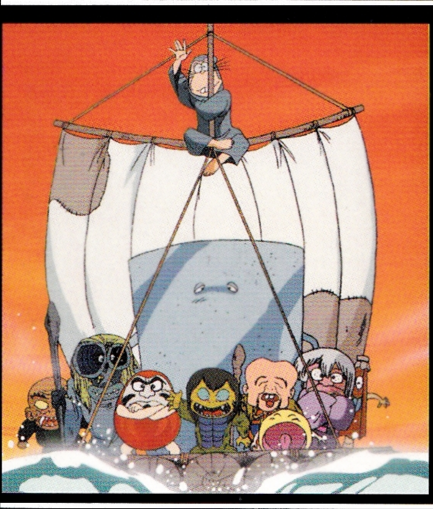


ニューギニアの奥地で絶滅したはずの大海獣・ゼオクロノドンが発見されたことに驚く研究室。そこでこの生物の秘密を解き明かそうと調査団が派遣されることになった。その中には鬼太郎の姿もあった。現地に到着した調査団は二手に分かれた。鬼太郎と山田は足跡を追い、教授たちは密林へと入った。そして大海獣を発見した教授たちは血液の採取に成功するが、怒った大海獣によって全滅してしまう。現場に駆けつけた鬼太郎は教授から大海獣の血液を預かるが、毒蛇に襲われた山田の代わりに噛まれて倒れてしまう。鬼太郎さえ死んでしまえばすべての栄光は自分のものになると思った山田は、救助された船の中で大海獣の血液を鬼太郎に注射する。体の変化を訴えながらも力尽きて海へ落ちる鬼太郎。そして山田は唯ひとりの帰還者として喝采を浴びた。その数日後、日本に大海獣が上陸した。それは変わり果てた鬼太郎の姿だった。

第六十八話 大海獣怒りの逆襲

脚本／星山博之
演出／葛西 治
作画監督／入好さとる
美術／鷲崎 博

大海獣の姿になって言葉が通じないため、目玉おやじにすら自分だと理解してもらえない鬼太郎は、山田が受け取らなかった啓子のお守りを手に持ち、静かにたたずんでいた。それに気づいた啓子は山田を問い詰め、大海獣が鬼太郎ではないかと直感する。一方、目玉おやじも、何もせずにおとなしくしている大海獣を見て、もしや鬼太郎では……と考え始めていた。そこで自衛隊の大海獣攻撃を妨害して大海獣に接触した妖怪たちは、大海獣が鬼太郎であることを確認した。だが、人間たちに大海獣の正体が鬼太郎だとバレてしまうことを恐れた山田は、興奮弾を打ち込んで大海獣を暴れさせた。我を忘れた大海獣を自衛隊の攻撃から守る妖怪たち。そして、山田の使ったライフル銃という動かぬ証拠を突きつけるねずみ男と目玉おやじ。ようやく勘念した山田は罪滅ぼしのために、鬼太郎を元の姿に戻すための薬の研究を開始した。



第六十九話 妖怪風の又三郎

脚本／武上純希
演出／明比正行
作画監督／清山滋崇
美術／内川文広



道路を作るため、峠の自然を破壊する建設車――。それを止めさせようと又三郎は幼い少女・風子をさらった。しかし風子は自然の好きな少女で、又三郎もすぐに心を許して季節風の妖精が集まる風の谷に案内する。道路が出来ると自然が汚れて、この谷に妖精たちが集まれなくなってしまうと言う又三郎に、自分も工事の中止を賛成すると答える風子。一方、風子の両親は誘拐された娘を救ってもらおうと鬼太郎に助けを求めていた。そして、再び現れた又三郎に戦いを挑む鬼太郎。その攻撃で深手を負った又三郎は、風子の案内で医者に診てもらうことに。だが医者は鬼太郎の変装で、話し合いで解決しようとするが正体がバレた挙げ句、又三郎に逃げられてしまう。そして工事中止を諦めて次の目的地へと旅立とうとする又三郎に、風子は一緒について行きたいと告げる。そこへ鬼太郎たちが駆けつけ、風子に両親が心配していることを伝えた。

果たしてその運命は？

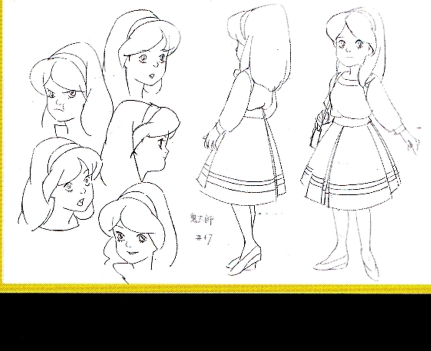
山田（声・塩屋 翼）

第67、68話に登場。大学院生の山田は大海獣の調査隊に同行し、英雄になろうと考えている野心家。徹底した科学信奉主義者で妹の啓子が渡そうとしたお守りも頑として受け取らなかった。



啓子（声・土井美加）

第67、68話に登場。山田の妹で看護婦をしている。兄とは違い、優しい心の持ち主で、旅に出る兄にお守りを渡そうとした。そのお守りを鬼太郎に託した結果、鬼太郎が大海獣となったことを見抜いたのだ。



風子（声・渡辺菜生子）風子の父（声・佐藤正治）母（声・多岐川まり子）

第69話に登場。自然をこよなく愛する少女・風子は、自分を誘拐したはずの又三郎と意気投合して自然を破壊する道路工事の中止を願う。そして又三郎と共に旅立とうと考えるが、母親の愛情が風子の心を引き戻した。



第七十話 鏡地獄！妖怪うんがい鏡

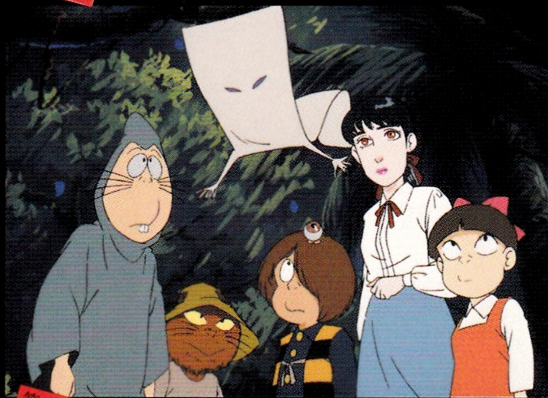
脚本／武上純希
演出／芹川有吾
作画監督／松本勝次
美術／藤田 勉



ある日のこと、ねずみ男が大きな鏡を持って鬼太郎の家に訪ねて来た。その鏡にはひとりの少女が閉じ込められていた。仲間の妖怪たちの力を借りて、鏡の中から少女を救い出す鬼太郎。そしてその少女・クモコの話を聞くと、事件の犯人は鏡じじいだという。すぐさま鏡じじいのいる古道具屋の鏡へ向かった鬼太郎たちは、鏡じじいの弁解も聞かず封印してしまう。その強引なやり方にユメコは疑問を感じる。一方、鬼太郎たちは救ってもらったお礼にとクモコの家に招待される。霧が深い道を進んで洋館へと入る鬼太郎たち――そこは鏡の世界だった。実はクモコの正体は鏡一族のうんがい鏡であり、自分の弱点を知る鏡じじいを始末するために鬼太郎を利用したのだ。鏡の世界に閉じ込められ、脱出不可能のまま衰弱していくのを待つばかりの鬼太郎たちを救ったのは、鏡じじいを信じて出雲大社から照魔鏡を持ち帰るユメコだった。

第七十一話 妖花の森のがしゃどくろ

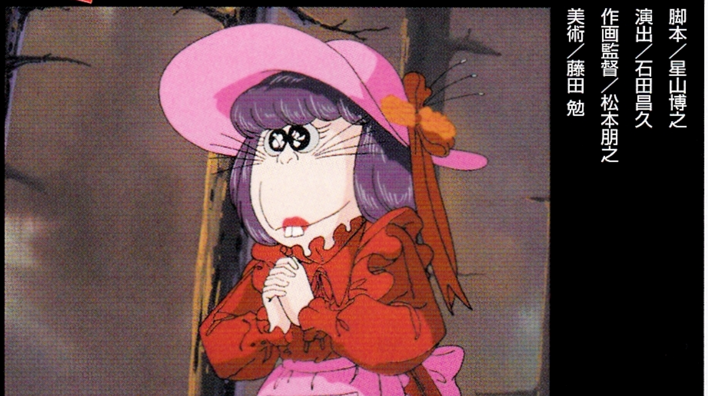
脚脚本／大橋志吉
演出／岡崎 稔
作画監督／平田かほる
美術／鷲崎 博



最近変な夢を見るようになった華子の住むアパートに、奇妙な花が一夜にして咲き乱れた。切ってもすぐ元通りになるその花の正体は妖花だった。本体の木がある限り咲き続けるこの妖花の目的を探るべく、本体の木がある南へと向かう鬼太郎。妖花が気になる華子もそれに同行する。かわうその持つ巨大はまぐりの船で出発した鬼太郎たちは、赤道手前で妖花と同様の妖気を感じる島を発見する。だが、突然のハリケーンや巨大ダコの襲来など苦難は続く――。やっとの思いでたどり着いた島の密林を抜け、目標の妖花の木を前にする一行。だが、調べてもなんの異常も見当たらない。そのとき華子の耳に、この木の下を掘れという声が聞こえた。掘ってみると骸骨に混ざって日本兵の遺品が出てきた。遺品の名前を見ると華子の叔父の名が刻まれていた。そこへ鬼太郎たちを墓荒らしだと思い込んだ墓の番人・がしゃどくろが襲って来た。

第七十二話 ケ・け・毛！ 妖怪大髪様

脚本／星山博之
演出／石田昌久
作画監督／松本朋之
美術／藤田 勉



若者がいなくなり徐々に寂れてきた島で、突如二人の漁師の髪が一本残らず消えてしまうという事件が起こった。それはこの島を守ってきた髪様の仕業だった。最近、お供えものを忘れ自分をないがしろにしてきた島民への怒りの表れだった。この怒りを鎮めるために少女の生け贄を要求する髪様。村長たちが悩んでいるところにお宝目当てでこの島に来たねずみ男が現れる。島民たちはねずみ男を生け贄に捧げるが、髪様の怒りは増すばかり。ついに島民たち全員の髪が奪われた。その頃生け贄に指名されていた少女・花子を助けるため鬼太郎とネコ娘が島に到着したが、既に島では奪われた島民たちの髪が暴れて大事に至っていた。そしてネコ娘の髪も奪われ、鬼太郎も一時撤退を余儀なくされる。こうなれば花子を生け贄として渡すしかないという島民の言葉にネコ娘も奮起。身代わりとなって髪様の元に向かった。

古代海獣に変わり果てた我らが鬼太郎!?

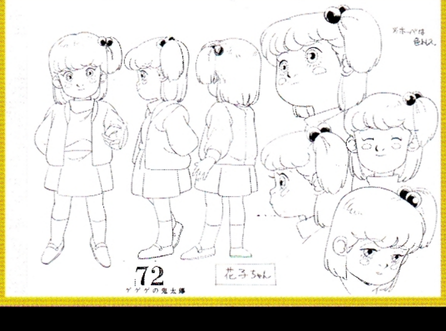
村長（声・大竹宏）

第72話に登場。花子の住む島の村長。髪様へのお供えを忘れたため生け贄として少女を要求されるが、島にいる少女は花子ひとり。身寄りのない彼女の身の上を不憫に思い、困惑するが……。



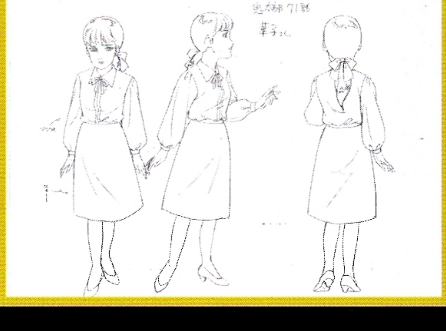
花子（声・荘真由美）

第72話に登場。島民たちにお供えを忘れられたため、怒った髪様への生け贄にされそうになった、身寄りのない少女。生け贄になることを決心したが、世話をしていたカラスが鬼太郎へ助けを求めた。



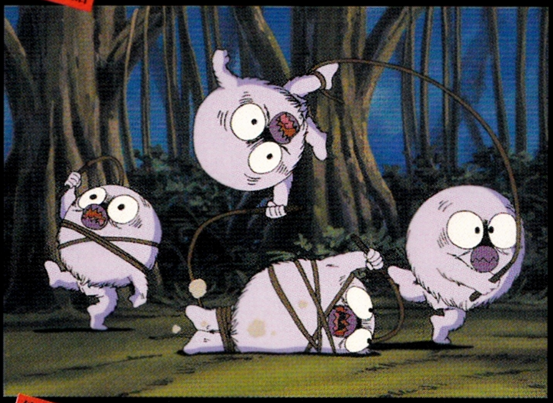
華子（声・山本百合子）

第71話に登場。アパートでひとり暮らしをしていたが、妖花が咲き乱れたことから大家とトラブルになってしまう。実は妖花は、戦地で死んだ彼女の叔父が誰も会いに来てくれない淋しさから送ったメッセージだった。



第七十三話　シーサー登場!!沖縄大決戦

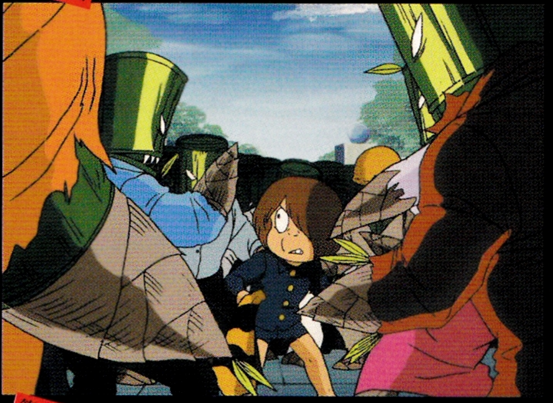
脚本／武上純希
演出／生頼昭憲
作画監督／山口泰弘
美術／鷲崎 博



畑を荒らし回る巨大な鎧武者集団に沖縄の妖怪キジムナーたちもほとほと困り果て、手助けしてもらおうと鬼太郎の元へとやって来た。話を聞いた鬼太郎はクジラに乗って沖縄に向かった。到着早々、沖縄を守っていた妖怪シーサーが鬼太郎に挑戦してきた。気乗りしないが止むを得ず挑戦を受ける鬼太郎。その力の差に、シーサーは鬼太郎を先生と一方的に慕い始める。そしてキジムナーの村に着いた鬼太郎は、キジムナーたちに鎧武者対策として武器の作り方や道具の使い方を指導する。それを見るシーサーは羨ましくて仕方がない。そんなシーサーに、ねずみ男は鬼太郎に話をつけてやるからと言って沖縄の観光案内をさせた。しかし、何者かに砂の中へと引きずり込まれる。時を同じくして鎧武者とキジムナーとの戦いが始まった。鎧武者が何者かに糸で操られていることに気づいた鬼太郎糸を引いていたのは妖怪大百足だった。

第七十四話　妖怪万年竹

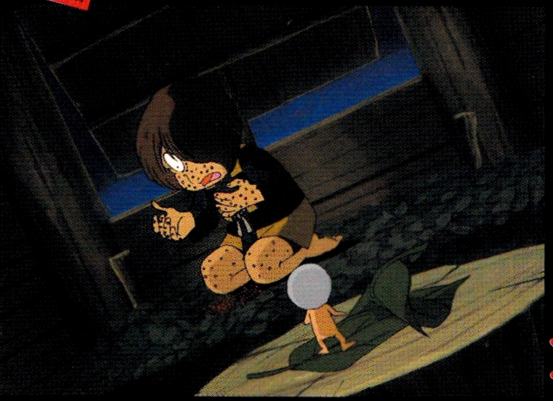
脚本／星山博之
演出／白土 武
作画監督／清水 明
美術／藤田 勉



金林という男が竹林を潰してビルを建てようとした。その竹林でアルバイトをしたねずみ男は帰り道で偶然シーサーに出会う。聞けば鬼太郎に弟子入りするため沖縄から上京したのだという。そのシーサーの眼前で竹人間に襲われ、竹人間にされてしまうねずみ男。シーサーは急いで鬼太郎の元へ向かい事情を説明した。鬼太郎が竹林に駆けつけるが、建設予定地に人はなく、そこにいた人たちは全員竹人間と化していた。この事件が万年竹の仕業ではないかと考えた鬼太郎らは竹林の持ち主である金林の元に向かうが、彼も竹人間にされていた。そこで万年竹の場所まで金林の家のお手伝いさんに案内してもらう鬼太郎たち。しかしそこには罠が仕掛けられていて、子泣きじじいと砂かけばばあまでもが竹人間にされてしまった。鬼太郎は一反もめんに頼んでかまいたちを連れて来てもらい、危機を脱すると再び金林の家へ向かった。意外にも、あのお手伝いさんが万年竹の本体だったのだ。

第七十五話　妖怪小豆連合軍

脚本／大橋志吉
演出／芝田浩樹
作画監督／稲野義信
美術／鷲崎 博

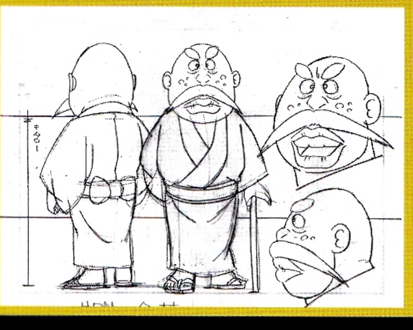


人間が作ったダムのために畑が枯れてしまい小豆ばばあ、小豆はかり、小豆あらいの小豆連合軍は困り果てていた。しかも小豆の神様から収穫を出すよう迫られており一計を案じた小豆連合軍はねずみ男に自分たちの作った小豆を入れた食べものを無料配布させ人間たちに食べさせた。夜中、太鼓の音に反応し、小豆を食べた人の栄養を吸収して小豆が顔からこぼれて落ちていく。小豆連合軍はそれを回収して貢ぎものにしようと考える。この事件を妖怪の仕業と見抜いた鬼太郎が調査に向かった。しかし小豆のとぎ汁をかけられ、小豆連合軍の逃走を許してしまう。その夜、鬼太郎もまた小豆に栄養を吸われて苦しむものの、小豆連合軍のいる秩父の山奥へと急いだ。小豆連合軍も本気の鬼太郎たちにかなうはずもなく降参し、事情を話すとそこに再び小豆の神様が現れた。だが目玉おやじは小豆の神様などではなく、その正体が畑怨霊だと見抜いた。

シーサー登場!

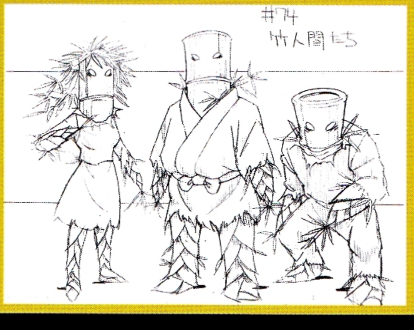
金林（声・大竹宏）

第74話に登場。竹林を潰してマンションを建てようと計画するが、契約が成立した帰り道に社長は竹人間にされてしまう。そして金林も自宅で襲われて竹人間へと変貌。それでよほど懲りたのか、建設計画をすぐに中止した。



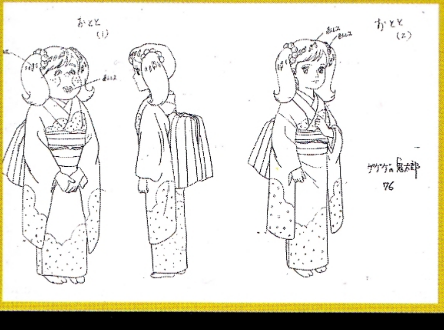
竹人間たち（声・増岡弘）

第74話に登場。妖怪万年竹によって竹人間にされた人々。体は竹そのもので、万年竹の思い通りに働かされた。人間のみならず、ねずみ男や子泣きじじいたちまでも竹人間にされていた。



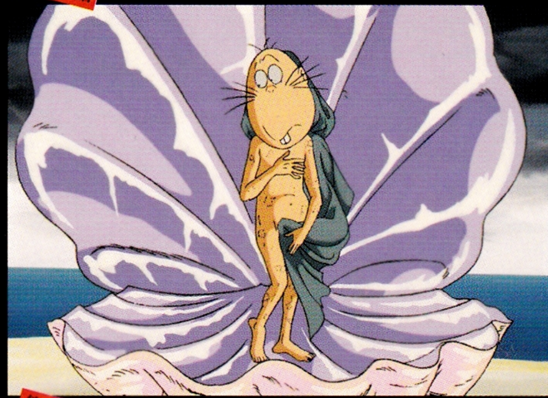
おとと（声・山田栄子）

第76話に登場。人喰い島となった島神様のため生け贄として選ばれた長老の孫娘。器量よしだがねずみ男も逃げ出すほどの不細工――と思いきやそれは神様に合わせた化粧で、素顔は美人だった。



第七十六話 人喰い島と海和尚

脚本／武上純希
演出／芹川有吾
作画監督／柳瀬譲二
美術／金島邦夫



島民たちが島神様にお供えをしていた。しかし、ひとりの若者がこんなものは迷信だとバチ当たりなマネをした。それに怒ったのか島は人喰い島となり娘の生け贄を要求してきた。手紙でこの事態を知った鬼太郎は島へと向かった。一方、手紙を盗み読んだねずみ男はお礼目当てにひと足先に島へ渡り、歓迎を受けていた。村一番の美人との結婚に心躍るねずみ男の前に現れたのは美人とは言い難い娘・おとと。この島には年頃の娘はひとりしかいないのだという。鬼太郎はそんなねずみ男を放っておいて調査を始めるが、誤ってその胃袋へと入ってしまう。強力な胃液によって溶かされる鬼太郎。この危機に駆けつけたのはねずみ男だった。すると人喰い島から排泄物となって出て来た鬼太郎を発見する。砂かけばあの治療で鬼太郎は再生するが、鬼太郎が敗れたという知らせを受けた島ではおととが生け贄として人喰い島へ連れて行かれた。

第七十七話 妖怪手の目と地獄の餓鬼

脚本／星山博之
演出／明比正行
作画監督／清山滋崇
美術／鷲崎 博



ある山奥の村で人間が妖怪に襲われる事件が発生。その事件について鬼太郎の元に手紙が届いた。村の言い伝えにある立ち入り禁止の場所・入らず山に東京から来た叔父と入ってしまった六助は、珍しいキノコを採っているときに奇妙な扉を見つけて入ってみた。その中の若返りの泉には妖怪たちがいて、恐くなってそこからすぐに逃げ出したという。その叔父が昨日東京に戻ろうとしたとき、妖怪に殺されたのだった。その手紙を読んで駆けつけた鬼太郎だったが、村は既に餓鬼たちに襲われていた。捕らわれた村人を救うべく入らず山に向かう鬼太郎。だが、現れた手の目の金縛り光線によって仲間と共に囚われてしまう。手の目はその昔、自分を餓鬼と一緒に封印した人間たちを絶対に許さないと告げ、村人を全員始末したら次は里に下りて餓鬼に人間を襲わせると言う。だが、隙を見て脱出した鬼太郎は再び手の目に戦いを挑んだ。

第七十八話 マンモスフラワーと山男

脚本／武上純希
演出／葛西 治
作画監督／清山滋崇
美術／泰 秀信



シーサーを使って宝捜しをするねずみ男は氷づけの原始人を発見し、テレビで発表して大儲けしようと考えた。しかし原始人だと思ったのは妖怪・山男だった。文明を嫌う山男は逃走して町を耕し、マンモスフラワーの種を蒔いた。一面原始時代へと変わっていく東京の町並み。さらに芽吹いたマンモスフラワーから飛び散った胞子を吸い込んだ人間は文明を捨てて原始の世界へと帰って行った。急激な変化は人間たちの反感を呼んでよくないという鬼太郎の説得も山男には通じない。人間たちはマンモスフラワーを切り倒そうとするが、現代文明では兵器でも使わない限りどうにもならなかった。この事態を打開すべく文明や技術の進歩に興味を持っている妖怪・夜行さんの力を借りることを思いつく目玉おやじ。気難しい夜行さんのプライドをくすぐることに成功した鬼太郎は、妖怪と文明の力を融合させた妖怪戦車を貸してもらった。

鬼太郎に弟子が!? ひょうきんものの沖縄妖怪

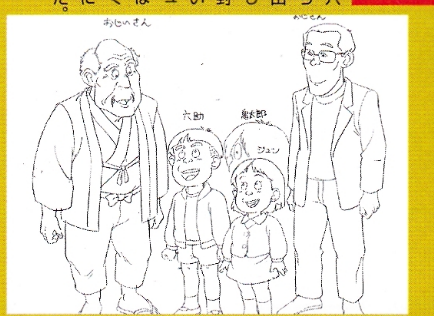
長老
（声・宮内幸平）

第76話に登場。島神様の怒りを鎮めるため仕方なく自分の孫娘・おととを生け贄として差し出すことに。島にやって来たねずみ男を救世主と思い込み、その嫁にと考えたが、そうはいかなかった。



六助（声・頓宮恭子）
ジュン（声・鈴木富子）
おじさん（声・平野正人）

第77話に登場。六助とおじさんは立ち入り禁止の入らず山に足を踏み入れてしまい、餓鬼たちを封印していた扉を開いてしまった。妹ジュンの言葉から六助は鬼太郎に手紙を書くが、村は既に餓鬼によって襲われていた。



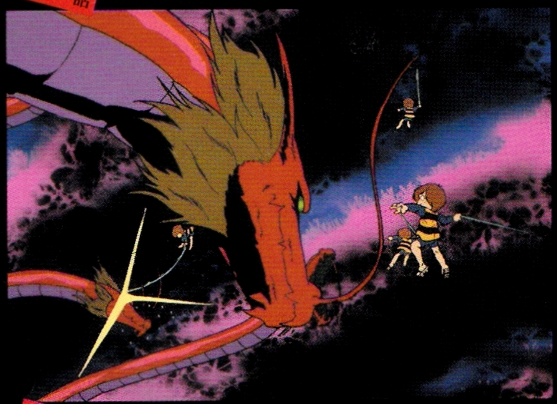
ワタリ刑事
（声・屋良有作）

第78話に登場。ねずみ男と共に山男を追いかけていた刑事。しかし奮闘虚しく山男にいいように暴れられてしまい、マンモスフラワーの胞子で自身も原始の生活に回帰した。何故かユメコと共に原始の生活を送っていた。



第七十九話 妖怪やまたのおろち

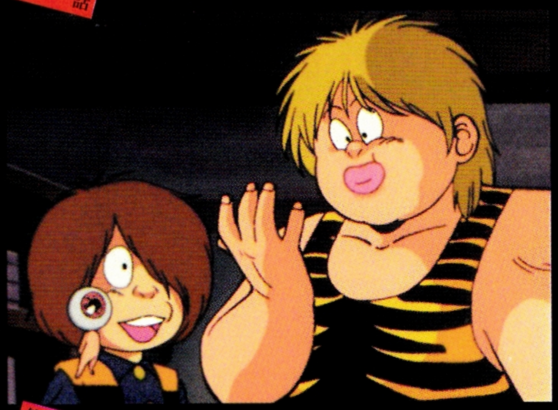
脚本／大橋志吉
演出／石田昌久
作画監督／松本朋之
美術／藤田 勉



ユメコのクラスメイトの弘が遠足先で行方不明となった。その犯人は呼子だという。しかし、呼子はゲゲゲの森を出ていない。そこで、呼子とユメコを連れて鬼太郎は事件のあった場所へ向かった。現場では確かに呼子の山彦が聞こえる。声のする場所に行くとそこにはにせ呼子がいて本者の呼子との戦いになるが、ここは本者に軍配が上がった。そしてにせ呼子の持っていた大きなダイヤを見つけるが、触れた途端に一行はダイヤの中へ引きずり込まれてしまう。ダイヤの中は異次元空間になっていて行方不明の弘もここにいた。しかし、現れた妖怪たちに弘を人質に取られたため鬼太郎らは囚われの身となる。この世界では毎月、妖怪やまたのおろちに生け贄を捧げなければならないためにせ呼子が人間を誘っていたのだという。弘を生け贄に捧げに行く妖怪たち。だが、駆けつけたシーサーの活躍で脱出した鬼太郎がその後を追った。

第八十話 妖怪吹消婆プロレス地獄

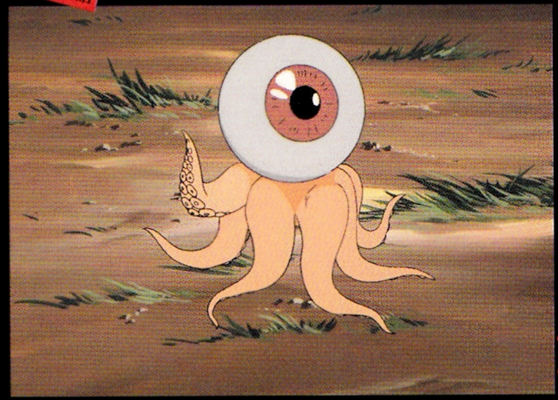
脚本／武上純希
演出／生頼昭憲
作画監督／入好さとる
美術／鷲崎 博



力はあるのに勝つことができない女子プロレスラー・タンク松竹——その悩みにつけ込んでタンクの運命を変えてしまうねずみ男と妖怪・吹消婆。運命を変えられたことで凶暴になって“スーパータンク”となったタンクは、チャンピオン・長与茂草のタイトル戦に乱入。長与茂草を倒してチャンピオンベルトを手に入れた。なおも暴れるタンクを、ユメコの付き添いで偶然試合を観戦していた鬼太郎が止めに入る。妖気を感じる鬼太郎だったが、人間相手に妖力を使う訳にもいかずタンクのジャイアントスイングに敗れる。これに気をよくしてタンクに銀行強盗をやらせようとする吹消婆。止めに入ったねずみ男はタンクに倒されてしまった。タンクが銀行を襲う計略をねずみ男から聞いた鬼太郎は、勝利者の言うことを聞くという掟の妖怪挑戦状をタンクに突きつけた。そしてプロレスで決着をつけるため鬼太郎は地獄で特訓を始めた。

第八十一話 コンビ妖怪手長足長

脚本／星山博之
演出／岡崎 稔
作画監督／平田かほる
美術／金島邦夫



ねずみ男が始めたショーのチケットをユメコが持って来た。早速、鬼太郎たちはショーを見に行くことにする。ショーは様々な動物の顔を持ったタコの見せもので、どう見ても作りものには思えない。疑問を感じた鬼太郎がタコたちに事情を聞くと、突然現れた妖怪手長と足長にこんな姿にされたという。そこで鬼太郎たちが海岸に行ってみると動物の頭をしたタコがいる。タコたちに話を聞けば300年前に海で暴れた手長、足長を封じ込めた大ダコに対する復讐だということが分かった。タコたちに事件の解決を約束する鬼太郎だったが、現れた手長と足長のコンビ攻撃に手痛い敗北を喫した挙げ句、仲間たちをタコにされてしまった。手長、足長と有利に戦うためには、封印をしていた要石が必要と言う目玉おやじの言葉に従い鬼太郎は要石を手に入れた。だが、手長、足長との戦いの最中に鬼太郎は商売を続けたいねずみ男に要石を奪われてしまう。

“地獄”でスポーツ対決！

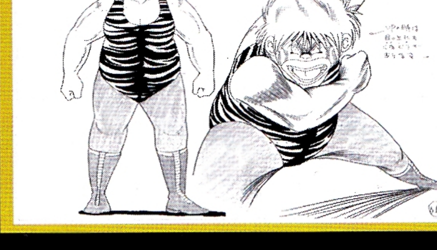
弘（声・山田栄子）

第79話に登場。ユメコのクラスメイトで妖怪の存在をまったく信じていなかった少年。そのため地元の人間から止められているにも拘らず興味本位でにせ呼子を呼び、生け贄としてやまたのおろちのいる異次元空間に閉じ込められてしまう。



タンク松竹（声・上村典子）

第80話に登場。実力はあるのに気の弱さ故に試合に勝てなかった女子プロレスラー。吹消婆によって手相を変えられたことで凶暴になり操られてしまう。鬼太郎との戦いを経て元に戻り気の弱さも克服。チャンピオンベルトを手にした。



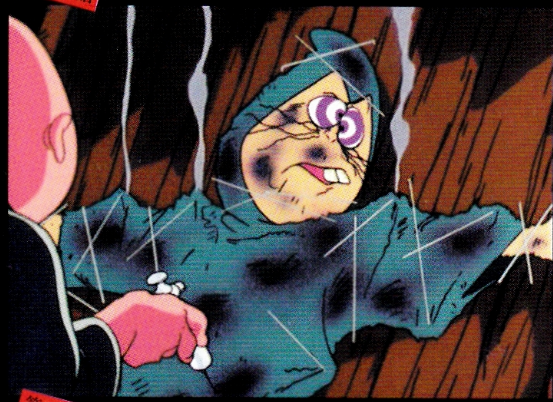
長与茂草（声・川浪葉子）
ライオン稲子（声・中谷ゆみ）

第80話に登場。凶暴化したタンク松竹にこてんぱんにのされた女子プロレスラーコンビ。弱さを克服し、鬼太郎伝授のコダマ殺法を身につけたタンクと再戦し敗北した。当時人気だった女子プロレスラーペアがモデル。



第八十二話 妖怪串刺し入道

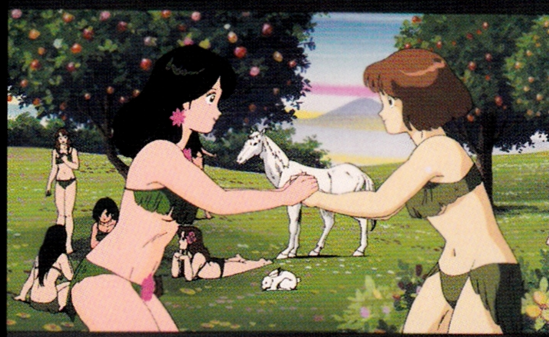
脚本／大橋志吉
演出／芹川有吾
作画監督／稲野義信
美術／鷲崎 博



妖怪・串刺し入道は次々と動物たちを標本にする。その目的は標本にした動物の能力を自分のものにすることだ。しかし今後はその目標を人間に変え、ねずみ男に連れて来るよう命令する。昆虫の標本を集めていたツトム少年を、珍しい虫がいるからと串刺し入道のいる寺へと誘うねずみ男。捕まってしまったツトムは、自分が標本にされる立場になって初めて命の大切さを知り、カゴの中のクワガタ虫を逃がしてやる。そのクワガタから事件を聞いた鬼太郎はすぐさま串刺し入道のいる寺へと駆けつけた。だが、様々な動物の能力を取り込んだ串刺し入道に翻弄され鬼太郎も捕まってしまった。さらに妖怪の能力も吸収しようと考えた串刺し入道はねずみ男も捕らえ、鬼太郎を標本にするのだった。目玉おやじから報せを受けた砂かけばばあは、串刺し入道の手に入れた能力を消すためにも標本にされた動物たちの魂を戻す秘法を開始した。

第八十三話 雨神ユムチャック伝説

脚本／武上純希
演出／芝田浩樹
作画監督／松本勝次
美術／藤田 勉



遙かなる昔のこと——雨の神ユムチャックは妖怪雨降り小僧を正しい心の人間が永遠に生きる理想郷＝ユートピアの番人に指名し、その証ともいえる笛を託した。そして現在——ユートピアの入り口がある小笠原諸島の魔矢ヶ島。考古学者の内田が笛の所有者カルメンの元に現れ強引に笛を奪ってユートピアの入り口を開けさせた。ユートピアへと到着した内田はあり余る財宝を持ち帰ろうとするが、戻るためにも笛の力が必要だと分かり雨降り小僧を懐柔するとカルメンを生け贄としてユートピアに呼ぼうとした。ユムチャックの言葉だと疑わない島民はカルメンを生け贄にしようとするが、妹アルメラから手紙をもらった鬼太郎が到着し、それを制止した。しかし強引に鬼太郎ごとカルメンをユートピアに引きずり込んでしまう雨降り小僧。そして鬼太郎を倒すため、内田にそそのかされた雨降り小僧が戦いを挑んできた。

第八十四話 地獄一周!!妖怪マラソン

脚本／星山博之
演出／白土 武
作画監督／清水 明
美術／鷲崎 博

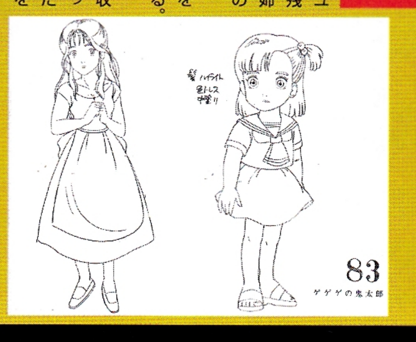


ある日、鬼太郎は町で不吉な影を持つ少女を見かけた。すると少女はビルの屋上から身を投げ、自殺を図る。鬼太郎が助けに入り少女は即死を免れたものの意識不明の重体となってしまう。少女の名前は梅ノ木花子。全国大会で二連覇するほどの実力を持ったマラソンランナーだった。しかし、今期は不調から予選で敗れてしまい、生きる希望を失ったというのだ。残された家族の悲しみを憂え、本人に生きる希望を取り戻させたいと思う目玉おやじは一計を案じた。地獄で目を覚ました花子はエンマ大王から地獄マラソンへ参加するように言われる。これこそが目玉おやじの計画だった。そして、妖怪たちに混じって地獄を一周するという過酷なマラソンの幕が切って落とされる。最初はやる気のない花子だったが、鬼太郎の挑発を受けて持ち前の負けん気に火が着いた。ほどなく勝利への執念が少しずつ甦りいつしかゴールを目指して走り出した。

スポーツの世界は厳しい？ 鬼太郎、

カルメン（声・富沢美智恵）
アルメラ（声・荘真由美）

第83話に登場。ユムチャック伝説が残る魔矢ヶ島に住む姉妹。ユムチャックの笛を代々受け継ぎ、カルメンはその笛を奏することができる。アルメラはその妹。カルメンは事態を収拾するとユムチャックの怒りを鎮めるためユートピアで笛を吹き続けることに。



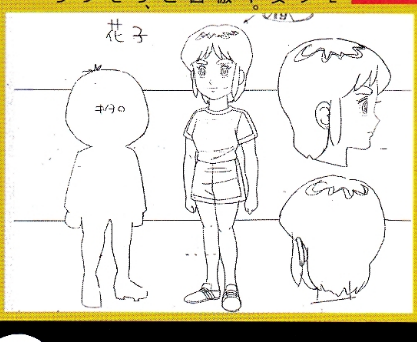
内田（声・塩沢兼人）

第83話に登場。ユムチャック伝説を知った考古学者。ユムチャックが魔矢ヶ島に作ったユートピアにあるという財宝を狙って島に渡りカルメンを利用した。だが、ユムチャックの怒りを買い、敢えない最期を遂げた。



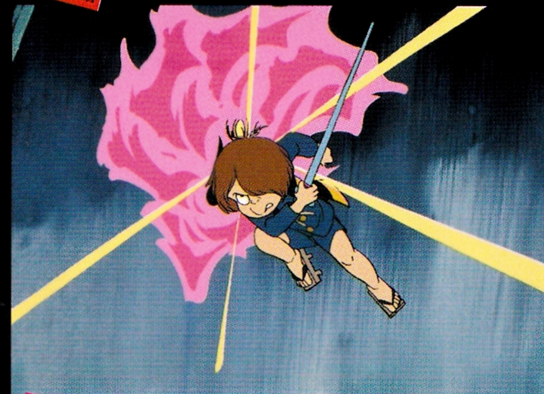
梅ノ木花子（声・山本百合子）

第84話に登場。2年連続で高校マラソン大会に優勝した女子高生スプリンター。だが、今期はその傲りから敗れ自殺を図った。鬼太郎たちと地獄マラソンで走り、自信と生きる希望を取り戻し、再びマラソンに打ち込むようになる。



第八十五話 河童一族とたくろう火

脚本／大橋志吉
演出／石田昌久
作画監督／松本朋之
美術／藤田 勉



テストの点数が悪いせいで母親に叱られた星郎は、学校のない妖怪の暮らしに憧れる。学校に行かず船の上で横になっていると見知らぬ場所に流されてしまい、人間の生活に憧れるカッパの三吉と出会った。お互いの立場が入れ替わったらいいのに――と二人が思ったそこに、妖怪たくろう火が現れてその望みをかなえようと言う。徳利をカッパ天国に持って行くことを条件に、体を入れ替えてもらった星郎と三吉は、お互いに新しい環境を楽しむのだった。だが、星郎が行方不明になったと聞いた鬼太郎たちは星郎を必死に捜していた。そうとは知らずのんびり過ごす星郎も、徳利から現れたたくろう火がカッパ天国を我がものにせんと暗躍を開始して、大変な目に遭うことに。一方、人間の生活が合わないと鬼太郎に相談しに来た三吉によって彼と星郎が入れ替わったことを知り、鬼太郎たちはカッパ天国に向かった。その頃カッパ天国では……。

第八十六話 妖怪香炉悪夢の軍団

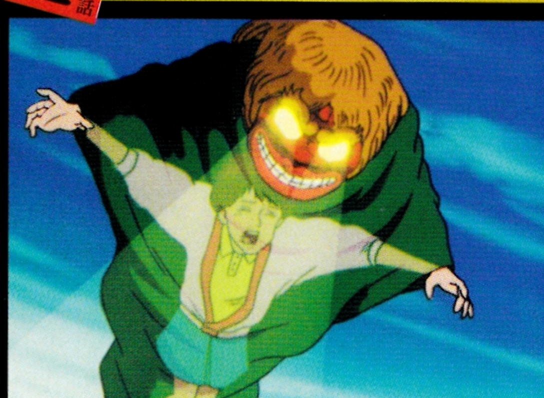
脚本／武上純希
演出／葛西 治
作画監督／清山滋崇
美術／鷲崎 博



鬼太郎のゲタをねずみ男に盗み出させたぬらりひょんは、そのゲタを使って夢の世界へ渡り、まくらがえしから妖怪香炉を奪った。妖怪香炉の力で悪夢を見せられて寝不足になる人間たち。鬼太郎はねずみ男を捕まえて事のあらましを聞き、この事件が夢の世界に渡ったぬらりひょんの仕業だと知る。そして夜行さんから夢の世界に行くことができるくじら飛行船を借りて夢の世界へ向かった。しかし、迎え討つぬらりひょんは妖怪香炉から凄まじいエネルギーを出して飛行船を撃墜。鬼太郎たちを妖怪縄で縛り上げてしまう。勝利を確信したぬらりひょんは、捕らえた中からユメコを連れて来るよう朱の盤に命令する。ユメコが殺されると誤解した朱の盤は、彼女を助けようとした隙を突かれユメコに倒される。一気に形勢逆転したかに見えたが、ぬらりひょんは妖怪香炉から鬼太郎に怨みを持つ妖怪の魂を実体化させてしまう。

第八十七話 寄生妖怪ペナンガラン

脚本／星山博之
演出／生頼昭憲
作画監督／柳瀬譲二
美術／藤田 勉



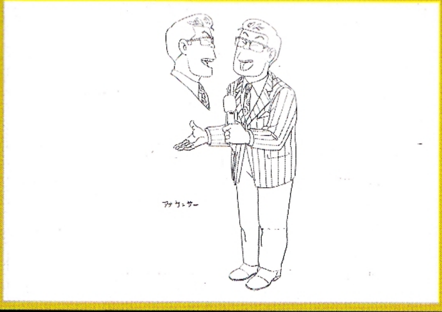
ねずみ男は北陸のとある城下町のお祭りに、ひと儲けしようと乗り込んだ。その夜、屋敷に忍び入るコソ泥たちの姿が。コソ泥が金目の品と思って獅子頭の封印を解くと獅子頭は突如動き始め、騒ぎを聞いて飛び出したこの家の娘ユミを捕らえた。かつてこの家の先祖に封印されたことを怨んでいた獅子頭は復讐のため、この娘を使って悪事を働くと言う。一部始終を目撃したねずみ男は金になると考えて逃げ去る獅子頭の後を追った。翌日、獅子頭が銀行を襲ったという事件をニュースで見た鬼太郎が現地に向かった。ユミの祖父から詳しい事情を聞き、彼女の姿を捜す鬼太郎。一方、ねずみ男は獅子頭に金品の強奪を勧めていたが、より人間の困ることをしたい獅子頭と話が合わず札束を奪って逃げ出した。そこへ現れる鬼太郎に獅子頭が挑戦した。しかし、獅子頭の体はユミのものだ。どうする鬼太郎……!?

拾伍之盤

――無力な人間たちの運命は？

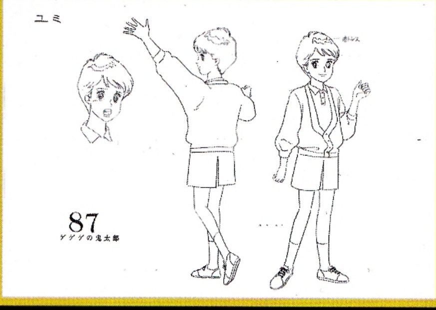
テレビアナウンサー（声・田中亮一）

第86話に登場。妖怪香炉で悪夢を見せられて寝不足になった人々をニュースで紹介したが、自身も寝不足であくびをする始末。その後、登場した女性アナウンサーが「夢工場'87」のCMをテキパキと宣伝し、目玉おやじの興味を惹いていた。



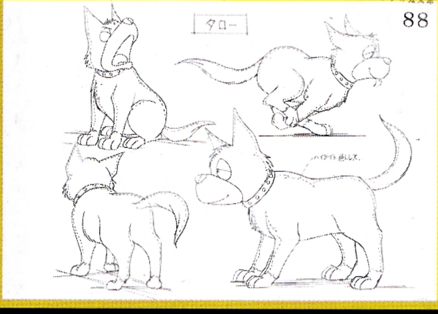
ユミ（声・山野さと子）

第87話に登場。300年前にペナンガランが寄生した獅子頭を封印した者の子孫で、彼女の家系が代々言い伝えと共に獅子頭を保管していた。そのためペナンガランから怨まれて拉致されたユミは、その寄り代として利用されてしまう。



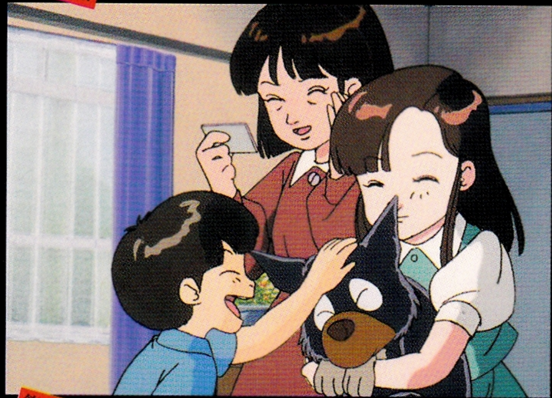
タロー（声・清川元夢）

第88話に登場。目玉おやじに頼まれた仙人が犬に変身した姿。タローという名前はユメコが名付けた。探し物を見つけるなどして天堂家の人々から信頼されていたが、その超能力を鬼太郎からエイリアンではないかと疑われることに。



第八十八話 不思議な妖犬タロー

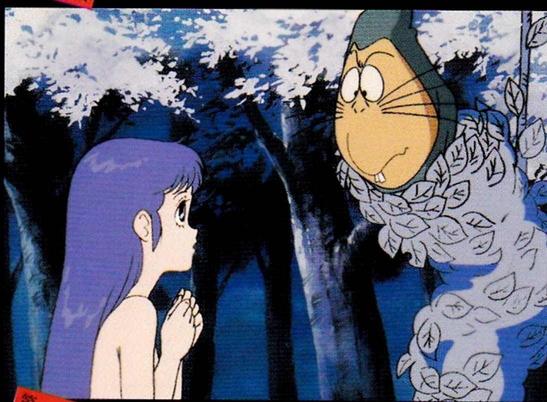
脚本／大橋志吉
演出／芹川有吾
作画監督／松本朋之
美術／鷲崎 博



近頃、鬼太郎が自信過剰になっていることを心配する目玉おやじは、密かにある人物に頼みごとをしていた。ある日ユメコは一匹の野良犬を家に連れて帰るが、飼うことを父親に反対される。しかしその犬が、ユメコの母が失くした指輪を見つけ出したことから天童家に迎え入れられることに。そしてユメコはこの不思議な犬をタローと名づけた。普通の犬と違った力を持つタローに、鬼太郎は疑念を抱くようになる。そして妖怪仲間も知らないタローを敵だと感じた鬼太郎は、タローに戦いを挑んだ。だが、鬼太郎の妖力すらもタローにはまったく通用しなかった。その危機に駆けつけた仲間の妖怪たちを前にして、ついにその正体を現すチベットの仙人。そしてこの場を収めるため、鬼太郎に自分の弟子との勝負に勝つことを条件として突きつけた。仙人の弟子と戦う鬼太郎。一切の妖力が効かないこの強敵に鬼太郎は勝つことができるのか？

第八十九話 木の子と妖怪山天狗

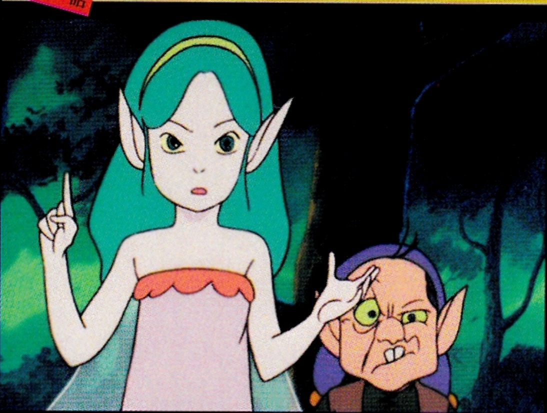
脚本／武上純希
演出／岡崎 稔
作画監督／平田かほる
美術／田中資幸



5年前に幼い少女が行方不明になって以来立ち入り禁止となった天狗の森に入ったねずみ男は、うっかり足を滑らせて木の葉道を通り、妖怪の森へと来てしまう。そこで木の子たちに怪しいやつと捕らえられてしまうが、ねずみ男は木の子の中にひとりだけ人間の少女を見つけた。その少女こそ行方不明になっていたモモコだった。一方、ねずみ男が行方不明になったことを聞いた鬼太郎は、幼稚園のときにモモコの友達だったユメコを連れて天狗の森に向かった。その頃、ねずみ男の出現で外の世界のことを少しずつ思い出したモモコは、家に帰りたいと思いながらも木の子たちを悲しませたくないと考えそのことを言い出せずにいた。そこに現れる鬼太郎。モモコを連れて行かれたくない木の子たちは必死に戦いを挑むが、勝てるはずもなかった。そこで木の子は封印されていた悪党妖怪・山天狗に鬼太郎を倒してもらおうと彼の身柄を解放した。

第九十話 妖精ニクスの青い涙

脚本／星山博之、金巻兼一
演出／芝田浩樹
作画監督／稲野義信
美術／鷲崎 博

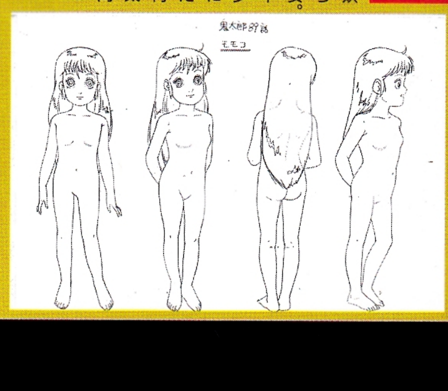


西洋にある妖精の森――。そこで早く上級の妖精になりたいと望むニクスに、女王様がひとつの試練を与えた。それは日本で時間に追われて働く可哀想な人間を100人開放する――というものだった。早速日本へとやって来たニクスは、ユメコの父からストレスを青い涙に変えて回収した。ストレスが消えた人間は働くことを止め、一日中遊んで暮らすようになるのだ。変わり果てた父の姿を見てユメコは悲しみに暮れる。この事件を知った鬼太郎は目玉おやじさえ見当がつかないという犯人を捜し出すべく井戸仙人の元へと向かった。井戸仙人から今回の事件は妖精の仕業であり彼女たちはよいことをしているつもりなんだと聞かされる。人間と妖怪、妖精の考え方の違いが大きな混乱を生んでいた。鬼太郎はニクスを説得しようとするが、トラブルで青い涙の入った小瓶が割れてしまい、それがひとつに合わさって巨大なストレスの塊となって暴れ始めた。

河童の世界に時間のない世界

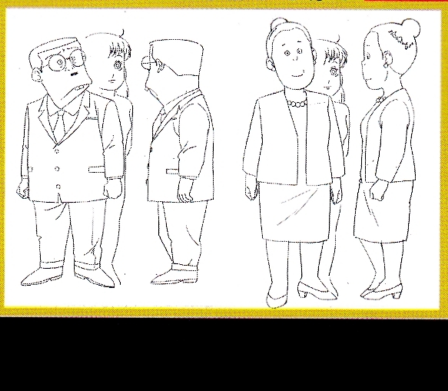
モモコ（声・荘真由美）

第89話に登場。妖怪の森で木の子たちと暮らしていた少女。実は5年前に行方不明になった人間の少女で、木の子たちに助けられて成長した姿だった。自分が何者なのかを知り鬼太郎らによって無事両親の元に帰って行った。



柿夫（声・田中和実） 栗子（声・上村典子）

第89話に登場。5年前、森の中で行方不明になった娘モモコをずっと捜し続けた夫婦。やっと娘の生存を知るが、その居場所は異次元にある森の中だった。鬼太郎に相談した結果、娘を取り戻すことがかなう。



ストレスから開放された人々

第90話に登場。妖精ニクスからストレスのかたまりである"青い涙"を除去されて、時間に捕らわれることなく遊び続けていた。大人まで公園で遊んでいたところを見ると、普段は心の奥に隠れていた幼児性が表れたのかもしれない。



第九十一話 妖怪ハンターヒ一族！

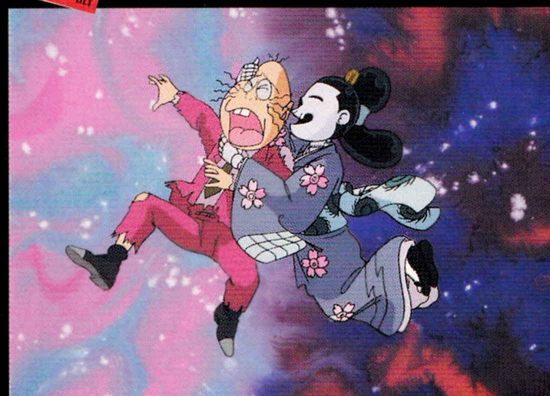
脚本／武上純希
演出／葛西 治
作画監督／入好さとる
美術／伊藤雅人



子泣きじじいが妖怪の天敵と言われるヒ一族に襲われた。続いて砂かけばばあとシーサーもその毒牙にかかりぬいぐるみにされてしまった。その噂を聞きつけヒ一族と手を組もうとするぬらりひょんだったが、問答無用と返り討ちに会ってぬいぐるみに。その場から命からがら逃げ出した朱の盤とねずみ男は目玉おやじに事のあらましを話した。しかし、目玉おやじでさえ今度ばかりは地獄に逃げようとまで言う始末。と、そこに日本妖怪の中心的存在である鬼太郎を倒すためヒ一族が現れる。鬼太郎でさえヒ一族相手では自分を犠牲にしてみんなを逃がすのが精一杯だった。目玉おやじは妖怪存亡の危機を救うためヒ一族を操る存在を倒そうと妖怪決死隊を組織するが仲間は集まらず、少数精鋭でヒ一族に戦いを挑むこととなる。この最大の危機を救ったのは、一度は同盟を断ったぬらりひょん配下の悪党妖怪たちだった。

第九十二話 人喰い家と妖怪家鳴

脚本／大橋志吉
演出／芹川有吾
作画監督／松本朋之
美術／鷲崎 博



ある日、ねずみ男がユメコからラブレターをもらったと喜んでいた。が、その手紙の本当の差出人は骨女だった。今回の骨女は家鳴に従っていて、その棲み処である人喰い家の食料となる人間集めをねずみ男に頼んだのだ。嫌がるねずみ男もお金の誘惑には勝てず、渋々悪事の片棒を担ぐことになってしまう。その頃、鬼太郎は郊外のマイホームを購入しようとして行方不明になったユメコの友達の家族を捜していたが、目的の人喰い家は既に一戸建てからペンションの大きさにまで成長していたため気づかずに通り過ぎてしまう。そしてマンションほどの大きさになって町のど真ん中に現れた人喰い家を怪しく思った鬼太郎がようやく乗り込むが、シーサー共々人喰い家に飲み込まれてしまった。鬼太郎はシーサーの活躍でなんとか脱出に成功する。巨大化した人喰い家を倒すためには、妖怪戦車の力が必要だ。鬼太郎は応援を頼んだ。

第九十三話 進化妖怪かぶそ

脚本／武上純希
演出／芝田浩樹
作画監督／山口泰弘
美術／藤田 勉

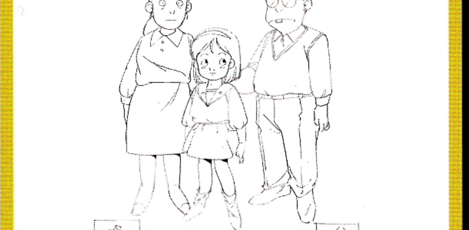


月に打ち上げられた無人探査機に平穏な時間を乱されたと怒る妖怪・赤頭は、たまたま探査機に潜り込んでいた妖怪かぶそに知恵の実を与え、地球へと送り返した。そして、宇宙人が現れたという凡太の手紙を読んだ鬼太郎が現地に向かうと、そこには知恵の実を食べて進化したかぶそたちが家を作っていた。そうとは知らない鬼太郎は驚き、調査は明日からにしようと引き上げてしまう。だが興味深々のユメコと金儲けを考えるねずみ男が夜中にかぶそたちの元に向かって捕らえられてしまった。翌日、鬼太郎が見たものは一夜にして完成した巨大要塞のような建物だった。ユメコとねずみ男を人質に取られた鬼太郎は、救出作戦を開始すべく仲間の妖怪たちを呼んだ。二人を救出したものの要塞は空を飛んで攻撃を仕掛けてきた。しかし、かぶそは油断から自滅してしまう。すると今回の事件の黒幕、赤頭が月からやって来た。

——鬼太郎ファミリーの激闘！

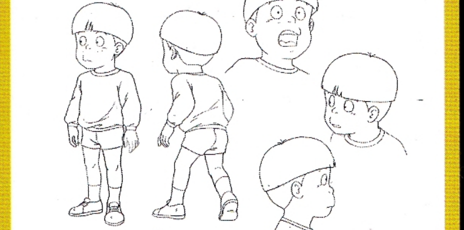
トミコ（声・鈴木富子）
父（声・田中和実）
母（声・江森浩子）

第92話に登場。ユメコのクラスメートでアパート暮らしの一家。一戸建てのマイホームで暮らすことを夢見ていた。ねずみ男に騙され格安で見付けた物件に手を出すが、そこは人喰い家だった。最終的には開放され事なきを得る。



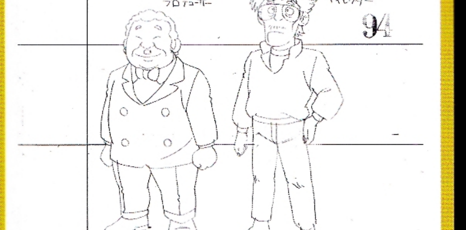
平野凡太（声・中野聖子）

第93話に登場。月から落ちて来たかぶそを見て宇宙人だと思い、鬼太郎に手紙を出した少年。元々宇宙人や妖怪に興味があったようで、早く卒業するよう母親からうるさく言われている。



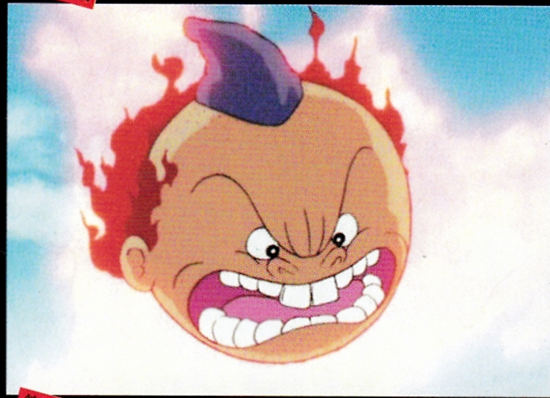
プロデューサー（声・堀之紀）

第94話に登場。ぬけ首に振り回された人々の代表格。ねずみ男にぬけ首の胴体を紹介され、テレビで放送しようとしたプロデューサーらは寒さで凍ってしまった。逆にぬけ首が抗議に向かった雑誌編集部ではその灼熱の暑さで関係者はヘトヘトになっていた。



第九十四話 高熱妖怪ぬけ首

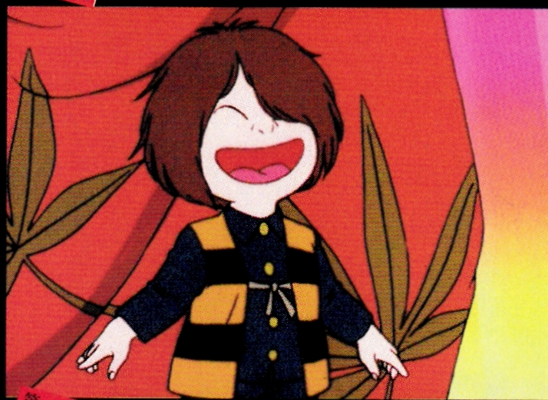
脚本／星山博之
演出／白土 武
作画監督／清水 明
美術／田中資幸



近頃、世間では妖怪ブームが起きていた。それを知った妖怪ぬけ首は、自分もさぞかし人気者だろうと思って喜ぶが、世間ではまるで無名だということを知って怒る。その頃パーティーをしていた鬼太郎たちにねずみ男がテレビ出演の話を持って来た。出るつもりはないと断る鬼太郎の前に今度はぬけ首が現れた。自分が無名なのは鬼太郎のせいだと言うぬけ首に、必死に誤解を解こうとする鬼太郎。するとぬけ首は出版社に聞いてくるとひとまず帰った。鬼太郎らは冷静に話し合うため、ぬけ首の頭を冷却する胴体を探し始める。しかし実はその胴体は、テレビで見せものにしようとねずみ男が持ち去っていたのだ。そのため熱を増して膨張する頭をコントロールできなくなるぬけ首。たまたまテレビを見ていた一反もめんの情報を受けた鬼太郎たちはテレビ局に駆けつける。無事胴体を取り戻したものの、今度は熱さに耐え切れずぬけ首の頭が姿を消していた。

第九十五話 笑い妖怪ヘンラヘラヘラ

脚本／大橋志吉
演出／今沢哲男
作画監督／平田かほる
美術／鷲崎 博



ストレスから笑わなくなった現代っ子たちに笑顔を取り戻す——という触れ込みでねずみ男がカウンセリングを始めた。ねずみ男は診断に来た金太の頭を妖怪ケラケラトンカチで叩き、金太そっくりの笑みを浮かべた妖怪ヘンラヘラヘラを生み出して入れ替えた。星郎から友達の金太が変わったと相談を受ける鬼太郎。そんなとき、塾やゲームセンターを壊し始めるヘンラヘラヘラたち。止めに入った鬼太郎も掴みどころのないヘンラヘラヘラの動きに翻弄されてしまう。鬼太郎はこっそり彼らの後をつけ、異次元にある笑いの世界へと侵入した。そこには入れ替わった子供たちもいたが、家に帰ろうと言う鬼太郎に子供たちは帰りたくないと逃げて行く。そこに今回の黒幕である妖怪ケラケラ女が現れた。ケラケラ女は子供たちが笑って過ごせる世界にしたいのだと言う。だが、鬼太郎は偽りの世界で過ごしてもなんの解決にもならないとケラケラ女と戦うことを決意する。

第九十六話 血戦!!妖怪吸血軍団

脚本／武上純希
演出／芹川有吾
作画監督／稲野義信
美術／田中資幸



ドラキュラに体を診てもらった妖怪樹は、復活するためには恐山の妖怪病院にあるスーパー血液が必要だと診断された。そこで、捕らえた里子と治に鬼太郎を自分のいる島まで誘導させた。そして子供相手に油断した鬼太郎に痺れ薬を飲ませて、その間に南海吸血一族に恐山を襲わせた。隙を見て鬼太郎を救出する里子と治だったが、吸血綿によって鬼太郎はミイラにされてしまった。一方、島を脱出した目玉おやじによって集められた日本妖怪は吸血軍団を退けるが、隙を突いたドラキュラにスーパー血液を奪われてしまう。スーパー血液で復活し始める妖怪樹。しかし、里子の機転で鬼太郎もスーパー血液で甦った。ドラキュラを日光と十字架で退けた鬼太郎は、仲間たちの妖力を加えた体内電気フルパワーで妖怪樹を倒した。これで一件落着かに思えたが、スーパー血液を得た妖怪樹の新芽が無数に出現して襲いかかってきた……!

ヒ一族に吸血妖怪軍団

金太（声・杉山佳寿子）
母（声・向殿あさみ）

第95話に登場。塾通いが続き笑顔が消えてしまった金太を心配して母親がねずみ男に診せたため、本人から生まれた妖怪ヘンラヘラヘラと入れ替えられた。しかし笑ってばかりのヘンラヘラヘラは誰が見てもおかしいと疑われることに。



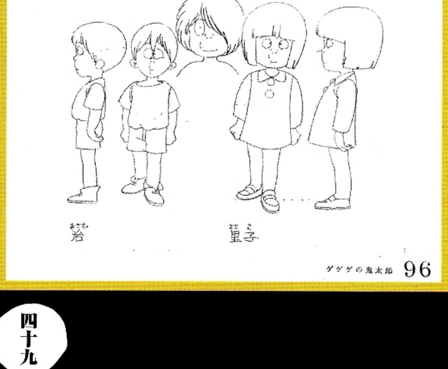
塾講師（声・小林通孝）

第95話に登場。金太の通っていた塾の講師。金太がヘンラヘラヘラと入れ替わったことに気付かずに説教をして、塾をメチャメチャにされてしまう。子供たちの笑顔が消えてしまったことの責任の一端を担っていたとはいえ哀れである。



里子（声・富沢美智恵）
治（声・頓宮恭子）

第96話に登場。妖怪樹の棲息する島で暮らしていた子供たち。森でドラキュラに捕まるが、血を吸わないことを条件に鬼太郎の誘き出しに無理矢理協力させられた。しかしその後考え直し、必死で鬼太郎を助けた。



第九十七話 夫婦妖怪!?皿数え

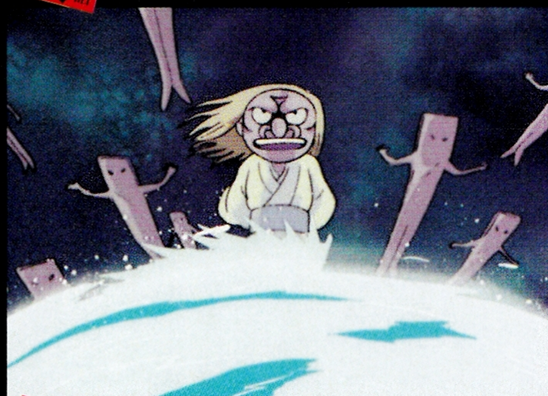
脚本／星山博之
演出／石田昌久
作画監督／松本朋之
美術／鷲崎 博



早く一人前の妖怪になろうと特訓するシーサーを、突如空飛ぶ皿が急襲した。その上に乗って意識を失うシーサー。時を同じくして家庭の皿が料理を乗せたまま何処かへと消え失せる事件が起きていた。ねずみ男の目撃談からシーサーも巻き込まれて連れ去られたことを知り鬼太郎は後を追った。井戸へたどり着いた鬼太郎は、事件が妖怪・皿数えの仕業だと知りすぐに止めるよう警告するが、皿数えは鬼太郎の忠告を無視して戦いを挑んできた。そして皿数えの妖力の前に鬼太郎たちは皿にされてしまう。そこへ、井戸の中から皿数えの亭主である大入道が現れた。皿数えは力を失った大入道に食事を与えるために悪事を働いていたのだ。妖力を使い過ぎて空腹になった皿数えは、この場を大入道に任せると食事をするため井戸へと姿を消した。この好機に皿となった鬼太郎たちは大入道を捕らえ、皿数えに妖力を解かせる作戦に打って出る。

第九十八話 津波妖怪猛霊はっさん

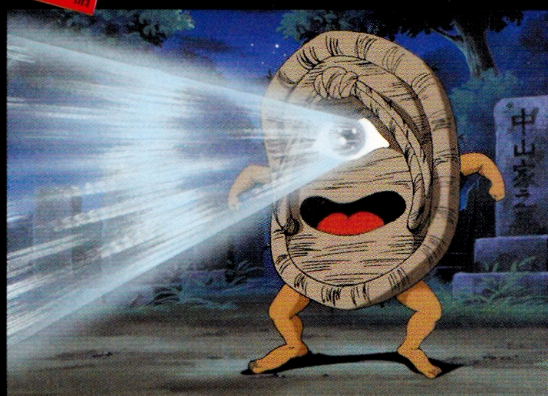
脚本／大橋志吉
演出／山寺昭夫
作画監督／高田耕一
美術／松本健治



ユメコと星郎はおじさんのいる田舎の村へお祭りを見に来た。二人はそこで両親を海で亡くした少年・友彦と出会う。友彦は海で死んだ人間がなるといわれる猛霊はっさんが現れるというこのお祭りで、両親と再会できるのではないかと考えていたのだ。どうしても両親に会いたい友彦は、子供が近づいてはいけないという儀式をこっそり覗きに行く。だがそれはただのドンチャン騒ぎで、テレビ撮影の演出もあって酷いものだった。そして大人に絶望した友彦は入ってはならない小島へと向かい、そのまま帰って来なかった。心配したユメコから手紙をもらった鬼太郎が小島に向かうと、そこは水精翁が人間の死体を猛霊はっさんに変える場所だった。友彦のことを聞く鬼太郎に、人間たちに罰を与えると告げた水精爺は猛霊はっさんを従えて村へと向かった。津波に続いて妖怪水車に襲われる村を救うため鬼太郎は水の妖怪たちに応援を頼んだ。

第九十九話 はきもの妖怪化けぞうり

脚本／山崎晴哉
演出／芹川有吾
作画監督／松本朋之
美術／襟立智子

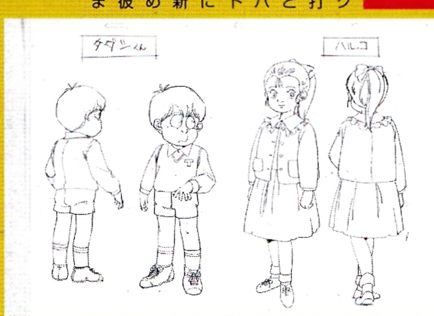


新しい靴を買ってもらいたいタダシは、居候のハルコのトゥシューズと自分の靴を捨ててしまった。だがハルコのトゥシューズは大事な母の形見だったのだ。探そうにもくだんの靴は昨晩ひとりでに歩いて行ったため見つからない。そんなとき、町で巨大化した靴が暴れるという騒動が起きた。鬼太郎が現場に急行したものの、靴を一足捕らえただけで事件解決には到らなかった。そこでこの靴を囮に事件の黒幕を暴き出そうと鬼太郎は罠を仕掛ける。捕まった靴を助けに来た靴たちの中で、指示を出している靴を捕まえるとそこから妖怪・化けぞうりが現れた。化けぞうりは人間がまだ使える靴を捨てるので、救われない靴の魂が増えたことから復讐しているのだと言う。その気持ちは正しくても人間に迷惑をかけてはいけないと、鬼太郎は改めて化けぞうりに戦いを挑むが、化けぞうりには妖力を吸い取るという隠された能力があった。

おさわがせ魔女の目的とは?

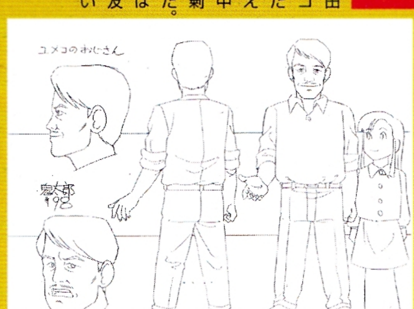
ハルコ（声・渡辺菜生子）
タダシ（声・佐藤智恵）

第99話に登場。クラシックバレエに打ち込む少女ハルコとその親戚タダシ。ハルコは母の形見のトゥシューズを大切に使うが、タダシは新しい靴がほしいため自分の靴ばかりか彼女のトゥシューズまで捨ててしまった。



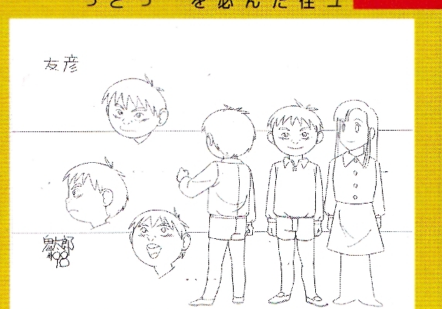
ユメコのおじさん（声・屋良有作）

第98話に登場。田舎の村に住むユメコのおじさん。村のためにと村興しを考えてお祭りにテレビ中継などを呼び、過剰な演出を進めていた。しかし、その行動は純情な村の少年・友彦には理解しがたいものだった。



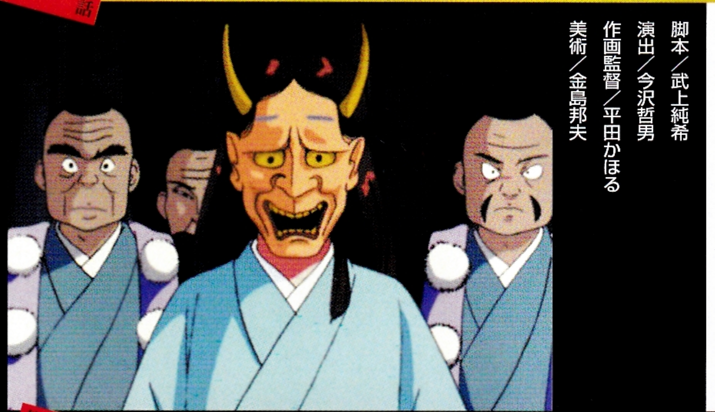
友彦（声・中野聖子）

第98話に登場。ユメコのおじさんが住む村の少年。死んだ両親が猛霊はっさんになったと信じ、必死になってその姿を捜し求めた。結果、願いは叶い猛霊はっさんとなった両親と再会を果たすのだった。



第百話 鬼巫女の鬼太郎抹殺作戦

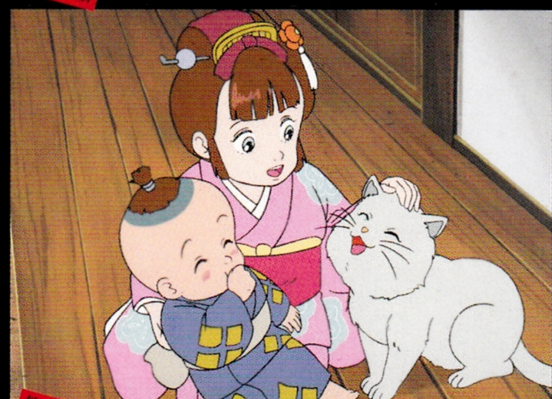
脚本／武上純希
演出／今沢哲男
作画監督／平田かほる
美術／金島邦夫



半魚人と女王人魚の結婚を鬼太郎ファミリーが祝福する。しかし、そこに女王人魚を狙って鬼道衆が現れた。かろうじて鬼太郎が撃退するものの鬼道衆を操る八百比丘尼は鬼太郎抹殺のための秘策を考えていた。それはユメコを捕らえ、鬼太郎への愛情を正反対の憎しみに変えて鬼巫女にしてしまうというものだった。そして女王人魚を守る鬼太郎たちの前に現れたユメコ＝鬼巫女は、凄まじいまでの霊力で鬼太郎の魂を絵馬に封印し、女王人魚奪取にまんまと成功する。目玉おやじたちは諦めずに八百比丘尼のいる寺へと向かうが、結界が邪魔をして先に進むことができない。そこで半妖怪のねずみ男を米俵に忍ばせて潜り込ませる作戦に。この作戦は鬼巫女に見破られてしまうが、仲間のフォローもあって鬼太郎の魂を封印した絵馬を割ることに成功。鬼太郎は再び鬼巫女と対峙するが、その正体がユメコと分かり正気に戻そうと必死に呼びかけるが……。

第百一話 妖怪捕物帖 猫騒動

脚本／星山博之
演出／明比正行
作画監督／山口泰弘
美術／田中資幸



ときは江戸時代――。絹問屋の山形屋で働く人間が一夜にして3人も殺されるという事件が起こった。目明しのねずみ男は手柄を立てようと下手人を捜す。その頃、旅の虚無僧が山形屋に現れて犯人はこの家に飼われている猫のお玉だと言う。だが山形屋の娘・お夢はその話を信じられなかった。ふいに消えたお玉を捜しているときにネコ娘と出会い、鬼太郎を紹介してもらうお夢。鬼太郎は幾つもの難事件を解決していることで、お上からも一目置かれる存在なのだ。鬼太郎は番屋で見た死体の傷が猫のものではなかったため、その虚無僧が怪しいと目星をつける。その夜、山形屋の家族を殺そうとする妖怪・板鬼。だが、家族は鬼太郎の指示で砂かけばばあたちが入れ替わっていた。すべては山形屋を手に入れようと板鬼を操っていた虚無僧＝百々爺の企みだった。そして、お玉はその百々爺の魔手から守ろうとこれまで密かにお夢たちを守っていたのだ。

第百二話 おてんば魔女ジニヤー

脚本／大橋志吉
演出／葛西 治
作画監督／松本朋之
美術／池田祐二



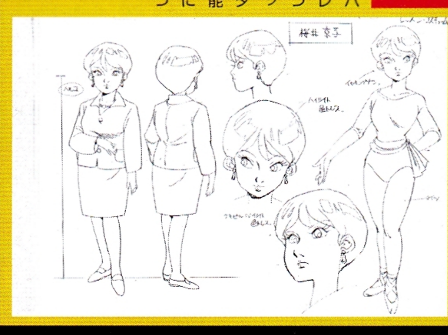
とある高校にアラビアから美少女ジニヤーが転校して来た。何かと目立つ彼女を快く思わない不良たちが絡んできたが、ジニヤーは返り討ちにし子分として従えた。さらにねずみ男を捕らえて日本妖怪の情報を聞き出すジニヤー。実は彼女はアラビアの魔王の娘で、体を壊した父のため進んだ妖怪医療技術を持つ日本の妖怪医者をアラビアまで連れて行く目的でやって来たのだ。恐山にある妖怪病院を、ジニヤーは子分を引き連れて襲撃した。そこには結膜炎の治療のため入院していた目玉おやじがいたためすぐさま鬼太郎が現れた。だが、ジニヤーの指輪から出た召使いの魔法で鬼太郎はねずみに変えられてしまう。勝利を確信してジニヤーは医者を連れてアラビアに向かう。だが、砂かけばばあの術によって元に戻った鬼太郎が召使いを倒し、ジニヤーを追いつめた。しかし、ジニヤーの悲鳴を聞きつけ、父の魔王がそこに駆けつけた。

魔女ジニヤー登場！

桜井京子

（声・柴田由美子）

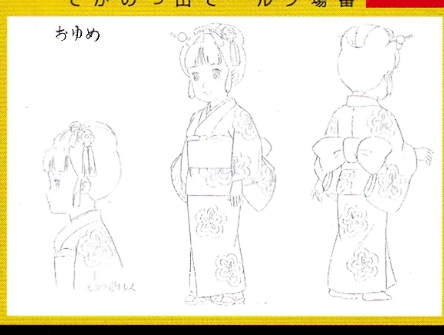
第99話に登場。ハルコを指導するバレエ教室の先生。かつては自身もクラシックバレエの有名なダンサーだった。才能を見出してか彼女に懇切丁寧な指導をつける。



お夢

（声・色川京子）

第101話に登場。番外編の時代劇に登場したメインキャラクターたちはスタイルも普段とは異なる。お夢の一家は江戸でも指折りの絹問屋山形屋の暖簾を預かっていたため百々爺の標的にされた。しかし猫のお玉によって救われることに。



不良たち

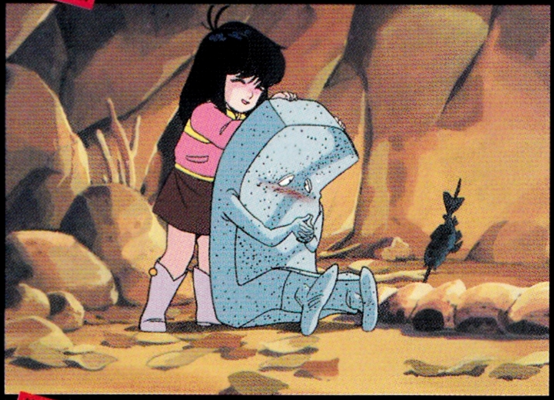
（声・田中和実、平野正人、小林通孝 他）

第102話に登場。転校生のジニヤーに因縁を付けるが返り討ちに遭い、子分になった不良グループの面々。ジニヤーの後ろ楯があるとはいえ、妖怪を襲うという命知らずな行動に躊躇しないところをみると度胸だけは充分のようである。



第百三話 純愛ヌリカベとおしろい娘

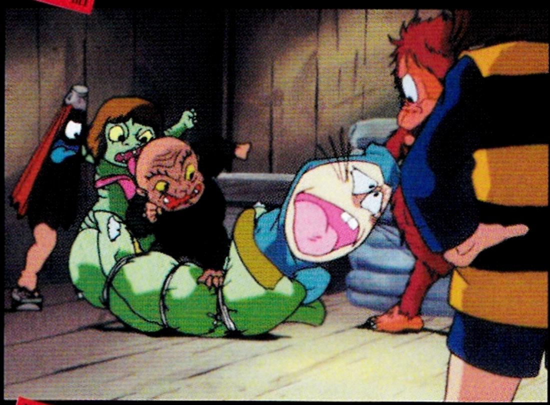
脚本／武上純希
演出／葛西 治
作画監督／新岡浩美
美術／藤田 勉



ねずみ男が美女を連れて鬼太郎の前に現れた。話を聞けば、3年前に妖怪に連れ去られた娘の仙子を捜してほしいのという。何よりも母子の愛情を大切に思う鬼太郎は、絶対に捜して見せると意気込む。その頃、ぬりかべが雪山で遭難していた幼い少女、紅子を助けた。氷で一時的に目が見えなくなった紅子は、ぬりかべを祖父の茂作だと思って頼ってきた。ぬりかべもそんな紅子に少しずつ情を寄せる。そこへ鬼太郎たちが現れ、くだんの美女がこの子は私の子供だと紅子を連れて行こうとする。しかし紅子は連れて行かないでくれと、泣きながら祖父の名を叫んだ。その叫びに応えるべくぬりかべは紅子を守って鬼太郎と戦うことを決意した。こうなったら第三者に仲裁してもらおうと一反もめんは仲間を呼びに行く。だがその途中で紅子の本当の祖父を見つけ、紅子の正体が脂粉仙子という妖怪で3年前に白粉婆に狙われたところを助けた事実を知らされるのだった。

第百四話 謎の妖怪狩りツアー

脚本／星山博之
演出／芹川有吾
作画監督／松本朋之
美術／小林祐子



鬼太郎は、ユメコの母から恩師の経営する温泉旅館を救ってほしいと頼まれた。そこで"妖怪と遊べる旅館"を謳い文句に客を呼ぼうと企画し、仲間の妖怪に協力を要請した。その話を聞いたぬらりひょんはこれを利用しようと考え、ねずみ男を騙して"妖怪狩りツアー"と宣伝させて柄の悪い暴力団を客として呼んだ。やって来た男たちはやりたい放題暴れ、妖怪たちは鬼太郎に騙されたと怒り出す。シーサーから報せを受けた鬼太郎は急いで駆けつけると仲間たちの誤解を解き、背後にいるぬらりひょんの存在を知った。まずは柄の悪い男たちを懲らしめようと、鬼太郎は"妖怪狩りツアー"に招待すると言って彼らをバスに乗せる。バスには雰囲気抜群の恐ろしい妖怪が次々と乗り込んで来た。そして到着したのは東京大空襲の真っ只中、自分の幼い日を見せられて男たちもようやく反省する。そして鬼太郎はぬらりひょんとの決着に向かった。

第百五話 妖怪めんこ天狗

脚本／星山博之
演出／白土 武
作画監督／高田耕一
美術／吉田智子



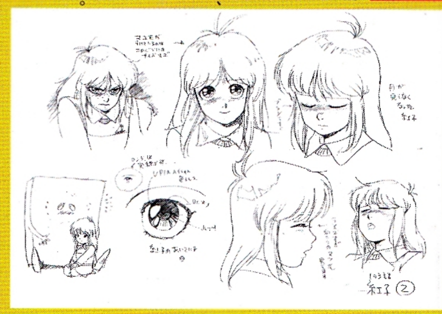
子供たちが行方不明になる事件が起こりその中には星郎もいた。妖怪の仕業だと思った鬼太郎が調査すると、妖怪めんこ天狗が現れた。めんこ天狗は子供たちと面子をするのが大好きなのだが、子供たちが塾に通って遊んでくれない上に遊びといえばテレビゲームばかりで面子をバカにする始末……。だから面子の面白さを教え込むためにさらったのだと言う。そして面子にした子供たちを自慢げに見せるめんこ天狗に、鬼太郎は戦いを挑む。だが、返り討ちにあって自らも面子にされてしまった。棲み処に戻り子供たちに面子を教えているめんこ天狗の隙をつき、鬼太郎は星郎の協力で脱出。ゲゲゲハウスまでたどり着いた。翌日、鬼太郎面子を捜すめんこ天狗にネコ娘が面子勝負を挑んだ。余裕綽々で勝負を受けためんこ天狗だったが何故か連戦連敗。それもそのはず、ネコ娘の面子は鬼太郎だったのだ。こうなればと、めんこ天狗も自分を面子にして最後の勝負を挑んだ。

拾捌盤

勝てるか鬼太郎ファミリー!?

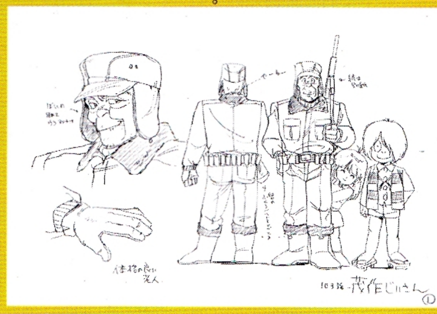
紅子 （声・小山茉美）

第103話に登場。雪山で一時的に視力を失い、遭難しかけていた少女。助けたぬりかべを優しい祖父・茂作だと思い込み、彼になついた。実は妖怪・脂粉仙子で、ぬりかべを救おうと脂粉仙子の能力を使って白粉婆を倒した。



茂作 （声・兼本新吾）

第103話に登場。3年前に山で白粉婆に利用されている脂粉仙子を救い出し、紅子と名づけ自分の孫娘として育てていた。雪山で一反もめんと遭遇。そのいきさつを話した。



水木老人 （声・田中康郎）

第104話に登場。ユメコの母の恩師で旅館を経営する。客足がめっぽう減ってしまった不安から鬼太郎に相談し、"妖怪と遊ぶ旅館"というツアーを企画するが、ぬらりひょんの陰謀で事態は思わぬ方向に……。



第百六話 とうふ小僧と山神

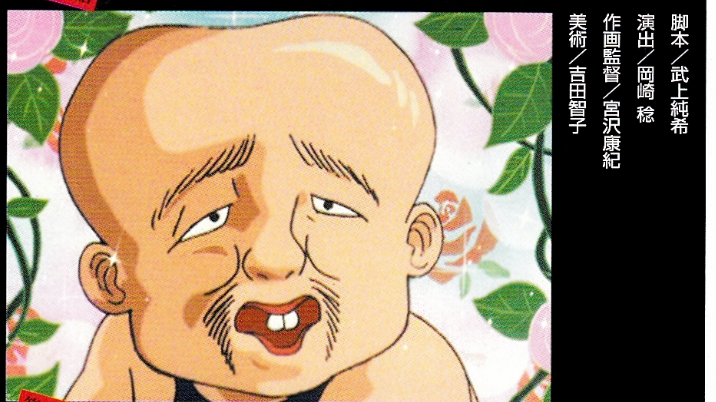
脚本／大橋志吉
演出／芝田浩樹
作画監督／松本朋之
美術／小林祐子



人間たちの自然破壊を怒ったとうふ小僧は、工事を中止させようと全身がカビだらけになる豆腐を配って食べさせた。その被害にあったねずみ男を救おうと鬼太郎たちがカビを取る。しかしカビはすぐに再生してしまう上、自分たちにも感染ってしまった。鬼太郎たちはカビを殺菌するために天井なめに来てもらい、その胃液をスプレーにした消毒液を作った。人間たちのカビも殺菌しようと、子泣きじじいとユメコが回っているところに現れたとうふ小僧は、二人を人質として捕らえ、鬼太郎たちに人間の味方をするのを止めるよう脅す。だがシーサーの機転で二人は救出され、やぶれかぶれになって戦いを挑んで来たとうふ小僧も鬼太郎に敗れた。するとそこに山神が出現。自分の体を心配して行動したとうふ小僧を許してやってくれと懇願。懲りずに再び自然を破壊しようとする人間に対し鬼太郎も彼らを懲らしめようと一計を案じた。

第百七話 ケムリ妖怪えんらえんら

脚本／武上純希
演出／岡崎 稔
作画監督／宮沢康紀
美術／吉田智子



銭湯で火元も無いのにボヤ騒ぎが起こり金銭を盗まれるという事件が続発。調査に乗り出した鬼太郎は煙の姿をした妖怪の仕業であることをつきとめるが、その正体には目玉おやじも心当たりがなかった。砂かけばばあに聞き、ようやく妖怪えんらえんらの仕業と知った鬼太郎は、えんらえんらのいた炭火小屋に向かった。だが、そこには昼間から酔い潰れた子泣きじじいの姿が。聞けば炭焼き小屋にいた老人が死んでしまい、えんらえんらは煙を求めて消息不明に。そして、子泣きじじいは悲しみに暮れ弔い酒をあおっていたのだ。さらに子泣きじじいの話では都会の煙は毒に侵されており、長く吸っているとえんらえんらは凶暴になるという。だが既に町では毒の煙の影響でねずみ男の指示も聞かず、煙を求めて暴れ回るえんらえんらの姿があった。そこで鬼太郎たちは香木を使ってえんらえんらを誘き出し、捕獲する作戦に出た。

第百八話 鬼太郎ファミリーは永遠に

脚本／星山博之
演出／葛西 治
作画監督／新岡浩美
美術／小林祐子

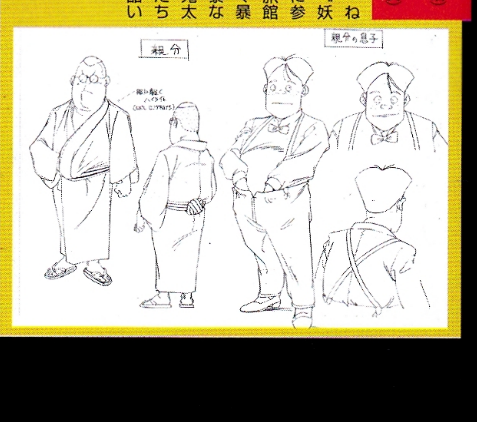


ぬらりひょんは自分を支持する妖怪たちを集め、人間を滅ぼしてこの世を妖怪の世界にするためにも、今度こそ邪魔者・鬼太郎抹殺の一大作戦を宣言する。そして鬼太郎が狸囃子の音に誘われて家を開けた留守中に目玉おやじが拉致されてしまった。残された脅迫状に従って柳川の土手に向かった鬼太郎はそこでねずみ男と出会うが、今回の事件には関わっていないらしい。しかし、そこにいた屋台をのぞくと突然炎が吹き上がって雷獣が襲って来た。なんとか雷獣を撃退した鬼太郎に、さらに妖怪たちが次々に襲いかかった。それこそがぬらりひょんの仕掛けた罠“本所七不思議の刑”だった。ねずみ男からその話を聞いた砂かけばばあらは鬼太郎を救うべく仲間に連絡し、七不思議の現場へと向かった。一方、鬼太郎は七不思議最後の場所、足洗い屋敷で目玉おやじを人質に取ったぬらりひょんと最後の対決のときを迎えていた——。

ぬらりひょん軍団との最終決戦！

親分（声・佐藤正治）息子（声・塩屋 翼）

第104話に登場。ねずみ男に騙されて“妖怪狩りツアー”に参加。水木老人の旅館で妖怪たちに散々暴力を振るった横暴な男たち。しかし鬼太郎によって妖怪たちの報復を受けて酷い目に遭った。



宏（声・冬馬由美）幸一（声・松井摩味）

第105話に登場。星郎の友達。めんこ天狗にめんこを誘われるが、バカにしたためめんこにされ拉致されてしまう。めんこ天狗にめんこの面白さを指導された結果か、一時的とはいえめんこで遊ぶようになった。

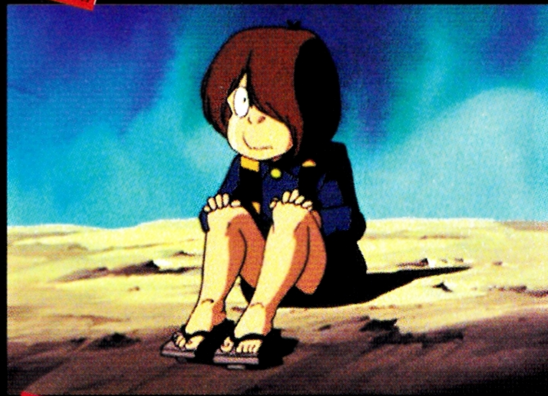


地主（声・屋良有作）工事関係者

第106話に登場。所有している山の木々を伐採して開発を推し進めようと考えていた。とうふ小僧の妨害にあってなお工事を中止せずに進めようとしていたが、鬼太郎を含めた妖怪たちから脅かされようやく工事を断念した。



第百九話 母を求めて地獄旅



脚本／武上純希
演出／芝田浩樹
作画監督／松本朋之
美術／吉田智子

ねずみ男は古道具屋で買った『ねずみ男一族の秘法』という怪しい本を手掛かりに枕石を掘り当てた。早速ユメコに使ってもらうと、その姿は消え去り続いて頭が触れたねずみ男も消えてしまう。この謎の石は地獄へと続いていると語る油すまし。鬼太郎はユメコを救うため、みんなの反対を押し切って枕石で地獄へ向かった。だが、着いた先は地獄と現世の間にあるねずみ男一族の村で、ねずみ男はここでは王様らしい。そしてねずみ男の母を見た鬼太郎は複雑な思いに駆られる。そんな鬼太郎の心を見透かしたように、ねずみ男の母はこの先に鬼太郎という息子のいる母親がいると教えてくれた。ユメコの後押しもあって、母に会いに行く決心をする鬼太郎。しかしそれは罠だった――ひとり残ったねずみ男に、母の仮面を脱いだサソリ女が襲って来た。母に会いに行った鬼太郎も母のにせものを使ったクモ男の待ち伏せに遭い、断頭台に縛られてしまう。

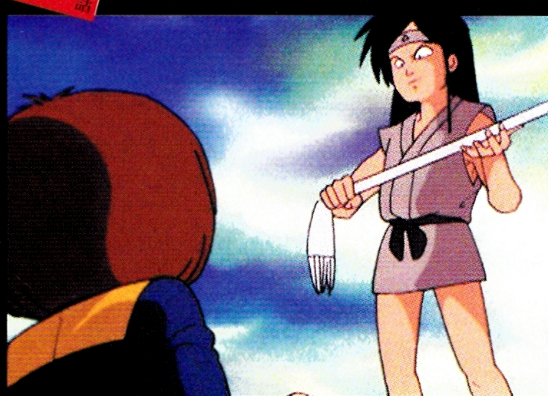
第百十話 血戦三途の川



脚本／武上純希
演出／葛西 治
作画監督／入好さとる
美術／金島邦夫、脇 威志

駆けつけた仲間たちと、秘術・亀の首で首狩り三人衆を退けた鬼太郎。この事件の黒幕が、天叢雲剣を抜いて地獄を支配してしまったぬらりひょんだということを鬼太郎たちはまだ知る由もなかった。ひとまず騒動に巻き込まれてしまったユメコと、人間界に赤ん坊を残したままの花子を再び人間界に戻す方法を見つけるため賽の河原へと向かう鬼太郎一行。賽の河原で石を積むことに絶望して三途の川へ飛び込んだ子供を助けるべく鬼太郎は川へ飛び込む。しかし子供はにせもので、鬼太郎には三途の川の番人ともいえる大蛇様が襲いかかって来た。またしても罠――河原に置いてきた妖怪道具を投げるよう指示するも、子供が一式持ち去ってしまった。それはぬらりひょんによって再生されただつえばばあの仕業だった。なんとか妖怪道具を取り返し、危機を脱する鬼太郎。そこへだつえばばあを成敗し、子供たちに救済の手を差し伸べようと地蔵菩薩が降臨した。

第百十一話 鬼太郎VS地獄童子

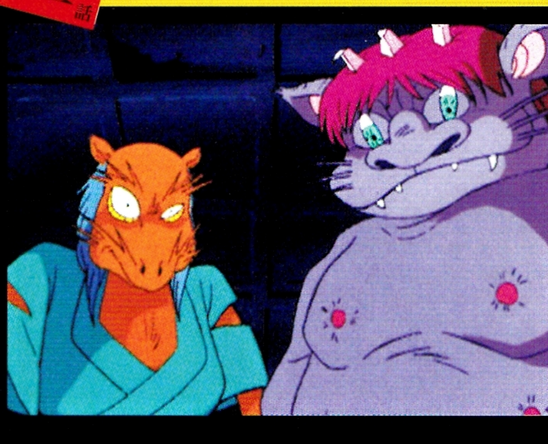


脚本／武上純希
演出／岡崎 稔
作画監督／宮沢康紀
美術／藤田 勉

まずはユメコを人間界に戻そうと、鬼太郎一行はエンマ大王に会いに行く。だが、地獄の鬼たちに取り囲まれ、鬼太郎たちはエンマ大王から死刑宣告されてしまう。エンマ大王すらも何者かに操られていることを悟った鬼太郎らはエンマ大王庁からの脱出を試みるが、その行く手に地獄童子と名乗る少年が立ち塞がった。鬼太郎と互角の戦いをする地獄童子。そしてその隙をついたエンマ大王の一撃で鬼太郎は捕らえられ一行は牢屋へ連行されてしまう。意識を失っているときに母の声を聞いた鬼太郎は、この絶望的な状況でも諦めずにみんなを救うため、カメレオンの術でひとり抜け出し逆転の鍵を探す。そこへ鬼太郎を導くように地獄ゼミが現れた。その導きに従ってエンマ大王庁の模型を見た鬼太郎は、背後にある火山のマグマを利用することを思いつく。しかしその火山には鬼太郎の行動を見抜いた地獄童子がひとり待ち構えていた。

母を求め鬼太郎は地獄へ――！

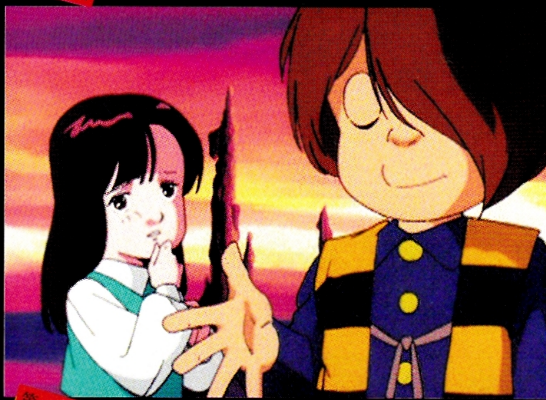
第百十二話 二大妖怪の罠



脚本／大橋志吉
演出／白土 武
作画監督／高田耕一
美術／金島邦夫

鬼太郎を抹殺するために鉄鼠と五徳ネコは、洞窟を崩壊させて仲間たちをバラバラに引き離し、地獄童子にユメコを拉致させる作戦に出た。その一方で、自分たちの結婚式を開くのに同族のねずみ男とネコ娘を連れて来て、それぞれの付き添い人を頼んでいた。鉄鼠と五徳ネコの元にユメコを連れて来た地獄童子は、代わりに自分の恋人・幽子の引き渡しを要求するが、不意をつかれ突き落とされてしまう。ユメコを人質に取られて呼び出された鬼太郎は、手出しができないまま十字架に貼り付けられ疱瘡婆に飲み込まれてしまった。しかし、この危機を地獄童子が救った。脱出した鬼太郎に疱瘡婆を倒されて逃げ出す鉄鼠と五徳ネコ。鬼太郎の代わりに傷を負った地獄童子を医者に診せると、地獄童子も鬼太郎と同じ妖怪と人間の間に生まれた子供であることが判明する。鬼太郎の血を輸血され回復した地獄童子は、幽子を救い出そうと鉄鼠と五徳ネコのところに向かった。

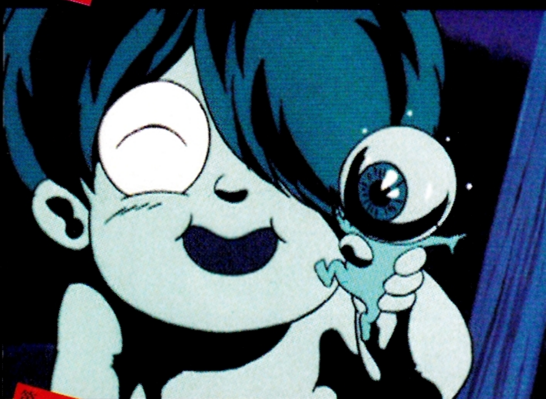
第百十三話 地獄武者の処刑作戦



脚本／武上純希
演出／芹川有吾
作画監督／松本朋之
美術／丸森俊昭

地獄の旅を続ける鬼太郎一行——だが人間であるユメコの体は確実に消耗していた。ついに針の山で熱を出して倒れるユメコ。しかし、針の山の先には何故か人間界が見えていた。急いで町の灯りの方まで行ってみると、そこにはユメコの家族が待っていた。不思議に思いながらも鬼太郎たちは安堵して体を休める。しかし、それもぬらりひょんの罠だった。ユメコの家族は、餓鬼である正体を現しこの罠を仕掛けた張本人である地獄武者が登場した。妖怪科学を応用した鎧に身を包んだ地獄武者の攻撃に鬼太郎は一敗地にまみれ、目の前でユメコをさらわれてしまった。ユメコを助けようと地獄武者に従って後を追いかけるねずみ男。ようやくダメージが消えて立ち上がった鬼太郎も地獄武者の研究室に向かう。それを待ち構えていた地獄武者は鬼太郎の目の前で、ユメコとねずみ男を餓鬼に変えてしまう装置の実験台に使うのだった。

第百十四話 血の池妖怪ヌルリ坊



脚本／武上純希
演出／芝田浩樹
作画監督／西城隆詞
美術／田中資幸

地獄ゼミの導きにより、ついに地獄の奥の院までやって来た鬼太郎一行——。その行く手に奥の院の番人・火男たちが立ち塞がった。仕方なく鬼太郎たちは後退するが、その先が血の池地獄になっていたため逃げ場を失ってしまう。もう最期のときと勘念した目玉おやじが鬼太郎の母について語り始めた。今明かされる目玉おやじと鬼太郎の誕生秘話。だがそこへ血の池地獄に住むヌルリ坊が出現。混乱で仲間たちは散り散りになってしまう。地獄童子に救われて目を覚ましたユメコは、地獄ゼミに導かれて鬼太郎の元に向かった。一方、鬼太郎は地獄の鬼に罰を受ける母にようやく再会することができた。そして、母を救うため自ら身代わりとなって地獄の責め苦を受けようとするが、すべては幻覚だった。そこについにぬらりひょんが姿を現す。手に持つ天叢雲剣の光に心を奪われないよう、目隠しをして鬼太郎は最後の決戦を挑んだ。

第百十五話 鬼太郎最後の出会い!!



脚本／武上純希
演出／葛西 治
作画監督／入好さとる、新岡浩美
美術／金島邦夫

ぬらりひょんの持つ天叢雲剣の前に倒れる鬼太郎。駆けつけた仲間たちも力及ばず倒れていく。この絶体絶命の危機に、地獄ゼミから鬼太郎の母の声が聞こえてきた。母の声に励まされ戦う力を取り戻した鬼太郎は、仲間の妖力波を吸収して力とした。その力は天叢雲剣を粉砕、ぬらりひょんを奈落の底へと落とした。勝利する鬼太郎ファミリー。元に戻ったエンマ大王に地獄から人間界に戻る道・胎内道を教えてもらい、地獄童子と別れの言葉を交わす鬼太郎。そして、そこ胎内道では鬼太郎の母が待っていた。ようやく再会を果たす母子。しかし、天叢雲剣の発した光の影響で、地獄界が不安定になっているため先を急がねばならなかった。と、そこに野望の潰えたぬらりひょんがヌルリ坊を連れて現れる。鬼太郎を道連れにしようというのだ。ユメコに救われた朱の盤の犠牲もあって窮地を脱出する一行。だが、出口を目の前にしたそのとき、ユメコに落石が……!?

弐拾之盤

鬼太郎の母が生き返る!?

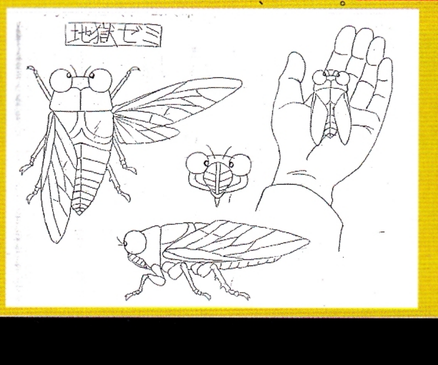
幽子
（声・江森浩子）

第112、115話に登場。地獄童子と恋仲になった幽霊の少女。地獄童子は、幽霊故に地上に出られない彼女のため地獄のために働いているのだ。彼女が鉄鼠と五徳ネコに人質にされたため地獄童子は鬼太郎と戦うことに。



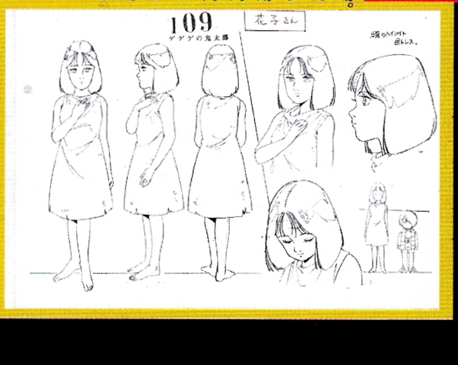
地獄ゼミ
（声・屋良有作）

第111～115話に登場。地獄を進む鬼太郎たちを導いてくれた謎の存在。その正体は、鬼太郎の母の意思を持ったものだったのか、母本人が化身していたものなのかは不明のまま。鬼太郎ファミリーの地獄旅を助ける。



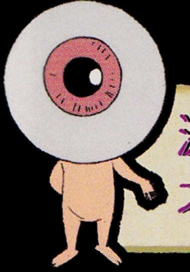
山田花子
（声・片石千春）

第109、110話に登場。生死の境をさ迷っていたところ、首狩り三人衆に脅され利用されることに。人間界に夫と生まれて間もない子供を残している。ユメコに譲られたサラメイアの鳩で無事に生き返ることができた。



ゲゲゲなんでもベスト五（ファイブ）

其ノ壱



激闘！名作！——
本作にちなんだベスト５を独断と偏見でピックアップ

鬼太郎激闘！ベスト五

第一位 VSぬらりひょん（第108、115話）
第二位 VSやまたのおろち（第79話）
第三位 VS地獄童子（第111話）
第四位 VS狸軍団（第56、57話）
第五位 VSかまなり（第36話）

様々な妖怪たちと戦った鬼太郎。中でも特に熾烈な戦いを極めたのが、ぬらりひょんとの戦いだ。幾度となく戦い、勝負は地獄にまでもつれ込んだ。
最も巨大で、呼子らの協力＝分身なしでは倒せなかったやまたのおろち、放送当時も話題となった地獄童子との戦いも忘れられない。
征服欲に取り憑かれた妖怪は数あれど、日本妖怪はもちろん日本国政府までをも追い込んだ狸軍団との戦いはまさしく〝戦争〟と呼ぶに相応しく手に汗握る緊張感に溢れていた。
また、鬼太郎個人の戦いとしては、勝ち目がないと言われた戦いに単身挑んだ、かまなりとの再戦も名勝負に挙げられるだろう。

嗚呼妖怪！ベスト五

第一位 だるま妖怪相談所（第8話）
第二位 半魚人の恋（第20話）
第三位 ざしきわらしと笠地蔵（第12話）
第四位 純愛ヌリカベとおしろい娘（第103話）
第五位 とうふ小僧と山神（第106話）

現代社会で生きることは、妖怪たちのほうが難しいのかもしれない。そんな現代における妖怪の生き様を描いた印象的なドラマ——まずはそんな妖怪たちが直面しているであろう問題を赤裸々に且つコミカルに描いた「だるま妖怪相談所」は特に記憶に残る。
人間となった妖怪の悲劇を描くことで人間社会を痛烈に風刺した「半魚人の恋」。昔ばなしを『鬼太郎』流にアレンジした「ざしきわらしと笠地蔵」。妖怪の子供と人間の情愛を描いた「純愛ヌリカベとおしろい娘」。山神ととうふ小僧の師弟愛「とうふ小僧と山神」と、現代社会の中で妖怪同士、また妖怪と人間の壁を超えて絆を深める彼らの姿も〝第3シリーズならではのドラマ〟といえよう。

ユメコと妖怪ベスト五

第一位 鏡じじい（第2話）
第二位 鬼太郎最後の出会い!!（第115話）
第三位 鏡地獄！妖怪うんがい鏡（第70話）
第四位 母を求めて地獄旅（第109話）
第五位 不思議な妖犬タロー（第88話）

本シリーズでのもうひとりのヒロイン＝ユメコ。彼女は妖怪と人間の橋渡し役として登場した。そんな彼女と鬼太郎や妖怪との絆を描いたエピソードを厳選。
まずはなんといっても鬼太郎、そして妖怪たちとの〝出逢い〟を描いた「鏡じじい」。鏡じじいとはその後も縁があり彼の濡れ衣を晴らすためにユメコ自身が活躍した「鏡地獄！妖怪うんがい鏡」。仙人の化けた犬＝タローとの絆を描いた「不思議な妖犬タロー」も忘れられない。鬼太郎との交流も要所要所で見られたが、地獄編で鬼太郎を慰める第109話や最終回での愛くるしい姿も忘れられない。

其之参

ゲゲゲの妖怪図鑑

〜登場妖怪大百科〜



あ行

赤頭

地球では平穏な生活が送れないと月で過ごしていた。だが、月にまで進出する人間に怒ってこれを滅ぼそうと、かぶそに“知恵の実”を授けて戦争をさせようと目論む。知恵の木の枝に乗って自在に月と地球を往き来できる。



（声・西尾 徳）

第93話登場

赤舌

千年間封印されていたが復活し自らの理想郷・千年王国建設のために起ち上がった。巨大な体と水を操る能力を有し、飲み込んだ者の水分を吸収してしまう。同種の仲間がいるようで妖怪ラリーでは中立的な立場で審判を務めた。



（声・屋良有作）

第35、51話登場

あかなめ

元々は風呂場に現れて桶に付いた垢をなめてくれる善良な妖怪。最近ステンレス風呂が増えたことを悩んでいた。その後、化学物質から生まれた未知の物質を食べて巨大化。暴れ回ったが、豊の木の浄化作用で元の姿に戻ることができた。

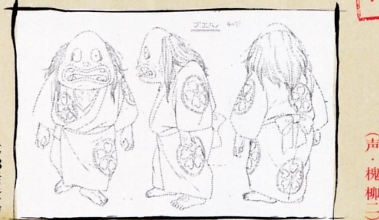


（声・つかせのりこ【第8、36、45話】 難波圭一【第33話】 頓宮恭子【第104話】）

第8、32、33、35、36、45、46、52、54、55、57、67、84、104、108話登場

悪魔ブエル

普段は医者の姿に化けている悪魔。自分に従う悪魔軍団を組織しようとした。腕の治療と偽って魔力を送り込む。そうして他人の腕を操り様々な失敗をさせては生きる希望を失わせ、目から発する怪光線で人間を悪魔に変えていった。



（声・槐柳二）

第63話登場

悪魔ベリアル

132年前に日本を征服しに渡って来たポルトガルの妖怪。封印されていた魔力が復活し日本妖怪を襲った。倒した相手の妖力を吸収して身に付ける他、体を目、耳、口、鼻、手、足の6つの球体へと分離できる。弱点は心臓。



（声・大木民夫）

第54話登場

悪夢の妖怪軍団

妖怪香炉から現れた鬼太郎に怨みを持つ妖怪たちの魂。たんたん坊、二口女、輪入道、夜叉、白山坊、おりたたみ入道、かまなり、うぶめ、おどろおどろの魂が実態化して鬼太郎を襲った。妖怪香炉の火が消され消滅した。



第86話登場

足洗い

本所七不思議・第七の不思議“足洗い屋敷”で待ち受ける妖怪。「足洗ってくれ～～」と言いながら、天井から巨大な足が降りて来る本所七不思議最大にして最後の仕掛け。天井裏にその本体が隠れていたが、日光に弱かった。

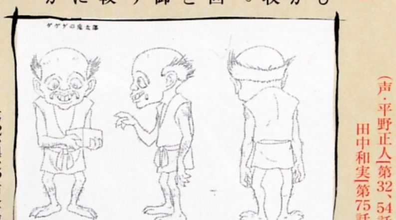


（声・銀河万丈）

第108話登場

小豆洗い

小豆連合軍のひとり。人間の顔から出た小豆の回収を担当していた。手に持った桶を回転させることでどんな攻撃も防御する楯として使うことが可能。比較的妖怪の集まりには顔を出すことが多い。



（声・平野正人【第32、54話】 田中和実【第75話】）

第32、54、75話登場

小豆はかり

小豆連合軍のひとり。太鼓を叩いてその音で、自分たちが作った小豆を食べた人間の顔から人間の栄養を吸収した小豆を生み出すことを担当していた。戦いにおいては、硬い小豆を投げて相手を怯ませる。

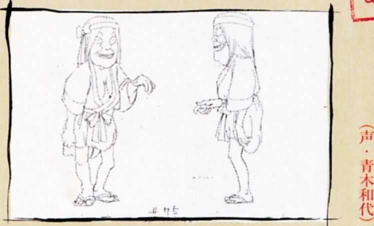


（声・塩屋浩三）

第75話登場

小豆ばばあ

小豆連合軍のひとり。メンバーの中では知恵袋的な存在で、色々な作戦を考えていた。戦いではクワを持って攻撃。すべてが終わった後は、鬼太郎の提案でゲゲゲの森の畑を使って小豆を作ることになった。



（声・青木和代）

第75話登場

穴ぐら入道

山奥の洞窟で暮らしていたが、人間の身勝手な欲望によって都会へと連れて来られてしまう。暗くて、冷たくて、ジメジメしたところが好きで、光が苦手。口から冷気を吐き出す他、大グモを操ることもできる。争いを好まない。

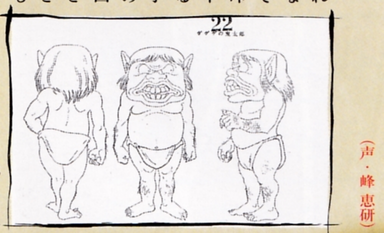


（声・石森達幸）

第64話登場

天邪鬼

長い間封印されていたが、孤独な老人・源次をそそのかしてその封印を解かせた。“サトリ”ともいわれる妖怪で、戦う相手の心を読んでその行動を寸前で回避することができる。また、恐るべき怪力の持ち主でもある。

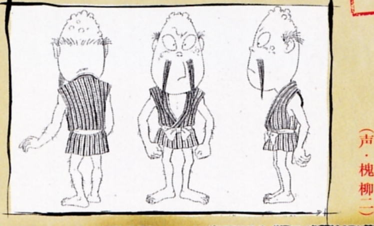


（声・峰 恵研）

第22、91、108話登場

あまめはぎ

明治20年から100年近く冬眠していた。子供の足の裏の皮が大好物。コマの達人で、巨大なコマも容易く操る。また自身をコマのように回転させることもできる。その体に生えているいいなり茸を食べると、丸一日あまめはぎに逆らえない。



（声・槐柳二）

第21、91話登場

あみきり

鬼太郎を助けて悪い妖怪と戦ってくれる頼もしい仲間のひとり。空を自在に飛ぶことができ、鋭い切れ味を持った両手のハサミを使って、色々なものをサクサク切り裂き、鬼太郎を好サポートした。

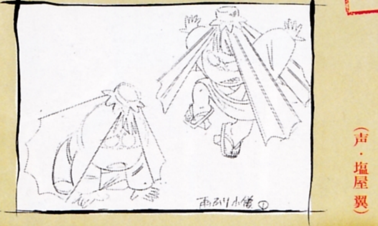


（声・塩屋 翼）

第36、52、72話登場

雨降り小僧

雨を自在に降らせることができる妖怪。ユムチャックにユートピアの番人を託されるが、内田にそそのかされて悪の道へ手を染めることになる。黒雲に乗って雨を降らせ、黒雲軍団を操り雷を使った攻撃を得意とする。



（声・塩屋 翼）

第83話登場

磯女（声・山口奈々） 赤ん坊（声・三輪勝恵）

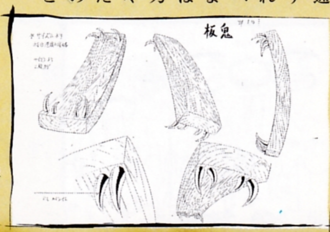
縄文時代から生きている母子妖怪で、気性は荒いが親子の情は厚い。石になって相手を溺れさせる赤ん坊と、溺れたものを飲み込む磯女のコンビネーション技を得意とする他、海水を竜巻にして撒くこともできる。



第7、70、85、98話登場

板鬼（声・なし）

百々爺の命令通りに働く。一見するとただの板切れにしか見えないが、飛び出した牙のような釘の切れ味は侍の刀にも勝る力を秘めている。百々爺の策略に従ったとはいえ、3人もの人間を殺すなど性質は凶悪無比。



第101話登場

井戸仙人（声・青野武）

中国妖怪から西洋の妖精まで幅広い知識を持っている仙人。面倒事は嫌いなようだが、鬼太郎の危機に駆けつけるなど、鬼太郎に期待を寄せているようだ。交友範囲も広く、妖精の国の女王とも顔馴染みのようである。



第68、90、104話登場

いやみ（声・飯塚昭三）

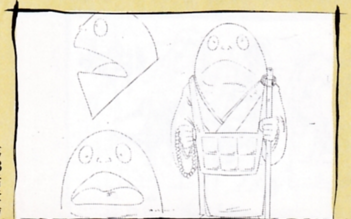
人間の幸福感を吸い込む妖怪で、別名・エロモドキともいう。吸い込んだ幸福感をイロ気という気体に変えることができ、吹きかけられた相手は骨抜きにされメロメロになってしまう。本体は大きな顔の単眼。弱点は人間の男性と同じく股間にある物体だ。



第48話登場

岩魚坊主（声・広中雅志）

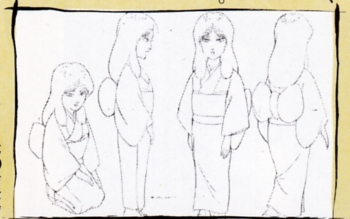
大きな岩魚の化身と言われている妖怪。とてもありがたいお経を唱えることで、邪悪な妖怪たちを岩の中へ封じ込める力を持っている。モウリョウに苦戦する鬼太郎の頼もしい味方として助けに現れた。



第53話登場

後神（声・池田昌子）

美しいその姿は、妖怪であっても男性であれば誰でも魅了する（目玉おやじは別だったが）。愛しあった人間の男性と花屋を持つことを夢見ていたが相手は事故で命を落とす。それを知らない後神は彼を捜しに町へとやって来たのだ。



第59話登場

ウブメ（声・杉山佳寿子）

子供に未練があるまま亡くなった魂が具現化した妖怪。目から怪光線を発射、羽で突風を巻き起こし、頭上から糞を落として攻撃。干してある布団に足跡を付ける習性があり、その布団で寝た子供は必ずおねしょするという。



第24、91話登場

海和尚（声・槐柳二）

元は托鉢をしていたお坊さんだったが、死んだ後、未練で亀に乗り移って妖怪となった。人喰い島に寄生して貢物で暮らしていたが、若い娘の肝を食べると人間に戻れると言い、生け贄を要求してきた。一度噛みついたら離れない。



第76話登場

海座頭（声・大竹宏）

瀬戸内海に住んでいる妖怪で、巨大な鮫をペットにしている。琵琶の音で過去の出来事を見せる能力を持っている。かつての戦いを忘れ、いまだに争っている人間たちの目を覚ますため次々と船を沈めていた。



第50話登場

海じじい（声・北川米彦［現・北川国彦］）

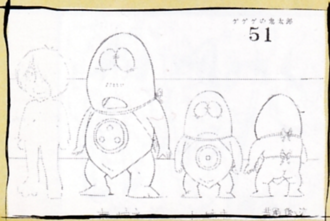
海に住んでいる妖怪。南極で大ナマズを氷詰めにした鬼太郎の声を聞き、救出してゲゲの森まで連れて来た。その昔、鬼太郎に助けられたことがありその恩義に報いるため液状になっていた鬼太郎を元の姿に戻した。



第57話登場

海坊主（声・塩屋浩三） 小坊主（声・坂本千夏）

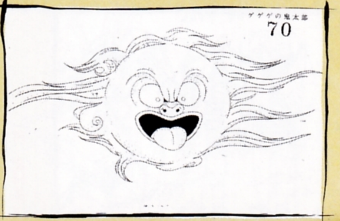
島にすんでいる海の妖怪親子。偶然ぬらりひょんが計画した世界妖怪ラリーの開催と、その裏事情を知って鬼太郎にすべてを伝えた。仲間の妖怪たちと、日本代表として正々堂々レースに臨んだ鬼太郎を応援していた。



第51話登場

うんがい鏡（声・大竹宏）

世界を支配しようと考えている妖怪で、仮の姿として普段は女子高生に化けている。目から妖力光線を発射するほか、鏡を使ったさまざまな妖力を使うことができる。その本体が銅鏡であるため、塩水に弱いという欠点を持つ。



第70話登場

えんらえんら（声・はせさん治）

元々は炭焼小屋の煙を吸うおとなしい妖怪だったが、炭を焼く老人が亡くなったためねずみ男に騙され、都会で悪事の片棒を担ぐことになる。煙のため物理攻撃が通用しない体を持つ。都会の毒によって凶暴になってしまった。



第107話登場

おいてけ堀

本所七不思議・第三の不思議“おいてけ堀”で待ち受ける妖怪。「おいてけぇ～～、おいてけぇ～～」と泣きながら、その長い腕で水底深くまで相手を引きずり込む。雷獣から受けた電撃を一気に放出させた鬼太郎に敗北した。



第108話登場

おおかみ男（声・平野正人［第46話］ 田中康郎［第51話］）

バックベアードの配下として手を貸したこともあったが、世界妖怪ラリーでは母国イギリスの代表として戦った。見かけは凶暴な性格の持ち主に見えるが、助けてもらった鬼太郎に恩義を感じるなど結構イイやつだったりする。

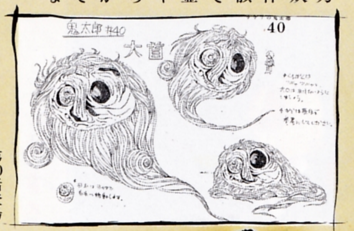


第46、51話登場

あ行

大首

霊魂を食べて力を強化していく妖怪。真空状態を作り出し、無数の骸骨を操ることができる。しかし、霊魂を食べる霊食キノコを植えつけられたことで能力が低下し、元の姿である巨大な石になってしまった。



（声・石森達幸）

第40話登場

大入道

昔は暴れ者だったが妖力が衰えてしまい、井戸を出るのが限界なほど体を壊したことから、女房である皿数えの世話になって暮らしている。皿だけしか食べられないという特異体質で、皿の上の食事は皿数えが食べる。

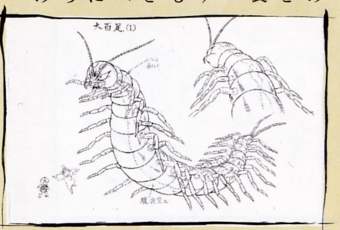


（声・大竹宏）

第97話登場

大百足

糸を使ってものを操り、畑などを襲わせて自分の食料を確保していた。口から吐き出す溶解液はなんでも溶かすことができる強力なものだが、それをシーサーによって破裂させられてしまい、自らの体を溶かすことに。



（声・大森章督）

第73話登場

送り提灯

本所七不思議・第六の不思議"送り提灯"で待ち受ける妖怪。第五の不思議"送り拍子木"に続き、第七の不思議へ道案内する役目があり、危害を加えることはない。幾ら追いかけても捕らえられない幻のような妖怪だ。

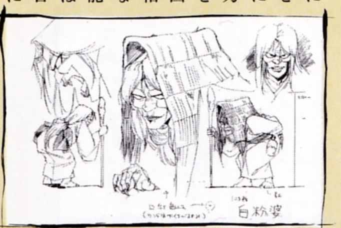


（声・川浪葉子）

第108話登場

白粉婆

妖怪大統領になるという野心を持ち、そのために女性妖怪一の妖力を持つ脂粉仙子を手に入れようと画策した。白粉で相手を固めて動けなくさせるという能力を持つ。最期は脂粉仙子の力に目覚めかけた紅子に敗れた。



（声・弥永和子）

第103話登場

おどろおどろ

死への不安から、妖怪おどろおどろに取り憑かれた科学者の末路。その体を維持するには新鮮な血液を必要とするため、息子の隆に子供たちを誘拐させていた。鬼太郎に敗れたことで、最期は人間の姿に戻って果てた。



（声・北村弘一）

第32、37、91話登場

鬼巫女

八百比丘尼の企みで、ユメコが般若の面を付けられて豹変した姿。鬼太郎への愛情をそのまま憎しみに変えられたため強い霊力があり火を使った攻撃を得意とする。妖怪殺しの奥儀として絵馬に魂を封じ込める能力を持つ。



（声・色川京子）

第100話登場

おりたたみ入道

箱の中などに自分の体を折り畳んで潜み、人の前などで突如その巨体を現して相手を驚かせる妖怪。巨大な口に飲み込まれた者は助からないと言われているが、体には隙間が多くそんなことはないようだ。

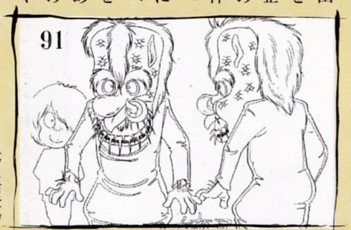


（声・大竹宏）

第13、91話登場

女夜叉

ヒ一族を作り出して日本妖怪を全滅させようと企む中国妖怪。そのためヒ一族から神と崇められている。しかし金蚕虫に倒されてしまい、自分の秘伝の技を後世に伝えるためにもと、ヒ一族のすべてを目玉おやじに語った。



（声・津田延代）

第91話登場

か行

陰摩羅鬼

死者の肉体に乗り移ることができる妖怪。死んだばかりのルリ子の肉体を使って、ユメコの叔父・伊集院の財産を奪おうと考える。だが鬼太郎に見破られ逃走したところで愛を踏みにじった代償として退治される。



（声・北村弘一）

第49話登場

鏡じじい

ユメコの姿を奪って自分のものにしようとした。鏡合わせの術など様々な鏡の妖力を身に付けている。原宿にある骨董品店のショーウィンドウで女の子の姿を見ながら余生を送ることに。ユメコ曰く「ちょっとHでロリコン」。



（声・宮内幸平）

第2、32、35、46、52、70、80話登場

餓鬼

地獄に落ちてなお人間を食べて生き長らえている妖怪たちで、昔、猛威を振るったときに人間によって入らず山に封印されていた。村人たちの牢にワインを流し込み、漬け込んで食べようとするなど味にはうるさい。



（声・掛川裕彦、小林通孝、堀川亮他）

第77話登場

火車

死者の肉体を連れ去って、古くなった己の肉体と交換して生き長らえてきた妖怪。だがその妖力は秘密とされていた。強い妖力を持った鬼太郎と魂を交換したため鬼太郎が傍若無人な態度に出ることに。好物は餅で、それが身を滅ぼすことに。



（声・平野正人&山本圭子）

第62、108話登場

がしゃどくろ

妖花の木が咲く島で、死者たちが眠る墓の番人を勤める妖怪。巨大な体と強固な骨を持っている。融通の利かない性格で墓を守ろうとして島に誰ひとり入れなかったため、墓に眠る死者の魂は淋しい思いをしていた。



（声・田中康郎）

第71話登場

風の神

2回目の登場以降"風神"と呼ばれる。手に持った袋は無限に大きくなり、そこに詰まった大量の風を吹き出して凄まじい突風を起こす。鬼太郎はその風に乗って飛ぶように自在に空を翔けた。鬼太郎を助ける妖怪である。



（声・はせさん治（第14話）田中和実（第63、69話））

第14、63、69話登場

風の又三郎

季節風の妖精たちを導く案内人。工事中止のために誘拐した風子の奔放な性格にいつしか惹かれていった。大きなカラスに化け、その羽で巻き起こす風の威力は強力。鬼太郎の見立てでは天狗一族の子供であるらしい。

（声・難波圭一）

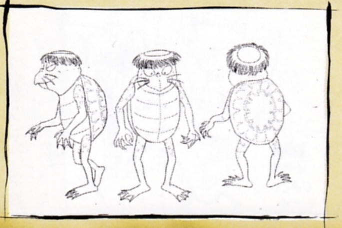


第69話登場

カッパ

比較的ポピュラーな妖怪だ。同じカッパでも形態は様々で、さら小僧を手助けした一つ目入道、ミシッチたちや星郎と入れ替わった三吉など部族が分かれているようだ。人間の尻子玉が好物ということに変わりない。

（声・平野正人 他）



第7、31、43、52、54、84、85、94、98、108話登場

金霊

鬼太郎を助けて戦う。硬貨が魂を持った姿だが、その大きさはマンホールの蓋よりも大きい。鬼太郎を乗せて空を飛ぶことも可能で、そのキラキラとまぶしい体で百目の目を眩ませて退治に協力した。

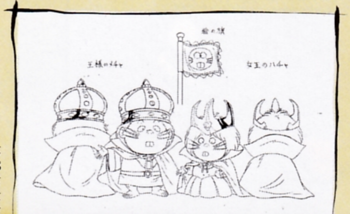


第65話登場

かぶそ

本来は木に住む妖怪だったが、"知恵の実"によって急速な進化を遂げ、文明を手に入れた。その最初の二人ということで、ハチャとメチャが女王と国王になる。しかし性格は攻撃的になってしまった。

ハチャ（声・つかせのりこ）
メチャ（声・大竹宏）



第93話登場

かまいたち

素早い動きと、そのスピードから巻き起こす疾風であらゆるものを切り刻む。反面その動きを止められると弱く、一反もめんに巻き付かれて手も足も出なくなった。後に鬼太郎と和解し、ファミリーに加わる。

（声・大竹宏〈第1話〉 広中雅志〈74話〉）



第1、32、74話登場

ガマ仙人

不入山の樹齢3千年という木の中に住んでいる仙人。異次元ドアを通って、妖力を無効化してしまう妖怪関ヶ原へと移動することができる。今回の騒動にあっても「100年は若返った」と言い放つほど懐の広い人物（?）である。

（声・青野武）



第41話登場

釜なり

釜の中に異次元空間を持ち、自分の世界を作ってそこで暮らしていた。子供たちの度重なるイタズラで釜を奉る祭壇を壊され、鬼太郎の髪の毛を奪って復讐しようと企んだ。釜の中の異次元空間では使える能力が増す。

（声・田中康郎）

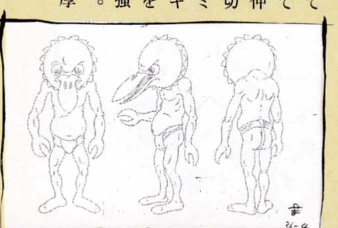


第36、91、108話登場

かみきり

鬼太郎を助けて悪い妖怪と戦ってくれる頼もしい仲間。その両手は切れ味抜群のハサミになっていてチョキチョキと目標物を切り、鬼太郎を強力にサポートする。味方として信望厚い存在。

（声・戸谷公次〈第64話〉）



第36、64、80、104話登場

髪様

今まで島を守ってきたが、自分の存在を忘れられた怒りから生け贄を要求した。普段は八咫の鏡の中に潜んでいる。髪の毛を操る妖力を持ち、自在に動かすだけでなく電気を流すことも可能。本当は島民を愛する優しい妖怪だ。

（声・野本礼三）



第72話登場

かみなり

山奥に住む電気妖怪で、雨山博士の開発した機械の実験で電気エネルギーを奪われたと勘違いし、人間に不信感を抱いて攻撃するようになる。雷を放射する攻撃が得意技。頑固者だが、根はいい妖怪である。

（声・郷里大輔〈第23話〉 田中和実〈第82話〉他）



第23、82、106話登場

からかさ小僧

別名バケ傘。飛行能力があり、仲間を足に引っ掛けて移動することも可能。自分たちを"カサコプター"と呼ぶお茶目な一面もある。かみなりとの戦いでは体に特殊なコーティングを施し、電気を絶縁するなどの小技を披露。

（声・小林通孝〈第23話〉 平野正人〈第26、83、104、106話〉他）



第6、23、26、40、46、50、54、68、75、79、83、84、94、102、104、106、108話登場

カラス天狗

妖怪警察の警官たちで、遠い昔より悪い妖怪から人間を守って戦ってきた。エンマ大王の指令の下、様々な任務に就いている。妖力を使って戦うよりも、集団戦法で相手を追いつめる戦術を得意としている。

（声・平野正人、小野坂昌也 二又一成、広中雅志 他）



第32、54、61、102話登場

カラス天狗 長老

132年前、ベリアルの魔力を封じ込めたカラス天狗の長老。だが、そのため復活したベリアルの第一目標にされ今度は自分が封じ込められてしまう。高い妖力の持ち主と思われるがさすがに老齢故油断していたようだ。

（声・宮内幸平）



第54話登場

迦楼羅

千手観音を守った二十八武衆のひとり。唯一牛鬼を退治したことのある神様で、神の中でも別格の存在のようだ。鬼太郎に取り憑いた牛鬼を封印した後も、村人に対して自然と掟を守るよう厳重に注意を促して去って行った。

（声・内海賢二）



第42話登場

かわうそ

オベベ沼に棲む妖怪で、誤解で村人に迫害されたため、怒ってイタズラを繰り返していた。ひねくれ者に見えるが本当は淋しがり屋。自給自足が可能な、巨大なまぐりのような船を持ち、後に鬼太郎に協力するようになる。

（声・小宮山清 田中和実〈98話〉）

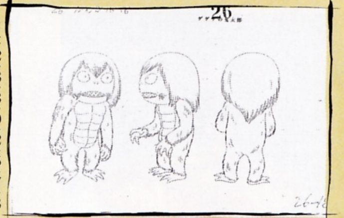


第31、46、52、54、71、85、98、104話登場

がんぎ小僧

（声・八奈見乗児）

野球対決では妖怪チームの7番ショートとして活躍したカッパ一族の一勇。百々爺に騙されて一度だけ鬼太郎ファミリーと戦ったこともあるが、基本的には頼れる仲間。鉄ですら噛み砕く強力な歯が最大の武器だ。

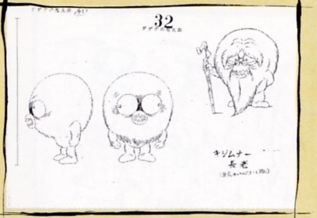


第32、38、43、50、52、55、67、68、80、84、85、104、106、108話登場

キジムナー

（声・田中和実、小林通孝 他）

沖縄の小妖怪で長老（声・佐藤正治）、ボクデン（声・龍田直樹）らもその一族だ。あまり戦闘に長けておらず、常に守ってくれるような強い妖怪たちに従っているようだ。沖縄にいる一族から離れて暮らしている者も存在する。

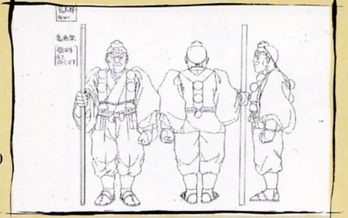


第32、73、104話登場

鬼道衆

（声・大森章督、佐藤浩之 他）

1000年前から存在する妖怪狩りのエキスパート集団で"妖怪必殺仕掛人"とも呼ばれる。顔に妖力を防ぐお札を貼り六角昆を武器に集団で戦う。八百比丘尼に絶対の服従を誓っておりその霊力で数百年生き長らえている。



第100話登場

木の子

アタマ（声・青羽美代子）　オコリ（声・頓宮恭子）
シャイ（声・柳沢三千代）　ナキ（声・佐藤智恵）
ノンキ（声・松井摩味）

天狗の森にある木の葉道を通ってたどり着く、異次元にある妖怪の森で暮らしている子供の妖怪たち。木の葉を使った技を持ち、木の葉で固めて相手の身動きを奪うこともできる。みんなモモコが大好き。



第89話登場

牛鬼

本体は生きた気体であり、これが生物に取り憑いて細胞を変化させることで牛鬼へと姿を変える。そのため倒しても倒した相手の肉体に取り憑き、新しい牛鬼となってしまう。まさしく不死身の妖怪といえるだろう。



第32、42話登場

吸血鬼ピー

（声・大竹宏）

100年近く棺桶に眠っていた西洋の吸血鬼。おシャレなのか、常にシルクハットと靴を身に付けている。血を吸った者を吸血鬼に変える能力があり仮死状態の鬼太郎をも吸血鬼に変えてしまうほどの力を持つ。

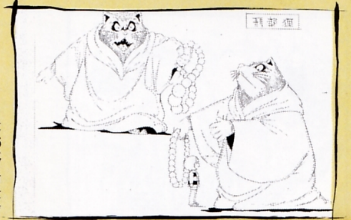


第61話登場

刑部狸

（声・柴田秀勝）

八百八狸のボス。強力な妖力の持ち主であり、手に持った数珠に念を込めることで、工事用車輌を宙に浮かしたり、妖怪獣をコントロールすることなどが可能。あらかじめ鬼太郎に呪いをかけるなど用意周到な性格の持ち主。



第56、57話登場

空狐五人衆

（声・塩屋翼　塩沢兼人 他）

天狐の下で狐一族を指導する立場にある狐たち。女性に化身して人間を惑わせたり、分身の術で敵を撹乱するなど妖術に長けている。鬼太郎との戦いでは分身には影がないという弱点を見破られてしまう。



第18話登場

草かまいたち

（声・戸谷公次）

本所七不思議・第四の不思議"片葉の葦"で待ち受ける妖怪。その両腕の鋭い鎌と、手裏剣のように相手を切り刻む葦の葉が武器だ。鬼太郎のカメレオンの術で背後を取られ妖怪笛のムチで木に叩きつけられて倒された。

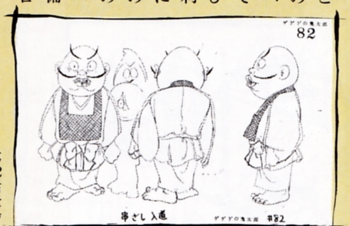


第108話登場

串刺し入道

（声・峰恵研）

自身の能力として手から無数の針を飛ばすほか、首の部分が外れて巨大な針が飛び出して敵を串刺しにする。さらに標本にした動物の能力を自分のものにする力がある。また、万が一に備えて無数のムクロを従えている。

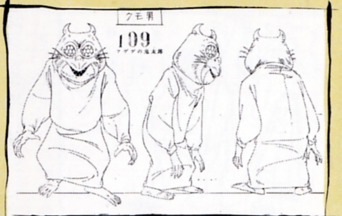


第82話登場

クモ男

（声・屋良有作）

首狩り三人衆のひとり。誘き出された鬼太郎の隙を突いて捕らえることが使命。口から吐き出すクモの糸で獲物を絡め取り、その自由を奪ってしまう。偽りの母を利用したその悪行に怒り心頭の鬼太郎に逆襲される。

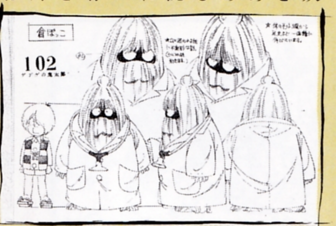


第109、110話登場

倉ぼっこ

（声・はせさん治）

恐山にある妖怪病院で医師を務める。妖怪であれば善悪や国境の違いなく診察するためか、妖怪病院が悪妖怪に襲われることは殆どない。しかし世界でも有数の医療技術を持っているため外国妖怪の標的にはなりやすい。

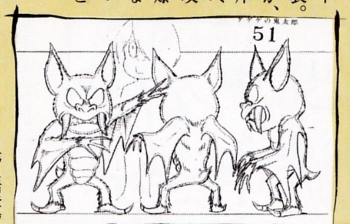


第96、102話登場

グレムリン

（声・はせさん治）

世界妖怪ラリーのソビエト連邦代表。自信満々だったが、レース序盤の湾岸線コースでバックベアードの怪光線攻撃を受けて車は爆発炎上。不名誉な世界妖怪ラリー・リタイア第1号となってしまった。



第51話登場

毛羽毛現

（声・大竹宏）

恐竜時代から生きている古代妖怪。ふらり火という巨大な鶏に似た妖怪に乗って空を飛ぶ。現代人の作り出す機械を嫌い太古の時代に戻そうと考え、子供たちを捕らえて魂を抜き取っては恐竜の姿に変えていた。

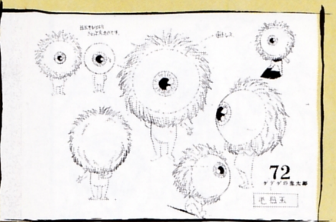


第17、91話登場

毛目玉

（声・はせさん治）

髪様を奉っている神社の神主を勤める。島民に髪様の意思を伝えることが主な仕事だが、最近は島も寂れてきて島民からのお供えものは滞っていた。戦闘力は皆無に等しいが、髪様のため懸命に働く。目玉おやじの親戚でもある。



第72、91話登場

ケラケラ女

（声・青木和代）

常に笑みを浮かべている妖怪で、笑いの世界に住んでおり子供たちの顔に笑顔が消えてきたことを憂い、手下の妖怪・ヘンラヘラヘラを使って騒動を起こした。持っている笑い粉を浴びると一生笑いが止まらなくなる。

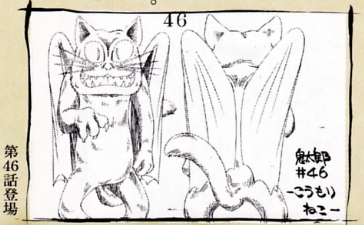


第95話登場

こうもり猫

（声・矢田耕司）

アメリカ出身の妖怪だが、大統領選挙に敗れて国外追放されてしまった。催眠術や吸血象の召喚など日本の妖怪とは異なった魔力を持っている。最後は日本の妖怪に敗北し、行く当てもなく飛び去った。

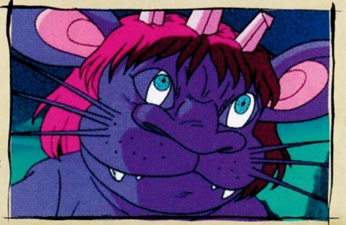


第46話登場

五徳ネコ

（声・伊倉一恵）

地獄でぬらりひょんに従う妖怪のひとり。身長2m、体重210kgの巨体を誇り、腕力も相当なものだ。しかし頭の角を切られるとネコの本能に逆らえなくなるという弱点を持ち、そのため愛する鉄鼠を食べようとした。



第112話登場

さ行

孤者異

（声・銀河万丈）

本所七不思議・第二の不思議"灯りなしそば"で待ち受ける。「死ねぇ、死ねぇ」と泣きながら池から現れ、鋭い爪で相手を引き裂く。だが、今回は逆に鬼太郎の妖怪笛のムチによって、自分が切り刻まれてしまった。

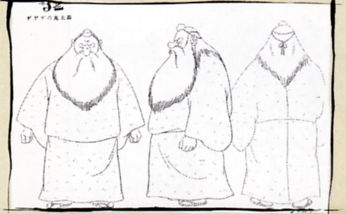


第108話登場

裁判官

（声・屋良有作）

妖怪裁判所の裁判長を務めている大天狗で、エンマ大王の代行人であるらしく鬼太郎の裁判のすべてを取り仕切った。しかし、百々爺の計略にまんまと引っ掛かってしまい、無実の鬼太郎を冤罪で裁いてしまう。

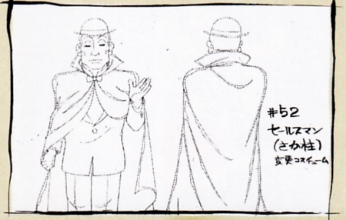


第32話登場

逆柱

（声・矢田耕司）

古い家の柱が妖怪となった。また昔のように家族に囲まれて平穏に暮らすことを夢見て、お金を貯めようと悪事に手を染めてしまう。鬼太郎を踊り殺そうと、ゲタを自分の体から作ったにせ物とすり替えた。

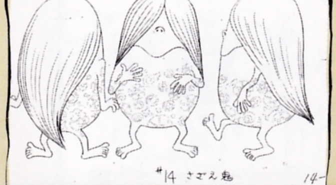


第52話登場

さざえ鬼

（声・千葉順二
戸谷公次〔第98話〕）

300年間生きてきたさざえが細胞を変化させ、なんにでも化けられるようになった妖怪。ペシャンコになっても平気な生命力を持つが、公害によって体を壊し元の体を取り戻すべく鬼太郎を食べようとした。後に仲間となる。

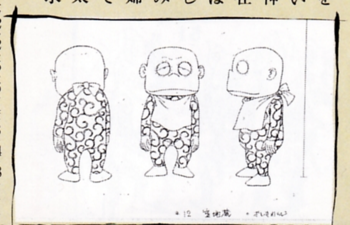


第14、32、35、52、84、85、98話登場

ざしきわらし

（声・山本圭子）

家庭に幸せを運ぶと言われている妖怪で、疫病神とは正反対の存在である。その姿は子供と妖怪にしか見えない。住みついた先の老夫婦をなんとか救ってやりたいと、鬼太郎たちに助けを求めた。

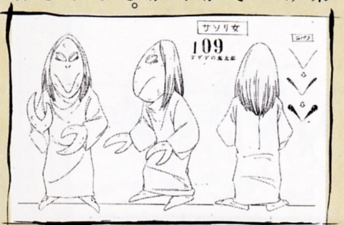


第12、32、35、46、54、68、104、108話登場

サソリ女

（声・上村典子）

首狩り三人衆のひとり。ねずみ男の母親に化け、鬼太郎を騙して罠にかけることが使命。両手のハサミからなんでも溶かす毒液を噴射する。用の済んだねずみ男を始末しようとするが、子泣きじじいの"漬物石殺法"に敗れた。

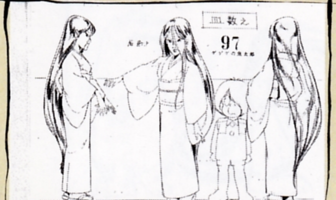


第109話登場

皿数え

（声・土井美加）

皿を操ることができる妖怪で大入道の女房である。自分の体を皿にするだけでなく相手も皿にしてしまう他、相手を操って踊らせる"皿踊り"、皿の上に乗った者を眠らせる"眠り皿"など、皿を使った技を数多く持っている。



第97話登場

さら小僧

（声・古谷徹）

自称"カッパ一族一の美声の持ち主"だが、本当は建物を破壊するほどの恐るべき音痴である。カッパの中でも強い立場にいるらしく、強引に仲間を従えていた。頭の皿を刃物のように投げたり"皿レンズ攻撃"という技を持っている。



第43話登場

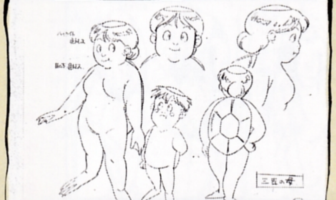
三吉

（声・三輪勝恵）

三吉の母

（声・上村典子）

カッパでありながら人間に憧れている妖怪で、たくろう火によって星郎と体を入れ替えるが、一日と経たずに自分が人間に向いていないことを知る。人間の体になっても手に水かきがあり、長時間の水中活動も平気のようだ。



第85話登場

三虫

（声・塩屋翼）

人間の体の中にいて、働いた悪事をエンマ大王に報告することが役目。ねずみ男の体内にもいるが、今までと違い罪もない老人たちを騙して多額のお金を巻き上げるという悪事に至ってようやく報告に出て行った。



第55話登場

地獄の番犬

だつえばばあの持っている万有自在玉によって操られる。その力は鬼太郎たちを圧倒するほど。しかし、コントロールされている万有自在玉を破壊されると途端に大人しくなってしまった。



第39話登場

地獄武者

（声・大竹宏）

ぬらりひょんの組織した地獄軍団の最後のひとり。その正体は天叢雲剣の光によって操られた夜行さんだった。身にまとった鎧は妖怪科学で作ったもので、鬼太郎の体内電気を妖怪電池を使って再現している。首なし馬に乗って戦う。



第113話登場

さ行

地蔵菩薩

天上界にいるありがたい菩薩様。賽の河原で石を積む子供たちを救済するため地獄へと降りて来た。人限界に戻ることができる"サラメイアの鳩"を持っていて、鬼太郎たちに一羽渡した。なんでも見通す眼力を持つ。

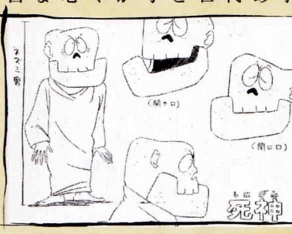


（声・八奈見乗児）

第110話登場

死神

死人を地獄へ案内することを仕事にしていたが、辞めて鬼太郎になり代わり先々はこの世を支配しようと考えた。口先三寸で相手を騙すのが得意。口から吐くガスを浴びると老化が進み、そのまま放っておくと白骨化してしまう。

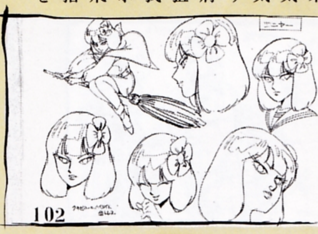


（声・あずさ欣平）

第44話登場

ジニヤー

アラビアから来た魔王の娘。病気になった父に元気になってもらおうと、日本の妖怪病院の医者たちを狙った。自由奔放、我がままな性格でホウキに乗って空を飛ぶ。右手に輝く指輪で様々な魔法を繰り出す。

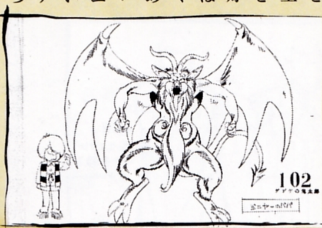


（声・富沢美智恵）

第102話登場

ジニヤーの父［魔王］

アラビア全土を支配している魔王で、人間に悪事をするのはあまり好まないが、最近は体の調子が悪く部下の勝手を止められなくなっている。娘であるジニヤーには相当甘いらしく、そのピンチに日本まで駆けつけた。



（声・塩屋浩三）

第102話登場

邪魅

200年間カエルにされていたが、ねずみ男を騙して元の姿に戻った。淑やかな女性に変身することもできる。口から吐く息で、相手を思うがままに操る。最後は再びカエルにされてしまった。



（声・銀河万丈）

第41、91、108話登場

シルクハット狸

刑部狸の下で狸たちを指揮するが、主に頭脳労働的な行動が多かった。狸城建設のため人間たちにヒドい仕打ちをしてきた報いか刑部狸の妖力が消えた途端、人間たちの逆襲に遭い、哀れ鉄骨の下敷きとなってしまう。

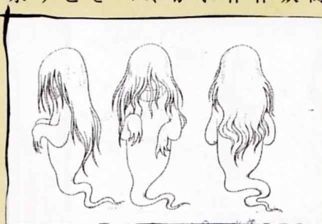


（声・千葉繁）

第56、57話登場

水虎

壷の中に長い間封印されていた妖怪。水のような体を持ち、子供の体内へ進入して思い通りに操ることができる。また様々な形態に変化でき、戦うときは大きな虎の姿になることもある。繁殖するためにメスの水虎を捜していた。



（声・大竹宏）

第9、91、104話登場

水虎

世界妖怪ラリーの中国代表。かつて鬼太郎と戦った水虎とは同族のようだが、容姿はまるで違う。地道な走りで高位置をキープしていたが、フランケンシュタインの謀略によって吊り橋ごと落下してリタイアしてしまう。

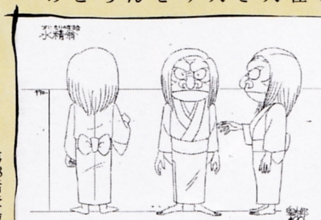


（声・田中和実）

第51話登場

水精翁

水の守り神と呼ばれている妖怪で、海で死んだ人間から猛霊を作り出す。人間が神聖な祭りを汚したと腹を立て、猛霊はっさんを使って人間たちに罰を与えようとした。弱点はその大きな鼻。

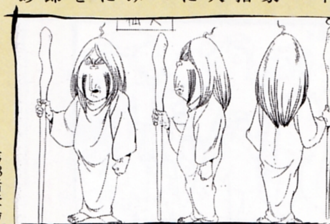


（声・宮内幸平）

第98話登場

仙人

チベットで3000年間修行した仙人。この世の森羅万象すべてに悟りを拓いたという。仙人の中でも高い位にあると思われる。目玉おやじの頼みで、最近むやみに戦うことで解決を図っている鬼太郎の目を覚ますため日本へ来た。



（声・清川元夢）

第88話登場

葬頭河婆

あの世に住んでいる妖怪で、鬼太郎を倒して日本妖怪の頂点に立とうという野望を抱いた。普段は上半身裸で入浴をしているような姿だったため、時を戻された影響で若返ったときは大変だった。



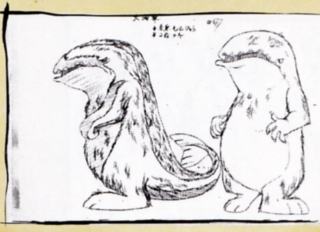
（声・山本圭子）

第46話登場

た行

大海獣

ニューギニアの奥地で生存が確認された、3億年前に絶滅したはずのクジラの祖先・ゼオクロノドン。その生態の謎を解き明かすことができれば人間の寿命も延ばせるだろうと言われている。その血液を注射された鬼太郎も大海獣となる。



第67、68話登場

大蛇さま

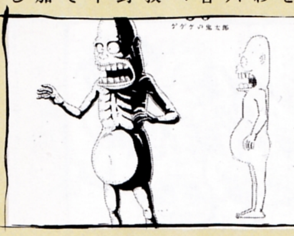
三途の川に棲んでいる巨大妖怪。三途の川に船以外で渡ろうとする者を攻撃する習性がある。巨大な体を持ち、人間くらいの大きさならひと飲みにしてしまう。鬼太郎を飲み込もうとするが、妖怪剣で眉間を刺されて絶命。



第110話登場

ダイダラボッチ

ものを生む土地の神とも、破壊を呼ぶ魔神とも言われる巨人。体をバラバラにされて各地に眠っていたが、ダイダラボッチ教の信者によって封印を解かれる。本能のままに暴れていたが、頭脳を加えたことで大人しくなった。



第60話登場

たくろう火

怠け者で他人を働かせて自分は楽をしようとしている。星郎たちを騙してカッパ天国に侵入、炎の天国に変えて支配しようとしていた。3体が合体した姿で、その強力な火炎を武器とする。水には弱い。



（声・龍田直樹 他）

第85話登場

蛇骨ばばあ

その知恵と妖力はほかの妖怪からも一目置かれていて、妖怪の間では医者のようなことをしている。ぬらりひょんに手を貸し共に原始時代に流されたが、やはりいつの間にやら復活。地獄では疱瘡婆の正体を現した。

（声・山本圭子）

第4、108、112話登場

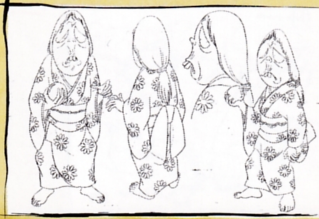


だつえばばあ

地獄にある賽の河原で亡者の衣服を剥ぎ取って罪の重さを計る役目を持つ。しかし自分の使命に嫌気が差して、人間の魂で作ったスープを飲んで若さを取り戻そうとした。万有自在玉で鬼や地獄の番犬を操った。

（声・増山江威子［第39話］鈴木れい子［第110話］）

第39、110話登場

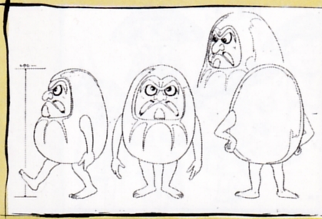


だるま

妖怪の悩み相談所・だるま商事を起こすが、妖怪たちも不景気で儲からず、ねずみ男の入れ知恵で方針転換してアパートを乗っ取ろうとする。腹からたくさんの子だるまを出す。そのうち色の違う1体は自身の心臓で、弱点でもある。

（声・滝口順平［第8話］大竹宏［第26話］田中康郎［第55、68話他］）

第8、26、32、35、52、54、55、57、68、84、94、108話登場



団十郎狸

刑部狸の下で狸たちを指揮して主に最前線で戦っていた。狸たちからは親分と呼ばれる。鬼太郎たちを人質にしたとき戦利品として一反もめんを自分のふんどしにしたものの、泣かれると変な誤解を受けると困っていた。

（声・西尾徳）

第56、57話登場

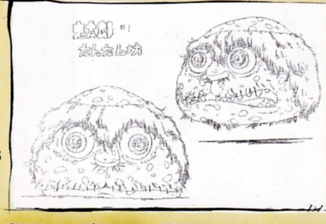


たんたん坊

巨大な頭だけの不気味な妖怪。口から吐き出す唾液を浴びた者は石のように固められてしまう。その巨大な目には強力な妖力が秘められている。妖怪城のボス的存在で、自分たちの存在を認めなくなった現代人に復讐しようとした。

（声・田中康郎）

第1、91、108話登場



辻神

ぬらりひょんの空の乗りものとして活躍する妖怪。一反もめんに似ているが、同じ九州出身という以外に関係はないようだ。ぬらりひょんの最後の部下として現れたが、活躍の場もなく岩の下敷きになって果てた。

第115話登場



土ころび

山奥で人間が暮らし始める前から土地に住んでいた妖怪。だが、人間の作ったダムのために棲み処が水底に沈んでしまい、復讐のため電気を止めていた。電気を吸い取ると巨大化する能力を持っている。

（声・槐柳二）

第38話登場

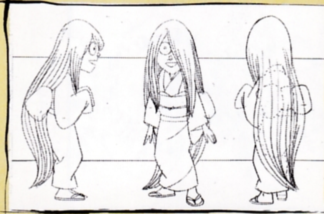


つらら女

鬼太郎を助けて戦いに参加する妖怪。鬼太郎の仲間としては唯一の冷凍妖怪で、その能力には鬼太郎も大いに助けられた。口から冷気を噴き出して凍らせる能力の持ち主で、自分より大きなものでも凍結させることが可能。

（声・丸尾知子）

第84、90、94話登場



つるべ落とし

鬼太郎に協力的な妖怪のひとり。その巨大な顔＝体を頭上から落として敵を怯ませることが得意技である。“つるべ”とは井戸水を汲み上げる桶のことで、それと同じような猛スピードで落ちてくることからこの名がついた。

（声・平野正人）

第35、36、84話登場



つるべ火

炎の妖怪五人衆の一勇で、鬼太郎に協力する頼りになる妖怪。その炎は闇夜を照らす灯から、敵を焼き尽くす業火まで自在に変化する。後に妖怪戦車のヘッドライト兼火炎放射器として大活躍する。

（声・田中和実［第94話］）

第36・91・94話登場

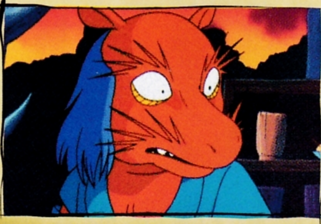


鉄鼠

地獄でぬらりひょんに従う妖怪のひとり。その体は鉄のように硬く、大抵の攻撃は跳ね返してしまうほど頑丈。初めてねずみ男の前に現れた本当の血縁関係者らしく、五徳ネコとの結婚式の付添い役を頼んでいた。

（声・池水通洋）

第112話登場



手長&足長

建設工事によって封印が解け、300年の眠りから覚めた妖怪。妖力に長けた手長を、攻撃力のある足長が背負っているコンビ妖怪で、自分たちを封印した大ダコを憎み、復讐のためタコの頭を違う動物に変えていた。

手長（声・田中康郎）
足長（声・龍田直樹）

第81話登場

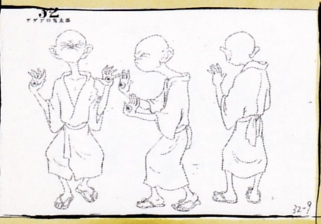


手の目

不老長寿の泉にある神殿に住んでいたが、そうとは知らない人間たちに餓鬼と一緒に封印された。そのため人間を怨む。手の平の目から金縛り光線を発射、自在にコントロールして敵を攻撃する。また、餓鬼たちを服従させている。

（声・平野正人 銀河万丈［第77話］）

第32、77、91話登場



天狐

都心の地下深く存在していた地底王国、そこに棲む狐たちの指導者。妖術に秀れ、身軽な動きによる体術も得意としている。プライドも高いが、何よりも高潔な精神の持ち主で、狐一族のことを一番に考えている。

（声・増山江威子）

第18話登場

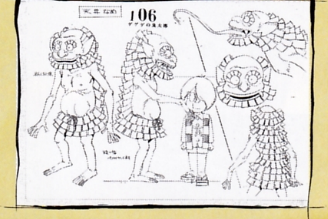


天井なめ

家の天井などにあるカビなどの汚れを好物にしている妖怪。その長い舌でペロペロとなめてものを綺麗にする他、胃液には強力な殺菌作用がある。将棋九段の腕前で、京都で子泣きじじいと名人戦を競った。

（声・田中和実）

第106話登場



た行

とうふ小僧

山の自然を破壊していく人間たちに怒り、全身カビだらけにする豆腐を配って工事を中止させようとした。手に持った豆腐を武器にして戦う他、分身して相手の目を惑わすこともできる。弱点はその長い舌である。

(声・難波圭一)

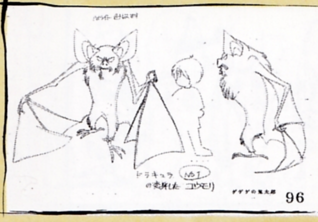


第106話登場

ドラキュラ

西洋の吸血妖怪だが、医者として妖怪樹の体を診ていた。大コウモリに変身して突風を巻き起こすなどの攻撃法を有する。鬼太郎とも互角の戦いを演じるが、弱点である日光と十字架を見せられて逃げ去った。

(声・銀河万丈)

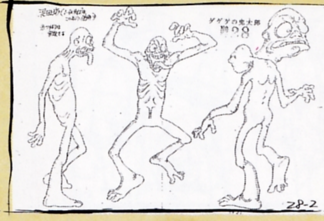


第96話登場

泥田坊

本来は田んぼに棲む大人しい妖怪だが、新幹線の開通で田んぼがなくなってしまい、その怒りで新幹線を襲うようになる。口から火の玉を吐き出す他、雨が降れば自在に再生することができる体を持っている。

(声・塩屋浩三)



第28話登場

な行

南海吸血一族

妖怪樹のため、幽霊船に乗って恐山を襲った吸血妖怪軍団―空を自在に飛ぶペナンガラン、土の中から現れて人を襲う夜叉、鋭い牙が自慢のランスプイル、樹液を吐き掛けて固めてしまうアササボンサンの4人だ。

(声・山本圭子)

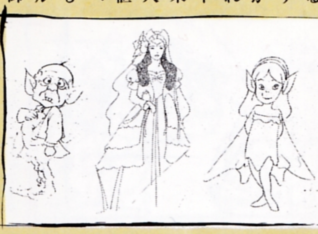


第96話登場

ニクス　コボルト　女王

(声・堀江美都子)　(声・龍田直樹)　(声・秋本晴美)

西洋の森にある妖精の国で暮らす妖精たち。女王から試練を与えられてニクスとコボルトは日本にやって来たが、現代では人間と妖精の価値観は大きく違い、ニクスはとんでもない失敗を。コボルトはニクスを姐御と呼んで慕う。

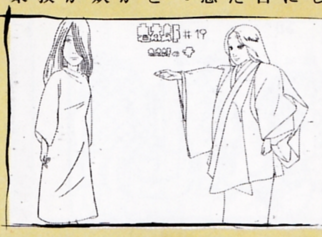


第90話登場

にせ鬼太郎の母

死神が用意した鬼太郎の母のにせ者で、本当は自分の息子に会いたいがため死神の悪事に手を貸した。しかし鬼太郎と接するうちに情が芽生え、毒薬・妖怪コロリで死にかけた鬼太郎を救うため力を使い果たして消えた。

(声・坪井章子)

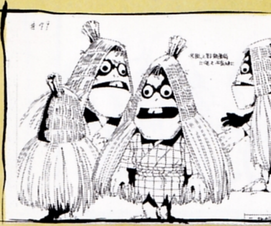


第44話登場

にせ呼子

やまたのおろちに捧げる生け贄を確保するため、呼子として人間を誘っていた。仲間の妖怪も含めて本心ではそれを嫌がっていたが逆らえなかった。本物の呼子と同じ能力を持っているが、あくまでもにせ者である。

(声・頓宮恭子)



第79話登場

人魚

多くの仲間が存在し、中には鬼太郎に味方する者もいる。悪徳村長たちを誘惑した女性の人魚(第7話)や息子を捜していた男の人魚(一族のボス。第14話)、半魚人と結婚することになった女王人魚(第100話)などがいる。

人魚のボス(声・はせさん治)
女王人魚(声・山野さと子)他

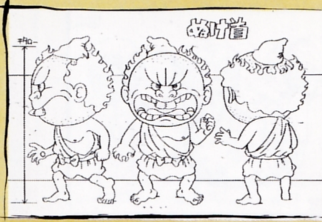


第7、14、100話登場

ぬけ首

自分に人気がないことを不満に思って暴れ回った。体と頭に分離できるが、その後の頭は時間が経つほど熱を増していく。体はその冷却機関でもあり首の付け根あたりから冷気を噴霧する。放っておくと頭は大爆発を起こす。

(声・矢田耕司)

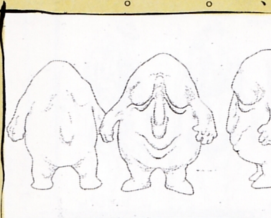


第94登場

ぬっぺらぼう

アリラン様とも呼ばれる韓国の妖怪。アリランを歌い、魅了された人間の若さを吸い取った。また巨大な体を持つ弟は透明な姿になることも可能。村を脅して食料を奪っていたが、鬼太郎に敗れて改心する。

(声・佐藤浩之
平野正人
広中雅志)

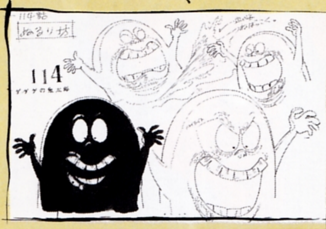


第66、108話登場

ぬるり坊

血の池に棲んでいる巨大妖怪で、血の池を汚す者を執拗に狙う。そのぬるりとした体で相手の攻撃を防ぎ、怪力と口からのガスで襲う。鬼太郎の妖力がことごとく通用しなかったが、鍾乳石が突き刺さり破裂した。

(声・塩屋浩三)

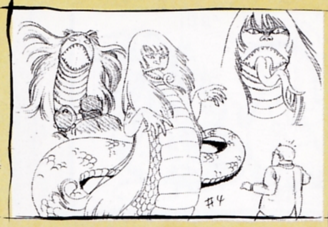


第114、115話登場

濡れおんな

鬼太郎を助けて戦う妖怪のひとり。蛇のような長い体に恐ろしい顔付きで、一見凶暴そうに見えるが人間に悪事を働くことはない。鬼太郎の要請に応じて、人間たちを驚かせる。

(声・松井摩味)



第6、32、68、84、91、104話登場

猫仙人

1200年もの間、魂を命の水を含んだ宝の玉に封じ込めて永遠の安らぎを得たという仙人。猫を操り、仙術によって自分の肉体を自在に伸ばす。しかし、肉体での活動は1日しかできず、それを過ぎると魂ごと肉体は滅んでしまう。

(声・青野武)



第3話登場

野づち

野づち塚に眠っていた巨大な妖怪で、なんでも吸い込んでしまう能力は強大無比だが、過って自分の尻尾を吸い込んでしまうと大変なことになる。後に妖怪戦車の砲台として鬼太郎の危機を幾度となく助けることに。

(声・大森章督)

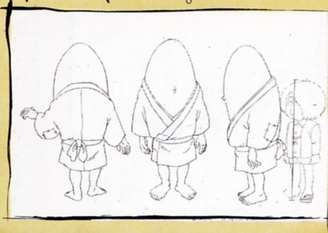


第29、64話登場

のっぺらぼう

自分自身も顔のない妖怪だが、抱き付いた相手を一度体内に取り込み、顔を盗んでしまう能力を持つ。好物は人魂でこれがないと生きていけない。そのため、人魂のある場所を教えたぬらりひょんを大先生と呼び、従っていた。

(声・安西正弘)



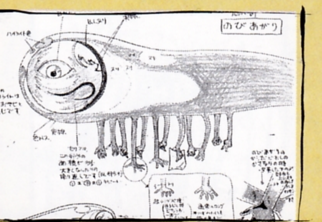
第16、35、52、68話登場

は行

のびあがり

（声・田中康郎）

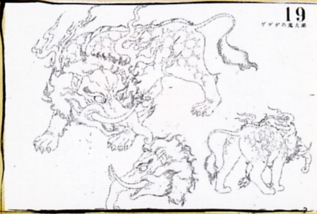
2万年間封印されていたが、眠りから覚めて自然を荒らす人間に怒り人間をすべて木に変えて支配しようと考えた。人間に取り憑き、その栄養で成長する吸血木を使う。また、体から無数の触手を出して相手を攻撃する。



第47話登場

獏

鬼太郎たちを助けて一緒に戦ってくれる妖怪だ。その長く伸びた鼻で悪夢を吸い込むことができ、どうやらまくらがえしも吸収できるらしい。しかし、鬼太郎に恨みを持つ凶悪妖怪たちの悪夢だけは吸収できなかった。



第19、32、86話登場

白山坊

（声・はせさん治）

古ギツネの妖怪で、人の弱みにつけ込むのが得意といわれている。あらゆる無生物に変化することができ、ハンマーや壁など様々な物体に姿を変えて相手を惑わす。鬼太郎も苦戦する強力な妖怪だった。

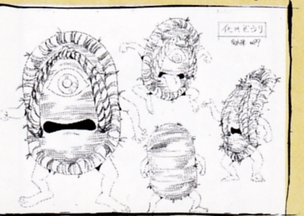


第11、91話登場

化けぞうり

（声・田中康郎）

履きものの霊を支配している妖怪。人間たちがまだ使える靴を粗末にするため、成仏できない靴たちの霊のため町で暴れた。靴を操る能力や、体から伸ばしたワラで敵を縛る他、目から相手の妖力を吸い取ることもできる。

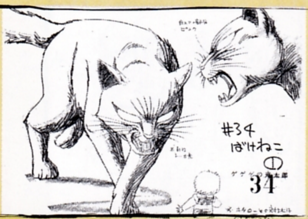


第99話登場

化け猫

（声・京田尚子）

交通事故によって死んでいった猫たちの怨念が集まって誕生した妖怪。幻覚が得意技で、大型車に化けて車を襲い事故を起こしてドライバーを猫うち症にしてきた。鬼太郎の優しさに免じ、最後は人間への怨みを捨てて去った。

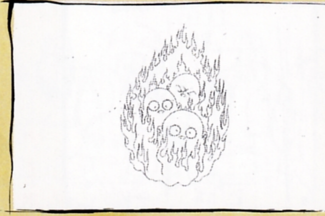


第34話登場

化火

（声・田中亮一）

石塚で眠っていたが、鬼太郎を助けるために目を覚ました。その炎は冷凍光線でも凍らせることができない。鬼太郎の体内に入って能力を上げることもできる。主に熱に弱い妖怪と戦うときに召喚される。

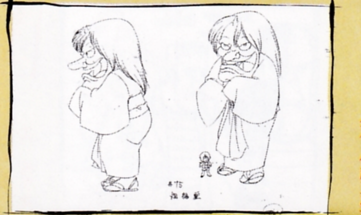


第15、25、28、35、52、53、91、94、98話登場

畑怨霊

（声・佐藤正治）

凶作のときに現れるという妖怪。嘘をつくのがとても上手く、小豆の神様に化けて小豆連合軍を騙し彼らの収穫を奪っていた。その本体は巨大で、一見すると強そうだが本当は見掛け倒しで非常に弱い。

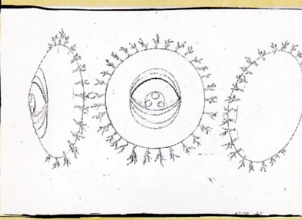


第75話登場

バックベアード

（声・柴田秀勝）

アメリカの妖怪大統領。かつては西洋妖怪軍団を率いて日本に攻めてきたこともあった。その巨大な目玉からは強力な光線を発射する。世界妖怪ラリーのアメリカ代表として最後まで鬼太郎とトップを競った。

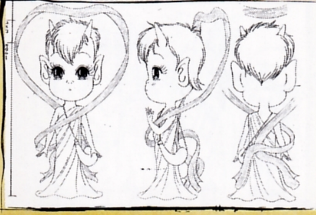


第46、51話登場

花子

（声・荘真由美）

ねずみ男をいい人だと思っている花の妖精。人（？）を疑うことを知らない純真な心を持つ少女だが、強い意思を持って逆柱と戦った。その彼女に応えるためねずみ男もいつも以上に頑張ったのだった。

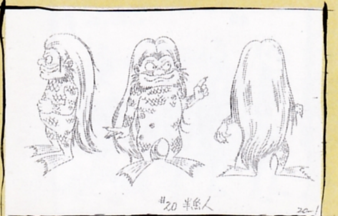


第52、108話登場

半魚人

（声・はせさん治〈第20話〉
矢田耕司〈第100話〉）

海女のあかねにひと目惚れして結婚したいと考えた。強力な化けイカを自在にコントロールする貝型リモコンを持つ。鬼太郎に教えられて恐山の妖怪病院で一度は人間となったが、順応できず元の姿に戻って人魚の女王と結婚した。

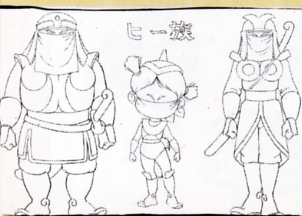


第20、100話登場

ヒー族

父（声・塩屋浩三）
母（声・川島千代子）
娘（声・荘真由美）

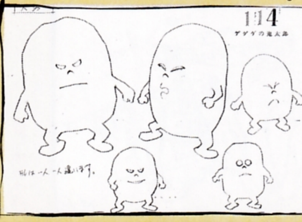
妖怪にとって天敵ともいえる存在で、あらゆる妖力が通用しない。口から吐くガスは妖怪たちをぬいぐるみに変える力を持っている。その正体はヒルの化けもので、海水に入ると元の姿に戻ってしまう。



第91話登場

火男

地獄の奥の院を守護している妖怪。全身が火の塊で、あらゆる攻撃がその高熱の前に無効化されてしまう。普段は岩の一部として奥の院のあちこちで眠っているが、音に敏感で目を覚ましては侵入者を攻撃する。



第114話登場

飛脚狸

（声・大塚芳忠）

刑部狸の下で働く狸の一匹。その自慢の足で集めてきた情報や、戦局などを逐一刑部狸に報告することが任務。そのため戦闘には参加しないようで、刑部狸の下へ報告に来たとき以外はその姿を見せていない。



第57話登場

ひでり神

（声・はせさん治
戸谷公次〈第57話〉
田中和実〈第104話〉）

地下で静かに壁画を描いて暮らしていたが、ねずみ男にそそのかされて騒動を起こした。口から出す強力な火炎放射、熱エネルギーを吸収して巨大化する能力がある他、空を自在に飛ぶことができる自家用雲を持っている。



第29、43、52、57、80、104、108話登場

人喰い島

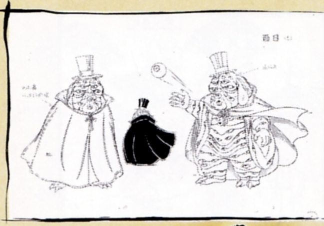
巨大な人間のような形をしている島。顔の部分だけが海上に出ているだけで、その全体像は分からないが、胃袋や肺や心臓など人間と変わらない器官が中に詰まっている。胃の中で消化されると排泄物として肛門にあたる場所から噴出される。



第76話登場

百目

地上を支配すべく50人の犯罪者の体と目玉を使って自分のコピーを作ろうとしていた。体中の目玉マシンガンや、空気を吸い込み体を膨らませて宙に浮くなどの能力を持つ。弱点は光である。



（声・大竹宏）

第65話登場

ひょうすべ

鬼太郎の仲間として活躍する妖怪のひとり。カッパの一族であり人間を病気にする能力を持っている。外見的には人間に近いため驚かそうとしても驚いてもらえないどころか、逆にいじめられてしまう気の弱いところがある。



（声・広中雅志）

第6、32、46、53、54、68、84、104話登場

貧乏神

取り憑いた者に不幸を呼ぶという能力のためにみんなから嫌われている。ぐうたらな性格で面倒ごとは嫌いなようだ。しかし、手に持った杖で鬼太郎のオカリナと剣技で渡り合うなど意外に強い一面も見せた。

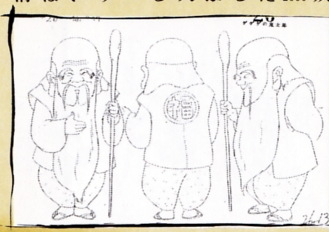


（声・青野武）

第12、55、108話登場

福の神

鬼太郎率いる妖怪チームに樹齢2000年の霊木で作ったバットを送った。しかしこのバットがふとしたことから人間の手に渡ってしまい騒動となる。最終的にそのバットに込められていた不思議な力は鬼太郎によって消された。



（声・大竹宏）

第26話登場

ふくろさげ

対峙した相手の妖怪から妖怪エネルギーを吸い尽くすことから妖怪たちの協力で壷の中に封印されていた妖怪。欲深い性格の持ち主で、鬼太郎が大量に貯め込んだ妖怪エネルギーをも吸い尽くそうとして自滅した。

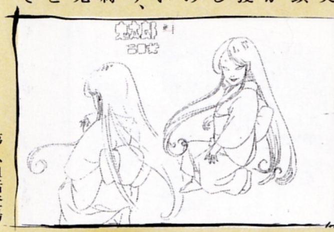


（声・青野武）

第27、91、108話登場

二口女

一見すると美しい女性だが後頭部に巨大きな口があり、捕らえた獲物を飲み込んでしまう。伸縮自在の髪は遠く離れている敵を攻撃したり、がんじがらめに縛ったりできる。鬼太郎と初戦であと一歩のところまで追いつめた強敵。



（声・梨羽由記子）

第1、91話登場

吹っけしばばあ

現代での暮らしに悩んでいた妖怪のひとり。その後、細々とタイヤキ屋を始めるが、ねずみ男にそそのかされて金儲けを考える。タイヤキ機を改造し、人間の手相を変えて運命を変えてしまう機械を作り出した。



（声・津田延代［第8話］
鈴木れい子［第80話］）

第8、54、80話登場

船幽霊

海座頭によって魂を抜かれてしまった人間の変わり果てた姿。アキオの父や船乗りたちは自分の意思とは関係なく、船にひしゃくで水をかけて沈めていた。本来の船幽霊は大人しい性格らしい。



（声・戸谷公次）

第50話登場

フランケンシュタイン

世界妖怪ラリーの西ドイツ代表。見かけによらず悪知恵が働くようで、吊り橋を落としたり、バックベアードの車のエンジンを破壊するなどの妨害をしたが、バックベアードとの直接対決に敗れてリタイアとなった。



（声・西尾徳）

第51話登場

ぶるぶる

本来は人間が恐いと思ったときに発する冷気を食べて相手を震えさせるという妖怪。車の運転手に取り憑いて次々に交通事故を起こさせた。蒸気に似ており、妖怪メガネをかけないと見えない。弱点は煙と熱。



（声・中谷ゆみ）

第25、104話登場

ペナンガラン

元々は東南アジアの妖怪で、300年間獅子頭の中に封印されていた。人間やものに取り憑いて自由に操る能力を持ち、たとえ取り憑いたものが倒されたとしても本体が飛び出し、また別なものに取り憑こうとする。

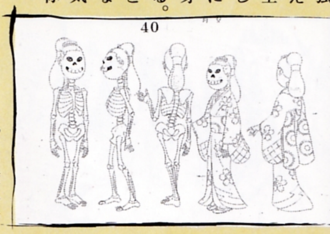


（声・大竹宏）

第87話登場

骨女

赤舌を始め、強い妖怪たちに仕えて悪事を働く。全身骨だけの姿をしているが、ユメコに化けるなど変身能力も持っている。自分の生き方と似ているせいか、なぜかねずみ男を気に入って恋人と称して付きまとう。

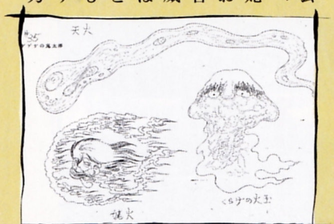


（声・松島みのり［第35話］
弥永和子［第40、92話］）

第35、91、94話登場

炎の妖怪5人衆

炎の妖怪チーム＝天火、海月の火玉、化火、つるべ火、姥火の5人（？）。お互いの炎を分け合うことで、その威力が衰えることはない。ひとりひとりの火炎攻撃も強力だが、合体することでより強力な炎となれる。



海月の火玉
（声・小野坂昌也）

第35、91、94話登場

ま行

まくらがえし

夢の番人をしている妖怪。眠り砂を使って相手を眠らせ、香炉で苦手なものが襲ってくる悪夢を見せることもできる。体の成分がなめくじに似ているため塩が弱点。鬼太郎に敗れた後、鬼太郎の味方になったようだ。



（声・屋良有作）

第19、86、108話登場

魔女

世界妖怪ラリーのフランス代表。普段はほうきに跨っているが、ラリーでは自在にジャンプするスーパーマシンに乗り込んで参戦した。バックベアードに騙されたのが頭にきたのか、レース終了後に彼を石化してしまった。

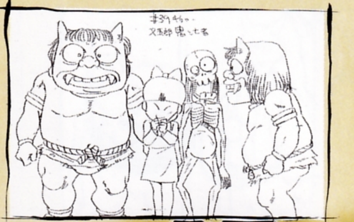


（声・三輪勝恵）

第51話登場

又五郎鬼

エンマ大王に従う地獄の鬼で、ネコ娘に万有自在玉の秘密を教えるなどして活躍した。また、地獄でも有数の格闘センスの持ち主であるらしく、地獄での鬼太郎のプロレス特訓ではスパーリングパートナーを務めた。



（声・西尾 徳）
第39、80話登場

丸毛

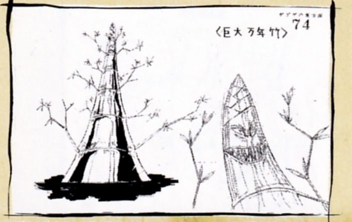
鬼太郎の仲間として活躍する妖怪。多くの同族がいる妖怪で、妖怪仲間では比較的大人しく可愛い部類に入る。しかし逆柱によって招き猫に入れられ、その頭脳として操られお金を集めていた。



（声・塩屋 翼）
第52、104、108話登場

万年竹

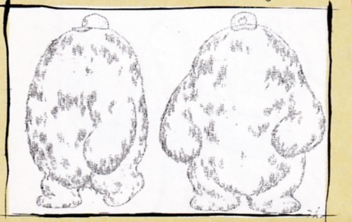
竹林を守っていた竹の妖精。200年ほど前にも竹林を潰そうとした人間たちを竹人間にしたことがある。竹の特性であるしなやかさと硬度を合わせ持っているが、地下に張りめぐらせている根を攻撃されると非常に弱い。



（声・山口奈々）
第74話登場

マンモス男

人間の少年野球チームと妖怪チームの審判を務めた。巨大な体を持っていて、その怪力は妖怪の中でも屈指のパワーを誇る。鬼太郎の力となって狸軍団と戦ったこともある。頼りになる味方のひとりだ。



（声・屋良有作）
第26、46、57話登場

見上げ入道

妖怪学校を作り、人間や動物を妖怪に変えようと考えた。風を自由に操ることができ、秘法霊界流しという技を使う。また自在に体の大きさを変える能力も持ち、身長数10メートルの巨人から豆粒ほどに小さくなることもできる。



（声・田中康郎）
第30、32、91話登場

ミミズ男

首狩り3人衆のボス。捕らえた鬼太郎を断頭台に縛り、その首を青竜刀ではねようとした。その実体は体のあちこちにミミズの触手があり、それらが様々な武器を持っている姿。だが、鬼太郎に敗れて元のミミズに戻った。



（声・田中康郎）
第109、110話登場

ムジナ

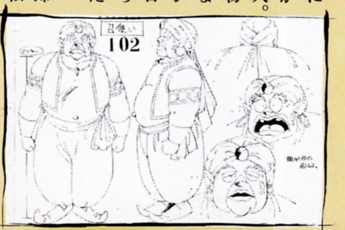
ねずみ男そっくりの姿でおりたたみ入道を使い、子供のお年玉を奪っていた妖怪。その目を見た者はムジナの幻覚にかかってしまう。奥の手は自分の大切な股間にある袋を膨らませて相手を押し潰すことだ。



（声・安原義人）
第13話登場

召使い

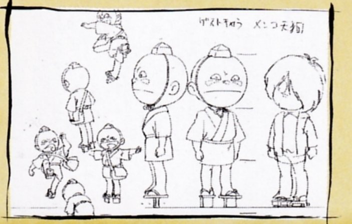
ジニヤーの身に付けている指輪から召喚される魔人。口から相手を動物の姿に変えてしまうガスを吐く。ジニヤーに従って日本の妖怪医者たちを魔法のじゅうたんで連れ去るが、再度戦った鬼太郎に敗れて地上に転落した。



（声・堀 之紀）
第102話登場

めんこ天狗

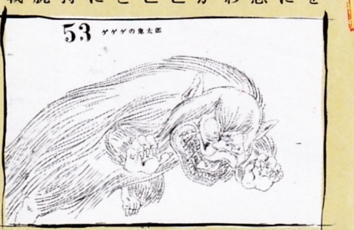
子供と面子をするのが好きな妖怪。しかし最近の子供が面子を馬鹿にするのを怒り、その面白さを叩き込もうとした。手から発する面子妖気で人間を面子にするだけでなく、その妖気を跳ね返えさせて自分が面子になることも。



（声・塩屋 翼）
第105話登場

モウリョウ

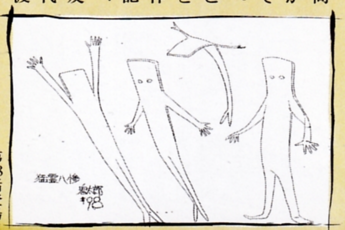
この世に未練を残した者の肉体に乗り移り、その怨みを晴らすと言われている。墓場から繋がっている亡者の世界に住む亡者たちを操ることができる。巨体に見合った怪力の持ち主で、その豪腕に鬼太郎も苦戦した。



（声・増岡 弘）
第53、108話登場

猛霊はっさん

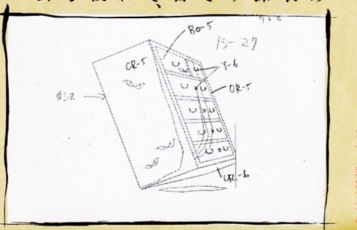
海で死んだ人間の死体を水精爺がペラペラな姿にして誕生させる妖怪。大勢で津波を起こす他、妖怪水車という水竜巻も作る。生前の記憶はあるようで、友彦の両親は友彦に自分たちの代わりにと貝殻を渡した。



第98話登場

目目連

無数の目だけの妖怪で、物体に取り憑いて自由に操る。妖怪城に取り憑いて、侵入して来た鬼太郎を苦しめた。弱点は光で、特に瞳に当てられるのが苦手。最後は妖怪カメラで写され妖怪フィルムに封印された。



（声・銀河万丈）
第58話登場

百々爺

鬼太郎を亡き者にして妖怪世界の支配者として君臨しようと考える野心家。多くの妖怪を支配下に置き、その勢力を拡大している。鼻から鼻毛針を発射する他、鼻もんもというシャボンを出して幻覚を見せる攻撃が得意。



（声・今西正男）
第32、91、101話登場

モンロー

主たる吸血鬼ピーを捜し、100年近く世界中を周っていた従者の美女妖怪。吸血鬼だと思われるが、その能力は謎に包まれている。ねずみ男を誘惑したり、医者に化けて仮死状態の鬼太郎をさらうなど悪知恵が働くようだ。

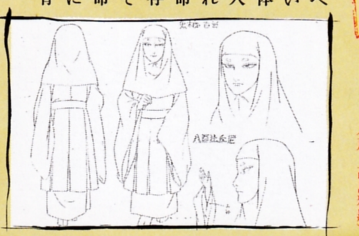


（声・向井真理子）
第61話登場

や行

八百比丘尼

人魚の肉を食べて800年も生きている尼。衰えた肉体を再生するため人魚の肉を手に入れようとする。生命力の強い妖怪の存在を憎み、滅ぼそうとしていた。生命力が低下し一気に老化が進んで白骨となって果てた。

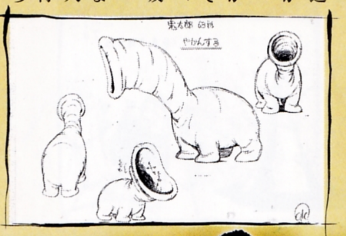


（声・高島雅羅）
第100話登場

ヤカンズル

（声・大森章督）

なんでも吸い込み、腹の中で溶かしてしまう妖怪。だが、様々な物が溢れる現代社会では判断がつかず、すべてのものを吸い込んでしまう。鬼太郎の活躍により吸い込まれた人間も救出され再び洞窟で眠りについた。

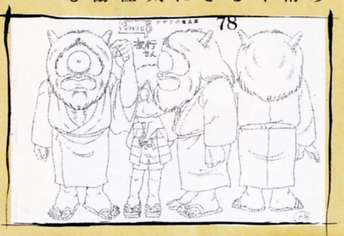


第63話登場

夜行さん

（声・大竹宏）

妖怪にしては珍しく文明や技術に興味があり色々なものを開発する妖怪発明家。いざというとき頼りになるが、とても気難しく頑固な性格の持ち主で、協力してもらうにもひと苦労である。

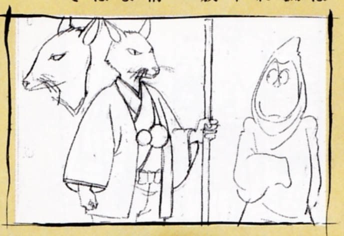


第78・86・113話登場

野狐

（声・田中和美）

狐一族の中では一番身分の低い狐たち。牢屋に入れたねずみ男にワイロを渡されて釈放してしまうなど、人間に近い精神構造を持っているようだ。戦うときは手に持った棍棒で敵に立ち向かう。



第18話登場

夜叉

（声・槐柳二）

元々は中国に住んでいた妖怪で、妖怪音楽によって魅了し、魂を抜き出す能力を持っている。昔は琵琶、現代はギターを使う。ミュージシャンの響を騙し、彼のカツラになりすまして操っていた。



第10話登場

家鳴

（声・平野正人 田中康郎 田中和実）

人喰い家に住む妖怪トリオ。ひっそりと山奥で暮らしていたが、自分たちの棲み処が人間を食べて成長することを知り、骨女とねずみ男に食料となる人間を用意させ、人喰い家を大きくして家鳴の帝国を作ろうと企んだ。



第92話登場

山男

（声・佐藤正治）

地下深くで氷漬けになり眠っていた。一見すると原始人のように見えるが、れっきとした妖怪。文明を嫌っており原始時代に刻を戻そうとマンモスフラワーで人間に原始の心を取り戻させた。その後また眠りにつく。



第78話登場

山神

（声・北村弘一）

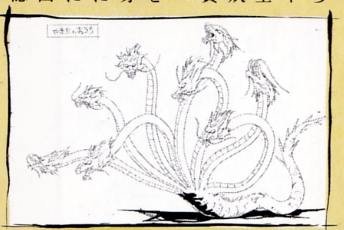
山で最も古い木の中に住んでいたが、人間たちの森林伐採で体を壊して寝込みがちになってしまう。どうやら山の自然と体がシンクロしているようだ。その昔、とうふ小僧にカビを発生させる粉を手渡していた。



第106話登場

やまたのおろち

8本の首を持つ伝説の妖怪。ダイヤの中に異次元空間を作りそこに妖怪を集めて生け贄を運ばせていた。強大な戦闘力を持っていたが分身した鬼太郎の前に敗れる。その尾には異次元を脱出するための剣が隠されている。



第79話登場

山天狗

（声・岸野幸正）

天狗の森の奥深くに封印されていた悪行妖怪。高ゲタで木を倒す天狗倒しや、うちわで相手の鼻を伸ばしてバランスを崩させるといった妖術を使う。娘の生き肝を食べると1000年長生きするためモモコを連れて行こうとした。

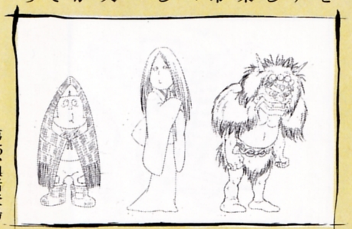


第89話登場

雪男 雪女 雪ん子

（声・佐藤正治）（声・坪井章子）（声・山田栄子）

雪山で人間を凍らせて、魂をアイスキャンディにして食べていた冷凍妖怪ファミリー。冷凍光線を出す他、ツララを武器にして戦うこともある。炎に弱いという欠点を持つが、溶かされても合体して巨大な姿に変わって戦う。

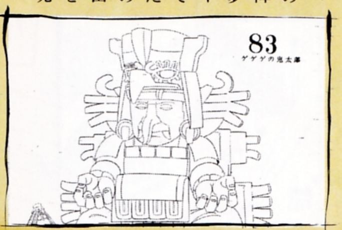


第15・94話登場

ユムチャック

（声・飯塚昭三）

マヤ族の雨神。はるか昔に日本の雨神として、雨降り小僧に自分の夢だった理想郷＝ユートピアを託してその姿を隠した。だが、カルメンの笛の音に呼ばれて内田が起こした事件を知り、怒りを爆発させた。



第83話登場

妖怪花

（声・島本須美）

妖怪ホテル近くの花園に咲く。人に危害を加えるようなことはせず、ただ大人しく花を咲かせているだけの存在。妖怪花一族の最後の生き残りとして、ホテルの社長に大切に見守られて生きている。

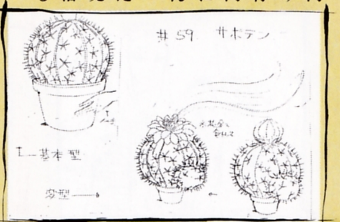


第45話登場

妖怪サボテン

（声・塩屋浩三）

後神の境遇に同情し、その手助けをするため共に行動する。その体内は別空間のようになっていて、吸い込んだ者を閉じ込める。体内に閉じ込めた者に対して針を発射したり胃液で溶かすなどの攻撃もできる。

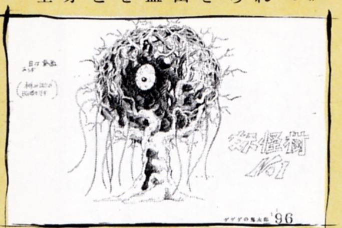


第59話登場

妖怪樹

（声・郷里大輔）

“吸血妖怪のボス”と呼ばれている。その昔、退治されたときの古傷からなかなか再生できないでいたが、恐山にあったスーパー血液で完全復活を遂げる。死したとしても無数の新芽を残すため、完全な退治は難しい。



第96話登場

妖怪獣・大ナマズ

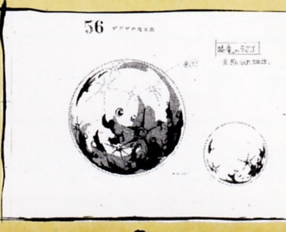
富士山の地下にある要石によって封印されていた妖怪獣。大地震を起こすことが可能でその能力は水爆数発分にも匹敵するという。鬼太郎が脳に進入、コントロールして南極で氷詰めにして倒した。



第56、57話登場

妖怪獣・蛟竜

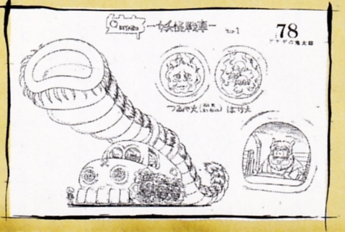
月のような巨大な岩から現れた妖怪獣。強大な腕力で町を破壊した。その巨大な目から放たれる怪光線も強烈だ。鬼太郎が我が身を犠牲にして胃液となり、骨まで溶かしてようやく倒すことができた。



第56・57話登場

妖怪戦車

夜行さんによって開発された妖怪と科学の融合した戦車。ライトにはつるべ火と化火が入っており、火炎攻撃もできる。タイヤは6体の輪入道で構成されている。野づちが担当する大砲=野づち砲でなんでも吸い込んでしまう。



第78、92話登場

用心棒

ぬらりひょんの用心棒として雇われた妖怪で、本当はあしまがりという名前がある。手に持った木槌で攻撃したり、太鼓を鳴らして相手を竜巻に包み異次元空間へと送り込む。酒が大好物で、それを得るために用心棒をしている。

（声・池水通洋）



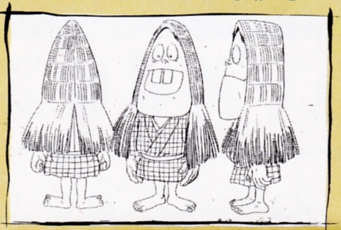
第45話登場

ら行

呼子

山に棲む妖怪で、山に響く人の声を返すことから山彦と呼ばれることもある。しかし、冬は登山客も少ないのでヒマらしい。山が不作で食べ物が少ないという彼に、鬼太郎たちは食べものを運んで遊びに来ていた。

（声・杉山佳寿子［第12、79話］中野聖子［第70話］）



第12、32、35、36、54、68、70、79、94、96、108話登場

雷獣

本所七不思議・第二の不思議"灯りなしそば"で待ち受ける妖怪。体に絶えず電流が走っていて、尻尾から放電して攻撃する。その鋭い牙も強力な武器である。鬼太郎のリモコンゲタと髪の毛針の二段攻撃に敗れた。

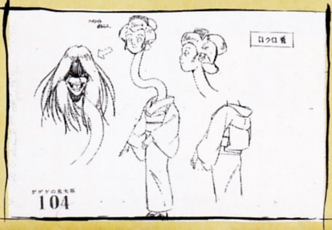


第108話登場

ろくろ首

鬼太郎の仲間として活躍する妖怪のひとり。どこまでも伸びて行く長い首で長年多くの人間を驚かせてきたが、最近では驚かない人間もいるよう。そんなときは美しい顔を一転して恐ろしい顔へと変貌させて驚かせる。

（声・木下しのぶ）



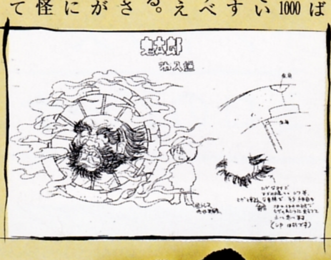
第32、104話登場

わ行

輪入道

かつて砂かけばばあに退治され1000年の眠りについていた。口から発射する炭素光線はすべてをダイヤに変える魔力を持っている。鬼太郎に退治された他にも同族がおり、夜行さんにスカウトされ妖怪戦車の車輪として活躍した。

（声・銀河万丈）



第5話登場

こんな人が演っていた妖怪の声ア・ラ・カルト

本作に登場するゲスト妖怪は202体、出演声優は93人に及んだ。ここでは演じたキャラクター数の多い上位5人の方にスポットを当て、ひとりずつその横顔を見てみることにしよう。

第1位 大竹宏

かまいたち（第1話）、水虎（第9、91、104話）、おりたたみ入道（第13、91話）、毛羽毛現（第17、91話）、福の神（第26話）、だるま（第26話）、海座頭（第50話）、吸血鬼ピー（第61話）、百目（第65話）、うんがい鏡（第70話）、夜行さん（第78、86、113話）、ペナンガラン（第87話）、かぶそのメチャ（第93話）、大入道（第97話）、地獄武者（第113話）

堂々の第1位は妖怪15体を演じた大竹宏氏である。

1932年3月14日生。東京都出身。現在、ぷろだくしょん☆A組所属。『マジンガーZ』（72年）のボス、『ひみつのアッコちゃん』（69年）の大将をはじめ"恰幅のいい三枚目"役が多い。また、声のみならずスーツ・アクターも務めた『ママとあそぼうピンポンパン』のカータ役はあまりにも有名。近年は、『ぱにぽにだっしゅ』（05年）の校長役がある。

第2位 田中康郎

たんたん坊（第1、91、108話）、見上げ入道（第30、32、91話）、釜なり（第36、91、108話）、のびあがり（第47話）、おおかみ男（第51話）、だるま（第55、68話）、がしゃどくろ（第71話）、手長（第81話）、家鳴の1体（第92話）、化けぞうり（第99話）、ミミズ男（第109、110話）

妖怪を総勢11体演じられた田中氏は、洋画の吹き替えでも活躍する名バイプレーヤー。

1932年3月6日生。東京都出身。九プロダクション所属。『夢戦士ウイングマン』（84年）のリメルをはじめ風格のあるキャラクターを数多く演じた。本作でもたんたん坊、見上げ入道などは氏ならではのキャラクターとなった。他『世紀末救世主伝説 北斗の拳』（84年）でもマッド軍曹、ゴジバ、ヘイスタック、ザコルと、多数のゲストキャラクターを演じ、印象に強い声優のひとりとなっている。

第3位 田中和実

キジムナー（第32、73、104話）、水虎（第51話）、風の神（第63、69話）、小豆洗い（第75話）、かみなり（第82話）、家鳴の1体（第92話）、つるべ火（第94話）、かわうそ（第98話）、ひでり神（第104話）、天井なめ（第106話）

妖怪10体を演じ、平野氏と同率の3位。

1951年8月11日生。東京都出身。青二プロダクション所属。氏も東京俳優学校、劇団近代座、劇団芸協を経て青二プロダクションへ移り、声優として活躍するようになった。平野氏と並び、東映アニメーション作品では名バイプレーヤーのひとりとしてご記憶の方も多いだろう。『ひみつのアッコちゃん』（86年）校長先生役、『聖闘士星矢』（87年）暗黒スワン役、『ドラゴンボールZ』（96年）ジース役などが印象的だ。

第3位 平野正人

カッパ（第7話）、からかさ小僧（第26、83、104、106話）、小豆洗い（第32、54、75話）、カラス天狗（第32話）、手の目（第32、91話）、つるべ落とし（第35、36、84話）、おおかみ男（第46話）、火車（第62、108話）、ぬっぺらぼう（第66、108話）、家鳴の1体（第92話）

続いて総勢10体の妖怪を演じた平野正人氏はフジテレビの『おはようナイスデイ』をはじめ、ナレーター、TBS『世界ふしぎ発見』のボイスオーバー（VTRの外国人吹き替え）としても知られる。

1955年11月16日生。岩手県出身。青二プロダクション所属。かつては劇団文学座で俳優として活躍。田中裕子らと同期だった。青二プロダクションに移籍後、声の仕事が中心となる。近年では『魔法戦隊マジレンジャー』（05年）冥府神トード役などがある。

第4位 はせさん治

人魚のボス（第7話）、白山坊（第11、91話）、風の神（第14話）、半魚人（第20話）、ひでり神（第29、43、52、80、108話）、グレムリン（第51話）、毛目玉（第72、91話）、倉ぼっこ（第96、102話）、えんらえんら（第107話）

容姿も性格も違う妖怪9体を演じ分けたベテラン声優。

1936年1月2日生。東京都出身。2002年3月8日に物故。後年はフリーで活躍していたが、独特の言い回しは非常に特徴的で、とりわけ"ズッコケ"キャラクターを得意としていた。代表格は『魔女っ子メグちゃん』（74年）のチョーさん役、『キン肉マン』（83年）アデランスの中野役だろう。他『昭和メルヘンアニメ 三丁目の夕日』（90年）での味わい深いナレーションも記憶に残る。



ゲゲゲなんでもベスト五（ファイブ）



妖怪オンパレードのあとは、やはりベスト５！
独断と偏見でピックアップ

妖怪たちの怒り！ベスト五

- 第一位　謎の妖怪城出現!!（第1話）
- 第二位　雨神ユムチャック伝説（第83話）
- 第三位　田を返せ!!妖怪泥田坊（第28話）
- 第四位　ばけ猫国道０号線（第34話）
- 第五位　地獄行！幽霊電車!!（第6話）

妖怪の中には人間たちに牙を剥いた者も多い。だが、理不尽な暴力ではなく人間に忠告するため怒りを爆発させた妖怪たちもいた！――自分たち＝妖怪の存在を知らしめるため起ち上がったたんたん坊、二口女、かまいたちのトリオ（第1話）。私欲に駆られた男、その醜い心を戒めた雨神ユムチャック（第83話）。人間たちに田んぼ＝棲み処を奪われた泥田坊（第28話）。多発する猫のひき逃げから復讐に燃えた化け猫。鬼太郎すらも身勝手な人間たちの振る舞いに激しい怒りを燃やした（第6話）。

やむなく暴力で訴えた彼らを、果たして我々人間は責められるだろうか……？

ねずみ男のコスプレ傑作選！ベスト五

- 第一位　ねずみのぬいぐるみ（第8話）
- 第二位　貴婦人（第72話）
- 第三位　寅さん（第77話）
- 第四位　ギンギラスーツ（第7話）
- 第五位　ミロのビーナス（第76話）

本シリーズでは目的を果たすべくねずみ男はあらゆるコスチュームに身をまとった。愛嬌があるものから気色悪い（失礼）ものまで様々だが、その中からベストを選ぶなら――まずは本末転倒ともいえるねずみのぬいぐるみ姿（第8話）。大髪様を誘き出すために女装した（させられた）貴婦人姿（第72話）。物を売るならこの格好、フーテンの寅さんルック（第77話）。派手な見た目のみならず、普段はガウン（自称）に隠れている髪型も披露したギンギラスーツ姿（第7話）。海辺では仮装大会に近いミロのビーナス姿もあった（第76話）。彼の衣替えも本作を楽しむ隠れた見所のひとつだった。

鬼太郎の変身＝ピンチ！ベスト五

- 第一位　大海獣（第67、68話）
- 第二位　カエル（第41話）
- 第三位　火車（第62話）
- 第四位　老人（第46話 他）
- 第五位　狸（第56、57話）

ねずみ男に負けじと鬼太郎も様々な姿に……といってもこちらは敵妖怪によって姿を変えられたというもの。それはすなわち鬼太郎の大ピンチでもあった。

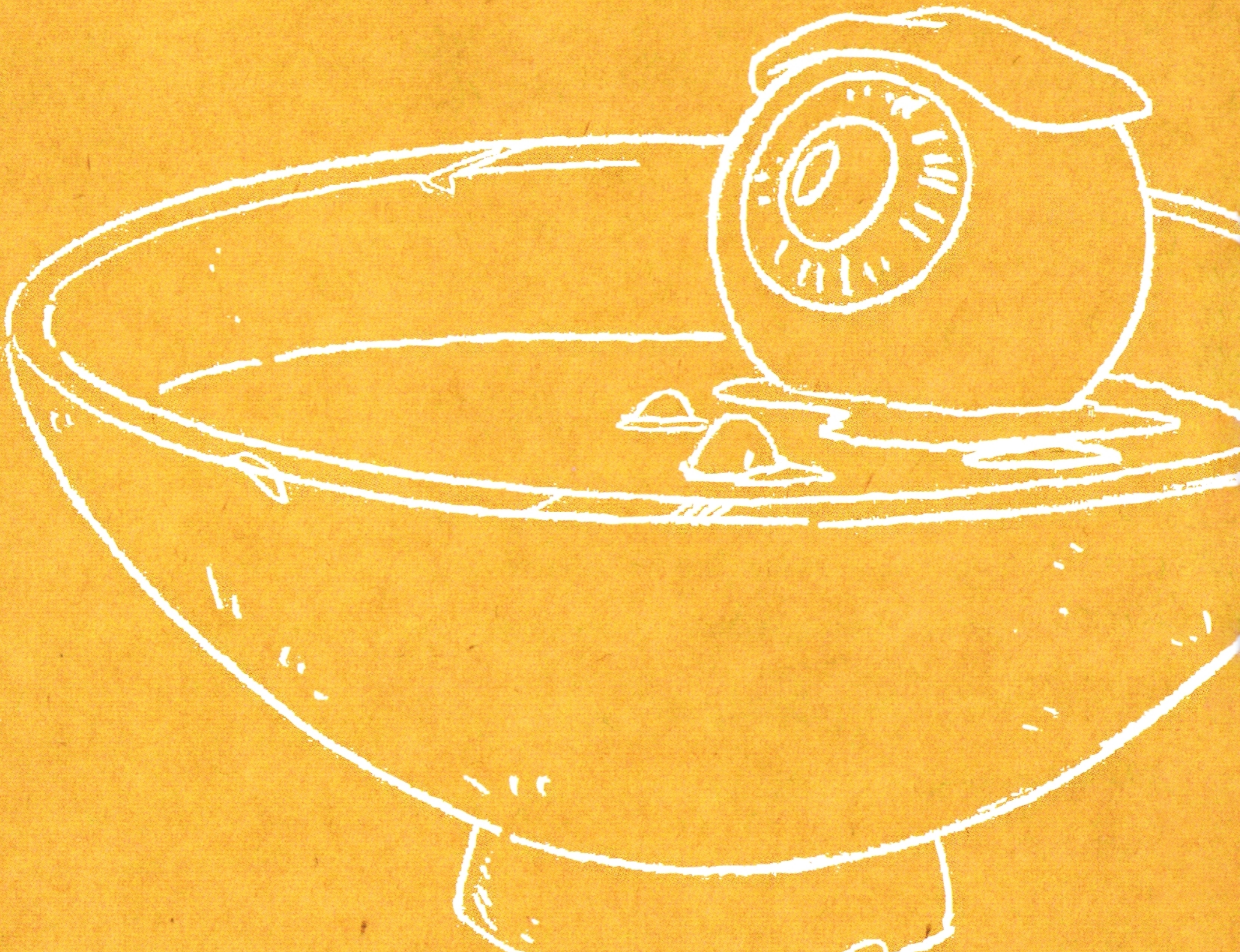
古代の大海獣の血を注射され、鬼太郎自身が大海獣に（第67、68話）。呪いを受けてカエルにされたり（第41話）、妖怪火車によって魂を入れ替えられ火車になってしまったことも（第62話）。また、若さを奪われ何度も老人にされている（第46話　他）。動物では狸軍団との戦いで狸にされかけたこともあった。しかし、その都度幾多のピンチを乗り越えて鬼太郎は勝利を掴んだのである。



其之四

ゲゲゲのデータ

～関係者インタビュー・アイテム・放送リスト～



――作品に参加された経緯からお聞かせ下さい。

葛西　横山（賢二）プロデューサーからやってみないかと声を掛けられました。「企画書」の準備稿メモのようなものを見せて頂いた。

横山さんは、前作とは風味を変えて新しいイメージで作りたい。ライターもメインスタッフ、声優さんも一新したいと――。

前作のときはスタッフに加えてもらえず、初号試写のときには必ず観ていました。でもただ前作の焼き直しではつまらないと思っていましたのですぐにOKしました。

最初、横山さんの説明や文章の段階ではイメージが掴みにくかったのですが、ニューキャラクターのユメコとその家族のキャラクターのラフデッサンを見てイメージがはっきりしてきました。ユメコは人間と妖怪との橋渡し的な、また同年齢的な視聴者の視点でいっそう共感が強まって、物語の幅がぐーんと広がるのではないかと――。

それに"時代"の設定ですが原作の"時代"そのまま踏襲するのではなく、当時の"時代"つまり1985年、それよりちょっと先の未来が舞台で、都市も郊外もビルが建ち広がり、自然破壊が進み道路が縦横無尽に伸びている。こんな世界で妖怪たちがどう思い、生きている

科学技術の発展の果てに、どの世界にも光があふれ、闇の世界が薄れていく、闇の住人である妖怪と人間との対比をビジュアル化して見せていこう

GEGEGE INTERVIEW VOLUME1

葛西 治

1941年11月11日生。北海道出身。64年に東映動画（現・東映アニメーション）に演出助手として入社。テレビ作品『狼少年ケン』（63年）をスタートに『魔法使いサリー』（66年）の演出としてデビューし、以降演出となって東映アニメーション作品を数多く手掛ける。代表作は『ひみつのアッコちゃん』（69年）『キューティーハニー』（73年）『キャンディ・キャンディ』（76年）『銀河鉄道999』（78年）『とんがり帽子のメモル』（84年）『ドラゴンボールZ』（89年）『ドラゴンボールGT』（96年）劇場作品『龍の子太郎』（79年）『蓮如物語』（97年）。



妖怪はね、なんかこいつ自分に似ているなというやつがいいんですよ

のかを描きたいと、科学技術の発展の果てに、どの世界にも光があふれ、闇の住人である妖怪と人間との対比をビジュアル化して見せていこうという狙いがありました。

対比というのはドラマ作りの定石のひとつですが、対比させて文明批判にシフトを置き過ぎ、妖怪の怨み、怒りを絡めさせ過ぎると本来の妖怪の面白さ、ユニークさが薄れてしまうんじゃないかと、確か水木（しげる）先生も仰っていた。またライターさんも苦労するだろうなという懸念はありましたが、みなさんノッて書いて下さって、妖怪の魅力、存在感を充分に引き出してくれたと思っています。

――キャラクターに関しては前作との違いをどう見せていこうと？

葛西　キャラクターの容姿は変わりませんが、今回は鬼太郎と目玉おやじを中心に砂かけばばあ、子泣きじじい、ネコ娘、ぬりかべ、一反もめんの7人衆が味方となって悪行妖怪に立ち向かう。立ち回りもよりアクティブになり、スケールも大きく、鬼太郎にも新武器の笛が加わり、戦闘もパワーアップしたね。

――シリーズディレクターとして気を遣った部分は？

葛西　『鬼太郎』が大好きなスタッフが多かったのでやる気満々のムードだった。ノり過ぎてつい表現が過剰になり、作品のテンポやリズム、流れを崩してしまいがちでした。そんな凸凹をならしたりプロデューサーからの意向をスタッフに徹底したり、いわば制作スタッフとの潤滑油といったところ。

――劇場作品『～妖怪大戦争』を監督されましたが、こちらは？

葛西　劇場版はねェ――不完全燃焼で悔いが残っているんです（苦笑）。脚本はよく書けていて、面

白いシチュエーションが多々あった。

敵の魔女、狼男や吸血鬼、ボスのバックベアードなどの出現と戦いはアイディア不足。もっとハラハラドキドキ、痛快さがほしかった。背景も作画もよかった。素材は揃っているのに生かし切れなかった。

——作り直したいと？

葛西　それは無理ですよ（苦笑）。それより・また『新・鬼太郎』をやってみたいですね。モノトーン風、パートカラーで光と闇を描く。手描きのよさに拘った作画のライン、筆圧のタッチ。それにCGはあくまでも隠し味として効果的に使うほうがいいでしょう。

——水木しげる原作の他の作品も？

葛西　そうですね、僕は水木先生の他の作品、民話シリーズとか河童シリーズ、"戦記もの"、『ヒットラー』『新選組』や"エッチ"なものなど大人向きのものをやってみたい。それに画集『妖怪事典』『あの世の事典』など大好きです。よく研究されていて民俗学的に見ても意味があるし、じっと絵を見ていると色々とストーリーやアイディアが湧いてきます。

——『地獄編』はどういう経緯で出来たのでしょうか？

葛西　どうだったかなァ——。3年にわたって視聴者から支持され、その幅も広がって、番組をもっと続行させてほしいとの声が強かったと聞いていました。熱いファンの声もあったのでしょう。ちょっとマニアックな世界に立ち入った感もありますが——。その辺りは横山（賢二プロデューサー）さんが詳しいと思います

——放送期間の延長はいつ頃出てきたのでしょうか？

葛西　それも横山プロデューサーの範疇ですね。放送延長の決定には幾つかの条件が絡みます。視聴率、視聴者の動向、スポンサーやテレビ局の意向などです。大事なことは視聴率が高いということです。

しかしアニメ番組の制作は日数が掛かりますので早い時期に続行の判断をしなければ放送に間に合いません。延長が決まってどんなストーリーで、どんな妖怪を登場させるかみんな苦心したようですが、『鬼太郎』は1エピソード完結なので対応し易かったと思います。

——特に気に入っている妖怪がありましたら聞かせて下さい。

葛西　容姿の魅力、性格の魅力にもよりますが、ぬらりひょんが好きでした。妙に人間くさい、人間の世界ではこういう悪はどこにでもいるというところが（笑）。ニヒルで表情変えずに——しかし妙に愛着がある。朱の盤とのコンビもよかった。もっと登場させてよとライターさんにお願いしたりしていましたよ。それに音痴のさら小僧（第43話）、葬頭河婆（第46話）、白山坊（第11話）、天邪鬼（第22話）、「激戦！妖怪関ヶ原」（第41話）の妖怪たちも好きです。シーサーも可愛いかった。沖縄に対する世論が高まっていた頃です。

妖怪はね、なんかこいつ自分に似ているなというやつがいいんですよ。レギュラーのねずみ男がよかったですね。声優の富山敬さんの演技もピッタリはまっていた。

ほかの妖怪を演じた声優さんもベテランばかりで、峰恵研、槐柳二、はせさん治、増山江威子、滝口順平、青野武、大竹宏、宮内幸平、三輪勝恵、田中康郎、京田尚子、龍田直樹など、個性的で存在感が抜群でした。

——他に印象に残っていることがありましたら。

葛西　音楽ですね。「竜童組」（宇崎竜童）のメンバー、川崎真弘さんの音楽がよかった。和風のメロディーを都会的なモダンなアレンジ、ロマンティックで妖しく。エンディングの作詞、作曲、そして歌の吉幾三さんもユニークな起用だった。バックの映像も風雅でよかったね。

演出家が初号試写を観るのは当然ですが、完成度の具合でいつも憂鬱なんですよね。でも『鬼太郎』の試写はいつも楽しみだった。あの脚本をどのように演出したか、ゲストの妖怪がどのように演じられているか、舞台はどんなふうに描かれているか、ワクワクして観ていた。

アニメーションの魅力だね、紙に描かれた妖怪に色が着き、声が入り、やがて肉体と魂が一体となって物語の世界へ誘っていく。

その存在感が観る人に優越感や共感を与えていくのだと思う。

——ご自身の中でこの『鬼太郎』の第3シリーズはどのような存在になっていますか？

葛西　現在、放送されたり上映されているどんなアニメ作品よりも東洋的、日本風土濃い、味わいのある民族的な作品で、遺る作品のひとつでしょうね。どんなに科学技術が発達しても人間の幸福は不幸と悲劇との隣り合わせで、心の闇はなくならない。妖怪はいつの時代にもそんな人の心に住みついて仲よくしようよと呟いているんだよ。

なかなか奥が深い。

——本日はありがとうございました。

（２００６年　1月）

妖怪はいつの時代にも そんな人の心に住みついて 仲良くしようよと 呟いているんだよ



悪行妖怪の代表格ながら、ユーモラスなコンビネーションから憎めないキャラクターとなった
ぬらりひょん＆朱の盤コンビ。葛西氏もお気に入り

――作品に参加された経緯からお聞かせ下さい。

芝田　『Dr.スランプ　アラレちゃん』（81年）で演出デビューして2、3年した頃、『鬼太郎』の新シリーズをやるので参加しないかという話が来たんです。新人育成の意味もあってシリーズディレクターのアシスタントに付いてほしいということで。『鬼太郎』は第1シリーズも第2シリーズもリアルタイムで観た世代なので、やってみたいと思いました。それで挙手して決まったという流れでした。

僕が参加したときには企画は大体固まっていたんです。僕自身はシリーズディレクターの葛西治さんに付いて勉強させてもらう感じでした。フジテレビの打ち合わせに一緒に行ったり、キャラクターデザインや色彩設計が固まって行く様子を見させてもらったりして、時々「ユメコちゃんの髪型はロングのほうがいいですよ！」とか「コスチュームはエメラルドグリーンにしたいな〜〜」みたいな軽薄な意見を言っていました（笑）。

――時代を現代（当時の80年代）にしようというのは最初からあったものなんでしょうか？

芝田　はい。“夜でも闇がほとんどない様なきらびやかな都会に妖怪が出てくる”“現代社会で妖怪たちは何を思いどう暮らしているのか？”というテーマになっていました。これは以前のシリーズにも多少なりともあった部分だと思うんです。それをさらにクローズアップして、現代に生きる妖怪たちのカルチャーショックや悲喜劇を描いていこうというコンセプトだったと思います。

――あのダイナミックなオープニングやちょっとユーモラスなエンディング、アイキャッチはどなたが？

芝田　あれは僕です。プロデューサーの横山（賢二）さんが、「若い人材で冒険しよう」という人だったので、オープニング演出初体験。僕がやらせてもらいました。オープニングは旧シリーズから踏

ハリウッド映画や
ミュージッククリップの絵作りを目指して
コンテを切りました

GEGEGE INTERVIEW VOLUME2

芝田浩樹

1960年5月7日生。石川県出身。81年、横浜放送映画専門学院（現・日本映画学校）を卒業後、東映動画に入社。演出助手を経て演出となる。以降、演出、絵コンテ、シリーズディレクターとして活躍。本作の他、『ひみつのアッコちゃん』（第2シリーズ・88年／第3シリーズ・98年）『ゲッターロボ號』（91年）『劇場版美少女戦士セーラームーンSuperS』（95年）『地獄先生ぬ〜べ〜』（97年）『デジモンアドベンチャー　DIGIMON　ADVENTURE』などが代表作。近作に『怪〜ayakashi〜（「四谷怪談」「天守物語」）』『ガイキング　LEGEND　OF　DAIKU-MARYU』がある。



鬼太郎をカッコよく、
妖怪たちを個性豊かに描く

襲しているシーンもありますけど、まず大前提で鬼太郎をカッコよく見せようと考えまして。戦闘シーンもとにかくカッコよくしようと思ったんです。最後の髪の毛針とリモコンゲタは、作画を担当してもらった稲野（義信）さんの原画がカッコよくて、考えていた以上の迫力が出ましたね。

あとは“現代に現れる妖怪”というテーマに合わせて、夜のビル街に鬼太郎が現れるところから始めて。それからねずみ男ですね。兼森（義則）さんのデザインしたキャラクターがすごく面白くて動かしたくなる、イマジネーションをかき立てられるものになっていましたから、これはぜひねずみ男にノリノリで歌わせてみようと。当時ビジュアルの作りが素晴らしい『ＭＴＶ』とか、洋楽のミュージッククリップが全盛の時代で、そういうミュージッククリップの絵作りや、ブライアン・デ・パルマ、リドリー・スコットなどハリウッドの新しい映像に刺激されてコンテを切りましたね。

――カメラワークといえば、寝ている鬼太郎から茶碗風呂の目玉おやじ、湯船の中に入っていくカメラワークに驚きました。

芝田　あれはそういう意味でもろに『ＭＴＶ』的な映像を狙ったシーンですよ（笑）。

――本編でもアクションシーンはすごかったですね。

芝田　稲野さんに入好さとるさん、松本朋之さん、またスタジオ・ジャイアンツなど作画スタッフがダイナミックな描写のうまい方が多く参加してくれましたからね。

アクションはやっぱりハリウッド映画を意識していましたね。兼森さんとかと話していても『ブレードランナー』（82年）とか『刑事ジョンブック』（85年）とか、洋画の話をよくしていました。

――エンディングがデフォルメキャラクターになったのは当時流行していたからですか？

芝田　いえ、曲からのイメージですね。シンセ（サイザー）の打ち込みがポピュラーになってきた時代で、その作業に立ち会っていて。最後の「ポヨン、ポヨン」という感じのリズムを聞いたときに2等身の鬼太郎が跳ねてるイメージが湧いてきたんです。そこで決めました。

——もうひとつキャッチフレーズというか、予告編の最後に入る「扉の向こうで何かが起こる」というのはどなたからのアイディアだったんでしょうか。

芝田　あれは演出助手で入ってくれた誰かだと思うんですが、あの頃、ああいうフレーズを付けるのって流行ってたでしょう？　だから何かそういうキャッチーなものを作りたかったんですよね。それで、スタッフから色々アイディアを出してもらって、その中から、あのフレーズに決めこみました。

——特に演出で配慮していた部分はありましたか？

芝田　やっぱり、恐すぎて子供たちが引いてしまわないように心掛けていましたね。原作にあった設定で、左目が潰れているとか、体内に蛇を飼っている、ゆびでっぽうとかはテレビコード的な意味でもやめておこうというのが最初に決まっていました。とはいえ、恐い部分もそれなりに残しつつ、鬼太郎をカッコよく、妖怪たちを個性豊かに描いて面白くしようと心掛けていました。

——キャスティングについてはどのようにして決めていったんでしょうか？

芝田　オーディションを行いました。最初に旧シリーズからメンバーを総入れ替えしようということになっていた様です。

　今にして思えば鬼太郎が戸田恵子さん、ねずみ男は故・富山敬さんとか、ほとんど「ぬりかべ〜」しかセリフのないぬりかべ役を屋良有作さんがやられていたり豪華なキャスティングになっていましたね。

——その中で唯一、目玉おやじが田の中勇さんで続投されていたのは？

芝田　他に当てはまらなかったんです、声のイメージが。オーディションもしましたし、何度もテープを聞き直してみたんですが、どうにも合わなくて。オーディションに参加して頂いた方もどこか田の中さんに引っ張られてる演技なんですね。だったら田の中さんにやっていただくのがベストなんじゃないかということになったんです。

——それは分かりますね。アフレコにも立ち合われたんですか？

芝田　もちろんです。東映はオーディオ・ディレクター制ではないので演出がアフレコ現場を仕切らなければなりません。当時まだ20代半ばで若かったものですから、よくレギュラー出演者の方々にいじられたというか、戸田さんにからかわれたりしてましたね（照れ笑）。「はい、3ページ目いきます」とか指示を出したら、坂上二郎さんのギャグの「飛びます、飛びます」の口調で「いきます、いきます」なんて言われたり（笑）。そういう思い出がありますね。

——お気に入りのエピソードは？

芝田　やっぱり最初に演出した第2話「鏡じじい」は印象に残ってますね。あと「ばけ猫国道0号線」（第34話）が、これもハリウッド映画を意識していて……すぐ周りから「（スティーブン・）スピルバーグの『激突！』（73年／サラリーマンの運転する車を襲う謎のトラックという物語）だろ？」ってツッコマレちゃいましたけど（笑）。それから「妖怪キツネ白山坊」（第11話）。下田正美さんのダイナミックな動きのタイミングとか素晴らしくて。あとは劇場作品ですが『ゲゲゲの鬼太郎　激突!!異次元妖怪の大反乱』（86年）は気に入ってます。原作をモチーフにしていますが、ねずみ男を思い入れタップリに描けたので気に入ってますね。入好さん、新岡（浩美）さんの描いてくれたカロリーヌちゃんも可愛かったですし。

——逆にやってみたかったエピソードはありますか？

芝田　やっぱり大海獣編ですね。あと断片的なんですが、第2シリーズであった鬼太郎がかまぼこにされたら黄と黒の縞模様だった（第13話「かまぼこ」）という（笑）、あれがすごく記憶に残ってましてね。「地相眼」（第37話）とか『鬼太郎』以外の水木しげる作品をモチーフにしたエピソードが好きだったので、自分で演出してみたかったですね。

——ではお気に入りのキャラクターは？

芝田　やっぱりねずみ男かな。あと、ぬりかべ。当時「顔がでかいところが似てる」と言われていたので（笑）。

——他に印象に残っていることがあればお教え下さい。

芝田　当時、イベントに参席したときに女性ファンが多かったのでびっくりしましたね。第3シリーズは女性ファンが多いというのも特徴ですね。

——最後にこのDVDを手に取られたファンの方々にメッセージをお願いします。

芝田　いまだに第3シリーズを好きでいてくれるファンがいる、ということが嬉しいです。このＤＶＤで当時を思い出しつつ、また楽しんで見て頂けたら幸いです。ありがとうございます。

——本日はありがとうございました。

（２００６年　1月10日）

『鬼太郎』以外の水木しげる作品をモチーフにしたエピソードが好きだったので、自分で演出してみたかったですね



新たな鬼太郎ワールドを見せつけた迫力あるオープニングも氏の演出によるもの

――まず、本作に参加されることになった経緯をお聞かせ下さい。

兼森　横山（賢二／元・東映アニメーションプロデューサー）さんから声を掛けられたんです。横山さんとは以前から他の作品でも一緒にやらせて頂いていたので。

――企画段階から参加されていたんでしょうか？

兼森　いえ、そんなことはありませんね。大体、他の作品でも企画が出来上がった状態で話がきますよ。

で、鬼太郎からデザインを始めて、順にメインキャラクターをデザインしていきました。どういう順番でやったとか、もうあまり憶えていないんですが（笑）。

一番最初といえば最初のカラー版、第2シリーズなんですよね。アニメーターになって初めて描いたのが第2シリーズのオープニングの動画だったんですよ。あの、墓場の運動会で妖怪たちが何人もぞろぞろ歩いて行くシーンで……。"一番最初にこんなの描かせるなよ～"って思いましたね（苦笑）。歩きの、しかも複数じゃ大変なんですよ。だからすごく印象に残ってる。

――そうだったんですか？　では『ゲゲゲの鬼太郎』とは縁があったんですね。

兼森　いや、元々『鬼太郎』が好きだったんですよ。貸本時代の『墓場の鬼太郎』のほうがね。あ、いうドロドロしたイメージがあるんで、もっと原作に近いイメージでやりたかったんですよ、本当は。誕生編とか、第3シリーズでもやっぱりやってみたかったですからね。

――講談社の『テレビマガジン』で誕生編を描いた、セルイラストの絵物語（95ページ参照）があるんですが、兼森さんから発案されたという話も聞いたんですが。

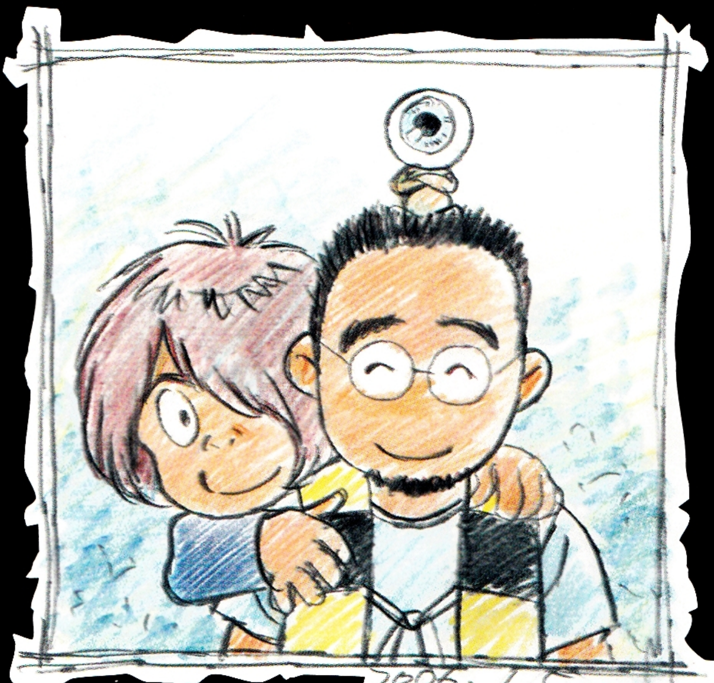
兼森　そんなのあったの？　いや、全然知らなかった（笑）。

元々『鬼太郎』が好きだったんですよ。貸本時代の『墓場の鬼太郎』のほうがね

GEGEGE INTERVIEW VOLUME3

兼森義則

1949年5月23日生。広島県出身。19歳のときに上京。専門学校を卒業後アニメーターとなる。以後、動画、原画マンを経て作画監督、キャラクターデザイン、レイアウト協力、絵コンテ、演出、監督まで手掛け、マルチアニメーターとして知られる。現在マッドハウスに所属。代表作は『ストップ!!ひばりくん！』（83年／キャラクターデザイン）『ゴキブリたちの黄昏』（87年／作画監督）『熱血最強ゴウザウラー』（93年／キャラクターデザイン）『花田少年史』（2002年／キャラクターデザイン）など。



妖怪が好きなので、昔の映画の『妖怪大戦争』とかやってみたいですね

――87年の10月号でした。

兼森　その頃だと、僕は作品自体から離れちゃってますね。色々あって他の作品にも参加することになったので。『ペンギンズ・メモリー　幸福物語』（85年公開の劇場用アニメーション）とかやってたのかな。

誕生編は好きだから描いてみたいとは始終言ってましたけどね。それがあって「じゃあ、やってみないか」と声を掛けられたんじゃないかな。

――描きやすかった妖怪や描きにくかった妖怪はありましたか？

兼森　描きやすいって言ったらやっぱり一反もめんですね。あれ以上のものはないです（笑）。もう、布ですからね。あと、描いていて面白かったのはねずみ男です。

逆に描きにくかった妖怪っていうのは憶えがないです。特に悩まず描けてたように思います。あ、ただユメコちゃんは描きづらかったですね。原作にもああいう可愛らしい少女は出てこないじゃないですか？　だからイメージが湧かなくて苦労したかな。

――少し話は戻りますが、第3シリーズのオープニングは第1、2シリーズのものを踏襲したシーンがありましたね。それこそ運動会とか。あれは絵コンテはどなたが？

兼森　誰だったかな？　僕ではないですね。作画も殆ど稲野（義信）くんがやってたんじゃないかな。

――このシリーズでは大分現代風になりましたね。

兼森　そうですね。第1話でビル街を描いて、取り壊し工事の現場から妖怪が復活してっていう。あそこで方向性が固まりましたね。妖怪たちも現代にいるからこそのギャップみたいなのがあって。それが作品の特徴にもなりましたね。

原作は昭和30年代ぐらいの時代背景でやってたように思えるので、ああいう……今だと『ALWAYS 三丁目の夕日』とかウケてますから、ああいう感じで鬼太郎が出てきたら面白いんじゃないかと思うんですよ。

——劇場作品に関してはいかがですか？ 何か思い出とかありましたら。

兼森 1作目（85年公開）のとき、ずっと大泉のスタジオ（東京都練馬区にある東映アニメーションのスタジオ）につめてやったのを憶えてますね。夜食が出るんですけど、それがメニューが少なくて、「今日どうします？」って言われるとかえってガクッときちゃってね。それがなんか印象に残ってますね（笑）。夜中まで残ってるの僕ぐらいでしたからね。

あと、スタジオ・ジャイアンツっていう作画スタジオ（『らんぽう』［84年］『さすがの猿飛』［82年］などで注目を浴びた）に参加してもらったんですけど、もう（セル画の）枚数考えずに動かしてくるんでね、葛西（治）さんに「大丈夫ですかね、これ？」って聞いたら「いい、いい」って言ってましたけど、後で怒られたんじゃないかな～と（苦笑）。でも、実際それでクオリティは上がってましたからね。あと、尺（上映時間）もオーバーしちゃって大分カットしてるんですよ。 そういう記憶は残ってるんです。やってて面白かったですけど。

ああ、それとキャラクターを描き直しちゃったことですかね。それまでのテレビ用キャラクターって寸詰まりで“ちょっとおかしいよな？”って思ってたんですよ。それで少しスマートに描き直したんですよ、「これは劇場だけです、後は使いません」って言って。でも、その後そこらじゅうで（他のアニメーターも）使い始めたみたいでね。結局テレビのキャラクターも変わってきちゃって。山口泰弘さんは頑として最初のキャラクターにこだわって描いてましたけど。

——版権もの、商品のパッケージイラストなども描かれたんでしょうか？

兼森 描きましたね。具体的に何を描いたかは憶えてないですけど。他の方々も描かれてたんじゃないですかね？

——マーチャンダイズ的にも大ヒットになったというのがひとつの特徴だと。プラモデルや消しゴム人形とか。

兼森 消しゴム人形あったの？ ほしかったなあ。立体は自分で作れないからね。

——今後手掛けてみたい作品というのはありますか？

兼森 妖怪が好きなので、昔の映画の『妖怪大戦争』（68年公開）とかやってみたいですね。昨（2005）年の夏、実写映画でリメイクしてましたけど、あの往年の大映映画の妖怪もの、『妖怪百物語』（68年）とか。以前はアニメーションでやるほうが、妖怪を表現するにはいいかなと思ったんですけど、最近は3Dのコンピュータグラフィックとか技術が進みましたから「実写にかなわないなぁ」と思うようになって（苦笑）。今は実写でやったら面白いかなと。やれるなら3Dでやってみたいですね。平面より立体のほうが絶対恐いもの。面白いだろうし。

それにやっぱり『鬼太郎』もやってみたい。これも実写で。実写だとあの世界観は“チャチ”に見えてしまうかもしれないから、無茶苦茶リアルにするか思い切り漫画っぽくするかのどちらかでしょうけど。

——『鬼太郎』の思い入れ、思い出などありましたらお聞かせ下さい。

兼森 やっぱり思い出すのは小学生のときですね。貸本屋で借りて読んで。やっぱり恐かったですけど。親父が目玉っていうところからしてね。

元々、水木しげる先生の漫画を読んでたんですよ。いわゆる“戦記もの”をずっと描いてらっしゃって。それを読んでいた延長で読み始めたんです。最初に読んだのが『鬼太郎誕生』だったか『鬼太郎夜話』だったか。で、そのままずっときてモノクロのアニメ、第1シリーズも観ていて。それから上京してアニメーターになって、「いつか『鬼太郎』を描いてみたい」と思っていたら最初の仕事が……先ほどお話しした通りで（微笑）。で、第3シリーズではキャラクターデザインからやらせてもらって。“やっててよかった！”っていう感激と、いろんな「ごめんなさい」という気持ちがグチャグチャグチャしてるんですよね、今になってみると（苦笑）。

——他のシリーズもご覧になっていたんですか。

兼森 もちろん。第1、2シリーズが一番原作に近いんでしょうけど、どちらかというと風刺というか、妖怪や人間の欲望に対する皮肉が効いていますよね。第4シリーズは、やっぱり女の子が出てくるんだなぁと（笑）。

オープニングとエンディングはどれもよかったですね。オープニングを歌われた熊倉一雄さん、吉幾三さん、憂歌団の方々もそれぞれ独特の味わいがあって、非常によかったですね。

吉幾三さんが歌うと聞いたときはびっくりしましたけど、聞いてみたら「いいじゃん！」って。

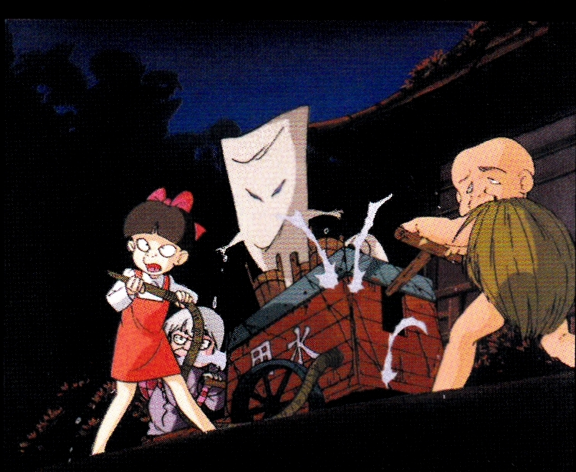
——最後にこのDVD-BOXを手にしたファンの方々にメッセージをお願いします。

兼森 “買って観て下さい！”というひと言ですね。面白いですし、それで次の『鬼太郎』に繋がるかもしれませんから、と（笑）。

——本日はありがとうございました。

（2006年 1月6日）

水木しげる先生の漫画を読んでたんですよ。いわゆる“戦記もの”を



鬼太郎ファミリー。数ある妖怪の中でも一反もめんが最も描きやすかったとのこと

——鬼太郎役はオーディションでした？　それとも決め打ちでしょうか？

戸田　そうですね。他のお仕事とまったく同じように、事務所からごく普通に言われたと記憶しています。

——鬼太郎役はそれ以前に野沢雅子さんが演じられていたわけですが、その点を意識されたことは？

戸田　非常に割り切りよくお仕事として受けさせて頂いたという感じですけれども（笑）。ただ、自分が子供のときに見ていたキャラクターを、よもや自分が演るという……。その当時……今もそうですけれども、マコさん（野沢雅子さんのこと）は現役なわけでして、なんらかいろんな事情があってそういうことになったわけですよね？　個人的にもアニメーションの声優さんの中では一に尊敬している方なので、それはいい方向に取って。何かご縁だと思って、プレッシャーということよりも非常に光栄に思いつつ演らせて頂きました。不思議な気持ちではあるんですけど……そういったことってね。

野沢さんがお演りになってから少し間も経っていましたし、考え方としては“これから見てくれる子供たちに向けて”というね。実際そうなんですけど、それを見て大人になった子たちが「鬼太郎見てました」って言うと、「いつ版の？」って必ず聞くんですけど（笑）。「吉幾三さんの主題歌のだったらあたしなんだけど？」っていうことで、「あ、そうです」って言う世代の子たちがもう大きくなって同じ業界で仕事してるんですよね。だから、ホントに常に常に生まれ変わって、新しいバージョンで育ってくれればそれでいい、と。それなりの印象を持って頂ければいいかなと思って。

私が（『鬼太郎』を）見てた世代の人たちは、もう見てないわけですよ。あたしが演ってるときには。だから気が楽というか（笑）。よっぽどオタクというか好きな方というか……熱烈な『鬼太郎』ファンとかね、そういう方は私がやめた後も見てらっしゃるでしょうし。純粋に子供たちに向けて、ということになると、私が見てた……私と同じぐらいの方たちはもう私の『鬼太郎』は見ていないんですよね（笑）。なのである意味、そんなに気にしなくていいんだな、っていう（笑）。

たとえば比較論の話になるとですね、到底追いつけるものではないというふうに個人的には思っています。野沢さんがお作りになった『鬼太郎』の世界観というものはね、まったく同じにできるわけもなく、超えられるわけもなく……ホントにオリジナルで演らせて頂いたという……。特にそのために前の作品を見たとか、そういった勉強もしませんでした。

『ゲゲゲの鬼太郎』のキャラクターの一番は、鬼太郎よりも目玉おやじだと私は思っているんですよね

GEGEGE INTERVIEW VOLUME4

戸田恵子

9月12日生まれ。愛知県出身。グランパパ・プロダクション所属。歌手活動を経て俳優・野沢那智主宰の劇団・薔薇座に入団。その後、声優デビューを果たし、『機動戦士ガンダム』（79年）のマチルダ・アジャン、『キャッツアイ』（83年）の来生瞳、『それいけ!アンパンマン』（88年）のアンパンマン、『機関車トーマス』（90年）のトーマスなど数多くの名キャラクターや、吹き替えではジョディ・フォスターやニコール・キッドマンを担当。近年は女優として活動。映画『ラヂオの時間』（97年）では日本アカデミー賞最優秀助演女優賞を受賞。最新作は映画『THE有頂天ホテル』。



普段は、木の上に暮らしている普通の子っていう（笑）

——鬼太郎の役作りはどういった感じで？

戸田　男の子のキャラクターを演ることになったのは、レギュラーとしては二作目ぐらい……その前に松本零士先生の『新竹取物語　1000年女王』（81年）っていうのを演っていまして。そのときに、先生の独特の顔のキャラクターの、雨森始っていう役をさせて頂いたときが、自分の中ではまったく寝耳に水の状態で男の子役っていうふうに振られたもんですから、“こんなのあたしにできるのかな？”って、ちょっと想像してなかったものですから。それを思ったらここは多分すんなりいけたって思うんです。ただ、昔見てたものでもあるしということと、ただ元気のいい子ではないというところと……「ゲタキック！」とかそういうのしてたでしょ？　だからある種ヒーロー感みたいな、戦いの、戦闘モードみたいなものを少し入れるんだなぁというふうには意識はしたんですけど。あとはなんか非常に穏やかに暮らすことを望んでいる子なんだ、

子供なんだという認識を常に持っていて……その辺がちょっと気をつけたところではありますかね。ガールフレンドもいたし、そういった思いとかもあったり……ホントに普段は、木の上に暮らしている普通の子っていう（笑）。

——全4作ある『鬼太郎』シリーズ中最高の視聴率を記録していますが、人気の実感はありましたか？

戸田　そうなんですよねぇ。まったく何も感じずに演ってましたね。そういった人気感みたいなことは（笑）。当時は聞いていたのかもしれませんけど。ただ、ファンレターを頂くニュアンスがですね、"鬼太郎が好きだ"という女の子がすごく多いですね。何現象なんでしょうか、それは（笑）？"私が"ということではなくて。もちろん声も入っての鬼太郎という意味なんですけど、動く……アニメの中の鬼太郎にとても想いを寄せて、ラブレターじゃないけれども。そういう熱烈さ加減の手紙がすごく多いんですよ、『鬼太郎』に関しては。ある種、ヒーローであったりするんだと思いますけどね。もともと女性（からのファンレター）が圧倒的に多いことなのでそんなには驚かないんですけれど、その入り方が……私に憧れたりとか、私に何か想いをじゃなくて鬼太郎というキャラクターを通してのファンレターだったりして。なんかね、ちょっともう混じっちゃってるところがあるわけですよ。ややもすると鬼太郎って人がホントに実在しててほしいぐらいの想いで書いてきてるわけですよね（笑）。"ホントにそういう人がいたら結婚したいです"とか。もうゾッコンばりに手紙が……ホントにもう大好き大好きで。

　女性キャラクターの場合で女性から（ファンレターが）くる場合は少し冷静さを持ってはいるんですよね。やっぱり相手が……キャラクターが男であるということでちょっと間違った入り方っていうか（笑）、すごくもう"そういう人がいたらいいな"っていうことになる？　女性（キャラクター）だと別に……（『機動戦士ガンダム』の）マチルダ（・アジャン）さんは憧れだったり、（『キャッツアイ』の来生）瞳だったら"そういうふうになりたいな"とか。恋心は抱かないわけですよね？　でもここには恋心を抱いて手紙が……いまだにありますよ。"鬼太郎が命"っていうような手紙とか。

　エンディングに登場する鬼太郎とネコ娘の、二頭身のキャラクターなんかも可愛かったですしね。そういう部分もあって、女の子たちにも人気が出たんじゃないかな？　私が見ていた『鬼太郎』は、なんだかおどろおどろしくてすごい恐い印象でしたもんね。そういう部分が薄まって、楽しいイメージが増えたから女の子にまで拡がった気がしますね。

——共演者の方々との思い出は？

戸田　私からすればもうホントに大大、大先輩の方々がいらっしゃってね。お父さんの田の中（勇）さんとかね。私なんかはもうこんな性格なので、言いたいことを言いながら先輩方と……和気あいあいと楽しかったのをすごく憶えてますね。楽しかったから"いつまでもやっていたいですねぇ"って話して。そしたらもう年配のみなさんが"イヤもう体がもう続かないから"なんとかって言いながら。"じゃもう私は大久保の駅まで車イスでお迎えにあがりますよ"とか。"点滴をしながらでもみんな来るように頑張りましょう！"とか、先輩方とそういう冗談を言いながらやっていたのをすごく憶えていますね。

——妖怪ものですと、録音中に怪現象が起きたといった逸話をよく聞くんですが？

戸田　まったくそれも記憶になく（笑）。妖怪ものじゃなくても（録音機器が）止まることはあるので（笑）。

　全然関係ない話なんですけど、そういったレギュラーをやっている中で八奈見（乗児）さんとかも仲良くさせて頂いて、一緒に映画を観に行ったりとか（笑）。『危険な情事』（87年）っていう映画が当時流行っていて。それを"安全な乗児と観に行った"ってよくシャレで言ってたんですけど（笑）。八奈見さん、少しは私がキャーキャー言ってくれるのかと思ったら、ボクのほうがワーワー言っていて私は動じなかったっていまだにおっしゃってますけど。でもそんなふうなこともできた……収録が終わって多分、ご一緒に映画を観に行ったりしたんですよね。お茶飲んだり、夜はどっかに呑みに行ったりとかそういうことは頻繁にしてた記憶があります。

——敵妖怪で印象に残っているキャラクターは？

戸田　ぬらりひょんと朱の盆は面白かったですね。ぬらりひょんは青野（武）さんだもんね。ぬらりひょんって名前からしてなんか……何回も言いたくなるような名前ですもんね（笑）。

——レギュラー陣を含めて他にお気に入りのキャラクターは？

戸田　それは圧倒的に目玉おやじなんですけれども。あんなにアニメーションのキャラクターの中で、誰もが知っていて、愛されていて、誰もがものまねをするキャラクターなんてないと思うんですよね。で、なんかホントにあゝいうことがあったらいいなぁって、大人ながらにもバカバカしくやっぱり想像して楽しいキャラクター……だってホントこういうところ（テーブルの上の湯呑みを指して）にいるわけでしょう？　それはすごく……もう最高のキャラクターだと思いますねぇ。前からそう思ってたんですけど。こんなに愛されることってないんじゃないかって？　あんな簡単な絵で描ける……

大久保の駅まで車イスでお迎えにあがりますよ

簡単なって言っちゃ失礼なんですけど。それが自分のお父さんであって、こういうとこ（再び湯呑み茶碗を指して）にお湯に入ってるってことがなんかすごく愛しいというか。『鬼太郎』の中では鬼太郎よりも目玉おやじのほうが、みなさん的には入り易いというか、ホントに愛すべきキャラクターだと思うんです。『鬼太郎』ファンじゃなくても、アニメや漫画のことよく知らない人でも、ホントに日本中でみんなが知っている……アンケートを取れば一人気だと思いますね（笑）。

——声も田の中さんがズッと演じ続けられて……。

戸田　そうなんですよ。それってすごいことだと思いますね。アレって他の人が演って変わらなかったりするのかな？……やっぱり大きく違うんだろうなぁ。これが声がつかなくてね、"じゃあどんな声なんだろう？"って想像したときに、もうあの声以外に想像できないですもんね、今はね。別に普通の声でもよかったはずなんですよ。一番最初につけるときにね（笑）。普通のオヤジノリの声でもよかったんですけど……そこをちょっと、田の中さんに聞いたことがないので一回聞かないと分からないですけど。そういうもんだっていう……みんなが思ってますからね（笑）。だからやっぱり『ゲゲゲの鬼太郎』のキャラクターの一番は、鬼太郎よりも目玉おやじだと私は思っているんですよね。ズッと常に。

（２００５年　12月25日）



ゲゲゲの博品館

～『テレビマガジン』（講談社）掲載グラビア再録～

其ノ壱

本作の連載をメインで展開していた講談社の『テレビマガジン』誌上には、本編では見られないイラストが、本作スタッフの描き下ろしによりほぼ毎号掲載された。特にテレビでは描かれなかった"鬼太郎の誕生"をアニメ版のキャラクターで見せたグラビアなどは熱心なファンならずとも必見。中でも印象に残る代表的なグラビアを抜粋して再録しよう。



▲86年8月号より。地獄での鬼太郎の奮闘ぶりを伝えている

本編では見られない
描き下ろしイラストが満載

◀87年2月号より。
鬼太郎の新兵器として
"ちゃんちゃんこバズーカ"を紹介





▲87年1月号より。劇場用新作・第3弾の特集ページ

テレビマガジン掲載記事目録 一

掲載号	掲載記事タイトル	内容	絵
85年10月号	ゲゲゲの鬼太郎 テレビアニメで新登場 他	4色・4ページ	水木しげる、 東映動画、 福田典高
85年11月号	ゲゲゲの鬼太郎 鬼太郎6大超能力! 他	4色・3ページ (内・折り込み2ページ)	水木しげる (水木プロ)
	ゲゲゲの鬼太郎 妖怪ものしり百科 他	1色・7ページ	水木しげる (水木プロ)
85年12月号	ゲゲゲの鬼太郎大画報 しゅつげき! ゲゲゲの鬼太郎 他	4色・6ページ (内・折り込み1ページ)	水木しげる (水木プロ)
	ゲゲゲの鬼太郎 テレビガイド 他	1色・7ページ	
	ゲゲゲの鬼太郎妖怪お面	付録	
86年1月号	友だちにだそう!ゲゲゲの 鬼太郎年賀はがき	綴じ込み付録	
	ゲゲゲの鬼太郎大画報 南の島から妖怪軍団が せめてきた!	4色・6ページ	水木しげる (水木プロ)
	ゲゲゲの鬼太郎 妖怪ものしり百科	2色・6ページ	水木しげる
	ゲゲゲの鬼太郎 テレビガイド	1色・3ページ	水木しげる (水木プロ)
86年2月号	ゲゲゲの鬼太郎 どっきりシール	綴じ込み付録	
	ゲゲゲの鬼太郎大画報 鬼太郎をたおせ! 夜の妖怪大会議 他	4色・8ページ	水木しげる (水木プロ)
	ゲゲゲの鬼太郎 妖怪ものしり百科	2色・6ページ	水木しげる (水木プロ)
	ゲゲゲの鬼太郎 妖怪かるた+かるたケース	付録	
86年3月号	ゲゲゲの鬼太郎 びっくりゲゲゲの森	綴じ込み付録	
	ゲゲゲの鬼太郎 大ぼうけん	4色・8ページ	水木しげる (水木プロ)
	ゲゲゲの鬼太郎妖怪 ものしり百科	2色・6ページ	水木しげる (水木プロ)
	ゲゲゲの鬼太郎 妖怪城射撃ゲーム	付録	
86年4月号	春休みだよ〜ん 大けんしょう!おうぼはがき	読者プレゼント用 問題・応募ハガキ	
	ゲゲゲの鬼太郎決戦特報 大空のたたかい 電気妖怪かみなり 他	4色・4ページ	山口泰弘
	東映まんがまつり ゲゲゲの鬼太郎 妖怪大戦争	4色・2ページ	
	ゲゲゲの鬼太郎 妖怪ものしり百科	2色・6ページ	水木しげる (水木プロ)
	春休み映画 ゲゲゲの鬼太郎 妖怪 大戦争 どちらが強い? 東西妖怪軍 妖力くらべ	1色・2ページ	
	ゲゲゲの鬼太郎 妖怪レースゲーム	付録	
86年5月号	ゲゲゲの鬼太郎 大けんしょうおうぼはがき	読者プレゼント用 問題・応募ハガキ	
	ゲゲゲの鬼太郎決戦特報 おばけ野球のはじまりだ!	4色・6ページ 他	山口泰弘
	ゲゲゲの鬼太郎 妖怪ものしり百科	2色・6ページ	水木しげる (水木プロ)



▲こちらは応募者全員プレゼント「ひみつ手帳」の告知





▲86年7月号より。最新登場妖怪を紹介







◀87年4月号より。
新しい仲間シーサーを
大々的に取り上げている

▼87年6月号より。
地獄での鬼太郎の大特訓を解説





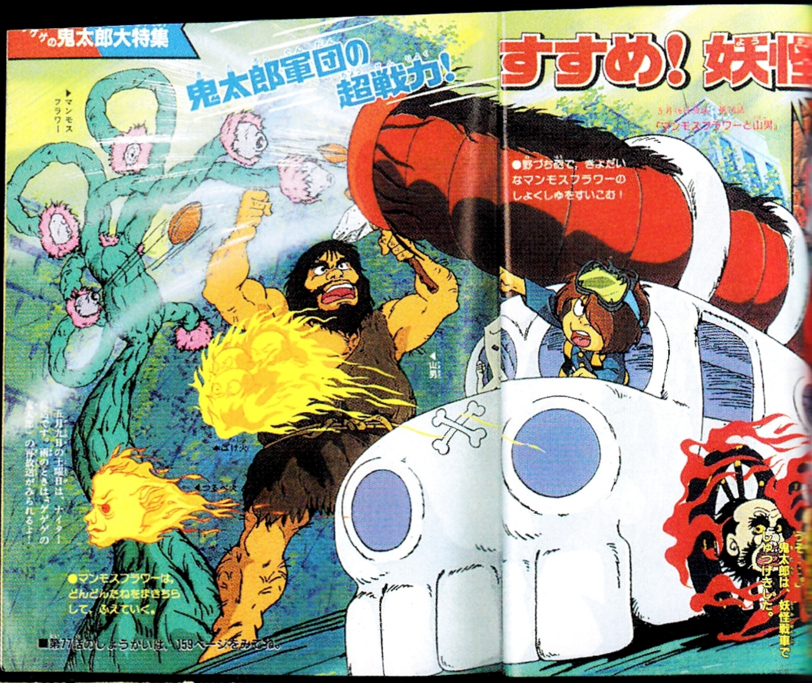




▶87年8月号より。
鬼太郎の新軍団を紹介

テレビマガジン掲載記事目録 二

掲載号	掲載記事タイトル	内容	絵
86年5月号	鬼太郎の友だち 「ねずみ男のひみつ」	1色・5ページ	水木しげる (水木プロ)
86年6月号	ゲゲゲの鬼太郎大決戦	4色・6ページ	山口泰弘
	ゲゲゲの鬼太郎 塩ビ人形妖怪ずかん	2色・6ページ	水木しげる (水木プロ)
	ゲゲゲの鬼太郎 鬼太郎の友だち妖怪 他	1色・7ページ	水木しげる (水木プロ)
86年7月号	ゲゲゲの鬼太郎大決戦! 新しい鬼太郎のなかまが 大かつやく!	4色・6ページ	山口泰弘
	ゲゲゲの鬼太郎 妖怪人気コンテスト	4色・2ページ	
	ゲゲゲの鬼太郎 鬼太郎の友だち妖怪 他	1色・6ページ	水木しげる (水木プロ)
	ゲゲゲの鬼太郎 ひみつ事典	付録	
	鬼太郎ファミコン必勝 マップ	付録	
86年8月号	バンダイ人気おもちゃ 大けんしょうおうぼハガキ	読者プレゼント用 問題・応募ハガキ	
	ゲゲゲの鬼太郎大特集 楽しいゲゲゲのぼんおどり 他	4色・6ページ	山口泰弘
	夏休み東映まんがまつり ゲゲゲの鬼太郎 最強妖怪軍団日本上陸!	4色・3ページ	
	ゲゲゲの鬼太郎 中国妖怪対日本妖怪	1色・6ページ	水木しげる (水木プロ)
	ゲゲゲの鬼太郎 妖怪自動車出動ゲーム	付録	
86年9月号	ゲゲゲの鬼太郎大決戦!	4色・6ページ (内・折り込み2ページ)	水木しげる (水木プロ)、 山口泰弘
	夏休み東映まんがまつり ゲゲゲの鬼太郎 たおせ!中国妖怪軍団	4色・5ページ	
	ゲゲゲの鬼太郎ひみつ情報 霊界ゆうびんのひみつ 他	1色・6ページ	水木しげる (水木プロ)
	ゲゲゲの鬼太郎 妖怪トランプ	付録	
86年10月号	ゲゲゲの鬼太郎大特集 鬼太郎のおかあさんが いきかえった? 他	4色・5ページ (内・折り込み2ページ)	山口泰弘
	鬼太郎おもちゃ情報 プレゼントつき ゲゲゲハウスめぐり	4色・5ページ	
	鬼太郎とあそぼう! おもしろクイズ	2色・8ページ	高梨鉄平
	ゲゲゲの鬼太郎ひみつ情報 鬼太郎、ねこむすめの ヘェヘェヘェおばけ教室	1色・7ページ	水木しげる (水木プロ)、 山口泰弘
	ゲゲゲの鬼太郎 ドキドキパックンゲーム	付録	
	ゲゲゲの鬼太郎 なかま妖怪大集合	付録	
86年11月号	ゲゲゲの鬼太郎大決戦! 妖怪おんもらき大空の ついせき! 他	4色・5ページ (内・折り込み2ページ)	山口泰弘
	鬼太郎おもちゃ情報 ゲゲゲハウスシリーズ 妖怪城のひみつ	4色・5ページ	



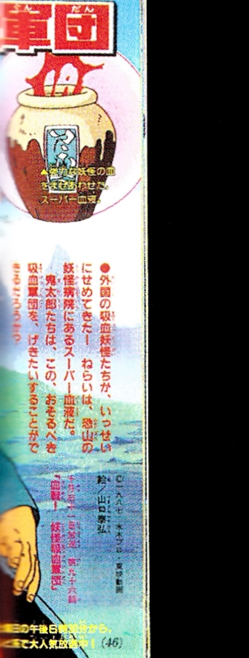
▲同じく87年4月号より。
妖怪戦車のグラビア



▶87年6月号より。
鬼太郎の新戦法を紹介



▲87年11月号より。新戦法・火えん連弾を紹介





▲87年10月号より。スペシャル情報として6ページにわたって"鬼太郎の誕生"を特集





▲同じく87年10月号より。ねずみ男との出会い



▶同じく87年10月号より。
鬼太郎の家が、仲間たちの協力を得て完成した事実が描かれている

テレビマガジン掲載記事目録 三

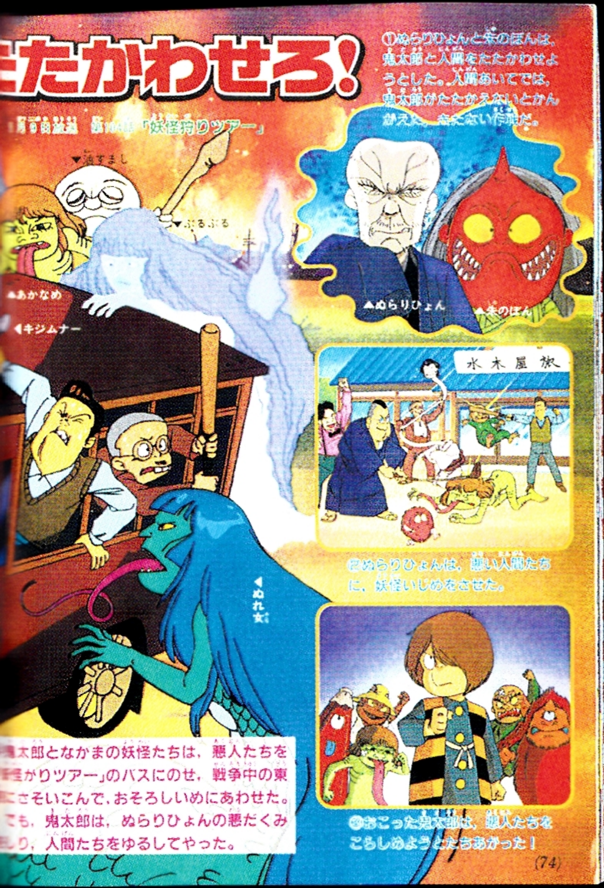
掲載号	掲載記事タイトル	内容	絵
86年11月号	ゲゲゲの鬼太郎ひみつ情報 鬼太郎,ねこむすめの ヘェヘェヘェおばけ教室 「ちょっとなじみの妖怪たち」	1色・7ページ	水木しげる、 山口泰弘
	ゲゲゲの鬼太郎 妖怪すもう大会	付録	
86年12月号	ゲゲゲの鬼太郎大特集 すごいぞ!世界妖怪ラリー 他	4色・8ページ (内・折り込み1ページ)	山口泰弘
	ゲゲゲの鬼太郎ひみつ情報 鬼太郎,ねこむすめの ヘェヘェヘェおばけ教室 「冬休み映画妖怪大集合」	2色・9ページ	水木しげる、 山口泰弘
	きみも鬼太郎から年賀状 をもらおう! (全員プレゼント告知)	1色・1ページ	
	ゲゲゲの鬼太郎 リモコンげたゲーム	付録	
87年1月号	ゲゲゲの鬼太郎大特集 妖怪たぬき軍団の 大こうげき! 他	4色・6ページ (内・折り込み2ページ)	山口泰弘
	ゲゲゲの鬼太郎ひみつ情報 鬼太郎,ねこむすめの ヘェヘェヘェおばけ教室 「妖怪の乗りもの特集」	2色・7ページ	水木しげる、 山口泰弘
	ゲゲゲの鬼太郎冬休み 映画情報 げきとつ! 異次元妖怪の大はんらん	4色・3ページ	
	ゲゲゲの鬼太郎 妖怪自動車	付録	
87年2月号	お正月スペシャル 大けんしょう	読者プレゼント用 問題・応募ハガキ	
	ゲゲゲの鬼太郎大特集 まぼろしの汽車が やってきた! 他	4色・8ページ (内・折り込み1ページ)	山口泰弘
	ゲゲゲの鬼太郎ひみつ情報 ヘェヘェヘェ劇場 「悪魔ブエルとヤカンズル」他	2色・7ページ	
	ゲゲゲの鬼太郎 立体決戦ゲーム	付録	
87年3月号	ゲゲゲの鬼太郎大特集 ぼうけんの旅に出発だ! 他	4色・9ページ (内・折り込み2ページ)	山口泰弘
	ゲゲゲの鬼太郎ひみつ情報 鬼太郎,ねこむすめの ヘェヘェヘェおばけ教室 「おニャン子妖怪のひみつ」	1色・5ページ	水木しげる、 山口泰弘
	ゲゲゲの鬼太郎 妖怪戦車	付録	
87年4月号	ゲゲゲの鬼太郎大特集 新しいなかまシーサー 登場! 他	4色・8ページ (内・折り込み2ページ)	山口泰弘
	ゲゲゲの鬼太郎ひみつ情報 鬼太郎,ねこむすめの ヘェヘェヘェおばけ教室 「妖怪なんでもしつもんばこ」	1色・7ページ	水木しげる、 山口泰弘
	ゲゲゲの鬼太郎 自動車大ジャンプゲーム	付録	
87年5月号	ゲゲゲの鬼太郎大特集 がんばれシーサー 沖縄大決戦! 他	4色・6ページ (内・折り込み1ページ)	山口泰弘



▲87年11月号より。
強敵・吸血妖怪軍団との激闘を4ページにわたって紹介



▲同じく87年11月号より。仲間たちの力を借りた“決め技”が登場



▲同じく88年2月号より。
ぬらりひょんとの最終決戦と
なったラストシーンを特集



▲88年2月号より。特集ページの扉





テレビマガジン掲載記事目録 四

掲載号	掲載記事タイトル	内容	絵
87年5月号	ゲゲゲの鬼太郎ひみつ情報 ヘェヘェヘェ劇場 「人食い島たんけんのまき」	1色・5ページ	水木しげる、 山口泰弘
	ゲゲゲの鬼太郎 妖怪魚パックンゲーム	付録	
87年6月号	ゲゲゲの鬼太郎大特集 妖怪プロレスにかて! 鬼太郎の地獄大とっくん	4色・8ページ	松本朋之
	ゲゲゲの鬼太郎ひみつ情報 ヘェヘェヘェ劇場 「妖怪手の目とがきのまき」	1色・5ページ	水木しげる、 稲野義信
87年7月号	ゲゲゲの鬼太郎大特集 よ～いドン!妖怪マラソン 他	4色・8ページ	山口泰弘
	ゲゲゲの鬼太郎ひみつ情報 ヘェヘェヘェ劇場「雨神 ユムチャック伝説のまき」	1色・5ページ	水木しげる、 山口泰弘
	ゲゲゲの鬼太郎妖怪番付	付録	
87年8月号	ゲゲゲの鬼太郎大特集 妖怪軍団ふっかつ! 他	4色・6ページ	山口泰弘
	ゲゲゲの鬼太郎ひみつ情報 ヘェヘェヘェ劇場	1色・5ページ	水木しげる、 山口泰弘
	ゲゲゲの鬼太郎 立体あみだくじ	付録	
87年9月号	ゲゲゲの鬼太郎大特集 妖怪のてきヒ一族あらわる! 他	4色・7ページ	山口泰弘
	ゲゲゲの鬼太郎ひみつ情報 新登場妖怪ずかん	1色・5ページ	水木しげる、 山口泰弘
	鬼太郎の妖怪カーレース ゲーム	付録	水木しげる、 山口泰弘
87年10月号	ゲゲゲの鬼太郎 スペシャル情報 鬼太郎 はこうして生まれた! 他	4色・6ページ	山口泰弘、 松本朋之
	ゲゲゲの鬼太郎ひみつ情報 妖怪家なりをたおせ! 妖怪剣のみだれうち 他	1色・4ページ	水木しげる
87年11月号	ゲゲゲの鬼太郎大特集 たおせ!8大吸血妖怪軍団	4色・7ページ	山口泰弘
	ゲゲゲの鬼太郎ひみつ情報 でた!妖怪ケラケラ女だ!	1色・2ページ	水木しげる
87年12月号	ゲゲゲの鬼太郎大特集 大ショック!鬼太郎の命が 今年でおわる? 他	4色・7ページ	山口泰弘
	ゲゲゲの鬼太郎 テレビ最新ニュース	1色・2ページ	
88年1月号	ゲゲゲの鬼太郎大特集 時代劇スペシャル	4色・6ページ	山口泰弘、 松本朋之
	ゲゲゲの鬼太郎ひみつ情報 ぬりかべがうらぎった?	1色・2ページ	水木プロ
88年2月号	ゲゲゲの鬼太郎大特集 ぬらりひょん対鬼太郎 決戦の日は,ちかい! 他	4色・5ページ	松本朋之
88年3月号	ゲゲゲの鬼太郎大特集 鬼太郎親子をひきさけ! きょうあく妖怪本所 七ふしぎの刑	4色・4ページ	山口泰弘
88年4月号	ゲゲゲの鬼太郎特別 シリーズ 地獄編 母をもとめて地獄旅!	4色・4ページ	松本朋之
	わくわくヒーローオリンピック どちらが強い? 鬼太郎対地獄童子	1色・2ページ	水木プロ





▲88年4月号より「地獄編」大特集。
鬼太郎の母親は純和風美人調に描かれている

▶同じく88年4月号より。
妖怪軍団のグラビアが圧巻だ

ゲゲゲの博品館

～鬼太郎アイテム大集合～

放送当時発売された『ゲゲゲの鬼太郎』第3シリーズのアイテムを一堂に会して紹介する。ここに掲載する商品は一部であるが、ザッと見渡しただけでも玩具から日用品までバラエティに富んでおり、眺めるだけでも楽しめる。80年代中期の時代の空気を味わって頂きたい。

おもちゃも個性的な妖怪アイテムの世界

ゲゲゲハウス（バンダイ）

鬼太郎の家を再現し、消しゴム人形の鬼太郎たちでギミックを楽しむ。男の子版「こえだちゃん　木のおうち」だ。





商品は意外と大きく、高さ25cmほどある

ゲゲゲ妖怪城（バンダイ）

たんたん坊たちの居城・妖怪城もラインナップに。同社のラインナップは共通して消しゴム人形でギミックを楽しむものとなっている。



ゲゲゲハウスよりさらに大きい



設定画からそのまま抜け出てきたようなプロポーションが素晴らしい





ソフトビニール製人形(バンダイ)

いわゆる"ソフビ人形"で、大きさは15〜20cmぐらいある。ユメコ(!)を含む鬼太郎ファミリーを中心に、だるまや呼子など、序盤に登場した妖怪もラインナップに。





こちらは「こなきじじい(子泣きじじい)の家」。存外ラインナップがマニアックで楽しい

ゲゲゲハウスシリーズ(バンダイ)

廉価版のレギュラーシリーズで、「子泣きじじいの家」や「砂かけばばあの妖怪アパート」なども発売された。

ゲタケリ鬼太郎(バンダイ)

デラックス版の鬼太郎人形で、キックするギミックでゲタを飛ばし、髪の毛針を発射する。





ゲゲゲパニック 妖怪ポスト オカリナセット

(バンダイ)

こちらは当時の雑誌掲載広告から。「ゲゲゲパニック」は立体ゲーム盤、「オカリナセット」は"なりきりグッズ"で実物大の商品だ。他、ゲタとちゃんちゃんこの「カランコロンセット」やゲーム盤、「ドンジャラ」などもあった。



ファミコンソフト
ゲゲゲの鬼太郎 妖怪大魔境
ゲゲゲの鬼太郎2 妖怪軍団の挑戦
（バンダイ）

任天堂の元祖テレビゲーム機『ファミリーコンピュータ』のソフトとして2本が発売された。ブーム全盛期の当時ならではのアイテム。実はアクションゲームとしての完成度も高いヒット作で、メーカー主催で全国大会も開かれた。





当時の雑誌掲載広告より。大会の優勝者にはコントローラーに装着する特製ジョイスティックが贈られた

ぬいぐるみ（AMUSE）

プライズ商品の元祖的なもの。ラインナップなど詳細は不明である。

ゲームソフトも大ヒット！　全国大会開催される



パロチェンマン（バンダイ）

こちらは当時流行にあったデフォルメタイプのプラモデルで、パロディ+チェンジという意味があり、他のシリーズラインナップはすべて変形ギミックがあった。だが、鬼太郎はもちろん変形しない。





当時の雑誌掲載広告から



ゆうれい電車というのがマニアックだ





パズル（セイカ）

セイカノートからはキャラクター商品の定番・パズルが発売された。キャンペーンとしてウエストポーチがプレゼントされた。

プラモデル（バンダイ）

プラモデルも玩具とコンセプトは同じで、建物・乗り物を組み立てて消しゴム人形で遊ぶというものだった。全4種類。



おはし（KOMORIJUSI）

子供用のおはしと箸箱のセット品だ。



ビニールバッグ
（メーカー不明）

子供用のビニールバッグである。
おそらく夏向けの商品だったのだろう。

こちらは外箱



カードの老舗・天田印刷加工の消しゴム人形



消しゴム人形（天田印刷加工）

近年のトレーディングフィギュア同様、袋の外から中身は確認できない。シリーズ後半まで、かなりの登場妖怪をフォローしており、ディテールも細かく出来のいい商品である。

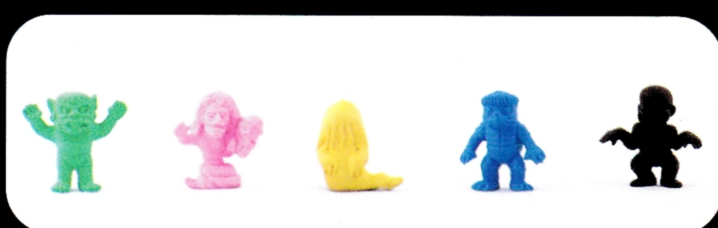








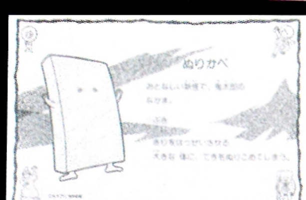






アタリ下敷の表面と裏面





下敷本体の表面と裏面





デラックス下敷（セイカ）

ノートやぬりえで有名なセイカも珍しく、大判カードのノリの下敷を発売しており、駄菓子屋や文具店でも販売されていた。

カード・シールなど駄菓子屋アイテムも続々登場

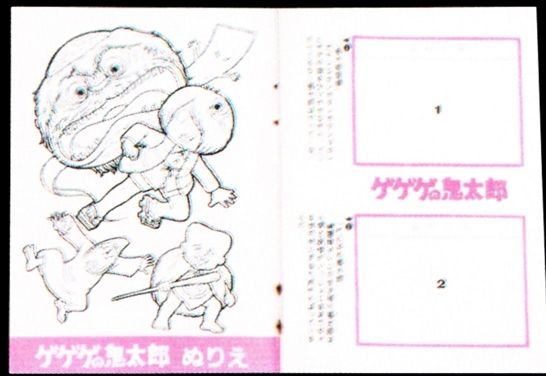
ゲゲゲの鬼太郎コレクション（丸昌）

70年代にブロマイドを多数発売し有名だった丸昌からはシールと、それをコレクションするアルバムが発売された。



こちらは外箱

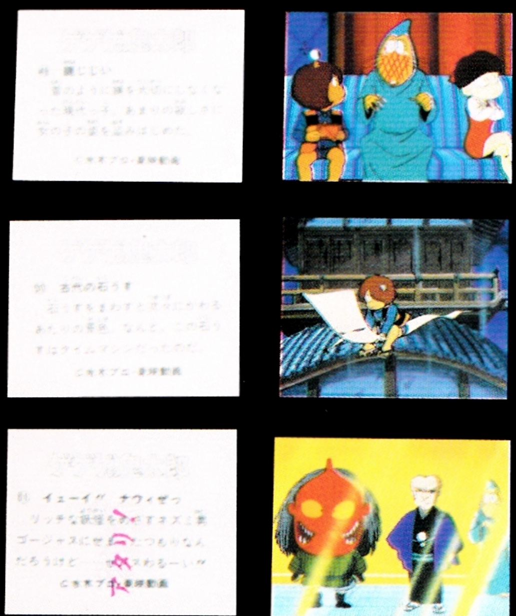




シール本体と外袋、アルバム









カードとカードケース

ミニカード（天田印刷加工）

天田印刷加工はもちろんカードも発売、アタリ！カードでアルバムがもらえた。



こちらは外箱

バンプレカード（バンプレスト）

こちらのカードは放送終了後に発売されたもの。発売はカードブーム隆盛の92年。プリズムカードの存在など、形態はバンダイの「カードダス」シリーズに極めて近く、ゲームに勝つと筐体からカードが出てくる——というものだった。





筐体はゲームセンターやデパートの屋上でよく見かけられた

ゲゲゲの博品館

～第3シリーズ関連書籍～

テレビマガジン増刊 カラースペシャル（講談社）



テレビマガジン増刊 カラースペシャル(25)
ゲゲゲの鬼太郎 オール妖怪大集合!
講談社／絵:水木しげる、山口泰弘、東映動画／A4変形判／28ページ／昭和62年2月26日初版発行／定価:370円



テレビマガジン増刊 カラースペシャル(21)
ゲゲゲの鬼太郎 妖怪大決戦
講談社／絵:水木しげる、山口泰弘、東映動画／A4変形判／28ページ／昭和61年10月28日初版発行／定価:370円



テレビマガジン増刊 カラースペシャル(13)
ゲゲゲの鬼太郎 大画報
講談社／絵:水木しげる、東映動画／A4変形判／28ページ／昭和61年2月14日初版発行／定価:370円



テレビマガジン カラースペシャル(39)
ゲゲゲの鬼太郎 超ひみつ大図鑑
講談社／絵:山口泰弘、松本朋之、東映動画／A4変形判／28ページ／昭和62年11月20日初版発行／定価:370円



テレビマガジン カラースペシャル(35)
ゲゲゲの鬼太郎 妖怪大画報
講談社／絵:水木しげる、山口泰弘、東映動画／A4変形判／28ページ／昭和62年9月10日初版発行／定価:370円



テレビマガジン カラースペシャル(31)
ゲゲゲの鬼太郎 シーサー大登場!
講談社／絵:山口泰弘、松本朋之、東映動画／A4変形判／28ページ／昭和62年6月20日初版発行／定価:370円

鬼太郎の秘密、妖怪図鑑などなど、書籍も百花繚乱

講談社のテレビ絵本（講談社）

講談社ではテレビ放送に合わせて児童雑誌での連載も展開していたため、絵本を中心に数多くの書籍が出版されている。中でも『テレビマガジン増刊 カラースペシャル』では『テレビマガジン』に掲載されたイラストをふんだんに使い、見応えある内容となっていた。



講談社のテレビ絵本(46)
ゲゲゲの鬼太郎(2) わにゅうどうをたおせ!
講談社／絵:東映動画／B5判／18ページ／昭和60年12月11日初版発行／定価:330円



講談社のテレビ絵本(51)
ゲゲゲの鬼太郎(3) ゆきのようかいにまけるな!
講談社／絵:東映動画／B5判／18ページ／昭和61年2月23日初版発行／定価:330円



講談社のテレビ絵本(55)
ゲゲゲの鬼太郎(4) つよいぞーきたろう
講談社／絵:東映動画／B5判／18ページ／昭和61年3月24日初版発行／定価:330円



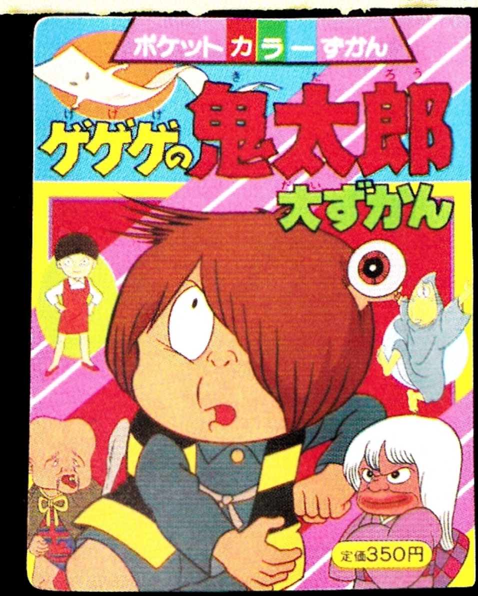
講談社のテレビ絵本(82)
ゲゲゲの鬼太郎(6) おはなしちえあそび
講談社／絵:成田マキホ／B5判／18ページ／昭和61年10月23日初版発行／定価:330円



講談社のテレビ絵本(88)
ゲゲゲの鬼太郎(7) めいろであそぼう
講談社／絵:成田マキホ／B5判／18ページ／昭和61年11月11日初版発行／定価:330円

『ゲゲゲの鬼太郎』第3シリーズ放送時に刊行された主要関連書籍を紹介。実写版（スペシャルドラマ）の放送（『月曜ドラマランド』の1タイトルとして85年8月5日に放送）があったこともあり、第3シリーズの放送開始直前から多数の関連書籍が発売された。原作まで含めると膨大な量になるため、ここではアニメ版に絞って掲載する。

ポケットカラーずかん
（講談社）



ポケットカラーずかん(86)
ゲゲゲの鬼太郎大ずかん
講談社／絵：東映動画／Ｂ６判／34ページ／
昭和61年2月23日初版発行／定価：350円

たの幼 TVデラックス
（講談社）



たの幼 TVデラックス(13)
テレビ版 ゲゲゲの鬼太郎(1)
講談社／絵：東映動画／Ｂ５変形判／48ページ
／昭和62年4月28日初版発行／定価：580円



たの幼 TVデラックス(14)
テレビ版 ゲゲゲの鬼太郎(2)
講談社／絵：東映動画／Ｂ５変形判／48ページ
／昭和62年5月28日初版発行／定価：580円

ポケット百科
（講談社）



講談社ポケット百科シリーズ(46)
ゲゲゲの鬼太郎妖怪大辞典
講談社／絵：水木しげる／Ｂ６判／192ページ
／昭和60年8月26日初版発行／定価：550円

テレビ名作えほん
（講談社）



講談社のテレビ名作えほんシリーズ(176)
ゲゲゲの鬼太郎大図鑑
講談社／絵：東映動画／B5変形判／24ページ／
昭和60年12月23日初版発行／定価:300円



たの幼 TVデラックス(9)
ゲゲゲの鬼太郎ようかいけっせんずかん
講談社／絵：東映動画、成田マキホ／A4判／28ページ／
昭和61年8月19日初版発行／定価:450円



たの幼 TVデラックス(11)
ゲゲゲの鬼太郎 総集編
講談社／絵：東映動画、成田マキホ、いのうえ栄／A4判／
28ページ／昭和61年12月20日初版発行／定価:450円



攻略本（講談社）

コミックボンボンスペシャル(10)
ファミリーコンピュータ必勝道場6
ゲゲゲの鬼太郎妖怪大魔境
講談社／絵：水木しげる／B6判／64ページ／昭和61年6月30日初版発行／定価：350円

たの幼TVデラックス（講談社）

講談社ペーパークラフトシリーズ(17)
ゲゲゲの鬼太郎110
講談社／絵：東映動画／B5変形判／28ページ／昭和61年9月4日初版発行／定価：330円



ソノラマ絵本（朝日ソノラマ）





ケイブンシャの大百科別冊 アニメ版ヒーロー絵本9
ゲゲゲの鬼太郎
勁文社／絵：東映動画／A5変形判／52ページ／平成元年2月14日初版発行／定価：350円

アニメ版ヒーロー絵本（勁文社）

講談社からは先に紹介したファミコンソフトの攻略本や、遊べる絵本として『ペーパークラフトブック』も発行されている。
他にはケイブンシャから『ヒーロー絵本』が、朝日ソノラマから『ソノラマ絵本』が、それぞれ発売された。『ソノラマ絵本』は昔懐かしいソノシート（薄い塩化ビニール製のレコード。一般的にはフォノシート）付き。



おはなしソノシート付き
ゲゲゲの鬼太郎妖怪図鑑 おはなし ユメコちゃんがあぶない!
朝日ソノラマ／絵：東映動画／B5判／18ページ／発行日不明／定価：380円



おはなしソノシート付き
ゲゲゲの鬼太郎(1) おはなし ゆきんこ
朝日ソノラマ／絵：東映動画／B5判／18ページ／発行日不明／定価：380円

ゲゲゲの鬼太郎（第3シリーズ）放送データ

放送データ

■放送期間／1985年10月12日～1988年2月6日
■放送時間帯／毎週土曜日18:30～19:00
■形式／カラー、16㎜フィルム、モノラル、30分1話完結
■制作／フジテレビ、読売広告社、東映動画（現・東映アニメーション／以降同じく）

メインスタッフ

■企画／清水賢治（フジテレビ）、遠藤龍之介（フジテレビ）、木村京太郎（読売広告社）
■原作／水木しげる
■連載／『コミックボンボン』『テレビマガジン』『たのしい幼稚園』『おともだち』『週刊少年マガジン』（講談社）
■音楽／川崎真弘（From竜童組）
■主題歌
「ゲゲゲの鬼太郎」
作詞：水木しげる
作曲：いずみたく
編曲：野村 豊
歌：吉 幾三
「おばけがイクゾ～」
作詞：吉 幾三 作曲：吉 幾三
編曲：野村 豊
歌：吉 幾三（徳間ジャパン）
■製作担当
松下健吉（第1話～）
関 良宏（第68話～）
小塚憲夫（第87話～）
■キャラクターデザイン／兼森義則
■美術デザイン／阿部泰三郎
■シリーズディレクター／葛西 治、芝田浩樹
■製作プロデューサー／横山賢二

放映No.	放送日	サブタイトル	脚本	演出	作画監督	美術	ゲスト出演	視聴率
1	85・10／12	謎の妖怪城出現!!	星山博之	葛西 治	清山滋崇	阿部泰三郎	梨羽由記子、大竹 宏、田中康郎、塩谷浩三、荘真由美	16.8
2	〃 10／19	鏡じじい	武上純希	芝田浩樹	音無竜之介	阿部泰三郎		19.5
3	〃 10／26	ネコ仙人	武上純希	棚沢 隆	石黒 育	阿部泰三郎	中野聖子、佐藤智恵、青野 武	21.0
4	〃 11／2	妖怪ぬらりひょん	大橋志吉	今沢哲男	山本福雄	阿部泰三郎	竹村 拓、平 浩幸、山本圭子	23.0
5	〃 11／9	ダイヤ妖怪輪入道	並木 敏	葛西 治	山口泰弘	阿部泰三郎	松井摩味、三沢裕子、銀河万丈、野田圭一、佐藤正治、田中亮一	17.2
6	〃 11／16	地獄行!幽霊電車!!	星山博之	石田昌久	柳瀬譲二	伊藤信治 金島邦夫	屋良有作、古谷 徹、大森章督、広中雅志、戸谷公次、難波圭一、平野正人、松井摩味	20.8
7	〃 11／23	子連れ妖怪磯女	武上純希	芝田浩樹	兼森義則	阿部泰三郎	山口奈々、三輪勝恵、頓宮恭子、渡辺菜生子、青野 武、戸谷公次、田中康郎	19.8
8	〃 11／30	だるま妖怪相談所	星山博之	西沢信孝	入好さとる	鷲崎 博	滝口順平、つかせのりこ、津田延代、小林通孝、鶴ひろみ、はせさん治、飯塚はる美、田中和美	23.3
9	〃 12／7	不死身の妖怪水虎	並木 敏	石田昌久	清山滋崇	藤田 勉	大竹 宏、川島千代子、川浪葉子、田中秀幸、荘真由美、頓宮恭子、中野聖子、松井摩味	22.4
10	〃 12／14	悪魔のメロディー・夜叉	武上純希	葛西 治 棚沢 隆	石黒 育	伊藤信治 金島邦夫	槐 柳二、荘真由美、古川登志夫、山本公登志、飯塚はる美	19.1
11	〃 12／21	妖怪キツネ白山坊	大橋志吉	芝田浩樹	下田正美	鷲崎 博	はせさん治、山口奈々、佐藤正治、潘 恵子	22.3
12	〃 12／28	ざしきわらしと笠地蔵	星山博之	今沢哲男	山本福雄	藤田 勉	青野 武、山本圭子、山内雅人、中西妙子、杉山佳寿子	24.3
13	86・1／4	おりたたみ入道	武上純希	芹川有吾	入好さとる	伊藤信治 金島邦夫	安原義人、大竹 宏	18.2
14	〃 1／11	不老不死!?妖怪さざえ鬼	武上純希	西沢信孝	兼森義則	鷲崎 博	千葉順二、戸谷公次、はせさん治、田中和実	23.1
15	〃 1／18	冷凍妖怪・雪ん子	大橋志吉	小山 崑 福留政彦	古川達也	藤田 勉	田中亮一、白川澄子、山田栄子、坪井章子、佐藤正治	22.7
16	〃 1／25	妖怪のっぺらぼう	星山博之	芝田浩樹	山口泰弘	伊藤信治 金島邦夫	戸谷公次、千葉 繁、山本公登志、安西正弘、小林通孝、あずさ欣平	22.2
17	〃 2／1	古代妖怪・毛羽毛現	大橋志吉	石田昌久	清山滋崇	鷲崎 博	大竹 宏、三輪勝恵	21.6
18	〃 2／8	妖怪天狐 地底王国の逆襲	星山博之	棚沢 隆	松本 清	藤田 勉	塩屋 翼、塩沢兼人、田中和美、増山江威子、佐藤正治、小林通孝、難波圭一、塩屋浩三、戸谷公次	25.4
19	〃 2／15	ゆめ妖怪まくらがえし	武上純希	今沢哲男	山本福雄	山本善之	屋良有作、高坂真琴	23.1
20	〃 2／22	半魚人の恋	武上純希	芹川有吾	入好さとる	鷲崎 博	はせさん治、山本百合子、田中康郎、山本圭子	24.5
21	〃 3／1	コマ妖怪あまめはぎ	並木 敏	白土 武 山寺昭夫	清水 明	藤田 勉	塩屋浩三、森 功至、槐 柳二、広中正志、中原 茂、小林通孝、松井摩味、吉田奈穂	23.2
22	〃 3／8	いじわる妖怪天邪鬼	大橋志吉	芝田浩樹	松本朋之	山本善之	峰 恵研、石森達幸、渡辺菜生子、田中和美、平 浩幸、佐藤正治	24.2
23	〃 3／15	電気妖怪かみなり	武上純希	石田昌久	山口泰弘	鷲崎 博	小林通孝、郷里大輔、屋良有作、山田栄子、鶴ひろみ、平野正人	25.0
24	〃 3／22	子供が消える!?妖怪うぶめ	山崎晴哉	西沢信孝	清山滋崇	藤田 勉	杉山佳寿子、松井摩味、田中康郎、中野聖子、つかせのりこ、田中亮一	29.6
25	〃 3／29	妖怪ぶるぶる	武上純希	棚沢 隆	金子康良	山本善之	田中亮一、中谷ゆみ、あずさ欣平、戸谷公次	22.2
26	〃 4／5	おばけナイター	星山博之	今沢哲男	山本福雄	鷲崎 博	屋良有作、大竹 宏、山本圭子、青木和代、つかせのりこ、中野聖子、頓宮恭子、平野正人	26.0
27	〃 4／12	妖怪ふくろさげ	大橋志吉	芝田浩樹	入好さとる	藤田 勉	青野 武、郷里大輔、古谷 徹、森 功至、小林通孝	24.4
28	〃 4／19	田を返せ!!妖怪泥田坊	山崎晴哉	白土 武 山寺昭夫	清水 明	鷲崎 博	塩屋浩三、千葉順二、坂本千夏、田中和実、田中康郎	25.6
29	〃 5／3	妖怪ひでり神	武上純希	芹川有吾	松本朋之	伊藤雅人	はせさん治、大森章督、田中亮一、沢木郁也、頓宮恭子	21.9
30	〃 5／10	妖怪見上げ入道	星山博之	石田昌久	山口泰弘	藤田 勉	田中康郎、中谷ゆみ、つかせのりこ	22.3
31	〃 5／17	オベベ沼の妖怪	大橋志吉	芝田浩樹	松本勝次	鷲崎 博	柴田由美子、長畑由美、松井摩味、小宮山清、佐藤正治、中野聖子、平野正人	21.8
32	〃 5／24	鬼太郎危うし!妖怪大裁判	武上純希	明比正行	清山滋崇	藤田 勉	今西正男、田中康郎、平野正人、小野坂昌也、二又一成、屋良有作、塩屋浩三	22.9
33	〃 5／31	妖怪あかなめ 哀しみの逆襲	星山博之	永丘昭典 今沢哲男	平田かほる	鷲崎 博	難波圭一、龍田直樹、佐藤正治、塩屋浩三、広中雅志	20.3
34	〃 6／14	ばけ猫国道0号線	星山博之	芝田浩樹	入好さとる	藤田 勉	京田尚子、田中和実、つかせのりこ、矢田耕司、阿部道子	22.5
35	〃 6／28	妖怪赤舌の千年王国	大橋志吉	葛西 治	松本朋之	鷲崎 博	屋良有作、松島みのり、田中亮一、平野正人、小野坂昌也	25.3
36	〃 7／5	異次元妖怪かまなり	武上純希	山寺昭夫	清水 明	藤田 勉	田中康郎、山田栄子、つかせのりこ、平野正人	24.7
37	〃 7／12	妖怪おどろおどろ	星山博之	石田昌久	松本勝次	丸森俊昭	北村弘一、塩沢兼人、松井摩味、塩屋浩三	22.8
38	〃 7／19	タタリだ～!?妖怪土ころび	大橋志吉	生頼昭憲	稲野義信	鷲崎 博	槐 柳二、荘真由美、屋良有作、山口奈々、山本圭子	20.4
39	〃 8／2	三途の河のだつえばばあ	武上純希	明比正行	入好さとる	藤田 勉	増山江威子、田中亮一、平野正人、広中雅志、西尾 徳	20.7

メインキャスト

■鬼太郎／戸田恵子
■目玉おやじ／田の中 勇
■ねずみ男／富山 敬
■子泣きじじい／永井一郎
■砂かけばばあ／江森浩子
■一反もめん／八奈見乗児
■ぬりかべ／屋良有作
■ネコ娘／三田ゆう子
■シーサー／山本圭子
■ユメコ／色川京子
■星郎／高坂真琴
■正夫／佐藤正治
■優子／川浪葉子
■若杉先生／雨宮一美、柴田由美子
■ぬらりひょん／青野 武
■朱の盤／小林通孝
■エンマ大王／郷里大輔

放映No.	放送日	サブタイトル	脚本	演出	作画監督	美術	ゲスト出演	視聴率
40	86・8／9	富士山大噴火!?妖怪大首	大橋志吉	今沢哲男	平田かほる	鷲崎 博	弥永和子、石森達幸	18.6
41	〃 8／23	激戦！妖怪関ヶ原	武上純希	葛西 治	清山滋崇	藤田 勉	銀河万丈、潘 恵子、青野 武、田中和実、田中康郎	22.6
42	〃 8／30	妖怪牛鬼	星山博之	石田昌久	松本朋之	鷲崎 博	内海賢二、宮内幸平、広中雅志、難波圭一、頓宮恭子、中野聖子、塩屋浩三	21.5
43	〃 9／6	さら小僧 妖怪歌謡大賞	武上純希	白土 武	清水 明	藤田 勉	はせさん治、小林通孝、古谷 徹、大竹 宏、難波圭一、佐藤正治、小出和明、鈴木富子	24.7
44	〃 9／13	あの世からの使者死神	大橋志吉	生頼昭憲	松本勝次	鷲崎 博	あずさ欣平、北村弘一、阿部道子、坪井章子	26.8
45	〃 9／20	妖怪花を救え!!	星山博之	明比正行	稲野義信	藤田 勉	池水通洋、西尾 徳、川浪葉子、大森章督、田中和実、島本須美	26.4
46	〃 9／27	妖怪大統領こうもり猫	大橋志吉	葛西 治	入好さとる	鷲崎 博	矢田耕司、山本圭子、平野正人、宮内幸平	27.7
47	〃 10／4	妖怪のびあがりと吸血木	武上純希	今沢哲男	平田かほる	藤田 勉	田中康郎、潘 恵子、塩沢兼人、広中雅志、増岡 弘	24.6
48	〃 10／11	妖怪いやみ	星山博之	石田昌久	松本朋之	鷲崎 博	飯塚昭三、田中和実、平野正人、岡本麻弥	26.1
49	〃 10／18	妖怪殺人事件おんもらき	武上純希	明比正行	山口泰弘	藤田 勉	北村弘一、塩沢兼人、大森章督、中野聖子、土井美加、銀河万丈、広中雅志、鈴木れい子	28.1
50	〃 10／25	妖怪海座頭の怒り	大橋志吉	生頼昭憲	清山滋崇	鷲崎 博	戸谷公次、大竹 宏、つかせのりこ、渡辺菜生子、佐藤正治、川浪葉子、小林通孝、田中和実	23.7
51	〃 11／1	世界妖怪ラリー	星山博之	白土 武	清水 明	藤田 勉	柴田秀勝、西尾 徳、はせさん治、三輪勝恵、田中和実、田中康郎、坂本千夏、塩屋浩三	27.1
52	〃 11／8	燃えるネズミ男 げた合戦	武上純希	葛西 治	入好さとる	鷲崎 博	矢田耕司、荘真由美、塩屋 翼、平野正人、広中雅志	29.3
53	〃 11／15	皿屋敷の妖怪モウリョウ	大橋志吉	芝田浩樹	松本勝次	藤田 勉	増岡 弘、広中雅志、頓宮恭子、川島千代子、土井美加、田中亮一、大森章督	26.8
54	〃 11／22	悪魔ベリアル	武上純希	石田昌久	稲野義信	鷲崎 博	大木民夫、宮内幸平、平野正人、広中雅志、屋良有作	26.3
55	〃 11／29	㊙指令!!ねずみ男は死刑だ	星山博之	今沢哲男	平田かほる	藤田 勉	田中康郎、塩屋 翼、青野 武	24.8
56	〃 12／6	タヌキ軍団日本征服!!〈前編〉	星山博之	芹川有吾	松本朋之	鷲崎 博	飯塚昭三、塩屋浩三、島田 敏、柴田秀勝、千葉 繁、西尾 徳、大塚芳忠、平野正人、岡 和夫	28.4
57	〃 12／13	タヌキ軍団日本征服!!〈後編〉	星山博之	芹川有吾	山口泰弘	鷲崎 博	北川米彦、柴田秀勝、千葉 繁、西尾 徳、飯塚昭三、塩屋浩三、平野正人、大塚芳忠	25.1
58	〃 12／20	妖怪城の目目連	大橋志吉	生頼昭憲	清山滋崇	鷲崎 博	銀河万丈	27.6
59	〃 12／27	宵待ち草の後神	大橋志吉	白土 武	清水 明	鷲崎 博	池田昌子、塩屋浩三、荘真由美、川島千代子	28.9
60	87・1／3	巨人妖怪ダイダラボッチ	星山博之	石田昌久	松本勝次	藤田 勉	矢田耕司、佐藤正治、平野正人、田中和実、広中雅志	16.6
61	〃 1／10	まぼろしの汽車	大橋志吉	葛西 治	松本朋之	鷲崎 博	向井真理子、大竹 宏、中野聖子、平野正人、小林通孝、田中和実	28.5
62	〃 1／17	妖怪火車 逆モチ殺し!!	武上純希	明比正行	松本朋之	藤田 勉	平野正人、山本圭子、上村典子、宮内幸平、田中亮一、小林通孝	25.4
63	〃 1／24	悪魔ブエルとヤカンズル	星山博之	今沢哲男	平田かほる	鷲崎 博	槐 柳二、大森章督、田中和実、堀川 亮、佐藤正治	24.2
64	〃 1／31	妖怪穴ぐら入道	大橋志吉	芹川有吾	柳瀬譲二	藤田 勉	石森達幸、田中康郎、戸谷公次、小林通孝、佐藤正治、大森章督、鶴ひろみ	23.6
65	〃 2／7	妖怪百目・地獄流し	武上純希	生頼昭憲	山口泰弘	鷲崎 博	大竹 宏、飯塚昭三、沢木郁也、龍田直樹、小林通孝、田中和実、佐藤正治	27.7
66	〃 2／14	韓国妖怪ぬっぺらぼう	大橋志吉	山寺昭夫	清水 明	藤田 勉	三浦英子、杉山佳寿子、佐藤浩之、平野正人、広中雅志、宮内幸平	26.3
67	〃 2／21	密林の大海獣	星山博之	葛西 治	稲野義信	鷲崎 博	戸谷公次、池水通洋、塩屋 翼、土井美加、八奈見乗児、沢木郁也、沢木郁也	27.5
68	〃 2／28	大海獣 怒りの逆襲	星山博之	葛西 治	入好さとる	鷲崎 博	田中康郎、青野 武、塩屋 翼、土井美加、徳丸 完、佐藤正治、沢木郁也、戸谷公次、池水通洋	25.6
69	〃 3／7	妖怪風の又三郎	武上純希	明比正行	清山滋崇	内川文広	田中和実、難波圭一、佐藤正治、多岐川まり子、渡辺菜生子	26.3
70	〃 3／14	鏡地獄！妖怪うんがい鏡	武上純希	芹川有吾	松本勝次	藤田 勉	宮内幸平、大竹 宏、鶴ひろみ、山口奈々、中野聖子	25.6
71	〃 3／21	妖花の森のがしゃどくろ	大橋志吉	岡崎 稔	平田かほる	鷲崎 博	小宮山清、田中康郎、山本百合子、矢田耕司、上村典子	21.2
72	〃 3／28	ケ・け・毛！妖怪大髪様	星山博之	石田昌久	松本朋之	藤田 勉	野本礼三、はせさん治、塩屋 翼、荘真由美、大竹 宏、岡 和夫、二又一成、堀 之紀、竹村 拓	21.4
73	〃 4／4	シーサー登場!!沖縄大決戦	武上純希	生頼昭憲	山口泰弘	鷲崎 博	大森章督、佐藤正治、田中和実、小林通孝、龍田直樹	20.7
74	〃 4／11	妖怪 万年竹	星山博之	白土 武	清水 明	藤田 勉	広中雅志、山口奈々、大竹 宏、田中亮一、田中和実、山本公登志、林 洋一、青木みどり	24.1
75	〃 4／18	妖怪小豆連合軍	大橋志吉	芝田浩樹	稲野義信	鷲崎 博	佐藤正治、青木和代、田中和実、塩屋浩三、平野正人	23.2
76	〃 4／25	人喰い島と海和尚	武上純希	芹川有吾	柳瀬譲二	金島邦夫	槐 柳二、宮内幸平、上村典子、山田栄子、小林通孝、山本公登志	22.3
77	〃 5／2	妖怪手の目と地獄の餓鬼	星山博之	明比正行	清山滋崇	鷲崎 博	銀河万丈、掛川裕彦、小林通孝、堀川 亮、青野 武、平野正人、頓宮恭子、鈴木富子、佐藤正治、大森章督	22.7
78	〃 5／16	マンモスフラワーと山男	武上純希	葛西 治	清山滋崇	泰 秀信	大竹 宏、大森章督、佐藤正治、屋良有作、堀 之紀、山寺宏一、田中和実	20.0

『地獄編』放送データ

■放送期間／1988年2月8日〜1988年3月21日
■放送時間帯／毎週月曜日 19:00〜19:30
■形式／カラー、16mmフィルム、モノラル、30分1話完結
■制作／フジテレビ、東映動画

メインスタッフ

■企画／清水賢治（フジテレビ）
■企画協力／木村京太郎
■原作／水木しげる
■連載／『コミックボンボン』『テレビマガジン』『たのしい幼稚園』『おともだち』『月刊少年マガジン』（講談社）
■音楽／川崎真弘（From竜童組）
■主題歌／「ゲゲゲの鬼太郎」
作詞：水木しげる 作曲：いずみたく 編曲：野村 豊 歌：吉 幾三
「おばけがイクゾ〜」
作詞・作曲：吉 幾三 編曲：野村 豊 歌：吉 幾三（徳間ジャパン）
■製作担当／小塚憲夫
■キャラクターデザイン／兼森義則
■美術デザイン／阿部泰三郎
■シリーズディレクター／葛西 治、芝田浩樹
■製作プロデューサー／横山賢二

メインキャスト

■鬼太郎／戸田恵子
■目玉おやじ／田の中 勇
■ねずみ男／富山 敬
■子泣きじじい／永井一郎
■砂かけばばあ／江森浩子
■一反もめん／八奈見乗児
■ぬりかべ／屋良有作
■ネコ娘／三田ゆう子
■シーサー／山本圭子
■油すまし／塩屋浩三
■ユメコ／色川京子
■ぬらりひょん／青野 武
■朱の盤／小林通孝
■エンマ大王／郷里大輔
■地獄童子／堀川 亮
■鬼太郎の母／坪井章子（第103、115話）、

放映No.	放送日	サブタイトル	脚本	演出	作画監督	美術	ゲスト出演	視聴率
79	87・5／23	妖怪やまたのおろち	大橋志吉	石田昌久	松本朋之	藤田 勉	杉山佳寿子、頓宮恭子、山田栄子、平野正人、大森章督、小林通孝、田中和実	22.5
80	〃 5／30	妖怪吹消婆 プロレス地獄	武上純希	生頼昭憲	入好さとる	鷲崎 博	鈴木れい子、小林通孝、上村典子、川浪葉子、中谷ゆみ、岸野幸正、広中雅志、川北さかえ	16.7
81	〃 6／6	コンビ妖怪 手長足長	星山博之	岡崎 稔	平田かほる	金島邦夫	田中康郎、龍田直樹、平野正人、柳沢三千代、小林通孝、木崎修一郎	18.5
82	〃 6／13	妖怪 串刺し入道	大橋志吉	芹川有吾	稲野義信	鷲崎 博	峰 恵研、田中和実、中野聖子、佐藤智恵	22.2
83	〃 6／20	雨神ユムチャック伝説	武上純希	芝田浩樹	松本勝次	藤田 勉	平野正人、塩屋 翼、飯塚昭三、塩沢兼人、冨沢美智恵、荘真由美、木崎修一郎、丸尾知子	21.4
84	〃 6／27	地獄一周!!妖怪マラソン	星山博之	白土 武	清水 明	鷲崎 博	平野正人、丸尾知子、小林通孝、塩屋浩三、山本百合子	19.0
85	〃 7／4	河童一族とたくろう火	大橋志吉	石田昌久	松本朋之	藤田 勉	八奈見乗児、龍田直樹、佐藤正治、小林通孝、上村典子、三輪勝恵、岸野幸正、半谷きみえ、丸尾知子	21.2
86	〃 7／11	妖怪香炉 悪夢の軍団	武上純希	葛西 治	清山滋崇	鷲崎 博	大竹 宏、田中亮一、屋良有作、塩屋浩三	20.0
87	〃 7／25	寄生妖怪ペナンガラン	星山博之	生頼昭憲	柳瀬譲二	藤田 勉	大竹 宏、野本礼三、小林通孝、山野さと子	16.5
88	〃 8／1	不思議な妖犬タロー	大橋志吉	芹川有吾	松本朋之	鷲崎 博	清川元夢	20.5
89	〃 8／15	木の子と妖怪山天狗	武上純希	岡崎 稔	平田かほる	田中資幸	青羽美代子、頓宮恭子、柳沢三千代、佐藤智恵、松井摩味、岸野幸正、田中和実、上村典子、荘真由美	18.5
90	〃 8／22	妖精ニクスの青い涙	星山博之 金巻兼一	芝田浩樹	稲野義信	鷲崎 博	青野 武、丸尾知子、秋本晴美、堀江美都子、龍田直樹	21.6
91	〃 8／29	妖怪ハンター ヒ一族！	武上純希	葛西 治	入好さとる	伊藤雅人	塩屋浩三、川島千代子、荘真由美、はせさん治、津田延代	23.4
92	〃 9／26	人喰い家と妖怪家鳴	大橋志吉	芹川有吾	松本朋之	鷲崎 博	弥永和子、鈴木富子、平野正人、田中康郎、田中和実	23.1
93	〃 10／3	進化妖怪かぶそ	武上純希	芝田浩樹	山口泰弘	藤田 勉	西尾 徳、つかせのりこ、大竹 宏、小林通孝、中野聖子	23.6
94	〃 10／10	高熱妖怪ぬけ首	星山博之	白土 武	清水 明	田中資幸	矢田耕司、田中和実、柿沼紫乃、堀 之紀	24.6
95	〃 10／17	笑い妖怪ヘンラヘラヘラ	大橋志吉	今沢哲男	平田かほる	鷲崎 博	青木和代、杉山佳寿子、向殿あさみ、小林通孝	23.2
96	〃 10／24	血戦!!妖怪吸血軍団	武上純希	芹川有吾	稲野義信	田中資幸	はせさん治、郷里大輔、銀河万丈、田中和実、冨沢美智恵、頓宮恭子	25.8
97	〃 10／31	夫婦妖怪!?皿数え	星山博之	石田昌久	松本朋之	鷲崎 博	大竹 宏、土井美加	23.3
98	〃 11／7	津波妖怪猛霊はっさん	大橋志吉	山寺昭夫	高田耕一	松本健治	戸谷公次、田中和実、宮内幸平、中野聖子、中谷ゆみ、平野正人、屋良有作	25.0
99	〃 11／14	はきもの妖怪化けぞうり	山崎晴哉	芹川有吾	松本朋之	襟立智子	渡辺菜生子、佐藤智恵、柴田由美子、塩屋浩三、掛川裕彦、田中康郎	27.4
100	〃 11／21	鬼巫女の鬼太郎抹殺作戦	武上純希	今沢哲男	平田かほる	金島邦夫	高島雅羅、矢田耕司、山野さと子、大森章督、佐藤浩之	23.9
101	〃 12／12	妖怪捕物帖 猫騒動	星山博之	明比正行	山口泰弘	田中資幸	今西正男、平野正人、松井摩美	21.9
102	〃 12／19	おてんば魔女ジニヤー	大橋志吉	葛西 治	松本朋之	池田祐二	はせさん治、堀 之紀、冨沢美智恵、塩屋浩三、田中和実、平野正人、小林通孝	24.5
103	〃 12／26	純愛ヌリカベとおしろい娘	武上純希	葛西 治	新岡浩美	藤田 勉	兼本新吾、弥永和子、小山茉美	22.8
104	88・1／9	謎の妖怪狩りツアー	星山博之	芹川有吾	松本朋之	小林祐子	広中正志、田中和実、頓宮恭子、田中康郎、平野正人、木下しのぶ、塩屋 翼、佐藤正治	24.4
105	〃 1／16	妖怪めんこ天狗	星山博之	白土 武	高田耕一	吉田智子	冬馬由美、松井摩美	24.0
106	〃 1／23	とうふ小僧と山神	大橋志吉	芝田浩樹	松本朋之	小林祐子	田中和実、平野正人、屋良有作、難波圭一、北村弘一	23.3
107	〃 1／30	ケムリ妖怪えんらえんら	武上純希	岡崎 稔	宮沢康紀	吉田智子	松尾銀三、半谷きみえ、はせさん治	24.0
108	〃 2／6	鬼太郎ファミリーは永遠に	星山博之	葛西 治	新岡浩美	小林祐子	戸谷公次、川浪葉子、銀河万丈	24.1

地獄編

放映No.	放送日	サブタイトル	脚本	演出	作画監督	美術	ゲスト出演	視聴率
109	88・2／8	母を求めて地獄旅	武上純希	芝田浩樹	松本朋之	吉田智子	上村典子、屋良有作、田中康郎、片石千春	13.2
110	〃 2／15	血戦三途の川	武上純希	葛西 治	入好さとる	金島邦夫 脇 威志	田中康郎、屋良有作、鈴木れい子、片石千春	11.1
111	〃 2／22	鬼太郎VS地獄童子	武上純希	岡崎 稔	宮沢康紀	藤田 勉	永井一郎	11.1
112	〃 2／29	二大妖怪の罠	大橋志吉	白土 武	高田耕一	金島邦夫	池水通洋、伊倉一恵、山本圭子	11.3
113	〃 3／7	地獄武者の処刑作戦	武上純希	芹川有吾	松本朋之	丸森俊昭	大竹 宏	12.0
114	〃 3／14	血の池妖怪ヌルリ坊	武上純希	芝田浩樹	西城隆詞	田中資幸	小林通孝、塩屋浩三	12.1
115	〃 3／21	鬼太郎最後の出会い!!	武上純希	葛西 治	入好さとる 新岡浩美	金島邦夫	塩屋浩三	13.2



■構成・編集／BAD TASTE■執筆／岩佐陽一、加々美利治、大久保一光（BAD TASTE）■
■デザイン／G-PLUS　長野曉齋、柳井孝之、國井かおり、中里真理穂、安岡以真、鈴木 陽■
■SPECIAL THANKS（五十音順・敬称略）／葛西 治、兼森義則、芝田浩樹、戸田恵子■
■協力（五十音順）／朝日ソノラマ、天田印刷加工、AMUSE、グランパパプロダクション、講談社、KOMORIJUSI、セイカ、バンダイ、バンプレスト、水木プロ■
■アイテム協力／空想科学古物商 えむぱい屋、折原和弘、加々美利治、せえらあ屋■
■印刷／大日本印刷■監修／東映アニメーション、フジテレビジョン、水木プロ■
■2006年3月15日発行■



郵 便 は が き

お手数ですが
50円切手を
お貼り下さい

1 0 5 - 8 4 8 7

東京都港区虎ノ門2-5-10

株式会社ポニーキャニオン
映像制作1部企画1課

「ゲゲゲBOX80'S」係 行

このたびは『ゲゲゲの鬼太郎1985DVD-BOXゲゲゲBOX'80』をお買いあげ頂きありがとうございました。
今後の参考にさせて頂きますので裏面のアンケートにご協力の上、ご返送下さい。
ご協力頂きましたお客様の中から抽選で「ゲゲゲの鬼太郎オリジナルグッズ」をプレゼントさせて頂きます。
（ハガキアンケートのプレゼントは平成18年4月15日消印まで有効です。）当選者の発表は発送を以て代えさせて頂きます。
　なお、お客様にご提供頂くご意見、個人情報につきましては、よりよい商品作りのためのマーケットデータとして責任を持って管理、活用させて頂きます。

ご住所　[〒　　　-　　　]

都道
府県

TEL [　　-　　-　　]

フリガナ

お名前 | 生年月日 | 年　月　日 | 性別　男　女

emailアドレス　　　　　@

ご購入店名 [　　　　　　　　]

発売 東映アニメーション／フジテレビジョン　販売 ポニーキャニオン

アンケート

1．この商品をどこでお知りになりましたか？
該当するものを○で囲んでください

(1) 雑誌（雑誌名＝　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
(2) 新聞（新聞名＝　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
(3) テレビ（番組名＝　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
(4) 店頭（ポスター・チラシ・その他＝　　　　　　　　　　　　　　）
(5) インターネット・携帯サイト
(6) 知り合いから
(7) その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

2．このDVDの購入を決めたきっかけは何ですか。☑でお答え下さい
（複数回答可能）

□視聴者だったから ／ □他のアニメシリーズのファンだったから
□原作の鬼太郎ファンだったから ／ □見たことはないが興味があったから
□宣伝で興味を引かれたから ／ □ジャケットなど商品形態がよさそうだった
□特典物がよさそうだったから ／ □特典映像がよさそうだったから

3．以下の項目について、あなたの評価を５段階で評価してください。
（5：満足　4：やや満足　3：普通　2：やや不満　1：不満）

(1) 内 容……………………5・4・3・2・1
(2) 画 質……………………5・4・3・2・1
(3) 価 格……………………5・4・3・2・1
(4) ジャケットデザイン……5・4・3・2・1
(5) 特典物……………………5・4・3・2・1
(6) ブックレット……………5・4・3・2・1
(7) 特典映像…………………5・4・3・2・1

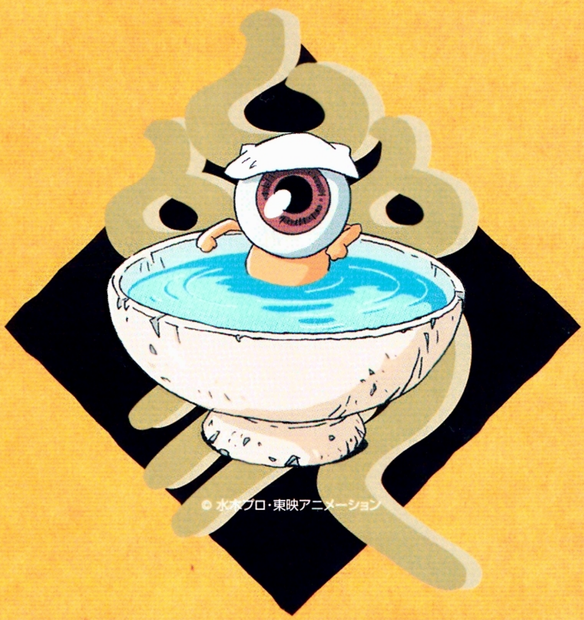
4．本商品で良かったところがありましたら、挙げてください。
（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

5．本商品でこうして欲しかったと思うところがありましたら、挙げてください。
（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

6．ゲゲゲの鬼太郎グッズを他に購入したことはありますか？
はい・いいえ　（グッズ名・種類：　　　　　　　　　　　　　　　）

7．アニメ『ゲゲゲの鬼太郎』の他３シリーズのDVD化を期待されますか？
はい・いいえ　（欲しいシリーズ：　　　　　　　　　）

8．今後、アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」シリーズに期待したい事を教えてください。
（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）



ゲゲゲの鬼太郎 第3シリーズ DVD−BOX ブックレット
表紙イラスト　兼森義則
発売　東映アニメーション　フジテレビジョン